

2001 (平成13) 年度

講義内容

経営学部

講 義 內 容

目 次

経営学部 第1部

1. 専門教育科目	9
2. 他学部履修科目	77
3. 「日本語」・「日本事情」科目	129
4. 教職課程・資格講座科目	153

経営学部 第2部

1. 専門教育科目	307
2. 他学部履修科目	359
3. 教職課程・資格講座科目	379

第 1 部	1	専門教育科目
	1	他学部履修科目
	部	日本語 日本事情 科目
	部	教職課程 資格講座
第 2 部	第	専門教育科目
	2	他学部履修科目
	部	教職課程・資格講座

経営学部第1部

1. 専門教育科目

経営学部 第1部

經 營 分 析 論	〈片 桐 伸 夫〉	47
日 本 經 濟 論	〈羽 鳥 茂〉	48
銀 行 經 營 論	〈服 部 昌 久〉	49
財 政 學 論	〈速 水 昇〉	50
國 際 經 濟 論	〈永 田 智 則〉	51
會 計 監 查 論	〈飯 岡 透〉	52
稅 務 會 計 論	〈高 木 克 己〉	53
証 券 市 場 論	〈佐 藤 昇〉	54
日 本 經 營 史	〈大 島 久 幸〉	55
國 際 金 融 論	〈齊 藤 壽 彦〉	55
財 務 會 計 論	〈渡 邊 惠 一 郎〉	56
マ ー ケ テ ィ ン グ 論	〈 休 講 〉	
經 營 戰 略 論	〈中 村 公 一〉	57
商 業 史	〈山 田 勝〉	58
國 際 經 營 論	〈茂 垣 広 志〉	59
情 報 理 論	〈西 村 和 夫〉	60
生 産 管 理 論	〈藤 原 篤 志〉	61
人 事 管 理 論	〈 休 講 〉	
ド イ ツ 經 營 學	〈高 橋 成 夫〉	62
行 動 科 學	〈 休 講 〉	
國 際 會 計 論	〈 休 講 〉	
情 報 會 計 論	〈 休 講 〉	
貿 易 政 策	〈 休 講 〉	
シ ス テ ム 論	〈青 木 武 典〉	62
民 法Ⅱ〔債 權 法〕	〈上 井 長 久〉	63
商 法Ⅱ〔商 行 為、手 形・小 切 手 法〕	〈島 原 宏 明〉	64
勞 働 法	〈藤 本 茂〉	65
稅 法	〈 休 講 〉	
經 濟 法	〈 休 講 〉	
ビ ジ ネ ス 英 語	〈町 井 靖〉	66
外 書 講 読 (英 書)	〈長 國 強〉	66
外 書 講 読 (英 書)	〈長 瀬 勝 彦〉	67
外 書 講 読 (英 書)	〈羽 鳥 茂〉	67
外 書 講 読 (獨 書)	〈百 濟 勇〉	68
外 書 講 読 (仏 書)	〈前 田 祝 一〉	68
外 書 講 読 (中 國 書)	〈塩 旗 伸 一 郎〉	69
外 書 講 読 (ス ペ イ ン 書)	〈前 期：上 野 勝 広〉	69
	〈後 期：佐 藤 玖 美 子〉	
外 書 講 読 (ロ シ ア 書)	〈佐 野 朝 子〉	70
特 殊 講 義 (前 期)	〈 休 講 〉	
特 殊 講 義 (後 期)	〈 休 講 〉	
演 習 I	〈中 村 公 一〉	70
演 習 II	〈中 村 公 一〉	71

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 済 学 概 説	あか 明 石 ひろ ゆき 博 行	経 営 1 必	4

講義のねらい

いわゆる近代経済学派とマルクス経済学派の経済学（政治経済学）について、入門的な講義をします。近代経済学派とマルクス経済学派は、20世紀の経済学における二大学派であり、内部にさまざまな学派や潮流を含んでいます。いずれも21世紀には大きく変貌してゆくと思われませんが、20世紀の経済学を支配したこれらの学派の理論を学ぶことは有益です。経済学をはじめて学ぶ学生が、それぞれの経済観や理論の基本、およびそれぞれの学派の相違を理解できるようにすることをめざし、この講義を進めます。

講義の内容・
授業スケジュール

講義は前期と後期にわけて行います。前期では近代経済学について、後期ではマルクス経済学について、それぞれの経済観と理論の基本を説明します。

近代経済学には、大別するとミクロ経済学とマクロ経済学があります。講義はおおよそつぎの順序で進めます。1. 経済学の定義と経済学的な考え方、2. 市場と取引、3. 需要・供給分析の基礎と応用、4. 時間とリスクと企業家精神、5. 公共部門、6. 国民経済計算の基礎、7. 経済成長、8. 失業と総需要、9. インフレーション。これらのうち、2～5でミクロ経済学の基礎を、6～9でマクロ経済学の基礎を解説します。

マルクス経済学には、基礎理論としてのまとまった体系があります。講義はおおよそつぎの順序で進めます。1. 経済体制の区別とマルクス経済学的な見方、2. 商品と貨幣、3. 剰余価値と資本、4. 資本蓄積と貧困、5. 資本の回転、6. 資本と利潤、7. 諸階級、8. 独占資本と国家、9. 帝国主義と世界経済。これらのうち、2～7で基礎理論を、8～9でやや発展した理論を解説します。

成績評価の方法

定期試験の結果に平常点（出席および課題への対応）を加味し、総合的に評価をします。

教 科 書

前期：ジョセフ・E・スティグリッツ『入門経済学』第2版（東洋経済出版社）3,300円＋税
後期：開講時に指示します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
簿 記 学	とこ 井 むつ こ 床 井 睦 子	経 営 1 必	4

講義のねらい

簿記学において主にその対象とされるのは企業の複式簿記です。経済の具体的担い手である企業は、人・モノ・カネそしてサービス（情報）からなります。そうした企業を資金という統一概念で捉え、その源泉と運用の二側面に着目し、勘定という特殊な様式でこれを記録・計算・表示するシステムが複式簿記と呼ばれ、かのゲーテが複式簿記は人間の精神が発明したもっともすばらしいものの一つであると賞賛したものでもあります。本講義では、この複式簿記原理の理解を目的に、(1)仕訳、(2)転記、(3)決算の基本部分を学習します。そして、貸借対照表・損益計算書に代表される財務諸表と関連させながら、企業の計数管理についても考えていきます。

講義の内容・
授業スケジュール

- 前期：Ⅰ．「簿記学」の学習内容とガイダンス（年間計画、各種資格検定試験について）
Ⅱ．企業会計と複式簿記システム－貸借対照表・損益計算書の意義、作成目的及び複式簿記との関連性
Ⅲ．複式簿記システムの基礎（総論、簿記の目的と財務諸表）
1 複式簿記の原理とその記帳法（取引の二面認識、取引と勘定、仕訳と転記、仕訳帳と総勘定元帳）
2 決算手続（決算予備手続、決算本手続）
3 簿記の一巡（ビデオを併用し、今までの学習のまとめ）
後期：Ⅳ．財務諸表作成の基礎（貸借対照表・損益計算書のディスクロージャー制度）
1 期中取引の処理（貸借対照表・損益計算書に関わる勘定各論）
2 決算と財務諸表（決算整理、帳簿締め切り、財務諸表の作成）
3 コンピューター会計（帳簿記入とコンピューターでの会計処理方法の相違）
Ⅴ．財務諸表の分析と読み方・簡単な財務諸表分析と企業評価

履修上の留意点

“継続は力なり” 簿記学はその典型かも知れません。毎回の出席を期待しています。

成績評価の方法

前期と後期の2回の試験に平常点（出席点）を加味し、総合評価で行います。

教 科 書

床井睦子著『アカウンティングの基礎』（白桃書房）3,300円

参 考 書 等

必要に応じて紹介していきます。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
簿 記 学	こん とう さだ お 近 藤 禎 夫	経 営 1 必	4

講義のねらい

社会科学としての簿記・会計は、たんなる記録・計算技術的側面の理解のみにおわってはならない。それが現実の社会・経済においてどのような役割を担い、機能しているのかという点もあわせて解明する必要がある。

大学の簿記講義は、実務検定試験目的のみで行なわれるわけではなく、基礎的レベルからかなり高度な水準の技術・理論を教授する。

講義の内容・
授業スケジュール

本講義では、簿記論に関するかぎりにおいて、周辺科学（とくに会計に関する領域や、商法、証取法、税法等の法制度）も、必要に応じて展開する。

前期は簿記の基本概念や基礎理論をふまえて、開始取引・営業取引から決算手続をへて決算報告にいたる、いわゆる簿記手続きの一巡を取り扱う。

後期は、勘定各論、株式会社の簿記・会計も折にふれて解説する。

成績評価の方法

基本的には平常の出席状況と学年末試験で評価する。

教 科 書

新井益太郎・稲垣富士男編 基礎シリーズ『簿記入門』（実務出版）2000年 2,600円＋税

参 考 書 等

新学期の開講よりしばらくは3級程度の初級レベルの講義を行うが、後期は2級レベルを中心に講義する。プリントは必要に応じて配布する。

そ の 他

電卓を持参すること。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
簿 記 学	いわ ぶち しょう こ 岩 渕 昭 子	経 営 1 必	4

講義のねらい

簿記とは、企業の経営活動を貨幣価値的に把握し、一定の記帳原理によって記録・計算・整理する方法です。今日、コンピュータによる会計処理が増えておりますが、その基本は複式簿記にあります。前期では、勘定各論を中心に、後期は、個人企業の決算手続きと財務諸表の作成まで学習します。

講義の内容・
授業スケジュール

簿記は「手で考える学問」です。設例を実際に解くことが理解を早く深めます。講義の内容は次のとおりです。

- ① 簿記の基礎
- ② 商品売買の処理
- ③ 現金預金取引の処理
- ④ 手形取引の処理
- ⑤ 有価証券と固定資産の処理
- ⑥ その他の債権債務
- ⑦ 試算表の作成
- ⑧ 決算
- ⑨ 財務諸表の作成
- ⑩ 帳簿組織

履修上の留意点

簿記の学習は、記憶することよりもペンと電卓を片手に反復学習によって修得していくものと思います。可能な限り出席を心掛けて、経営学部の学生にとって重要な基礎的専門学問の一つである簿記学を身につけられることを期待いたします。

成績評価の方法

前期と後期の試験に平常点（出席・課題・小テスト）を加味して、総合評価により行います。

教 科 書

大橋信定編著『簿記基礎講座』（創成社）1,500円

そ の 他

必要に応じて紹介します。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
簿記学	高田光明	経営1必	4

講義のねらい

〔複式簿記〕

この授業では、企業が採用している簿記システムである複式簿記について学ぶ。

企業は、社会が必要とする財貨やサービスを生産し販売するという活動を営む報酬として、利益を獲得しようとする組織体である。このような活動では、機械、建物、原材料などの財貨が必要となるし、労働力も不可欠である。企業は、その活動を営むに際し、これらの財貨を取得しなければならないし、働き手も雇用しなければならないわけであり、そのために元手となる資本を必要とする。

この元手としての資本を集めることを、資本の調達という。そして、現金の状態では通常は調達する資本で、企業は、上記の財貨や労働力などを取得し、これらの生産要素により、新たな財貨やサービスを製品として生産し販売するという営業活動を遂行する。こうした営業活動として具体化しているのが、資本の運用活動である。生産した製品が社会に受け入れられ販売が順調に進めば、製品の販売により回収獲得されてくる資本は、生産要素の取得に投じた資本よりも増加している。企業の営業活動を通じた資本のこのような自己増殖分が利益である。他方、製品が期待したようには社会に受け入れられず販売が滞り、製品の販売により回収獲得されてくる資本が、生産要素の取得に投じた資本よりも少なく、営業活動で資本が減少してしまうこともある。このような資本の目減り分が損失である。

企業が資本調達活動や、購買・生産・販売という営業活動として観察される資本の運用活動を実施すると、企業資本が増減変化する。企業が資本を調達すれば、その資本を具体化している現金の増加という形をとって企業資本の有高がそれだけ増加する。調達資本で営業活動を遂行していくと、資本は調達時の現金の状態から、原材料や機械といった非現金資産に転換し、さらにはその姿を次々と変え、最終的には元の現金の状態に戻ってくる。そして、営業活動が順調に推移するならば、この過程を通じて資本は自己増殖しているという具合である。企業の諸活動に伴う以上のような資本の動きを把握するために必要とされるのが、複式簿記である。

〔大学における簿記学〕

簿記学は、大学における会計関係の科目を学ぶ基礎・出発点としての位置にある。簿記学のカリキュラム上におけるこのような性格に配慮し、この授業では、受講者が、会計関係の諸科目をこれから学んでいける発展性のある学力を身に付けられることを目指す。そのためには、複式簿記を理論的に理解できるようにする必要があるため、会計学との関連に留意しながら授業を行う。

講義の内容・
授業スケジュール

この授業では、複式簿記について、その基本構造と、帳簿の開始記入時から決算手続きを経て帳簿の締切り手続きに至る一巡の主要手続きを系統的に理解できるようになることをまず主眼とする。そこで、授業の前半では、次の順番で授業を進めていく。

1. 資本と資産
2. 勘定の記入
3. 取引の分解
4. 収益と費用
5. 仕訳と転記
6. 試算表
7. 精算表と財務諸表
8. 決算と決算手続

履修上の留意点

簿記の学習には、記帳練習が不可欠である。授業中にあるいは宿題の形で課す記帳練習のノルマを果たし、簿記の仕組みを言わば体得するという姿勢も大事である。

教科書

沼田嘉穂著『簿記教科書』（同文館）
同著『簿記教科書・記帳練習帳』（同文館）

参考書

染谷恭次郎著『簿記の手ほどき』（日経文庫）

科目名	担当者名	配当学科	単 位
簿記学	さる 猿 やま 山 よし 義 ひろ 広	経営1必	4

講義のねらい

この講義では、会計学の初心者を対象として、日商簿記検定3級程度の商業簿記を学びます。

講義の内容・授業スケジュール

教科書の目次を参照すること。

履修上の留意点

「簿記学」は計算科目なので、かならず電卓を持参すること。

成績評価の方法

期末試験によって評価します。

教科書

『ニューコンセプト日商簿記検定3級商業簿記テキストブック』（税務経理協会）。また、授業中に適宜、プリントを配布します。

参考書等

問題集としては、
税務経理協会『ニューコンセプト日商簿記検定3級商業簿記ワークブック』
日商簿記検定2級商業簿記の範囲まで勉強したいという人のためには、
中村忠著『新訂現代簿記』（白桃書房）

科目名	担当者名	配当学科	単 位
簿記学	お 小 だ 田 みき 幹 お 雄	経営1必	4

講義のねらい

簿記の学習が初めてである学生のために、簿記の基礎知識を理解してもらおうクラスです。簿記は日常の経済活動の状態を数値的に把握し、記録するための非常に大切な手段であるので、本講座では「簿記とはどのようなものか」ということを認識してもらうために、プリントや練習問題により、簿記学習の基礎である資産・負債・資本の概念や収益・費用の意味について理解してもらいたい。また、いろいろな勘定科目の意味を理解し、簿記一連の流れである仕訳・転記・試算表・決算修正・決算等についての基本的問題について正確に理解してもらいたい。

講義の内容・授業スケジュール

- 講義の内容は次のようになります。
- I 複式簿記の原理：複式簿記の計算構造・簿記一巡の手順
 - II 期中取引の処理：現金預金、商品売買、売掛金・買掛金、受取手形・支払手形など
 - III 決算に必要な処理：決算修正仕訳・残高試算表の作成など
 - IV 帳簿処理の合理化：伝票制度・コンピュータ簿記

履修上の留意点

簿記の学習は、自分自身がペンと電卓をもって練習問題を数多く解くこと以外にないとの私の教育方針から、練習問題を数多く解かせテストや宿題を出すこともある。テスト用紙等は必ず提出すること。出席のチェックは毎回行う。

成績評価の方法

講義の際のテストの点数及び宿題の点数を合計し平均点を出し、定期試験の点を加算し再び平均点を出して評価する。そのため、講義中のテストや宿題の未提出者は当然平均点が下がる事になるから注意する事。

教科書

鶴飼哲夫・中村義彦編著『簿記イントロダクション』（森山書店）2,625円
中村義彦編著『基本簿記演習』（プレスウエーブ出版）1,600円（問題集）
※参考：プレスウエーブ（☎053-41-4518、FAX053-412-4519）

科目名	担当者名	配当学科	単 位
簿記学	おおのまんな 大野満奈	経営1必	4

講義のねらい

簿記は会計学の基本であり、複式簿記の計算構造は、会計学のどの分野を学ぶにしても前提的に理解されることが必要である。この意味において、簿記の基本原則を理解し、経営学部に学ぶ者が最低必要とされる簿記知識を修得することを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

前 期

1. 簿記・会計の意義と目的
2. 企業の財政状態・貸借対照表
3. 企業の経営成績・損益計算書
4. 取引と仕訳
5. 勘定記入と元帳の締め切り
6. 帳簿・伝票・証ひょう
7. 試算表の作成(1)
8. 精算表の作成(1)
9. 現金・預金
10. 小口現金
11. 商品売上の処理と仕入帳・売上帳
12. 総合復習
13. 総合復習

後 期

1. 商品有高帳
2. 売掛金・買掛金と人名勘定
3. 有形固定資産の取得と売却
4. 資本金と引出金
5. 資産表の作成(2)
6. 売上原価の計算と決算仕訳
7. 貸し倒れの見積りと減価償却
8. 精算表の作成(2)
9. 有価証券
10. 手形取引
11. 費用・収益の見越しと繰り延べ
12. 精算表の作成(3)
13. 総合復習

履修上の留意点

簿記は自分で練習問題を解き、照合することによって初めて修得できるものであるから、原則として毎回出席して要点を理解し、自宅では毎回の復習に心掛けること。また、疑問点は、積極的に質問することによって早期に解決しておくこと。

成績評価の方法

試験の点数・出席回数・提出物の三点をもって総合的に評価する。

教科書

『要点整理 日商簿記検定練習問題集』3級（一橋出版）

科目名	担当者名	配当学科	単 位
経営学	かねむらえいつつ 兼村 栄 哲	10以降入学生/経営1必	4
		9以前入学生/経営2必	

講義のねらい

受講生の皆さんは、これまで、中学や高校の授業において、「公民」、「現代社会」、「政治経済」、「流通（商業）経済」、「マーケティング」などを学習してきており、企業を中心とした諸組織の経営について、漠然としたイメージをもたれていることでしょう。本講義は、そうしたイメージをより明確なものとするために、一つの学問として、「経営学」を概説していきます。具体的には、皆さんが経営学の初心者であることを考慮しつつ、実例などをまじえて、経営学にかかわる基礎的な用語・概念・理論などをわかりやすく説明していきます。講義を担当する者としては、皆さんが、この「経営学」を履修し、経営学の基礎を勉強した後に、経営および経営学により関心をもち、2年次以降の専門的な科目を積極的に履修・学習してもらえれば幸いです。

講義の内容・授業スケジュール

講義は、以下の順序で進めていくことを予定しています。

1. 経営学とは
2. 組織とは
 - (1)組織の意義
 - (2)企業とは
 - (3)企業形態
3. 管理にかかわる理論
 - (1)管理論の発展
 - (2)管理論の体系
4. 組織にかかわる理論
 - (1)組織構造
 - (2)組織の動態
 - (3)モチベーション
 - (4)経営理念
5. 戦略にかかわる理論
 - (1)企業目標の形成
 - (2)企業戦略
 - (3)競争戦略
6. 生産管理論
7. マーケティング論（販売管理論）
8. 労務管理論
9. 財務管理論
10. 日本の経営論
11. 企業経営の国際化
12. 組織間関係にかかわる理論

履修上の留意点

受講生には、以下の3点を強く要望します。

1. 出席すること
2. 私語などを慎むこと
3. 板書を頻繁におこなうが、板書される内容以外にも、各自重要だと思われることについては、積極的にノートをとること

成績評価の方法

試験その他を総合的にみて、成績を評価します。

教科書

教科書は指定しません。

参考書等

その都度、紹介します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
会 計 学	あ べ かず ひと 阿 部 一 人	経 営 2 必	4

講義のねらい

今日の会計は、株主・債権者・投資家などの外部利害関係者に対して会社の財産の状態や経営の業績を報告することを目的として、商法、証券取引法、税法等の関係諸法令に組み込まれ、社会的な制度としての会計として実践されている。本講義では、現在の会計学の内容が体系的に理解できるよう概説する。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 会計学の意義と目的
2. 会計学の領域
3. 会計の役割
4. 会計学の理論的基礎
5. 企業会計制度
6. 財務諸表
7. 原価計算制度
8. 監査制度
9. 経営管理のための会計
10. 会計学の課題

履修上の留意点

1年次の「簿記学」が履修済みであるか、本年度併行して履修することが好ましい。

成績評価の方法

評価の方法は、定期試験およびレポートを考慮して総合的に判定する。なお、第1回目の講義において詳細に説明するので受講者は必ず出席すること。

教 科 書

開講時において指示する。

参 考 書 等

講義において指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
近 代 経 済 学	たき たい こう いら 滝 田 公 一	経 営 2 選 必	4

専 門 教 育 科 目

講義のねらい

本年度は、産業組織論の入門的講義を行います。産業組織論とは、企業及び産業に関する経済分析と理解していただいでよいでしょう。

講義の内容・授業スケジュール

講義内容は以下の通りです。

1. 産業組織論とは？
2. 企業の理論
3. 生産費用の概念
4. 完全競争と独占
5. 支配的企業と競争の周縁企業
6. カルテル
7. 寡占の理論
8. 製品差別化と独占的競争
9. 産業構造と成果
10. 価格差別
11. 垂直的統合
12. 品質と情報と広告
13. 技術進歩と研究開発競争
14. 規制とその改革

履修上の留意点

初級のミクロ経済学の知識があると、便利ですが、授業で必要な場合には、逐一説明しますので、必ずしも必要ではありません。

成績評価の方法

成績評価は、学年度末試験によります。

教 科 書

教科書は、特に指定しません。

参 考 書 等

初級のミクロ経済学の知識については、
 倉澤資成、『入門価格理論』（日本評論社）
 伊藤元重、『ミクロ経済学』（日本評論社、1992年）
 などを参照されるとよいでしょう。
 産業組織論の参考書として、次のものを挙げておきます。
 新庄浩二編、『産業組織論』（有斐閣ブックス、1995年）
 長岡貞男・平尾由紀子、『産業組織の経済学』（日本評論社、1998年）
 ロジャー・クラーク、『現代産業組織論』（多賀出版、1989年）
 Carlton, D. and J. Perloff, (1994) *Modern Industrial Organization, Second Edition*, Harper Collins,
 Scherer, F. and D. Ross, (1990), *Industrial Market Structure and Economic Performance*, Third Edition, Houghton-Mifflin.

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 営 科 学 概 論	お 小 沢 利 久	経 営 2 選 必	4

講義のねらい

生産活動には、本来の物作りの技術の他に、高能率、高品質、低コスト、短納期を達成するための効率的な生産システムの設計・改善および維持管理の技術が必要である。わが国の産業界は、いち早くQC（品質管理）、IE（経営工学）、OR（オペレーションズリサーチ）をはじめとする経営管理技術の導入を図り、実践することによって生産、品質、コスト面で飛躍的發展を成し遂げた。この講義ではQC、IE、ORを中心に、経営管理技術の基本的な理論と方法を概説する。また、今後本学部において経営科学系の科目を受講する上での基礎を学んでいく。

講義の内容・授業スケジュール

全体を大きくⅠ、Ⅱ、Ⅲの部分に分けて講義を行う。Ⅰではこの講義で扱う学問領域（一般に経営工学と呼ばれている）を概観する。Ⅱでは経営工学が対象とする経営管理の諸分野を取りあげる。Ⅲでは経営管理のなかで用いられている技術的な各種手法について解説していく。ただし、ⅡとⅢは相互に関連するものであり、必要に応じて順番を入れ替え、両者が有機的に結びつくよう講義を進めていく。

- Ⅰ 経営工学の概略と歴史
- Ⅱ 経営工学が対象とする諸分野
 - (i) 経営計画：経営計画の策定、経営情報のシステム化
 - (ii) 販売管理：マーケティング活動、販売計画
 - (iii) 生産管理：生産方式、設備配置計画、日程計画
 - (iv) 品質管理：統計的品質管理、総合的品質管理
- Ⅲ 経営管理技術の各種手法
 - (i) インダストリアルエンジニアリング：メソッドエンジニアリング、作業測定
 - (ii) バリュエエンジニアリング：価値のとらえ方、発想法
 - (iii) 経済性工学：資金の時間的価値、設備投資案の経済計算
 - (iv) データ解析：需要予測、推定と検定、回帰分析
 - (v) オペレーションズリサーチ：線形計画法、PERT/CPM、待ち行列理論、在庫管理モデル、シミュレーション、システムの信頼性解析
 - (vi) システム解析：システム概念、情報処理システム

履修上の留意点

履修に際して予備的な知識は必要としない。理解を深めるために適宜演習を行う。教科書はあくまで参考として用いるものなので、毎回出席してきちんとノートをとること。また、手法についての理解を深めるために適宜演習を行う。

成績評価の方法

演習課題と試験（前期末、後期末）により総合評価

教科書

秋庭雅夫他著『経営工学概論』（朝倉書店）3,800円

その他

〔関連科目〕→経営科学、生産管理論、システム論、経営統計、経営情報論

科目名	担当者名	配当学科	単位
情報処理基礎	いしづか 石塚 陽	経営1・2・3・4選	4

講義のねらい

計算機による「処理」とはどのようなものか、実習を通じてその一端に触れてもらう。

講義の内容・授業スケジュール

まず、「文書作成」、「表計算」などの、いわば文房具としての計算機の使用法から始め、さらにこれら既存のソフトウェアを使用せずに自分の目的に応じた「処理」を計算機に行なわせるためのプログラムの作成と実行－「プログラミング」－の実習も予定している。

前期では主に、オペレーティングシステム、文書作成、表計算等のソフトウェアの使用法について学び、後期にそれらのより進んだ使用法とプログラミングについて学ぶ、使用するオペレーティングシステムは Windows NT あるいは UNIX、ソフトウェアおよびプログラミング言語は Word、Excel、Java 言語を予定している。

成績評価の方法

講義時の演習課題および前後期それぞれ2～3回程度のレポートにより評価する。

教科書・参考書等

現段階では未定である。必要であれば講義時に指定する。

その他

- ・以上の講義内容、形態ともに使用する計算機環境の整備状況に応じて変更される可能性がある。
- ・実習に際して、各自1枚ずつのフロッピーディスクを用意してもらう（詳細は講義時に説明する）。

〔クラス定員〕60名

〔関連科目〕経営科学概論、経営科学、経営情報論

※この科目は4月初旬に事前登録の申請をしなければ履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単位
情報処理基礎	かわちや 河内谷 幸子	経営1・2・3・4選	4

講義のねらい

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。

講義の内容・授業スケジュール

毎回、1人1台コンピュータを使って実習を行います。初心者を前提として、パソコンの電源の入れ方からはじめます。

前期は、タイプ練習、日本語入力、ホームページ検索、ワープロソフトなどを実習していきます。後期は表計算ソフト、自分のホームページ作りなどを行います。

履修上の留意点

コンピュータ実習授業は1回休むと次の実習がわからなくなるので、休まないようにしましょう。出席は必ずとります。

成績評価の方法

出席を重視します。コンピュータを使って解くレポート課題を年に4回出し、その結果と出席点で成績を評価します。

教科書

4月の最初の授業で指示します。

参考書等

その都度授業で指示します。

その他

すでに述べたように、授業方法は1人1台コンピュータを使った実習形式です。

〔クラス定員〕60名

〔関連科目〕経営科学概論、経営科学、経営情報論

※この科目は4月初旬に事前登録の申請をしなければ履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
情報処理基礎	加藤武信	経営1・2・3・4選	4

講義のねらい

情報化社会の電子文房具であるパソコンを自在に使用して、文書の作成、プログラミング言語や表計算によるデータ加工の技法を修得する。パソコンの実習環境は、Windows を用いる。

講義の内容・授業スケジュール

- 〈前期〉
- ①Windows の基本操作
マウスやキーボードを用いながら Windows の各種操作を経験してもらう。
 - ②ワープロ「MS-Word」による文書作成
レポート形式文書、納品書、履歴書などの文書例を参考にして文書作成技法を修得する。
 - ③表計算ソフト「MS-Excel」による作表・作図（基本レベル）
多くの例題・演習課題による作表・作図訓練を行う。
 - ④表計算ソフト「MS-Excel」によるプログラミング
Excel 版（Visual Basic）による初歩的な VBA の作成訓練を行う。
- 〈後期〉
- ⑤「MS-Excel」による中級プログラミング
Excel 版 VB（Visual Basic）による種々の VBA 課題を解題する。
 - ⑥データベースソフト「Access」による業務の処理
Access の基本操作の後、販売管理業務を遂行するまでの一連のプロセスを遂行する。
 - ⑦その他、必要に応じて「ホームページ作成」の課題を実習する。

履修上の留意点

パソコン実習が全体の80%を占めるので、欠席せず、熱意をもって受講することを望む。また習熟するためには、テキストや配布教材を熟読し、また必要に応じて授業外の時間のパソコン実習をおこなわなければならない。

成績評価の方法

出席、レポートおよびテストにより総合評価するが、授業中の提出レポートを重視する。

教科書

加藤武信他著『[Word・Excel・Access・HTML]プログラムとシステム演習』（サンウェイ出版）1,800円

その他

〔クラス定員〕60名
〔関連科目〕経営科学概論、経営科学、経営情報論
※この科目は4月初旬に事前登録の申請をしなければ履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単位
情報処理基礎	じ びき まさ ひろ 地 引 昌 弘	経営1・2・3・4選	4

講義のねらい

本講義では、経営の様々な場面に出会う意思決定やその問題解決の手段として、コンピュータを自分自身で活用できるための基礎を学ぶことを目標にしている。単なる操作方法の習得だけに偏らず、コンピュータ自体の知識や経営における実際の問題への対応などとリンクしながら講義を進めて行く。

講義の内容・
授業スケジュール

〈前期〉

・イントロダクション
講義内容概説／情報教育センターに関するオリエンテーション／コンピュータ科学と経営学について（プロローグ）

・コンピュータの構成と基本操作

初めてコンピュータに触れる人が戸惑わないために、コンピュータを使う上での最初の1歩から説明を始める。続いて、基本的な入力装置であるキーボードおよびマウスの操作に慣れることを目標に、ワープロソフトを用いた文書の作成を行なう。そして、電子メールを用いたコミュニケーションやWWWブラウザを用いた情報収集、最後に自らのホームページを作成して情報を発信できることを目指す。

・表計算の基本

経営の場における資料作成に際して、ワープロ以上に重要なツールである表計算ソフトに慣れることを目標に、代表的な表計算ソフトであるMS-EXCELを利用した表計算やグラフの作成、基礎的な統計分析などの各機能について学ぶ。

〈後期〉

・オフィス統合ツールの基本

前期に学んだ表計算ソフトの基礎的な利用方法をベースに、より実践的な経営の問題への応用を目指す。まずは、ワープロソフトやデータベースソフトとの連携を目標に、作成したグラフを文書に組み込んだり、データベースからデータを取り出して解析を行なえることを目指す。最後に、表計算ソフト上の簡易プログラミング機能であるマクロを利用して、各オフィスツールを統合した環境での利用方法について学ぶ。

・コンピュータの応用

基礎講義の最後として、コンピュータを使いこなせることを目標に、プログラミングやアーキテクチャ、トラブル時の処理などコンピュータへの理解を深めるための実習／解説を行なう。まずは、簡単なプログラムを自分で開発できることを目指して、オフィス統合ツール上で利用されるVisual Basicを対象にプログラミングの基礎を習得する。続いて、複雑なプログラムを作成するための作法や実際のデバッグ手法を学ぶ。最後に、OSやネットワークの仕組みについて解説を行ない、今後コンピュータと1対1で付き合っていくことを目指す。

履修上の留意点

本講義は、コンピュータの初心者が、日常の活動にコンピュータを補助として自在に利用できるようになることを、そして何か問題が起きた場合でも自分自身で対処を行なえるようになることを最終的な目標にしています。従って、上記の基本スケジュールと並行して、適宜コンピュータに関する様々な知識や最新情報なども解説していく予定です。また、この目標に向けてのどのような質問／疑問でも大いに歓迎致します。

成績評価の方法

まずは、上記に述べた本講義の趣旨より、単位の取得だけが目的の者は遠慮していただきたい（出席免除などは認めない）。実習が中心なので、基本的には毎回出席し、出席の確認として実習内容を提出させることを予定している。また、実習の状況に応じて課題を提出させる場合がある。これ以外に、前期および後期には、履修を終えた項目を応用したレポートを出す。成績評価は、出席および課題／レポートを統合して行なう。

そ の 他

教科書などは指定しないが、必要に応じて各項目ごとの参考図書を紹介する。また、適宜要点をまとめたプリントなどを用意する。状況が許せば、コミュニケーション手段の一つとしてE-mail（電子メール）を利用する予定。

〔クラス定員〕60名

〔関連科目〕経営科学概論、経営科学、経営情報論

※この科目は4月初旬に事前登録の申請をしなければ履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
情報処理基礎	ちよう 長 こつ 国 きよう 強	経営1・2・3・4選	4

講義のねらい

コンピュータを自ら使いこなせる。

講義の内容・
授業スケジュール

前期：パソコン基礎、タイピング、WORDによる文章作成；
後期：EXCELによる情報処理、HTMLによるHOMEPAGE作成。

履修上の留意点

今年度合計6回のレポート提出を求める。

成績評価の方法

平常点。レポートの成績：50%；授業への出席：50%。

教科書

使用しない。講義内容を必要に応じて配布する。

参考書等

特に指定しない。

そ の 他

[クラス定員] 60名
[関連科目] 経営科学概論、経営科学、経営情報論
※この科目は4月初旬に事前登録の申請をしなければ履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単位
情報処理基礎	はし ば とし ゆき 橋 場 利 幸	経営1・2・3・4選	4

講義のねらい

この授業のねらいは以下の点に集約される。

- ① 情報化社会で活躍してゆくための基礎的なコンピュータリテラシを身につけること
- ② 技術を身につけるだけでなく情報化社会に対する自己判断ができるようにすること
- ③ 社会人としてのモラルをもてるようにすること

いくら情報化社会だとはいっても、ただ単に技術を身につけているだけではまったく無意味である。受講者の皆さんにはそのような空虚な人間にはなってほしくない。要するに、受講者の皆さんが1年後に「私は、社会が要請する技術力は身につけているが、技術への盲目的な服従はしない。自分なりの情報化社会に対するビジョンを持っている。私はひとりよがりやで頭でっかちの情報技術屋ではなく、責任を持った一人の人間としての倫理を持った上で情報技術を使いこなして」といった姿勢をもってもらえるとうれしい。いろいろな点で口やかましいことを言うかもしれないが、皆さんにとってよい講義にするための努力は惜しまないつもりである。受講者の皆さんも情報化社会における規範的人物となれるよう努力をしていただきたい。それは次世代に情報技術を健全に伝えてゆく責任を持つ皆さんの役割である。

講義の内容・授業スケジュール

以下のような内容を予定しているが、内容は受講生の皆さんの希望や技術力によって変更することも考えているので、講義中に遠慮なく相談されたい。

- ① コンピュータおよびインターネットの基本的な仕組みについての講義・演習
- ② OS (Windows) のしくみと利用に関する講義・演習
- ③ アプリケーションソフト (ワードプロセッサ Word、表計算ソフト Excel) に関する演習
- ④ プログラミング (VBA もしくは JavaScript、Java) に関する講義・演習
- ⑤ ホームページの仕組みと作成に関する講義・演習
- ⑥ プレゼンテーションソフト (Power Point) に関する演習

授業では、講義を一時的に行うのではなく、上記の内容に関する課題を随時出し、皆さんに課題をこなしていただくという形式をとる。課題は印刷物で提出してもらった場合、コンピュータファイルで提出してもらった場合の両方ある。特に前期のはじめのうちには覚えてもらうことも多く、それに比例して課題も多くなるので、気をつけて欠席のないようにしていただきたい。

履修上の留意点

先に書いたとおり、この授業では「社会人としてのモラルをもてるようにすること」も目標に掲げている。したがって、授業の中では、実際の業務についてととき同様の「厳しさ」を受講生の皆さんに求めたい。具体的には以下のようなことである。

- ① 遅刻や欠席がないように注意していただきたい。

例えば取引相手が無断で商談の時間に遅れたら、あなたは相手を信用して取引を進めることができるだろうか。授業では講義開始後には教室への入室を遠慮していただく場合もある。

- ② 課題の提出時間は厳密に守ってほしい

例えばあなたの取引相手の商品が、期日までに納品されなかったらどうなるだろうか。この授業でみなさんに提出してもらった課題は、講師に対する「納品物件」だと思っていただきたい。

- ③ 社会人として恥ずかしくない言葉遣いをしてほしい

ここでいう「言葉遣い」は、話す場合だけではなく、書く場合のことも指している。社会にでれば言葉遣い一つで信用を失うこともありうることを忘れないでいただきたい。

これらはいずれも社会人としては当然のことであるが、この姿勢を学生時代から是非身につけておいていただきたい (すでに社会人経験のある方には失礼な言い方をお詫びしたい)。ただし上記の①と②に関しては、正当な理由 (電車の遅れ、急病、冠婚葬祭など) がある場合は例外である。当日か後日に証明書類を提出していただければ、期限外でももちろん課題を受理する。

いずれにせよ、授業の心積もりは第1回の講義で皆さんに直接お話ししたいので、必ず初回の授業には顔を出していただきたい。また、何か質問などあれば前もって電子メール (hashiba@komazawa-u.ac.jp) で遠慮なくご連絡いただきたい。

成績評価の方法

課題の提出状況と内容、および出席状況から評価させていただく。先に書いたとおり、課題は印刷物とコンピュータファイルのそれぞれの形式で提出していただく場合がある。

教科書

太田忠一編/植松康祐・草薙信照著『文科系のためのコンピュータリテラシ[Windows版]-Microsoft Officeによる-』(サイエンス社) 2,200円

参考書等

全くの初心者の方は、できるだけ前もって図書館や書店に足を運び、数冊の文献を比較参照しながら、もっとも自分に相性が合う書籍を選択して勉強しておくことをお勧めする。具体的には、皆さん自身が「わかりやすい」と感じたものを選択されるのがよいと思う。

その他

講義、実習ともすべて情報教育センター (4号館) でコンピュータを使いながら行う。

[クラス定員] 60名

[関連科目] 経営科学概論、経営科学、経営情報論

※この科目は4月初旬に事前登録の申請をしなければ履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
情報処理基礎	もり森 ひろ博 ひこ彦	経営1・2・3・4選	4

講義のねらい

コンピュータは企業経営にとってすでに欠かすことの出来ないものとなっており、最近のインターネットの普及により、いち早く情報を集めるための道具として、ますますその必要性は増えていく。

本講義では、コンピュータの基本的な使用方法から始めて、コンピュータを使って以下に情報を処理し、それを表現し、書類やプレゼンテーションの形として作成していくかを解説していく。

講義の内容・授業スケジュール

1. コンピュータの基本的な使用方法
電源の入れ方からはじめ、タイピングの練習をおこなう。また、基本的なコンピュータ用語について解説する。
2. ワードプロセッサによる文書の作成法
日本語ワードプロセッサを用い、文書の作成技法について学ぶ。
3. 表計算ソフトによるデータの処理と視覚化
いろいろなデータを用い、そのデータにどのような意味が隠されているのかを探るため、表計算ソフトを用いて、どのように処理をすればいいか、また、その結果をどのように表現すればいいかについて学ぶ。
4. プレゼンテーションソフトによる発表方法
プレゼンテーションソフトを使い、3. で作成した表やグラフを使って効率よく、美しく、わかりやすく発表するかについてまなぶ。マルチメディアによるプレゼンテーションについてもふれていく。
5. インターネットについて
インターネットとは何か、どのようなことが出来るのかなど、インターネットの現状と将来について、電子メール、ワールドワイドウェブ（WWW）を中心に解説をしていく。
6. その他
時間が許す範囲で、これらのソフトをどのように作成するかについて、いくつかのプログラミングの手法について解説していく。

教科書

授業時に指示する。

その他

実習を中心に行うので、欠席は極力避けてください。
 [クラス定員] 60名
 [関連科目] 経営科学概論、経営科学、経営情報論
 ※この科目は4月初旬に事前登録の申請をしなければ履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単位
情報処理基礎	やま した ひで あき 山 下 英 明	経営1・2・3・4選	4

専門教育科目

講義のねらい	コンピュータを使用しての情報処理能力を身に付けるために、まずコンピュータの仕組みを学び、コンピュータの基本操作、ワープロによる文書作成、表計算ソフトによるデータ処理技術、インターネットの利用法などを修得する。オペレーティングシステムとしては、Windowsを用いる。
講義の内容・授業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ① コンピュータの仕組み 1回 ② コンピュータの基本操作 3回 ③ ワープロ“Word”による文書作成 3回 ④ 表計算ソフト“Excel”によるデータ処理、作図、作表 5回 ⑤ “MS-Powerpoint”によるデータの視覚化 2回 ⑥ “LaMail”による電子メールの利用 2回 ⑦ “Netscape Navigator”による情報検索 2回 ⑧ “HTML”によるホームページ作成 5回
履修上の留意点	実習科目であるので、毎回出席すること。
成績評価の方法	講義時間内に提出する演習 50% 5回程度のレポート 50%
教科書・参考書等	教科書は使用しない。必要に応じて資料を配布する。
その他	<p>[クラス定員] 60名</p> <p>[関連科目] 経営科学概論、経営科学、経営情報論</p> <p>※この科目は4月初旬に事前登録の申請をしなければ履修できません。</p>

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
民法Ⅰ（総則・物権法）	おお <small>みや</small> <small>たかし</small> 大 宮 隆	経 営 2 選	4

講義のねらい

民法という法律は、日常の社会生活（財産関係と家族関係）を規律の対象とし、総則・物権・債権・親族・相続の五編に編別されている。本講の対象は、第一編総則、第二編物権である。なかでも総則は、全編に共通な規定と、どの編にも入れることができない規定を集めて構成されているので、抽象的な法文形式が多い。よって講義においては、具体例を挙げてわかりやすく説明したいと思っている。

講義の内容・
授業スケジュール

- ① 民法の意義
- ② 民法典の編別
- ③ 民法の指導原理とその修正
- ④ 自然人
- ⑤ 法人
- ⑥ 物
- ⑦ 法律行為
- ⑧ 期間
- ⑨ 時効
- ⑩ 物権変動
- ⑪ 占有権
- ⑫ 所有権
- ⑬ 地上権
- ⑭ 永小作権
- ⑮ 地役権
- ⑯ 留置権
- ⑰ 先取特権
- ⑱ 質権
- ⑲ 抵当権

履修上の留意点

講義には六法持参のこと。講義終了時に次週の予告をするので、教科書を読んでくること。

成績評価の方法

年度末の定期試験と出席状況を総合して評価する。

教 科 書

玉田弘毅『図解民法講義 総則・物権』（住宅新報社）

参 考 書 等

講義の中で随時紹介します。

科目名	担当者名	配当学科	単位
商法Ⅰ（総則・会社法）	あら き まさ たか 荒 木 正 孝	経営2選	4

講義のねらい

この講義では、会社法（総則、合名会社、合資会社、有限会社、株式会社）の基礎的かつ基本的な事項について解説するが、とくに現代の経済活動において重要な役割を果たしている株式会社の法規制について多くの時間を割くつもりである。

講義の内容・授業スケジュール

大企業は全て株式会社の形態をとり、その株式会社が現代の経済を担い、商品やサービス、そして労働の場を提供するという社会的機能を通して国民の生活に計り知れない大きな影響を及ぼしている。そこで、この講義では、株式会社の生成、機能、構造、消滅などの私法的側面を中心に規制する株式会社法に重点を置き、そこでの重要問題を探り上げ、判例や学説の対応、実務の取り扱いなどを検討し、会社法の基本原則を理解してもらうつもりである。

履修上の留意点

会社法は商法の重要な部分であり、その中心は、商法第二編会社、有限会社法などの規定である。ところで、商法は、民法を一般法とする特別法であるから、商法を学ぶ際には、その基礎となる民法総則、物権法、債権法などの知識があると一層分かりやすい。もっともここでは、講義の内容を理解するために必要な範囲で民法＝財産法の規定や基本概念にも触れるつもりであるから、財産法の全てを履習していなくても受講には差し支えない。

成績評価の方法

年度末のペーパーテストの点数で評価します。

教科書

荒木正孝著『現代企業法』（第3版）（成文堂）

参考書等

鴻・竹内・江頭編『会社判例百選』第5版（有斐閣）
奥島・中島編『商法演習Ⅰ（会社法）第3版』（成文堂）

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本経済史	また しま まん じ 北 島 万 次	経営2・3・4選	4

講義のねらい

第Ⅰ部 日本における無階級社会（原始社会）から階級社会（奴隷制社会・封建制社会・資本制社会）にいたるまでの経済史発展の移り変わりについて、そのあらましを述べる。

第Ⅱ部 幕藩体制社会の経済のしくみとその発展

- 幕藩体制社会の経済構造とその特質について述べる。
- その前提として、幕藩体制社会（封建社会の経済）のもとで、近代へ向けての経済発展がどのように展開したかについて述べる。その事例として、つぎのことについてふれる。

- 江戸時代後期、畿内における棉作の展開とその実態
- 開港直前における信州諏訪製糸業の展開
- 江戸時代後期、上州における地主制とその経営

第Ⅲ部 幕末維新期の経済変動

- 明治維新と外圧についてのあらまし
- 幕末貿易の展開とその実態
- 日本における資本の形成
 - 秩禄処分過程
 - 銀行資本の創出
- 資本の投資
- 地租改正の実態とからくり

成績評価の方法

出席点とテスト。（注）出席の著しく悪い受講者には単位を認定しない場合がある。

教科書

教材はその都度配布する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
企業形態論	か 各 務 洋 子 が み よう こ	経営2・3・4選	4

講義のねらい

企業形態論は、経営学において早くから成立した学問領域の一つである。企業形態を単に企業規模の区分として捉えるのではなく、企業制度の歴史的発展の過程、進化の段階として動的に捉える。資本主義経済の支配的な企業形態である株式会社を中心に据え、株式会社制度の基本、所有と経営との関係、現代株式会社の特質、株式会社支配論等の理論的特質、歴史的発展過程を述べ、現代社会における企業行動の理解を深め、現代経営の諸現象を考察するための基本的知識の修得を目指す。

講義の内容・授業スケジュール

第1回目の授業に、シラバスを配布し、1年間の講義の流れを説明する。取り上げるテーマは、以下の予定。

1. 企業概念 (企業理論への道程)
2. 企業形態の展開 (企業形態の本質的意味、企業の資本調達メカニズム)
3. 法制上の企業形態 (企業形態の種類、会社法による会社の種類)
4. 日本の企業制度史 (原点としての明治期初頭、官営事業、株式会社制度)
5. 株式会社の現実 (株式の公開と上場制度、株式会社の日本的特質、株式会社を巡る諸問題の検討-コーポレート・ガバナンス論争、株式会社支配論の展開、株式相互持合いに関する諸理論等)
6. 企業競争と独占 (競争のダイナミズム、構造的独占)
7. 企業の統合とグループ化 (統合による企業の巨大化、統合の法的形式、経済形態、巨大企業のグループ化)
8. 企業格差の構造 (企業規模、企業格差の実態、中小企業施策と今後の課題)
9. 企業の国際化 (国際化の意味、国際化の実態、海外進出に伴う企業経営上の課題)
10. 日本の公企業 (公企業の経緯と種類、政府公企業、地方公企業、経営の課題)

成績評価の方法

年二回の定期試験と、講義の終わりに小レポート (複数回) を実施する。
小レポートの合計点 (30%)、前期試験 (30%)、後期試験 (40%) によって総合評価する。

教科書

開講時に指示。

参考書等

授業中に指示。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 営 史	宇 田 <small>うだ</small> 理 <small>おさむ</small>	経営2・3・4選	4

専 門 教 育 科 目

講義のねらい

本講義では、なぜ、ある企業は競争力があるのに、別の企業はないのかという問いを出発点に、企業の歴史を振り返り、色々な産業における企業の競争力の源泉を理解することが目的である。時代を超えて、どの時代のどの企業にも通じる要因と、時代の状況により変化する要因を、色々なケースを通じて明らかにしていく。

講義の内容・授業スケジュール

開講時に年間計画のシラバスを配布予定。内容としては、毎回、一定のテーマに応じて、企業発展のケース（セブンイレブン、カーネギー、IBM、GE、日立、SONY、アップル・コンピュータなどの歴史）や、その発展に貢献した企業のリーダーを紹介する。戦後の世界の企業を中心に取り上げるが、テーマに応じて19世紀後半の企業などにも触れる。また、部分的に対話形式の授業も行う予定。

成績評価の方法

学年末テストによって評価する。ただし、夏期休業期間中に各自関心のある企業の歴史をレポートしてもらう。

参 考 書 等

開講時に指示します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 営 学 史	いわ なが こう し 治 岩 永 宏 治	経営2・3・4選	4

講義のねらい

企業・経営における実践の理論的体系化として生成・発展してきた経営学の歴史的展開を中心に講義していく予定です。その際、アメリカを代表する学説を焦点にし、それらの学説がいかなる歴史的、経済的、思想的背景のなかで成立し、企業・経営あるいは組織・人間のいかなる側面を問題にし、どのような理解を示してきたのかを解明していきます。そのなかで、アメリカにおける経営学の基本的性格とその歴史的・客観的な意義と役割を明らかにしていくつもりです。

講義の内容・
授業スケジュール

- ① アメリカ経営学の基本的性格
- ② アメリカ資本主義と管理問題
- ③ 独占形成と管理問題
- ④ アメリカ経営学の思想的背景
- ⑤ テイラリズム
- ⑥ 科学的管理と精神革命
- ⑦ フォードズム
- ⑧ 合理化運動と労働問題
- ⑨ ホーソン実験と人間関係論
- ⑩ 人間関係論の基本思考
- ⑪ フォレット学説の特徴
- ⑫ 行動科学的管理学説の展開

履修上の留意点

開講時に指示します。

成績評価の方法

ペーパーテストと出席状況により評価します。
再試験を実施する。

教 科 書

高木・丸山編著『経営管理の理論と歴史』（中央経済社）

参 考 書 等

必要に応じて随時指示します。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
経営管理論	鈴木幸毅	経営2・3・4選	4

講義のねらい

経営管理の理論と現実について、経済社会の動向、資本主義企業の現在の姿を視野に入れつつ、説明する。

講義の内容・授業スケジュール

下記の1、2、3を前期にとりあげ、それとの関連において後期は4を中心に講義する。

- 1 古典的理論
 - (1) テイラーの科学的管理論
 - (2) 管理過程論（職能論）
 - (3) 管理構造論（組織論）
- 2 新古典的理論
 - (1) ホーソン実験と人間関係論的管理論
 - (2) 行動科学的管理論
 - (3) 管理開発論
- 3 近代理論
 - (1) バーナード革命
 - (2) 組織論的管理論
 - (3) 意思決定論的管理論
- 4 現代理論
 - (1) 環境適応的管理論
 - (2) 戦略的管理論
 - (3) 環境問題と企業責任論

履修上の留意点

自主的学習を期待するので、特に出欠をとることはしないが、中間試験に代わるレポート提出を求め、その成績を期末テスト結果に加味して評価する。

教科書

鈴木幸毅著『企業と管理の理論』（中央経済社）2001年4月（前期）
鈴木幸毅著『環境経営学の確立に向けて』（税務経理協会）1999年

参考書等

鈴木幸毅著『バーナード組織理論の基礎』（税務経理協会）1998年
鈴木幸毅著『地球環境問題と国際経営』（税務経理協会）2001年6月

科目名	担当者名	配当学科	単位
原価計算論	近藤 禎夫	経営2・3・4選	4

講義のねらい

《科目の位置づけ》

原価計算論は、たんに製造原価の算定方法を取扱うというのではなく、日常の国民生活と直接に結びついた重要な役割を果たすものであるから、その対象領域はきわめて広いといえる。たとえば価格形成問題、原価管理、予算統制、利益計画および公表会計などと関連する。このような会計と経営の両分野を包摂した科学である。

《科目の概要》

原価計算は会計領域の全般にかかわり機能している。とりわけ経営管理活動と有機的に関連づけられ測定・情報伝達・利用がなされている。企業の経営管理活動とは通常大きく二つに分けて認識される。一つは社会的存在としての企業が、それをとりまく利害関係者（株主、債権者、投資家、徴税当局、労働組合、および広くは国民大衆）に対し社会的責任を遂行する分野である。いま一つは、企業活動について意思決定と業績評価を行ない、企業を活性化させ利益の獲得機会を拡大させるための活動分野である。

原価計算の役割は、前者においては公表財務諸表作成のための原価情報の提供にある。また後者についてはきわめて幅が広く、経営管理の全領域にわたって原価情報が提供される。いずれにせよ、企業経営の要となる会計情報が提供される。

本講義では、“授業の内容”等でもふれるように、「企業会計原則」を補完する「原価計算基準」の示す範囲に重点をおいて取り組むことになる。したがって、まず原価計算の基本概念および基本的計算構造をしっかりと身につけるよう講義することになる。講義のはじめに際しては、商業簿記から工業会計への橋渡しを平易に展開したい。

前期においては、原価計算が制度会計の枠組みのなかで重要な役割を担っている売上原価の算定、たな卸資産（原材料、製品、仕掛品、貯蔵品など）の評価といった技術的側面を取扱う。具体的には、製造原価計算の算定プロセスを理解しやすいように説明していきたい。順序としては原価の費目別計算、部門別計算、製品別計算の算定手続きを展開することになる。この場合、当初は実際原価計算制度を前提として述べるが、後期には管理手段としての原価計算にもふれるので標準原価計算にも及ぶ。なお、さらに一步立ち入って、原価計算の管理会計分野での適用問題にもふれる。

原価計算論は製造工業を中心とした計算体系ではあるが、サービス業（電力、ガス、鉄道などの公益事業の運賃・料金問題）など適用範囲は多様にわたる。現実の事例などを紹介しながら講義をすすめていく予定である。

講義の内容・授業スケジュール

原価計算論を学習するにあたっては、制度会計の側面と管理会計の側面との両者に関連を有するので、会計法規集を常に携帯していただきたい。

とりわけ講義は「原価計算基準」（大蔵省・企業会計審議会中間報告、昭和37年）を中心に行なう予定である（テキストを補うプリント類は随時配布する）。さきの《講義のねらい》で述べた方針とともに、モットーは、「高度な内容をやさしく」である。

2001年度においては、下掲のテキストにより以下に示す内容を講義する。

1. 原価計算の現代的役割とその考え方
2. 原価計算の概要
3. 原価の費目別計算
4. 原価の部門別計算
5. 個別原価計算の方法
6. 総合原価計算の方法
7. 標準原価計算
8. 経営計画と原価計算
9. 原価計算の歴史

成績評価の方法

基本的には平常の出席状況と学年末試験で評価する。

教科書

遠藤・近藤他著『会计学』改訂版 森山書店 2000年 3,500円

参考書等

数田礼二・近藤禎夫著『原価公開』（新日本出版社）1976年（絶版、図書館での閲覧を乞う）
中央経済社編『会計法規集』最新版（2000年7月頃新版発売）

科目名	担当者名	配当学科	単位
経営財務論	たかだみつあき 高田光明	経営2・3・4選	4

講義のねらい

〔財務の意味〕

経営財務は、企業という組織体の財務を研究する学問分野である。企業は、社会が必要とする財貨やサービスを生産し販売するという活動を営む報酬として、利益を獲得しようとする組織体である。このような活動では、機械、建物、原材料などの財貨が必要となるし、労働力も不可欠である。企業は、その活動を営むに際し、これらの財貨を取得しなければならないし、働き手も雇用しなければならないわけであり、そのために元手となる資本を必要とする。

この元手としての資本を集めることを、資本の調達という。そして、現金の状態では通常は調達する資本で、企業は、上記の財貨や労働力などを取得し、これらの生産要素により、新たな財貨やサービスを生産して販売するという営業活動を遂行し、その結果として資本が自己増殖することを目指す。このことが資本の運用であり、企業の営業活動を通じた資本の自己増殖分が利益である。企業の財務とは、現在では、企業による以上のような資本の調達と運用をいっている。

〔資本調達の位置〕

企業が資本を調達するのは、調達資本をできるだけ効率的に運用して自己増殖させ、利益を生み出すためである。その意味では、資本の運用あつての調達であるといつてよい。しかしながら、企業は、用途に合った種類の資本を、必要とする額だけ必要なときに調達できなければ、資本の運用を意図したように行い難くなる。資本運用の効率性は、企業が、資本の運用に合わせた調達をいかに行えるかに制約される。資本の運用がうまくいくかどうかの出発点は、資本をどのように調達するかにあるといえる。

資本の調達問題は、経営財務において、依然として重要な位置を占めていることに変わりがない。資本の運用あつての調達であるからといって、そのことは、資本の調達面の意義が小さくなることをけつして意味してはいないのである。この授業では、以上のような問題意識のもとで、資本の調達を中心に、必要に応じて資本の運用面と関連させながら講義するつもりである。

講義の内容・授業スケジュール

基礎知識を体系的に理解し、この学問の基本的考え方を身に付けられるようにするために、まず基礎的・総論的事項について次の順番で講義していく。

1. 経営財務の領域
2. 資本と資産
3. 資本の分類
4. 資本の運用形態
5. 流動・固定分類法の重要性
6. 資金
7. キャッシュ・フロー
8. 企業利益

履修上の留意点

経営財務論を理解する上で必要となる最小限の会計的知識も授業では説明する。しかし、簿記学と会計学を前もって履修してあることが望ましい。

教科書

中原章吉編著『経営財務と管理会計』（中央経済社）

参考書等

染谷恭次郎著『資金計画の手引き』（日経文庫）

科目名	担当者名	配当学科	単 位
経営労務論	か しま ひで あき 鹿 嶋 秀 晃	経営2・3・4選	4

講義のねらい	この講義では、現代の日本企業とそこに働く労働者が抱える経営労務問題を幅広く扱っていく。具体的には経営学と経営労務論、戦後日本経済と日本の経営論、終身雇用、年功序列賃金、企業別組合制度、福利厚生制度、異動と昇進、人材形成、労働時間問題、ホワイトカラーの労働問題、女性労働問題、新しい労働法制と労働問題などの小テーマを設けて講義していく。学生には経営労務論を受講することで企業と労働、社会について幅広い問題関心を持ってもらいたい。
講義の内容・授業スケジュール	講義は1コマ1テーマの原則。各回の最初に「日本は本当に終身雇用なのか？」といったように問題点を掲げ、その解説をおこなう。また、最近の新聞記事から重要な経営労務問題をピックアップして紹介する。
履修上の留意点	詳細は最初の講義で説明をする。出席は取らないので、出席点はなし。①私語は真剣に聞いている他の学生に迷惑になるのではないこと。②携帯電話は消音すること。ひどいときには退室してもらい、減点の対象とする。
成績評価の方法	評価は学期末試験のみによる。①空欄補充問題・正誤問題・穴うめ問題（約60点分）②論述問題3問（約40点分）の予定。中間試験・出席点はなし。詳細はホームページでも公開。
教科書	特に指定しない。
参考書等	参考図書としては、津田眞激『人事労務管理』（ミネルヴァ書房）、1993、(3,000円程度)、労務学説史をわかりやすく説明したものとして渡辺峻『企業組織の労働と管理』（中央経済社）、1995、(2,600円程度)、経営労務をより体系的に深く学習するのにより白井泰四郎『現代日本の労務管理第2版』（東洋経済新報社）1992、(3,500円程度)をあげておく。この他にも講義の中で適宜いろいろな文献を紹介していく。参考文献はホームページで紹介。
その他	授業は講義の形式でおこなうが、図表やグラフ、ビデオを多用し、ただ聞いてノートを取るだけでなく「頭をつかう」ような形にする。ホームページでも授業に関する情報提供をしていく。 http://www.komazawa-u.ac.jp/Gakubu/Kashima_Seminar/index.html

科目名	担当者名	配当学科	単 位
管 理 会 計 論	さる 猿 やま 山 よし 義 ひろ 広	経営2・3・4選	4

専 門 教 育 科 目

講義のねらい

この講義では、すでに「簿記学」の単位を修得していることを前提として、企業における管理会計の基本思想を学びます。

講義の内容・
授業スケジュール

- I 管理会計の体系
- II 管理会計における原価概念と利益概念
 1. 原価態様
 2. 全部原価計算と直接原価計算
 3. 分権管理のための原価概念と利益概念
- III 利益計画
 1. 利益計画の手續
 2. 損益分岐点分析と CVP 分析
 3. 短期利益計画のための価格分析
 4. 短期利益計画のための営業費分析
- IV 生産現場における原価管理活動の取組み
 1. 原価企画・原価改善・原価維持の概念
 2. TDK株のケース
- V 組織構造の変革と管理会計
 1. マネジメントコントロール・システムとは何か
 2. 組織形態と責任会計の関係
 3. 事業部制会計について
 4. マイクロ・プロフィットセンター制
 5. 京セラのアメリカ経営、NEC 埼玉のラインカンパニー制のケース
 6. オムロン綾部工場、KOA株の WSM のケース
- VI まとめ

履修上の留意点

「管理会計論」は計算科目なので電卓を持参すること。

成績評価の方法

レポートを重視します。

教 科 書

適宜プリントを配布します。

参 考 書 等

より体系的に勉強したいという人のためには、
櫻井通晴著『管理会計』（同文館）。
計算問題については、
日商簿記検定の「工業簿記」「原価計算」のテキスト。

科目名	担当者名	配当学科	単位
経営組織論	ながせ かつ ひこ 長瀬 勝彦	経営2・3・4選	4

講義のねらい

この講義で論じるのは、第1に企業組織がどのように構成されているのか、第2にそれが環境の中でどのように運動しているのか、第3に個人や小集団が組織とどのように関わっているのかである。

組織というものは形があるわけでもなければ色が付いているわけでもない、目に見えない存在である。それなのに私たちは、会社がどうだとか学校がどうしたとか当然のように会話を交わしているし、法律上も「法人」として人間並みの位置づけがされている部分もある。天然資源から自動車やコンピュータをつくったり、巨大ビルや橋を建築したりすることは個人では何百年かかってもできないが、組織はやつてのける。企業組織の活動によって生活が豊かで便利になることは否定しようがない。しかし一方企業組織は、自然環境を破壊して私たちの生活を脅かすという側面も併せ持っている。

また、人間は組織の中で高く評価されると嬉しく思うし、「会社人間」といわれるように組織と一体化する人もいる。一方で組織の側も構成員に対していろいろ便益を与えてくれるが、景気が悪くなると手のひらを返したようにみんなで嫌がらせをすることもある。ショックで病気になったり自殺したりする人もいられるほどである。こんなにも社会にも個人の心にも大きなプレゼンスを示す経営組織について、じっくり考えてみようではないか。

授業の展開としては、抽象的な理論や学説の紹介は程々に留め、現代の組織が直面している問題をなるべく取り上げて議論していきたい。

 講義の内容・
授業スケジュール

取り上げる予定の主な項目は以下の通りである。ただし授業の回数と項目番号は一致しない。

1. コーポレート・ガバナンス（企業は誰のものか）
2. 企業組織の階層（企業組織を横に切ってみる）
3. 企業組織の部門化（企業組織を縦に切ってみる）
4. 新規事業開発と組織内組織（企業組織の卵）
5. ラインとスタッフ（組織の中の2種類の仕事）
6. 国際化と組織（多国籍企業の組織はどんなものか）
7. 企業と外部環境（コンティンジェンシー理論の貢献と限界）
8. 組織文化と組織開発（企業によって社員のものの考え方が違う）
9. 組織と戦略（組織は戦略に従う？）
10. 企業の寿命と組織エコロジー（会社の寿命は30年？）
11. 組織のリストラクチャリング（企業の立て直し）
12. 新しい人事・処遇制度（出世と給料）
13. 情報化と組織（コンピュータが入って組織はどう変わったか）
14. 企業間関係（ネットワーク論）
15. 個人と組織（人はなぜ組織のために働くのか）
16. 組織的意思決定（経営学とは意識決定の学問である）
17. イノベーション（企業とはイノベーションをする存在である）
18. 組織均衡論と新しい組織論（サイモンはどこまで正しいか？）
19. 意思決定演習（ゲームで組織的意思決定の疑似体験）

講義の形式

通常の講義のほかに、適宜ビデオ教材を使ったりゲーム形式でおこなったりする（臨時の教場変更に注意）。講義時間内にレポートの作成と提出を求めることもある。また講義中に受講生の発言を求めることがあるが、高いレベルは求めていないので、素朴な意見を積極的に開陳して欲しい。

履修上の留意点

私は受講者のために「楽しく、分かりやすく、ためになる」講義をするように、いろいろと工夫をしているつもりである（それが100%成功しているとは言わないが）。それだけに、講義の妨げになる行為（私語や携帯電話など）に対しては厳罰をもって臨む。それが一度であっても成績が「不可」になることもあるので覚悟しておくこと。私語をするくらいなら講義に出席しない方が、単位取得に関してははるかに安全である（もちろん毎回まじめに参加することが最も好ましい）。また講義時間内にレポート作成を課するときは、理由の如何を問わず遅刻者の入室は認めないので注意すること。

成績評価の方法

定期試験の点数が主体となる。それにレポート点が加算される。

教科書

なし。

参考書等

長瀬勝彦著『意思決定のストラテジー』（中央経済社）

科目名	担当者名	配当学科	単位
商業経営論	もり森 みや宮 かつ勝 こ子	経営2・3・4選	4

講義のねらい	商業経営論とは、生産者と最終消費者との中間にあって、商品・サービス・アイデアを購入・販売することを業とする中間業者の活動をその研究対象とする。中間業者とは、卸売業者と小売業者を意味するが、講義では、小売業者を中心にその商業経営を検討することとする。
講義の内容・授業スケジュール	総論として、商業の意義と機能を論じた後、小売業の形態と動向について考察する。小売業の形態については、有店舗小売業と無店舗小売業の2つに分けて検討する。有店舗小売業には、百貨店、スーパーマーケット、専門店、コンビニエンスストア、ディスカウントストア等があり、無店舗小売業には、訪問販売業、通信販売業、自動販売業がある。これらの小売業について、その沿革、内容、動向について詳細に講ずる。各論として、多様な小売業の業態で展開されている商業経営の手法について説明する。その内容としては、市場調査と立地分析、店舗管理、商品政策、仕入管理、商品管理、価格政策、販売管理等があげられる。
履修上の留意点	毎時間、資料を配布するが、試験問題の解答に必要なかもしれないので保管しておくこと。
成績評価の方法	学年末試験の結果により成績評価する。
教科書	出牛正芳・他『商業経営論』（税務経理協会）3,500円

科目名	担当者名	配当学科	単位
保険経営論	いし石 なぎが坂 くに邦 あき昭	経営2・3・4選	4

講義のねらい	本講義においては、保険学のアプローチとして近年一般化しつつあるリスク・マネジメントの基本的な事柄につき理解した後に、保険理論の基本的知識を正確にし、わが国の保険事業並びに一般企業がかかえているリスクに関する諸問題にどのように対処したらよいかの応用能力が持てるようになることを目標とする。
講義の内容・授業スケジュール	<p>保険学の研究は、保険法学的アプローチ、保険経済学的アプローチ、保険経営学的アプローチとそれぞれの時代を背景に論じられてきた。今日、保険学研究については保険経営学的研究をより発展させた「危機管理論」（リスク・マネジメント）研究が主流となっている。本講義においては、最初にリスク・マネジメントの基本体系について論じ、リスク・マネジメントの理論、歴史的発展について見た後に、リスク・マネジメントの中心となる保険の機能、保険本質、保険技術について詳しく見ていきたい。</p> <p>前期はリスク・マネジメントを中心とした講義を行い、後期に保険論を中心とした講義を行う。講義は理解しやすいように工夫をこらしていく。教科書は使用するが、それは本講義を理解するための基本的な共通知識として使用し、講義は教科書に書かれている事柄が理解されていることを前提として進めていく。</p>
履修上の留意点	保険およびリスク・マネジメントを理解するためには使用される専門用語を理解されていなければならない、学ぶことも広範囲にわたるため、講義を受ける前に必ず教科書を読み講義後の復習も忘れないようにしてほしい。学生諸君の積極的な授業への参加を望む。
成績評価の方法	講義への出席状況及び授業時の態度と定期試験の結果を総合して成績評価を行う。
教科書	石名坂著『リスク・マネジメントの理論』（白桃書房）3,500円
参考書等	石名坂著『ファミリーリスク・マネジメントと保険』（白桃書房） 石名坂著『リスク・マネジメントの基礎』（白桃書房）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 済 政 策	にし やま つかさ 西 山 司	経営2・3・4選	4

講義のねらい

従来、経済学の学問体系は、理論、政策、歴史、財政・金融、経営・会計の諸分野から構成されており、特に第二次世界大戦後の現代資本主義経済においては、経済政策を応用経済学の一環として重視する傾向が深まってきているといわれています。

このような動向に対応して、本年度の経済政策の講義は、経済政策の方法論や政策理論の究明および経済政策の史的展開過程の解明を中心に、各国で実施されている現代の経済政策についても論述する予定です。

特に経済政策の実践性と関連した「価値判断」論争をめぐっての諸問題点や、従来の経済政策論の主要な学説を検討するとともに、経済学体系における経済政策論の理論的位置を論究し、その果すべき課題を究明して、経済政策論の体系的な解明をおこなうように努めます。

講義の内容・授業スケジュール

年間の授業スケジュールとしては、大きく前期と後期とに大別して、前期には主として、経済政策の方法論や政策理論について論究し、後期には、資本主義発展と関連した経済政策の史的展開過程と、その特質について論述する予定です。

履修上の留意点

講義の重要箇所や問題点など主要な内容については、出来るかぎり板書して詳説する予定です。受講される諸君は出席してノートされるように希望します。

成績評価の方法

学年末試験が中心になるのは当然ですが、出席も重視します。

教 科 書

開講時に指示します。

参 考 書 等

清水・松原編『経済政策論を学ぶ』〔新版〕(有斐閣)
なお講義に関連する文献は、その都度紹介するようにします。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 営 統 計	ちよう 長 こつ 国 きよう 強	経営2・3・4選	4

講義のねらい

統計と企業経営の関わりについてを展開する経営統計とは、分析目的に対応して主に経営情報としてのデータを収集・処理・分析し、複雑な現象を理解すると共に、データを生成した集団や構造についてを予測し、いろいろな意志決定をサポートすることである。経営的意志決定において最も重要なことは、将来の経営状況をどう見るかであり、その予測に対して経営統計は十分な役割を果たされるはずである。

この講義では、企業経営における統計データの具体例を数多く取り入れることによって、経営統計の手法をわかりやすく説明していく。また、数学苦手の学生を配慮し、講義の内容説明は微積分などの計算をいっさい用いず、数式の使用も必要最小限に止める。

講義の内容・授業スケジュール

予定している講義内容は以下の通りである。

経営統計について：	経営統計の役割、基礎概念	1回
統計特性値：	平均、分散、正規分布	2回
市場調査と統計整理：	調査の諸段階、標本設計、データ整理	6回
統計推測：	標本分布、区間推定、仮説検定	2回
前期復習と中間試験：	(7月中旬)	2回
経営時系列：	季節指数、時系列予測	4回
経営指数：	物価指数、数量指数	2回
分散・回帰分析：	一元配置法、相関係数、最小2乗法	3回
統計的意志決定理論：	意思決定基準、期待効用理論	2回
後期復習と定期試験：	(翌年1月中旬)	2回

履修上の留意点

年間6回程度の演習問題を適時に配布し、それを独自かつ理解的に解ければ、中間試験や定期試験に心配する必要はない。

成績評価の方法

講義への出席状況と中間・定期試験の結果により総合的に判断する。

教科書

特に使用しないが、プリントは適時に配布する。

参考書等

西田俊夫・田畑吉雄共著『経済・経営の統計学』（培風館）1992
守口栄一・竹田仁共著『経営数学：経営統計とその応用』（日本理工出版社）1992

その他

統計学、あるいは統計原論を先にまたは同時に履修することが望ましい。

科目名	担当者名	配当学科	単位
統計原論	やまの 山 うち しん 内 慎 じ 二	経営2・3・4選	4

講義のねらい

大雑把に言えば、統計学は「確率と分布」の性質を用いたデータ処理を通して、「母集団」及び「標本」という2つの親子関係の言葉を繋げて、知識や技術を議論する学問である。

本講義では、最初に簡潔に確率論の基礎を紹介し、次にデータ処理によって母集団と標本の間を捉え、最後に統計的推測として推定と検定等を丁寧に説明する。本講義では、実用性を重視し、統計的方法や概念を豊富な例題や数値例によって説明し、数式の使用も必要最小限に止めていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

講義内容は以下の通りです。

序説	生活のなかの統計学、量的データと質的データ	1回
基礎的概念	階乗と総和、順列と組合せ	2回
記述統計	度数分布表、平均と分散、相関係数	3回
確率論の基礎	集合、標本空間、確率、2項分布、正規分布	6回
前期復習と中間試験（7月中旬）		2回
標本分布	χ^2 分布、 t 分布、 F 分布	2回
統計的推定	点推定（不偏推定、モーメント法、最尤法）	4回
仮説検定	片側と両側検定、有意水準、棄却域、適合度検定	4回
回帰と相関	線形回帰モデル、相関係数の標本分布	2回
後期復習と定期試験（翌年1月中旬）		2回

履修上の留意点

年間数回程度の練習問題を適時に配布します。これを本講義内容の基礎的部分をもとに、独自に解ければ、中間試験と定期試験はまず大丈夫でしょう。

成績評価の方法

講義への出席状況及び中間試験と定期試験の結果により総合的に判断します。

教科書

佐和隆光著『初等統計解析 改訂版』（新曜社）1997 1,500円（税別）

参考書等

数値表としての参考書：
森口繁一編『新編 日科技連数値表』（日科技連出版社）1996 510円（税別）

その他

授業の方法－講義（OHPを使用する場合があります。）

科目名	担当者名	配当学科	単位
公益企業論	その だ てつ お 園 田 哲 男	経営2・3・4選	4

講義のねらい

公益企業論の主要内容は、企業規制に関連する諸問題であり、とくに一般的企業規制と区別された意味における公益企業規制である。つまり、公益企業は、料金およびサービスに関し、規制をうけている問題であり、また、公益企業概念が、本来、制度的色彩の濃いものである。本講では、今日、企業の社会的責任の問題が論じられ、国民福祉という観点から、企業のあり方が問われ、政策事項として企業規制が問題とされている中で、公益企業の規制とは何か、また、公益企業の特質とは一体どのようなものかについて理解を深めることにある。

講義の内容・授業スケジュール

講義のすすめ方としては、前期に、公益企業概念の発達と、その問題点、および公益企業概念の再検討を行う。後期は、公益企業における持株会社の形成（前期と後期）および評価について考察し、その上で公益企業の特質について理解させる。

履修上の留意点

学問は、単に知識だけを増殖するのではなく、適切な判断と意思決定を行なうための基礎となるものと考えている。本当に学ぶ意思のある学生だけが履修してくれることを望む。

成績評価の方法

成績評価は、單元ごとに小テストやレポートをし、総合評価とするが、大学卒業レベルの知識と問題解決能力を養う努力をしない者は厳しい評価を行なうつもりである。

教科書・参考書等

授業中に指示する。また参考文献などを挙げ、できるだけ広範な考察を行なうつもりである。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
上 級 簿 記	あ べ 一 人 かす ひと	経営2・3・4選	4

講義のねらい

“簿記を無味乾燥であるとエスケープしないでくれたまえ” となえすぐれた設計プランが立案されていても、大工さんが実際に鋸（のこぎり）や鉋（かんな）や金槌（かなずち）などを使って建物を完成させるように、事務的・機械的・技術的な簿記の作業を通じて作成された資料なしに、経営者は企業を効果的に運営することができないし、ましてや投資家や債権者のような人達が適切な判断と意志決定を行うことができないことを理解されたい。

本講義では、一年次に簿記学を履修した者およびそれと同等の人達（日商簿記検定3級程度の知識を有している者）を前提に、より高度な簿記の知識と応用的な技術を習得することにある。

- (1) 簿記の意義と目的
- (2) 勘定科目の設定と分類
- (3) 現金・預金の勘定処理
- (4) 手形の勘定処理
- (5) 有価証券の勘定処理
- (6) 外貨と外貨建金銭債権の勘定処理
- (7) 商品の勘定処理
- (8) 固定資産の勘定処理
- (9) 繰延資産の勘定処理
- (10) 負債の勘定処理
- (11) 資本の勘定処理
- (12) 決算
- (13) 財務諸表
- (14) 本支店会計
- (15) 連結会計
- (16) 帳簿組織
- (17) 伝票会計

履修上の留意点

一年次の「簿記学」で学習した知識を前提に講義を行うので、履修済みもしくは日商簿記3級程度の知識を有していることが好ましい。

成績評価の方法

評価の方法は、前期と後期の定期試験、練習問題の解答結果および出席状況を考慮して、総合的に判定する。なお、第一回目の講義において、本講義の内容とその進め方、試験の方法および評価方法の詳細について説明するので、受講者は必ず出席のこと。

教 科 書

藤永弘・坂下紀彦編著『精鋭企業簿記』（中央経済社）3,500円
 なお、プリント（練習問題）を逐次配布する。

参 考 書 等

講義において適宜指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
経営情報論	たか 井 てつ お 高 井 徹 雄	経営2・3・4選	4

講義のねらい

経営スタッフの役割は、意思決定を支援すること、すなわち、意思決定者が適切な意思決定を行えるよう、決定の指針となる情報を提供することに外ならない。

本講義では、将来、企業や官庁における経営スタッフを目指す諸君のために、経営情報に関する体系的な観点と、情報利用技術の基礎について解説する。

講義の内容・
授業スケジュール

I. 経営情報とシステムの観点（前期）

(1) 科学とシステムの観点（4月～5月：4週）

情報学のバックグラウンドにある考え方や知識について整理する。科学の方法と体系的なものの方、それに基づく問題へのアプローチとはどのようなものかについて理解を深める。

(2) 情報学の基礎と周辺領域（5月～6月：5週）

情報処理技術に関わる基礎的な勉強をする。主としてコンピュータベースのシステムによる情報の取り扱いに関し、知っておくべき基礎的事項について整理する。

(3) 情報環境の発展と経営における利用（6月～7月：5週）

経営の場における意思決定と情報利用技術の関わりについて学ぶ。企業における情報利用の形態の変遷を概観する。また、インターネットと同様な環境をベースとした、イントラネット・エクストラネットに触れ、現在から近未来における戦略的な情報の利用とはどうあるべきかについて考察する。

II. 情報の利用技術（後期）

(1) 多変量データ解析（9月～10月：7週）

調査収集された生のデータは、そのままでは情報としての価値はない。データを加工・分析し、それが表す意味を解釈することで初めて意思決定のための情報が得られる。ここでは、定量的データを分析するための、重回帰分析、主成分分析、判別分析法を、またアンケート調査などで得られる定性的データを分析するための数量化I、III、II類法について、その原理と適用方法を学ぶ。

(2) シミュレーション（11月～12月：4週）

複雑な対象の動的な特徴を分析するための有力な方法としてシミュレーション技法がある。ここでは、モンテカルロ法など乱数を用いる基礎的方法に触れた後、離散系シミュレーションモデルの構築方法を学ぶ。

(3) DSSとES（12月～1月：3週）

人工知能の原理と、その経営の場での応用として期待されるDSS（意思決定支援システム）、ES（専門家システム）の概要について学ぶ。

※なお受講人数が収容可能であれば、適宜（前期3、後期5回程度）、情報教育センターのコンピューター室を利用して実習形式で授業を行う。

成績評価の方法

前期、後期末に実施する筆記試験に基づき評価する。
その他、出席状況と実習授業時の課題も評価に反映する。

教科書

開講時に指定する。

その他

情報処理基礎、統計原論を先にまたは同時に履修しておくことが望ましい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 営 科 学	お ざ わ と し ひ さ 小 沢 利 久	経営2・3・4選	4

講義のねらい

経営科学 (Management Science) とは、経営活動において生じる様々な意志決定を科学的に支援する方法論について考える学問であり、数学モデルを用いて問題を解決しようとする点に特徴がある。本講義では、経営科学的な問題のとらえ方と問題解決のための代表的な手法について学んでいく。

 講義の内容・
授業スケジュール

大きく分けて次の二つの内容を扱う。一つめは、最適化という概念と最適化のための手法である。例えば、与えられた資源 (原料、生産設備、労働力など) から生産計画を立てるという問題は、使用可能な資源の量に関する制約条件の下で利益を最大化するという数学的な問題として表すことができる。この例において最適化とは、与えられた資源を利益が最大となるように各製品の製造へ割り振ることを意味する。最適化のための代表的な手法として線形計画法、動的計画法、ネットワーク解析などがある。しかし、経営活動における意思決定の場面では、単一的な基準から最適化を図ることは必ずしも適切ではない。そのような場面では、得られる情報を多面的に分析していくことが重要となる。その為の考え方を提供しているのが意思決定の理論である。

二つめは、確率的に変動する現象をモデル化し、分析するための方法である。例えば、スーパーのレジに行列ができる理由を考えてみる。閉店までには全ての客が精算を済ませて帰っていくことから、もし、客が適当な等間隔で到着すればだれも待たずに済むはずである。よって、単位時間当たりに到着する客の数が増えたり減ったりと時間的に変動することが、行列を生む原因であると言える。このように時間とともに不規則に変動する現象を理解し分析する方法として、待ち行列理論、在庫管理など、また、関連してオプションの価格付け理論などがある。オプションの価格付け理論では、株式を原資産として構成されたオプション (金融証券) に価格をどう付けるかという問題を扱うが、そこでは株価の時間的変動に対する理解が重要なポイントとなる。

以下に、講義項目一覧を示す。ただし、1年間の講義で全てを取りあげるのは時間的に無理であり、今年度は*の項目を優先することとする。

1. *線形計画法：問題の定式化、シンプレックス法、感度分析、双対定理
2. ネットワーク解析：最短経路問題、PERT/CPM
3. 動的計画法：最適性の原理、確定的多段階決定問題、確率的多段階決定問題
4. *意思決定の理論：不確実性の下での意思決定、情報の価値、階層的意決定法(AHP)、データ包絡分析法 (DEA)、ゲームの理論
5. 在庫管理：経済的在庫量、発注点法、定期発注法
6. *オプションの価格付け理論：コールオプション、裁定定理、幾何ブラウン運動、Black-Scholes の公式
7. *待ち行列理論：M/M/S 及び M/M/S/K モデル、簡単な待ち行列ネットワーク

履修上の留意点

経営科学の手法を理解するためには数学的モデルの取扱いに慣れる必要があり、若干の数学的知識 (高校の数学でいえば数Ⅰ、数Ⅱ、数A程度) を必要とする。これについては適宜講義の中で補っていく。教科書は講義内容を理解するための補助として指定するものであり、講義では教科書が全く触れていない内容も扱う。また、経営科学の手法は、毎回の講義を積み重ねて初めて理解できるものであり、途中が抜けるとその後を理解することは困難である。よって、毎回出席してきちんとノートをとること。手法についての理解を深めるために適宜演習を行う。

成績評価の方法

演習課題と試験 (前期末、後期末) により総合評価

教 科 書

田畑吉雄著『経営科学入門』(牧野書店) 2,900円

そ の 他

経営科学概論、統計原論を先にまたは同時に履修しておくことが望ましい。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
アメリカ経営学	みやぎ 城 徹	経営2・3・4選	4

講義のねらい

世界の経営学をリードしているのは、いうまでもなく、アメリカ経営学とドイツ経営学である。そして、日本の経営学の研究・教育は、第2次大戦前はドイツ経営学から、大戦後はアメリカ経営学から圧倒的な支配的影響を受けて発展してきた。ところが、特に1960年代以降になると、ドイツ経営学にもアメリカ経営学の影響が顕著に見られるようになった。

学生諸君は、必修科目である「経営学」の授業を通じて、無意識のうちに、アメリカとドイツの経営学にかんする基礎知識をある程度身につけていることを前提とした上で、経営学徒のメッカ、アメリカ経営学をその最先端の理論的・経験的研究の基本的成果を踏まえて全般的に講義するが、主として、下記の授業計画の7つの要目について検討する。その際、日本の企業との関連についても検討を加える。

講義の内容・
授業スケジュール

マイクと板書。教科書は指定しない。

この授業は1週1回90分で年間30週の時間数（ただし、期末試験日を入れて）から成る。最初の授業時間は、この科目を選択するか否かを判断するために下見に来ている学生諸君に、アメリカ経営学の1年間の授業の概要を説明する。原則として、下記の授業計画の要目をそれぞれカッコ内の授業回数（合計29回）で完結する予定である。

なお、この授業回数は一応の目安であり、授業時間が祝祭日に当る場合は授業の進展状況によって若干変更することがある。

<2001年度『アメリカ経営学』授業計画>

- I 1年間の授業の概要 (1)
- II 経営学の対象と方法 (2)
- III 意思決定と権力（パワー）(8)
- IV 戦略（特に提携、グループ、ファミリー）(4)
- V コンティンジェンシー理論 (4)
- VI 取引コスト理論 (6)
- VII プロパティ・ライツ理論 (2)
- VIII プリンシパル-エージェント理論 (2)

成績評価の方法

期末筆記試験。なお、学生諸君の理解度と教育効果を確かめるために、期末試験以外に、小試験をおこない、その結果を評価の対象に加味することがある。

<期末試験の出題形式>

複数の問題から1題選択して論述する。詳細は試験前の授業で説明する。

参 考 書 等

- 1 宮城徹『企業の政治理論序説』（税務経理協会）1997
- 2 宮城徹「企業制度とプロパティ・ライツ理論」『商学研究科紀要』（早大、第20号）1985
- 3 宮城徹「情報と企業経営の理論的諸問題」日本経営学会編『情報化の進展と企業経営』（千倉書房）1987
- 4 宮城徹「経営者論」鈴木英寿編『経営学総論』（第2版）（成文堂）1998
- 5 宮城徹「経営学の歴史」藤芳誠一編『新版・新時代の経営学』（学文社）1993
- 6 宮城徹「組織の経済理論の基礎構造」日本経営学会編『現代経営学の課題』（千倉書房）1997
- 7 宮城徹（単独訳書）『情報時代の企業管理の教科書——組織の経済理論の応用——』（税務経理協会）2000（A. Picot u. a., *Die grenzenlose Unternehmung*, Gabler, 1998）
- 8 宮城徹（共訳書）『新制度派経済学による組織入門』（白桃書房）1999（A. Picot u. a., *Organisation. Eine ökonomische Perspektive*, Schäffer-Poeschel, 1997）

ここでは紙幅の関係で上記の授業内容に直接関連のある私の著書・論文・訳書だけを参考文献の一部として掲げておいたが、その他の文献については適宜紹介しておく。

科目名	担当者名	配当学科	単位
経営分析論	かた ぎり のぶ お 片 桐 伸 夫	経営2・3・4選	4

講義のねらい

経営分析とは、文字どおり「企業の経営を分析すること」であり、かなり多方面にわたる内容をもっています。

皆さんが将来を託そうとする会社は、

- 1 財政的に安定しているだろうか（安定性分析）、
- 2 「儲け」はどうだろうか（収益性分析）、
- 3 経営活動の成果はきちんと配分されているだろうか（生産性分析）、
- 4 長期的な会社の「伸び」はどうだろうか（成長性分析）、また、
- 5 社会に対してどのように貢献しているだろうか（社会性分析）、

といった内容です。

講義の内容・
授業スケジュール

前期は、企業の毎期の経営活動を報告する「貸借対照表」や「損益計算書」などの「財務諸表」の読み方をまず説明し、安定性・収益性分析を学習します。

後期は生産性・成長性・社会性分析や、さらに、損益分岐点・利益増減その他の分析を取りあげます。

「各自が企業の経営を分析できるようになる」ため、授業で必要最小限の理論を学び、ただちに、新聞などの最新のトピックによって企業の現実にふれます。

履修上の留意点

この授業の目的は、「財務諸表分析」を中心に、各人が就職を希望する、あるいは興味を持っている会社の「分析」をしていただくことにあります。つたなくても、ささやかでも、その成果は皆さんの貴重な「財産」です。

成績評価の方法

成績評価はレポートと授業中のテストで行います。学年末試験は行いませんのでご注意ください。

*レポート・テーマ：前期「各自が関心を持っている企業の収益性・安定性分析」

：後期「各自が関心を持っている企業の成長性その他の分析（続）」

☆提出日（授業ははじめに配付するシラバスに明記）以外は受け付けませんのでご注意ください。

*テスト範囲：財務諸表数値を用いた経営比率の算出問題。

☆質問は授業以外にも研究室2307号室で随時受け付けますので、遠慮なくおいでください。

教科書

開講時、指示します。

参考書等

随時、紹介します。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日本経済論	は どり 羽 鳥 茂	経営2・3・4選	4

講義のねらい

多様な経済システム（日本の経済システムもその1つ）がどのようにして生まれ、また、それらはどのように進化していくのでしょうか。このことを考えてみたいと思います。

講義の内容・
授業スケジュール

情報・組織・契約のミクロ経済学と、それらの理論的基礎を提供するゲーム理論、およびゲーム理論のフロンティアの1つである進化ゲーム理論の新しい展開をふまえて、講義のねらいの目標にチャレンジします。

履修上の留意点

受講生としての一般常識を持っていることはいうまでもないですが、下記の参考文献を必要に応じて参照し、授業内容の理解を確かなものにするよう努力してください。

成績評価の方法

後期授業終了後、筆記試験で評価します。

教科書

青木昌彦、奥野正寛編著『経済システムの比較制度分析』（東京大学出版会）1996年 3,200円

参考書等

読みやすいと思われる順になっています。
 [A] 鶴光太郎『日本的市場経済システム』（講談社現代新書）1994年
 [B] ジョン・マクミラン、伊藤、林田訳『経営戦略のゲーム理論』（有斐閣）1995年
 [C] 中山幹夫『はじめてのゲーム理論』（有斐閣）1997年
 数学はつぎの2冊が適当だと思います。
 [D] 高橋渉『現代解析学入門』（近代科学社）1990年
 [E] 永谷裕昭『経済数学』（有斐閣）1998年

そ の 他

数学が必要なときにはできるだけ解説しますが、諸君達の努力は不可欠です。意欲ある皆さんの出席を期待しています。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
銀行経営論	はつ どり よし ひさ 服 部 昌 久	経営2・3・4選	4

講義のねらい

2001年3月を目標として、「フリー」「フェア」「グローバル」を基本理念とする金融制度改革構想（金融ビッグバン）が1996年11月に発表されたが、本年度から「ポスト・ビッグバン時代」が始まる。金融制度は一国の歴史的発展の産物であり、その国の繁栄を築くための社会的インフラである。社会が今日のように大きな変革期にあるときには、長期的な展望に立って変化を先取りして新たな制度を構築しなければならない。経営環境が大きく変化した中で、銀行は新たな道を求めて模索しているが、本講義においては、欧米主要銀行の動きにも注目しながら、利用者のニーズに応える銀行のあるべき姿を探りつつ、時事問題も含め、銀行経営にかかわる諸問題を、わかりやすく解説する。

講義の内容・授業スケジュール

講義はおおよそ次のような内容を予定している。

- ① 産業構造の変化と金融
- ② わが国の金融制度の沿革と特徴
- ③ 銀行の機能
- ④ 銀行の業務
- ⑤ 信用秩序の維持と諸規制
- ⑥ 欧米金融事情
- ⑦ これからの銀行経営のあり方

履修上の留意点

講義は基本的な事柄を取り上げ、わかりやすく解説するよう心がけるが、それでも不明な点があれば、質問を歓迎する。

成績評価の方法

学年末の定期試験（レポート試験）で評価するが、授業への出席状況をも加味して総合評価する。

教科書

使用しないが、適宜プリント資料を配布する。

参考書等

- ・日本銀行金融研究所『新版 わが国の金融制度』（ときわ総合サービス株式会社）1995年 2,621円
- ・田丸 務『新版 現代の銀行』（財経詳報社）1998年 2,500円
- ・福井和夫他『ネットワーク時代の銀行経営』（富士通経営研修所）1997年 2,500円
- ・ロバート・ライタン、ジョナサン・ロウチ 小西龍治訳『21世紀の金融業』（東洋経済新報社）1998年 2,000円
- ・高瀬恭介『新版 金融変革と銀行経営』（日本評論社）1999年 3,800円
- ・高木仁、高月昭年『入門日本の金融機関』（東海経済新報社）2000年 2,900円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
財 政 学	はや <small>はや</small> 速 <small>み</small> 水 <small>のぼる</small> 昇	経営2・3・4選	4

講義のねらい

私たちの日常生活は、そのほとんどの側面で直接・間接的に政府の経済活動の恩恵を受けている。たとえば、出掛けに傘を持っていくべきか否かは、適確な天気予報によって判断できるし、病気や怪我をしたときにかかる医療費は医療保険のおかげで実際に支払った額の数割程度ですむ。また、道路・港湾などの社会資本整備は公共部門が供給しているなど、政府はさまざまな役割を担っている。さらに金融不安、国債の累積残高、高齢化・少子化社会、規制緩和など政府が解決しなければならない問題が非常に多くある。

その反面、わが国の政府は、平成12年度末で国債の発行残高が約364兆円、地方公共団体の赤字が約187兆円、これに約28兆円の旧国鉄の債務や「隠れ借金」というわれる林野事業等の特別会計の借金などを加えると、財政赤字は実に約647兆円になる。この数字は12年度わが国のGDP見込みの129.6%に相当する。EU（ヨーロッパ連合）の基準だと健全な国家の財政赤字はGDPの60%とされているから、わが国の財政はいかに不健全な状態であるかが理解できる。最近の景気低迷、これから高齢化・少子化社会に向けて、納税者としての立場、あるいは日本国民としての立場から財政の問題を考えていくことが大切であるという認識に立って授業を行う。

成績評価の方法

試験、授業中の小テスト

教 科 書

速水昇著 要説『財政学』（学文社）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
国 際 経 済 論	<small>なが</small> 永 <small>た</small> 田 <small>とも</small> 智 <small>のり</small> 則	経営2・3・4選	4

講義のねらい

現在の国際経済は、各国経済の急速なグローバル化の進展ともなっており、ダイナミックに変動しています。その中で、各国経済は緊密な相互依存関係を構築することによって国際社会から大きな利益を得ています。同時に、相互依存関係の緊密化は、ややもすれば国際間に相互対立を生み出し、さまざまな国際経済現象を引き起こしています。どの国の経済も国際経済の動向と無縁であることはできませんし、逆にどの国の出来事も国際経済に影響を及ぼします。

本講義の目的は、現実に生じている国際経済現象の解明に役立つような基礎的理論を簡潔に提示することにあります。「なぜ貿易が行われるのか」から説き起こし、最近の東アジアの経済発展に大きな役割を演じている「直接投資」まで題材にして講義する予定です。

分析道具が習得できれば、それを利用することによって現実の国際経済現象を自ら解明できるようになるはずで

講義の内容・
授業スケジュール

本年度の講義内容は以下の6つのテーマを予定しています。

1. 国際分業論
2. 貿易政策
3. 経済成長と貿易
4. 国際マクロ経済学
5. 外国為替と国際収支
6. 資本の国際移動

履修上の留意点

授業中は他の受講生に迷惑が及ばないように、私語を謹み、携帯電話の電源を切るなど全員が授業に集中できるように心がけて下さい。授業内容で不明な点や疑問点があれば遠慮なく質問して下さい。

成績評価の方法

成績評価は、原則として学年末の定期試験で評価しますが、授業への出席も重視します。途中、検討課題を出すことも考えていますので、総合的な評価になることもあります。定期試験だけを受けて、要領よく単位をとりたいと考えている人は、受講を遠慮して下さい。

教 科 書

下記の書物と、授業中に配布するプリントを併用します。
清野一治他著『入門・国際経済学』（有斐閣）3,400円＋税

参 考 書 等

随時必要に応じて紹介します。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
会計監査論	飯岡透	経営2・3・4選	4

講義のねらい

会計監査の目的は、企業の作成した財務諸表が、その企業の財政状態や経営成績を適正に表示しているかどうかについて、監査人が意見を表明することであり、企業規模の拡大、利害関係者の多様化、企業活動の複雑化、一部企業における不正問題の発生などに伴い、近年、その役割はますます重要になってきている。そこで、この講義では、こうした会計監査の発展過程、制度、社会的役割などを中心に会計監査について受講者の理解を深めることを目的としている。

講義の内容・授業スケジュール

この講義での授業内容とスケジュールは、次のとおりである。

〔前期〕

- 4月 会計監査の目的と種類
 - (1)会計監査の目的
 - (2)会計監査の種類
 - (3)監査基準の必要性とその構造
- 5月 わが国監査制度の展開
 - (1)第2次世界大戦前におけるわが国監査制度の展開
 - (2)第2次世界大戦後におけるわが国監査制度の展開
監査人の要件と責任
 - (1)監査人の要件
 - (2)監査人の選任と解任
 - (3)監査人の職務権限と責任
- 6月 監査要点と監査手続の選択適用
 - (1)監査要点の意義と種類
 - (2)通常実施すべき監査手続とその内容
- 7月 監査証拠の種類と内容
 - (1)監査証拠の意義と分類
 - (2)十分な監査証拠と合理的な基礎

〔後期〕

- 9月 内部統制と監査リスク
 - (1)内部統制の構成要素
 - (2)内部統制の評価
 - (3)監査リスクと重要性
- 10月 監査計画と組織的監査
 - (1)監査契約と予備調査
 - (2)監査計画の目的とその設定
 - (3)組織的監査の重要性と審査機能の整備
 - (4)他の監査人の監査結果の利用
- 11月 監査調書の目的と種類
 - (1)監査調書の目的と作成要件
 - (2)監査調書の種類と保存
経営者確認書の意義と記載内容
 - (1)経営者確認書の意義と目的
 - (2)経営者確認書の記載内容
- 12月 監査報告書と監査概要書
 - (1)監査報告書の意義と機能
 - (2)監査報告書の種類
 - (3)短文武監査報告書の記載内容
 - (4)特記事項の記載内容
 - (5)監査概要書の目的と記載内容
- 1月 この講義の総括と年度末試験の説明

なお、以上のスケジュールは、学会出張や大学祭などにより変更することがある。

履修上の留意点

会計監査は、財務諸表の適正性についての意見表明を目的とするものであるから、会計学総論、財務会計論及び簿記論の講義を履修し、財務諸表について十分理解していることが望まれる。

成績評価の方法

成績は、レポート（30%）及び年度末のテスト（70%）の結果によって評価する。

教科書

飯岡・市村・島崎共著『会計監査概論』（中央経済社）
飯岡透著『中間財務情報制度論』（中央経済社）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
税 務 会 計 論	たか き かつ み 高 木 克 己	経営2・3・4選	4

講義のねらい

今日、租税は我々個人にとっては、所得税、相続税等の問題として、また、企業にとっては、法人税の問題が大きな関心事として存在している。ここ数年、法人税も税率の引き下げをはじめ、多くの改正が行われている。本講義では、普通法人（株式会社等）を前提とした法人税の算定過程を中心に講義を進めていく。

税務会計とは、一般に企業における課税所得の算定過程を研究する分野をいう。この課税所得は、商法あるいは企業会計原則等によって算出された利益にもとづいて算定される。そこでは、法人税法固有の規定（いわゆる別段の定め）が適用され、負担の公平、簡便性、あるいは政策的配慮等さまざまな考え方が反映されている。講義では、こうした税法固有の考え方の根拠、背景等を出来るだけやさしく説明しながら、今日、法人税法の抱えている問題点を明らかにしていきたいと考える。

 講義の内容・
授業スケジュール

講義内容の概要は次のとおりである。

1. 法人の種類及び課税所得の範囲等
2. 同族会社と青色申告
3. 課税所得の計算構造
 - (1) 企業利益と課税所得の関係
 - (2) 益金の額及び損金の額
 - (3) 公正処理基準及び資本等取引
4. 収益の計上基準についての原則的な考え方
 - (1) 引渡基準
 - (2) 特殊販売収益の計上基準
 - (3) 役務、請負、譲渡収益等の計上基準
5. 受取配当金益金不算入
6. リース取引
7. 給与（報酬、給料、賞与）の税務処理基準
8. 交際費及び寄付金
9. 有価証券、棚卸資産、固定資産、繰延資産等の税務処理
10. 圧縮記帳
11. 引当金と準備金
12. 企業を巡る国際課税の問題
 - (1) 移転価格税制
 - (2) タックス・ヘイブン対策税制
 - (3) 外国税額控除制度
13. 法人税額の計算

履修上の留意点

「簿記学」「会計学」等の基礎的な会計科目を修得した上で履修した方がより理解が深まると思われる。

成績評価の方法

原則として学年末の試験によって評価する。レポートは年1回程度提出を求める。

教 科 書

開講時に指示する。

参 考 書 等

開講時に指示する。

そ の 他

毎回出欠をとるかどうかは、初回の講義の中で受講生諸君と相談して決めたい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
証 券 市 場 論	佐 藤 昇 ^{のぼる}	経営2・3・4選	4

専 門 教 育 科 目

講義のねらい

資金の調達・運用手段として、有価証券の役割が近年ますます重要性を高め、間接金融を中心とする企業金融は大きく変貌しようとしている。講義では証券市場の機能、市場構成など基礎的な分野の現状解説に止めず、市場の歴史・現状・将来展望を検討し、市場変化の方向性や必然性を見極める事に留意する。

講義の内容・授業スケジュール

最初に証券市場で取り扱う対象である有価証券を定義するが、とくに近年における有価証券範囲の拡大傾向について注目したい。

つぎに、伝統的な有価証券である債券や株式の種類と機能、およびこれらの発行・流通市場の歴史と現状さらには将来像などについて講義する。また、債券と株式への投資を決定する際の尺度についても、計算方式と利用上の留意点を解説する。

1980年代後半にわが国の株式市場で発生した「バブル」とその崩壊は、現時点においても株式市場はもちろんわが国経済全般にわたって大きな傷痕を残しているが、バブルの歴史や発生・崩壊および後遺症伝播のメカニズムを検討する。

わが国は2001年までと期間を設定して、金融・証券市場全般の大改革「日本版ビッグバン」を実行しつつある。ビッグバン計画に盛り込まれた施策が完成した段階では市場の様相は大きく変貌する筈である。

一方、近年における金融・証券市場のグローバル化にともなって、地球規模でマネーの動きが極めて早くなっており、市場の変化は従来になく激しくなっている。

このように、内外共に激変が予想されるため、ことに証券市場に関連して重要な事態が発生した際には、その都度背景、影響などを解説する。

履修上の留意点

証券・金融市場関連のニュースに関心をもって欲しい。その上で疑問点や不明な用語があれば積極的に質問をしてもらいたい。

成績評価の方法

原則として学年末の定期試験によって評価する。

教 科 書

佐藤 昇ほか著『入門現代の証券市場』（東洋経済新報社）3,100円

参 考 書 等

佐藤 昇ほか著『現代経済と証券市場』（有斐閣）2,266円

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日本経営史	おおしま ひさゆき 大島久幸	経営2・3・4選	4

講義のねらい

本講義では、日本の経済発展との関連で、財閥を取り上げる。三井、三菱、住友などの財閥が、近代日本において、経済発展を担う中心的存在であったという事実に着目して、それら財閥が、どのようなプロセスで誕生し、日本の経済発展とともにどのように成長していったのかという点を考察し、そこから日本経済の発展の特徴や日本企業の歴史的な起源を考えてみたい。

講義の内容・
授業スケジュール

講義では以下の内容を取り上げる。1. 政商の誕生 2. 政商の資金源 3. 政商からの脱皮 4. 家政改革と家憲 5. コンツェルンと持株会社 6. 専門経営者の登場 7. 商社ブームと破綻 8. 鈴木商店の挫折 9. 三大財閥の覇権 10. 恐慌とドル買い 11. 財閥の転向 12. 戦時体制と財閥 13. 財閥解体 14. 企業集団と財閥

成績評価の方法

前期レポートと定期試験で総合的に評価する。

教科書

武田晴人『財閥の時代』（新曜社）1996年。

参考書等

講義の中で適宜指定する。また必要に応じて教材を配布する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
国際金融論	さいとう ひさひこ 齊藤 壽彦	経営2・3・4選	4

講義のねらい

外国為替、国際通貨、国際銀行業の理論と歴史と現状を中心として国際金融を講義する。金融面に重点を置きつつ、できるだけわかりやすく講義し、時事問題にも言及する。

講義の内容・
授業スケジュール

前 期 前期は外国為替および国際金融市場について説明する。
4月：外国為替の仕組
5月：外国為替相場論
6月：外国為替銀行論
7月：国際金融市場論

後 期 後期は国際通貨と日本の金融の国際化を明らかにする。
9月：国際通貨の理論
10月：IMF体制の成立、IMFの制度と機能と現実、旧IMF体制の崩壊
11月：変動為替相場制、SDR、ユーロダラー
12月：円の国際化、銀行の国際化、証券の国際化、東京の国際金融センター化
1月：日本企業の国際的資金調達、東アジアにおける日本の金融の国際化の進展

成績評価の方法

学年末の筆記試験を中心とする。前期末の授業時間中に行う小論文の作成と出席点を若干考慮して成績をつける。

教科書

授業時間中に指定する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
財務会計論	わた なべ え いち ろう 渡 邊 恵 一 郎	経営2・3・4選	4

講義のねらい

財務会計論は会計学の一分野であり、企業の経営成績と財政状態を明らかにするという基本的職能を取り扱っている。財務会計の目的は、企業経営に責任を負う経営者が、投資者、債権者その他企業に利害関係を持つ外部の人々に対して、適切な企業財務情報を提供することにある。この主たる提供手段が、損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書などの財務諸表である。

講義では、財務諸表を作成するための会計処理と表示方法を中心的課題とし、またこれに関するわが国の商法、税法などの会計法規も取り上げ、さらに国際会計基準との関連にも触れる。

講義の内容・授業スケジュール

講義の内容はおおむね下記の教科書により、この授業スケジュールは次のとおりである。

- ① 4～5月 財務会計の概念（財務会計の定義、課題、制度など）、財務会計の計算構造及び会計公準と会計原則（財務会計の前提、質的特徴及び一般原則など）
- ② 6～7月、9～10月 財務会計の測定論（収益、費用、資産、負債及び資本の各構成要素に関する会計処理の具体的展開など）
- ③ 11～1月 財務会計の伝達論（個別・中間・連結の各財務諸表の作成と表示、外貨換算、財務分析、国際会計基準の動向など）

履修上の留意点

毎時間の出席率と宿題提出（年1回）を重視する。

成績評価の方法

成績評価は、出席率、宿題提出及び定期試験点数の総合による。

教科書

染谷恭次郎著『現代財務会計』（中央経済社）

参考書等

日本公認会計士協会編『監査小六法』（中央経済社）

その他

(1)授業の方法は、講義による。(2)簿記学・会計学の単位を修得していること。

科目名	担当者名	配当学科	単位
経営戦略論	なかむらこういち 中村公一	経営2・3・4選	4

講義のねらい

経営戦略論は、現実の企業経営と密接に関連している実践的要素の強い科目である。従って、学生が企業に就職した時に、その企業が属する業界がどのように動いており、それに対応して企業が採っている戦略を理解することは、自分達の仕事の意義を考える上で有効なことである。さらに、就職活動の時にも、希望する企業の動向を把握することは重要な選択要因の一つとなるだろう。本講義では、企業の置かれている環境とそれに対する経営戦略を理解し、実践的な場面でも応用できる知識と考え方を提供することを目標にする。

そこで、新聞やビジネス誌などをリソースとして、実際の企業の経営戦略をケースとして取り上げる。そして、なぜこの企業はこの戦略を採るのか、その戦略によってどのような効果が期待されるのか、ということに関して、古典から最先端の理論を使って解釈することを焦点に講義を進める。

 講義の内容・
授業スケジュール

講義のテーマは企業の成長戦略と競争戦略の分析にある。これは経営戦略論の中心的概念でもあり、企業が存続し発展していくには成長が必要であり、そのためには他企業との競争が避けられないからである。講義内容は一回の講義で一つのトピックの理解に努める。

- I 経営戦略の基本課題；経営戦略とは何か、経営戦略論の展開（学説的系譜）、現代企業の経営戦略、外部環境分析、内部資源分析、戦略の策定と実行、組織変革との関係
- II 経営戦略と企業の成長；企業の成長とは何か、内部成長戦略（研究開発・製品開発戦略、社内ベンチャー）、外部成長戦略（M&A・アライアンス）、グローバル戦略、地域企業の戦略
- III 経営戦略と企業の競争；企業の競争とは何か、競争優位、価値連鎖、コア・コンピタンス、イノベーション、業界標準・規格標準
- IV 経営戦略とステークホルダー；各種利害関係者との関係、企業の社会的責任
- V 経営戦略と情報化；情報技術との関係、ナレッジマネジメント

履修上の留意点

経営戦略論は実際の企業活動と密接に関連しているために、日頃から新聞や雑誌などで関連する記事にはできる限り目を通すことが望まれる。方法等については授業で指摘する。

成績評価の方法

授業中に数回行うレポート（小テスト、感想文など）と年度末の定期試験によって判定する。

教科書

特に指定しない。基本図書や参考文献等などは授業中にその都度指摘する。

参考書等

- ・経営戦略論の全般的な内容を理解するには、大滝精一他『経営戦略』（有斐閣）1,900円
- ・企業の事例における経営戦略を具体的に理解するには、東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学』（有斐閣）2,500円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
商 業 史	やま だ まさる 山 田 勝	経営2・3・4選	4

専
門
教
育
科
目

講義のねらい

商業経営の歴史的発展の過程を、文化との関係に留意しながら講義する。

講義の内容・
授業スケジュール

講義内容の主なテーマは次のとおりである。

- | | |
|-----------------|---------------|
| (1) 商業史の視点 | (6) 継続性 |
| (2) 歴史研究とパラダイム論 | (7) 流通量 |
| (3) 利 潤 | (8) 大衆消費社会の特質 |
| (4) 商 品 | (9) 価格革命 |
| (5) 市 場 | (10) 情報社会と商業 |

履修上の留意点

講義を聴くことのみが学習の方法ではないが、講義は各自の学習の導きとしては有益であると思う。出席はとらないが、聴講に努めて欲しい。質問は歓迎する。
教場での私語は他人の迷惑となるので厳禁とする。必要があれば教場から出て話すこと。

成績評価の方法

成績評価は定期試験による。

教 科 書

山田勝著『現代商業の歴史と展開』（創成社）2,850円

科目名	担当者名	配当学科	単位
国際経営論	茂垣広志	経営2・3・4選	4

講義のねらい

国際経営論とは、「国境を越えて事業展開しているその各拠点の諸活動をどのようにマネジメントするのか？」という課題に取り組んでいる経営学の一領域である。したがって、既存のドメスティックな経営理論を基礎として、各事業拠点を高度に海外に分散化した多国籍企業（MNC）特有の問題を扱っている。本講義のねらいとしては、経営戦略論、マネジメント論、組織論等をベースとして、比較経営論ないし異文化経営論の視点を加味して、多国籍企業の戦略行動とマネジメントを考える際の基本的フレームワークについて、種々の理論（アプローチ）、データ、ケースを援用し考察していきたい。つまり、企業の国際化、多国籍化にまつわる諸現象を企業経営の視点から多面的に捉え、検討することを通じて、国際経営に関する理解を深めることを目的としている。

講義の内容・授業スケジュール

海外に拠点を高度に分散化している MNC にとっての大きな課題は、それら拠点の現地化（適応性）の要請とグローバルな統合化（効率性）の要請のバランスないしその同時達成である。日本企業の場合、急速な海外展開と日本のマネジメントの特徴から、アメリカ系および欧州系 MNC と異なる様相を示している。その日系 MNC の戦略及びマネジメント上の特徴を理論、欧米系 MNC との比較、ケースを通じて理解し、課題ないし問題点について理解を深められる授業内容と構成を予定している。より具体的には、以下のような内容を予定している。

- I. 国際経営のフレームワーク（隣接領域との異同と関連性）
- II. 企業の多国籍化を説明する諸理論の検討（IPLC 仮説、寡占反応仮説、差別化優位仮説、内部化優位仮説、経営資源優位仮説、折衷仮説、経営資源移動仮説等）
- III. 国際経営／企業多国籍化の発展段階モデル（ロビンソン・モデル、小林モデル、マッキンゼー・モデル、アンゾフ・モデル、EPRG モデル等）
- IV. 国際競争戦略（国際戦略の基本パターンないしタイプ）
 1. 国際競争優位性（規模の経済・範囲の経済・連結の経済、比較優位・国家特殊優位性）
 2. 国際競争戦略の類型（ポーター・モデル、ドズ＝ブラハラード・モデル、パートレット＝ゴシヤール・モデル等）
 3. 国際戦略提携
- V. 国際戦略と組織構造
 1. マクロ構造（国際事業部制、世界的地域別構造、世界的製品別構造、世界的マトリックス構造）
 2. ミクロ構造および内部ネットワーク（トランスナショナル・モデル、ヘテラルキー・モデル）
- VI. 日本企業の国際化と人的資源管理
 1. 欧州系 MNC とアメリカ系 MNC の戦略及びマネジメント上の特徴（経営伝統と現状）
 2. 日系多国籍企業の海外子会社マネジメントの特徴（その必要性と問題点、進出地域別特徴）
 3. 異文化マネジメントと海外派遣社員の選抜、教育、給与問題
- VII. 国際マーケティング戦略（海外市場参入、グローバル・マーケティング・ミクス、製品ポジショニングとグローバル市場細分化戦略等）

以上が講義内容の要目であるが、講義では単なる理論の紹介のみならず、各種調査データや具体的な企業のケースを通じて理解を深めていきたい。

成績評価の方法

成績は、期末試験の結果による。

教科書

茂垣広志『グローバル戦略経営』（学文社）2,800円

参考書等

茂垣広志・池田芳彦『国際経営論』（学文社）2,800円

その他

プロジェクターを用いて授業を進める。また、必要に応じて資料を配布する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
情報理論	にしむらかずお夫 西村和夫	経営2・3・4選	4

講義のねらい

近年では日常的に使われる言葉となっている“情報”の本質を探ります。主に、情報の量（情報量）を定義したシャノン（C. E. Shannon）流の情報理論について講義します。
 この授業を受講すれば、ある通報や記号のもっている情報量を、具体的な数値として（シャノンという単位で）計算できるようになります。これによって、たとえばDNAの情報をフロッピーディスクに記録するために十分な枚数が、たちどころに計算できるようになります。
 また、情報量の期待値（平均値）であるエントロピーという概念も理解できます。これは、経営情報論、符号理論、通信理論、暗号理論などで利用される重要な概念です。

講義の内容・授業スケジュール

月	回数	内 容
4	3	授業内容概説、情報とは、情報量への要求
5	3	対数の原理と性質、計算練習
6	4	情報量の定義、練習、情報量の利用
7	3	暗号系と用語、古典的な暗号
9	2	現代的な暗号、暗号技術を使ってできること
10	2	符号化（JISコード、万国共通文字符号）、対数・情報量の間中間試験
10	2	確率過程およびマルコフ過程
11	2	遷移確率と同時確率
11	1	エントロピーの定義
12	2	冗長度、言語のエントロピー
12	1	価格以外の情報がない場合の市場占有率予測
1	1	チェック桁、情報の圧縮と乱数、デジタルとアナログ

履修上の留意点

4年生が履修するのは困難です。2～3年生のうちに履修しておくように強く奨めます。また、毎回出席して計算練習に参加していないと、試験問題を解くことは無理でしょう。
 内容の性質上、確率と対数に関する多少の数学的知識が必要になりますが、これらについて全く知らなくても理解できるように配慮しています（上表5月参照）。

成績評価の方法

10月の中間試験（30％）と定期試験（70％）との合計点によります。

教科書

クイズと計算練習を適宜とりいれます。また、プロジェクタとプリントを使います。適当な教科書はありません。

参考書等

そのつど紹介します。

その他

〔関連科目〕→ 経営情報論

科目名	担当者名	配当学科	単位
生産管理論	ふじ 藤 原 わら あつ し 篤 志	経営2・3・4選	4

講義のねらい

本講義では財務管理、販売管理、労務管理とならぶ現代企業における経営管理の部門管理の1つである生産管理について、また生産システムや生産領域での諸問題について講義を行う。生産管理は文字通り、企業の経営活動における生産の管理であり、財の生産に投入する生産諸要素(資材、設備、労働力)を総合的に調整することにより、企業の生産効率を最大にすることを目的とし展開されている。しかも資本主義社会において企業は利潤の獲得を目的としてその活動を行うので、全般的な管理における利益計画に基づいて生産の管理が展開される。本講義では、このような視点で体系的に生産管理について解説したい。さらに企業内の狭義の生産管理の問題にとどまらず、サプライヤーとの関係をも含んだ生産システムや、広範に生産領域上の諸問題についても解説することを予定している。最後に、企業における生産活動は言うまでもなく労働者による労働と密接に関連している。企業において展開される生産管理や生産システムが労働に及ぼす影響もまた本講義での考察の対象となっている。

講義の内容・授業スケジュール

前期では、生産管理について全般的体系的に解説する。まず最初に生産に関する基本的用語を確認した後、企業経営における生産管理の位置付けについて、次に企業の全般的な管理と生産管理との関連、すなわち利益計画と生産管理との関連について解説する。その後、生産管理の構成とその内容、具体的には生産計画、設備管理、資材管理、作業研究、工程管理、品質管理、原価管理について具体的な資料を用いながら解説する。

後期では、生産システムの歴史的な展開として、テイラー・システム(科学的管理法)、フォード・システム、トヨタ生産システムについて解説したい。その他、オートメーション、TQC、日本の生産システムとその海外移転等について述べる予定である。

履修上の留意点

講義ではできるだけわかりやすくゆっくりと解説し、かつ極力板書するが、前期の内容は少々複雑なものも含むので、講義に対する受講者の熱心な姿勢が不可欠である。そのため講義中の私語は厳禁である。私語や携帯電話の呼出音等、講義を妨げる者は即座に退室扱いになるので注意すること。

成績評価の方法

主として定期試験で行う。

教科書

指定しない。

参考書等

山下高之『体系 生産管理論』(中央経済社)1990年
その他の参考書は講義の中で指示します。

科目名	担当者名	配当学科	単位
ドイツ経営学	たか 高 橋 成 夫	経営2・3・4選	4

講義のねらい

ドイツ経営学の性格や内容を、この学問の歴史の中で明らかにするとともに、現代のドイツの企業経営制度の特徴を解明することにある。

講義の内容・授業スケジュール

- I. ドイツ経営学の生成
- II. ドイツ経営学の展開
 - (1) 科学的私経済学と技術論的私経済学
 - (2) 私経済学的企業経済学と規範的・技術的経営経済学
 - (3) 理論科学的経営経済学と応用科学的経営経済学
- III. ドイツ経営学の現状
 - (1) 意思決定志向的経営経済学
 - (2) システム志向的経営経済学
 - (3) 労働志向的経営経済学
- IV. ドイツの企業経営制度

履修上の留意点

積極的に出席することが望ましい。

成績評価の方法

定期試験や出席状況等を総合して評価する。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書等

北野利信編『経営学説入門』（有斐閣新書）
北村健之助『経営経済学』（学文社）

科目名	担当者名	配当学科	単位
システム論	あお 青 木 武 典	経営2・3・4選	4

講義のねらい

経営学、経営科学、システム科学、コンピュータ・サイエンスやこれらの関連領域で用いられるシステムに関連する主要な概念やモデルについて修得する。また、いくつかのモデルについて簡単な例題をとおしてシステムに対する理解を深める。

講義の内容・授業スケジュール

0. オリエンテーション（本講義の概要説明）
1. 情報とシステム
2. 意思決定とシステム
3. 企業とシステム
4. ネットワーク社会とシステム
（前期は1、2、後期は3、4を講義する。）

履修上の留意点

特定の領域について事前の知識は要求しないが、いくつかの数学的モデルについては、高校の数学Ⅰ程度の学力が必要である。また、授業では直接コンピュータを使用することはないが、エクセルなどの表計算ソフトが使えることが望ましい。

成績評価の方法

学年末試験の成績を60%、学期中に出題するレポート（4回程度）を40%程度の割合で総合的に評価する。（通常の授業時に出席はとらない。）

教科書

斉藤雄志ほか『インターネット時代の情報管理理論』（共立出版）

参考書等

高原康彦・中野文平編『経営システム』（日刊工業新聞社）
高原康彦・高津信三編『経営情報システム』（日刊工業新聞社）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
民 法 II (債 権 法)	うえ い たけ ひさ 上 井 長 久	経営3・4選	4

講義のねらい

本講義は、他人に対して、或る物を交付させること、または、或ることを為すことを要求する権利、すなわち債権についての実体的権利関係を総合的に考察するが、それを通して、債権をめぐる問題に対して精通するとともに、柔軟に解決できるように導くことを目標とする。そのように人が人に対して或る事柄を要求することを正当と認め、その請求の実現が当事者間ではかることが出来ない場合に、当事者の一方の訴えに基づき他方の責任を追求するために裁判所が力を貸す関係が債権関係である。そのような人と人の関係は、封建的な身分関係から生じるのではなく、周知のように近現代では多くは契約関係から生じる。その他に、契約関係がなくとも相互扶助、公平、損害補填等の要請に基づく事務管理、不当利得、不法行為などからも債権関係が生じる。

債権法は、その全てについて言えることではないが、合意優先ないし契約自由の原則の及ぶ領域においては、その規定が任意法規性のゆえに日常の経済生活では往々にして、合意により債権法規と異なる生活規範が設定され、また、それが許される法の範疇である。この範疇においては、日常生活の一定の基準たる債権法規の解釈と、その法規を排除した、より有益な準則を設定した生活関係の両方を理解することが必要である。

講義の内容・授業スケジュール

この講義は、債権総論と債権各論を講義の対象とする。まず債権法全体の仕組み、内容をひとつと説明したうえで、債権一般の通則たる債権総論、次いで債権発生の原因にあたる契約、事務管理、不当利得、不法行為などの債権各論について逐条的かつ重点的に解明する。講義の内容および進行は、具体的には、以下の予定である。

- ① 債権の意義・性質・社会的機能、債権法の法源、債権法の特質・体系（前期）（第1回）
- ② 債権の目的・内容（第2回）
- ③ 債権の効力 — 債務と責任、履行強制（第3回）
- ④ 債務不履行責任（第4、5回）
- ⑤ 債権の対外的効力 — 債権者代位権、（第6回）
- ⑥ 許害行為取消権（債権者取消権）（第7回）
- ⑦ 多数当事者の債権関係 — 債権の共有・合有・総有、分割・不可分債権、（第8回）
- ⑧ 連帯債務、保証債務（第9、10回）
- ⑨ 債権の譲渡、債務の引受（第11回）
- ⑩ 債権の消滅（第12、13回）
- ⑪ 契約総則 — 債権発生原因、契約自由の原則、契約の種類（後期）（第14回）
- ⑫ 契約の成立（第15回）
- ⑬ 契約の効力 — 同時履行の抗弁権、（第16回）
- ⑭ 危険負担、（第17回）
- ⑮ 第三者のためにする契約、（第18回）
- ⑯ 契約の解除（第19回）
- ⑰ 贈与、売買、交換（第20回）
- ⑱ 消費貸借、使用貸借、質貸借（第21回）
- ⑲ 雇傭、請負、委任等の契約（第22回）
- ⑳ 事務管理、不当利得（第23回）
- ㉑ 不法行為（第24、25回）

履修上の留意点

債権法は、民法学の一分野であるから、必然的に民法の他の分野にも関連する。とくに債権を担保するための担保物権や民法全体の基本原則である民法総則などを扱う「民法I」も併せて履修することが望ましい。

成績評価の方法

学年末の定期試験で行う。

教科書

我妻栄・有泉亨共著水本浩補訂正『民法2債権法』（一粒社）および稲本洋之助・上井他共著『民法講義5契約』（有斐閣大学双書）

参考書等

遠藤・川井他編『民法(4)～(7)』（有斐閣双書）を推奨する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
商 法 II (商行為、手形・小切手法)	しま はら ひろ あき 島 原 宏 明	経営3・4選	4

専 門 教 育 科 目

講義のねらい

現代の経済社会における企業間の取引では、手形や小切手等の有価証券が数多く使用されている。中でも手形と小切手は典型的な有価証券であって、その流通に関する法規制の多くは商法上の他の有価証券にも及んでいる。したがってその体系の理解は有価証券全般を理解する上で不可欠なものである。また、手形や小切手は金銭債権と結びついた証券であるため、これに関する法体系は債権法の一部として把握され、民法の債権総論と密接な関係にある。

講義の内容・授業スケジュール

手形法は第一編為替手形と第二編約束手形の二編から成り立っており、為替手形についての規定の多くを約束手形に準用するという構成になっている。ただし、わが国においては為替手形がほとんど用いられていないという現実があり、また為替手形に比べて約束手形の方が仕組みが単純であるため、条文の順序とは一致しないが講義では約束手形を中心にして説明を行い、適宜為替手形、および為替手形と基本的な仕組みを同じくする小切手についての説明を付け加えていくという形をとる。

なお、企業活動に関わったことのない学生諸君には手形や小切手の世界は現実感が乏しく興味が起こりにくいいため、なるべく具体的な判例を示して解説をしていくつもりである。

成績評価の方法

期末試験による。

教 科 書

開講時に指示する。

参 考 書 等

開講時に指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
労 働 法	ふじもと しげる 藤 本 茂	経営3・4選	4

講義のねらい

今日、労働関係は、雇用調整・リストラ、あるいは、出向・転籍や年俸制の導入に見られるように大きく変貌を遂げようとしています。終身雇用や年功型賃金体系といった従来の日本的雇用慣行に見直しがなされています。現在は、激動期にあるといえましょう。労働法は、労働関係において生じる紛争を法的に解決する方法を検討する法領域です。この変動に無関係ではられません。労働法もまた、社会構造の変化とともに変わっていかざるをえません。

この激動期において、労働者個人に降りかかるさまざまな事象は、労働保護法領域において、顕著であるといえましょう。労働基準法の改正、裁量労働、労働時間の弾力的運用の拡大、有期雇用契約の期間の拡大、解雇制限といった分野で見られます。男女雇用機会均等法の改正、労働者派遣法や職業安定法の改正などもありました。

労働組合を中心に扱う集団的労働関係法領域では、労働条件決定に大きな役割を担っている組合について法的枠組みを概観します。

解釈においては、何が、変わるのかまた、このような中にあるにもかかわらず変わらなければならないものは何か。基本的な事項について、基礎的な知識を得ることは、重要なことであると思います。

講義の内容・
授業スケジュール

(1) 授業では、(2)にあるような事項について、基本的なことを中心に論じて、現代的課題に言及しようと思います。

(2) 内容、スケジュールについては、第1回目の授業のときに、配布するプリントで述べます。

ここでは、一応の項目を掲げるに止めます。

- ① 労働法の基礎的考え方
- ② 労働関係の主人公－労働者、使用者、労働組合
- ③ 労働条件の最低基準の法定－労働基準法の特徴
- ④ 雇用における平等－同一労働同一賃金、雇用機会均等法、セクシュアルハラスメント
- ⑤ 労働条件の決定－労働契約、就業規則、労働協約
- ⑥ 組合が自由に活動できる環境の整備－不当労働行為
- ⑦ 雇用の入り口－採用、採用内定、試用期間
- ⑧ 人事異動－配転、出向、転籍
- ⑨ 雇用の出口－解雇、定年、退職
- ⑩ 賃金、諸手当、退職金
- ⑪ 労働時間、時間外労働
- ⑫ 休憩、休日、休暇
- ⑬ 労働災害など

履修上の留意点

出席しましょう。また、積極的に質問をしてください。

成績評価の方法

平常点を加味することはありますが、学年末試験がメインです。追・再試験は実施します。

教 科 書

教科書は、指定しません。しかし、道しるべとしての参考書は用意してください。参考書として適当と思われる概説書をいくつか、第1回目の授業で、紹介します。これを参考にして受講者は必ず、1冊は用意してください。

そ の 他

皆さんが各々の事項について何が法的には論点になるのか、イメージを描きやすいように、裁判例など具体的な例を掲げながら、授業を進めます。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
ビ ジ ネ ス 英 語	<small>まち</small> 町 井 <small>やすし</small> 靖	経営3・4選	4

講義のねらい

「商品の輸出入に関する英文の手紙」を学習する。テキスト「ビジネス英語」に従って、取引先の発見からカタログの送付、オフア、見積り、交渉、注文、船積み、クレームなど、貿易取引の各段階で良く使用される表現を学ぶ。実際の輸出入業務では英文の手紙を書く必要があるため、英作文演習には力を入れたい。

講義の内容・授業スケジュール

テキストは貿易取引の各段階で良く使用される表現を英文解釈で学び、それらの重要表現を使用して英作文をするようになっていく。英作文は授業中に1題やり、数題が宿題となるが英文解釈、[研究]、[注]を良く読返して英作文を考え、それらの表現をしっかりと修得していただきたい。

貿易の専門的用語の理解も必要なので、テキストの付録「貿易用語集」により、定型取引条件、為替相場、複合運送、信用状、手形買取り、海上保険などを講義する。

履修上の留意点

全員授業に参加していただくので予習（英文解釈）、復習（英作文）が必要である。英作文は間違いを恐れず挑戦していただきたい。個人的に添削指導する。

成績評価の方法

前期、後期の試験成績と出席による。

教 科 書

町井 靖著『ビジネス英語』（創成社）1,600円（本体価格）

教 科 書

教室で指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
外 書 講 読（英 書）	<small>ちよう</small> 長 <small>こつ</small> 国 <small>きよう</small> 強	経営3・4選	4

講義の内容・授業スケジュール

最新の英字新聞（New York Times, Washington Post, Wall Street Journal）や有力週刊誌（Time, Newsweek, Business Week など）における経済・経営記事をゼミ形成で解説する。

履修上の留意点

全年度合計6回のレポート提出を求める。

成績評価の方法

平常点。レポートの成績：50%；授業への出席：50%。

教 科 書

使用しない。講義内容を必要に応じて配布する。

参 考 書 等

特に指定しない。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
外書講読（英書）	<small>なが</small> 長 <small>せ</small> 瀬 <small>かつ</small> 勝 <small>ひこ</small> 彦	経営3・4選	4

講義のねらい	英語と経営学の知識と思考力を培う。
講義の内容・授業スケジュール	アメリカの大学で使用されている初等的な英文の経営学のテキストを中心にしながら、折に触れて英文の雑誌記事を読んでいく。
履修上の留意点	受講者は、英語を学ぶのではなく、英語で経営学を学ぶという姿勢が求められる。また受講者は必ず毎回出席しなくてはならない。遅刻、私語等も厳禁である。また、レポートは手書きではなくワープロで作成すること。
成績評価の方法	基本的に毎週科せられるレポートと、随時おこなわれる小テストの総合得点による。定期試験はおこなわない。
教科書・参考書等	教科書、参考書は特に指定せず、プリントを配布する。
その他	ゼミ形式で運営する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
外書講読（英書）	<small>は</small> 羽 <small>とり</small> 鳥 <small>しげる</small> 茂	経営3・4選	4

講義のねらい	交渉ゲームの理論について学習します。前期はナッシュ交渉解、後期はルビンシュタイン・モデルが主たるテーマになります。
履修上の留意点	毎回予定範囲について全訳したものを提出してください。授業中は内容についての議論が中心となります。
成績評価の方法	平常点（出席と発表内容を中心とする）で成績評価をします。場合によっては筆記試験をすることもありますので留意してください。
教科書	開講時に指示します。
参考書等	開講時に指示します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
外 書 講 読 (独 書)	もも ずみ いさむ 百 濟 勇	経営 3・4 選	4

講義のねらい

ドイツで最も有名なシンクタンクの一つである「ベルリン・ドイツ経済研究所」で仕事をしていると、現代欧州論の中心的問題は、「単一通貨ユーロ」と「EU 東方拡大」である。具体的には《ユーロ安》に対応するための欧州中央銀行（フランクフルト）の役割と、EU 拡大への《深化》及び《拡大》で表現されている EU 機構改革を含めての対応である。この両者は、密接に関係しているが、早くて2003年、実際には2005年以降になるであろうが、第一陣としてのポーランド、ハンガリー及びチェコの EU 正式加盟が実現するかどうかの議論が盛んである。最近ドイツ連邦銀行（ドイツ国立銀行）総裁のエルンスト・ヴェルテケ氏が、「東欧諸国の早期の EU 正式加盟には反対」（Financial Times Deutschland, 28. Nov. 2000）との意見表明をして大きな問題となっている。ドイツ、フランスが進めてきた EU 拡大政策に、内部から反対の声が上がったのである。だが、二十一世紀へ向けての EU 統合、単一通貨ユーロ拡大という野心的な試みは、始まったばかりである。多くの紆余曲折があるのは当然である。

また、「ベルリン・ドイツ経済研究所」は、毎年多くの実習生を受け入れている。それはドイツの大学やフランスやイギリス、ロシアなど外国の大学の経済・経営専攻の学部学生及び大学院生である。そうしたドイツでの最先端の教育の現状をも、この「外書講読」の授業を通じて駒澤大学の経営学部の学生に知らせたい。それにベルリン・ドイツ経済研究所、キール世界経済研究所、ドイツ連邦経済省、ベルリン EU 代表部などを通じて入手している貴重な資料も、どしどしプリントで配布する。また、条件が許せば、現代欧州論を学ぶ際に必要な基本的文献入手のためのインターネットを使っての資料検索の方法も教えたい。現在、ドイツでは何が一番の研究対象になっているかを含めて、ヨーロッパの現状を探る。勿論ドイツ語の文献のみならず、英語、日本語の文献も使用する。

一年を通じての総合評価をする故に、前期、後期の試験は行わない。四月の新学期までに帰国する故に、参考資料などに関しては最初の授業の際に指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
外 書 講 読 (仏 書)	まえ だ のり かず 前 田 祝 一	経営 3・4 選	4

講義のねらい

カナダに住むフランス語を母語としている人たち、つまりフランス系カナダ人の、歴史・文化・現在の様子を、テキストの講読を通して学習します。

講義の内容・授業スケジュール

教室で配布するさまざまな資料について、まづ若干の講義をし、その後でみなさんに読解してもらいます。

履修上の留意点

初級フランス語の単位の取れていない人は、自分で参考書を求めてあらかじめ勉強する覚悟でいる人を除き、参加は遠慮してもらいます。

成績評価の方法

平常点のみで成績評価します。

教 科 書

テキストは教室で配布します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
外 書 講 読 (中 国 書)	しお 塩 旗 伸 一 郎	経 営 3 ・ 4 選	4

講義のねらい

21世紀、中国が如何にしてグローバル化の荒波の中、内外の難関を克服していくかは、今や世界の安定と繁栄を左右しかねない大命題である。わが国では「西側」の観点から報じられることの多い様々な争点を、中国側の主要な文献から検証する。他者の論理を正確に把握することが真の理解と友好に繋がる唯一の径路だからである。同時に、中国の様々なサイトから関連する新聞記事を拾い読みし、ニュースの文体を読み解く力を養う。

履修上の留意点

当然ながら、予習は必須。また、日頃から日本の新聞の国際面に目を通すこと。

成績評価の方法

平常点および期末試験。

教 科 書

中国の新聞・雑誌、ネット上の各サイトから採取。

参 考 書 等

辞書は中日大辞典（大修館書店）、中日辞典（小学館 or 講談社）、現代中国語辞典（光生館）を推奨する。これらより遙かに薄いものや、中日・日中を一冊で兼ねる安直な辞書は役に立たない。

そ の 他

教場は総合情報センター。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
外 書 講 読 (ス ペ イ ン 書)	前期：上 野 勝 広 後期：佐 藤 玖 美 子	経 営 3 ・ 4 選	4

講義のねらい

ヨーロッパとは何か？40以上もの国がひしめき合っているヨーロッパは、またロシアやトルコのようにヨーロッパとアジアにまたがる国もある。今そのヨーロッパの中の15カ国が、平和と繁栄を目指して超国家的なヨーロッパ連合（EU）として結束を固めている。こうした、ヨーロッパと呼ばれる大陸の歴史、地理、文化、民族などについて、スペインで青少年向けに書かれた書物をテキストとして、これまでに習得したスペイン語の知識を応用しながらやや上級の読み物に挑戦する。

講義の内容・
授業スケジュール

ただテキストを訳すだけでなく、ヨーロッパに対する知識、理解を深めることを目指す。また、講読中で出会う文法上の問題点については、その都度説明を行う。

履修上の留意点

授業には必ず辞書を持参すること。

成績評価の方法

平常点（授業中の受け答え）及びレポート提出により、総合的に評価する。学期末試験は行わない。

教 科 書

コピーを配付する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
外書講読（ロシア書）	佐野朝子	経営3・4選	4

講義のねらい

やさしいロシア語の実用的文章をできるだけ多く読み、その中から日常よくつかわれる表現をとりあげ、日常会話で応用できるように学んでいきたい。ビデオや映画なども積極的に活用し、その中りできとりあげられてるオフィシャルなロシア語表現に慣れ、ロシア人とのコミュニケーションを円滑なものにするべく努力してみたい。

成績評価の方法

出席を重視します。出席率プラス年二回の小テストの総合点で判断します。

教科書

プリント配布。
ビデオと映画をみるチャンスをつくります。

科目名	担当者名	配当学科	単位
演習 I	中村公一	経営2選	4

講義のねらい

本演習は経営戦略論を専修するものである。そして、現代企業の経営戦略を多面的な側面から把握し、①ケーススタディなどを通して、企業の置かれている環境とそれに対する戦略を的確に理解する分析力と洞察力、②実際にビジネスゲームなどを通して、事業戦略を構築する企画力と構想力を養っていくことを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

文献講読による経営戦略論に関する基本知識の習得とともに、ケーススタディやビジネスゲームなどにより実践の場面でも活用できる能力の向上を図る。従って、文献の理解力と同時に思考力やプレゼンテーション能力も強化していく内容で演習を進めていく。そのために、毎週の演習以外に、年数回の研究会と二回程度の勉強合宿を計画している。

履修上の留意点

次年度も継続して履修することが前提である。なお、経営戦略論の講義も併せて選択すること。

成績評価の方法

出席と授業への積極性、年度末に提出するゼミ論文によって評価する。特別の用事のない無断欠席等は厳しくチェックする。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
演 習 II	なか 中 村 公 一	経営 3 選	4

講義のねらい

本演習は経営戦略論を専修するものである。そして、現代企業の経営戦略を多面的な側面から把握し、①ケーススタディなどを通して、企業の置かれている環境とそれに対する戦略を的確に理解する分析力と洞察力、②実際にビジネスゲームなどを通して、事業戦略を構築する企画力と構想力を養っていくことを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

文献講読による経営戦略論に関する基本知識の習得とともに、ケーススタディやビジネスゲームなどにより実践的場面でも活用できる能力の向上を図る。従って、文献の理解力と同時に思考力やプレゼンテーション能力も強化していく内容で演習を進めていく。そのために、毎週の演習以外に、年数回の研究会と二回程度の勉強合宿を計画している。

履修上の留意点

次年度も継続して履修することが前提である。なお、経営戦略論の講義も併せて選択すること。

成績評価の方法

出席と授業への積極性、年度末に提出するゼミ論文によって評価する。特別の用事のない無断欠席等は厳しくチェックする。

2. 他学部履修科目

2. 他学部履修科目

禅学概論	〈佐藤秀孝〉	77
中国禅宗史	〈田中良昭〉	78
日本禅宗史	〈石井清純〉	78
禅籍講読Ⅰ	〈田中良昭〉	79
禅籍講読Ⅲ	〈佐藤秀孝〉	80
仏教概論	〈池田練太郎〉	80
インド仏教文化史	〈休講〉	
中国仏教文化史	〈永井政之〉	81
日本仏教文化史	〈袴谷憲昭〉	81
中国古典語初級	〈石井公成〉	82
中国哲学史	〈前川亨〉	82
上代文学研究Ⅰ	〈小野寛〉	83
中古文学研究Ⅰ	〈松岡智之〉	83
中世文学研究Ⅰ	〈村上光徳〉	84
近世文学研究Ⅰ	〈近衛典子〉	84
近代文学研究Ⅰ	〈山崎眞紀子〉	85
比較文学	〈満谷マーガレット〉	86
児童文学	〈山口節子〉	87
西洋思想史	〈麻生建〉	87
演劇概論	〈井上理恵〉	88
編集実務	〈長谷川孝〉	88
イギリス文学特講Ⅰ	〈石原孝哉〉	89
イギリス文学特講Ⅱ	〈高野正夫〉	89
イギリス文学特講Ⅲ	〈岡崎寿一郎〉	90
イギリス文学特講Ⅳ	〈中岡洋〉	90
イギリス文学特講Ⅴ	〈富士川義之〉	91
イギリス文学特講Ⅵ	〈丸小哲雄〉	92
アメリカ文学特講Ⅰ	〈東雄一郎〉	93
アメリカ文学特講Ⅲ	〈川崎笑佳〉	93
演劇特講〈イギリス・アメリカ〉	〈落合和昭〉	94
時事英語	〈サンダース, L. P.〉	94
人口地理学	〈大友篤〉	95
文化地理学	〈小田匡保〉	95
応用地理学	〈高木正博〉	96
現代地理学特論	〈長谷川均〉	97
日本史特講Ⅶ〔近代〕	〈小泉雅弘〉	97
東洋史特講Ⅹ〔近・現代〕	〈趙軍〉	98
考古学特講Ⅲ	〈酒井清治〉	99
日本仏教史Ⅱ	〈休講〉	
西洋文化史Ⅰ	〈休講〉	
日本民俗学	〈谷口貢〉	100
哲学史	〈山口祐弘〉	101
歴史哲学	〈麻生建〉	101
産業・職業社会学	〈休講〉	
マス・コミュニケーション論	〈休講〉	
社会福祉発達史	〈林千代〉	102

国民所得論	〈吉野紀〉	103
中小企業政策	〈和田耕治〉	104
社会教育経済論	〈光岡博美〉	105
アジア経済論	〈谷敷正光〉	106
アジア経済論	〈鄭章淵〉	108
中国経済論	〈休講〉	
アメリカ経済論	〈瀬戸岡紘〉	109
ロシア・東欧経済論	〈山縣弘志〉	111
商業政策	〈岩下弘〉	112
貿易論	〈古沢紘造〉	113
行政法各論	〈斉藤寿〉	114
比較憲法	〈休講〉	
親族法	〈竹中智香〉	115
相統法	〈竹中智香〉	115
西洋法制史	〈北野かほる〉	116
英米法	〈北野かほる〉	117
英経済法	〈岡田外司博〉	118
国際政治学	〈南山淳〉	118
ヨーロッパ政治史	〈浦田早苗〉	119
地方自治法	〈富井幸雄〉	119
議会関係法	〈休講〉	
立法過程論	〈前田英昭〉	120
比較政治学	〈三竹直哉〉	121
現代国家論	〈大塚桂〉	122
比較憲法	〈休講〉	
時事英語	〈岡本誠〉	123
応用計測学	〈榎尾英次〉	124

科目名	担当者名	配当学科	単位
禅学概論	佐藤秀孝 <small>さとう ひでたか</small>	経営	4

講義のねらい

禅学とは禅に関する学である。禅（禪那）という修行法はインドに発生し、仏教に取り入れられ、中国や朝鮮さらに日本など広範に展開したものである。一概には規定できないが、この講義では禅と禅宗に関する基本的な知識を歴史面と思想面から概説し、あわせてそれら禅学研究のあり方について触れるものである。禅宗は仏教の中でもっとも実践的な宗派であり、中国・日本の歴史と文化に大きな足跡を記し、今日においては国際的関心も高い。この禅を学問的に考察せんとするのが禅学であり、本講義はその概論・概説にほかならない。

はじめにインド仏教における禅（禅定）について触れ、さらに禅の歴史的考察として、菩提達磨に始まる中国禅（禅宗）の基本的な歴史（禅宗史）を禅思想の展開を踏まえつつ概観し、また日本の禅宗にも及びたい。さらに思想面としては、禅の立場、禅の人間観・修行観、禅の生活さらに禅と文化、禅の今日的課題（本覚思想・見性の問題）など、およそ禅に関する諸方面からの概説的考察をなしたい。そして、これらに並行して禅学に関するそれぞれの分野における研究方法や基本的な資料などについても解説するつもりである。

成績評価の方法

平常点（出席率や学習態度）と年度末の定期試験による。

教科書

教科書はとくに指定しないで、その都度、諸資料をコピーなどで配布する。

参考書等

参考書としては駒澤大学仏教学研究室編『宗教学Ⅱ』（更生社）や田中良昭編『禅学研究入門』（大東出版）が有効であろう。

その他

授業方法としては原則として講義方式で行なう。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
中国禅宗史	たなか りょう しょう 田 中 良 昭	経 営	4

講義のねらい

本講座は、中国の禅宗の歴史を考察するものである。仏教の実践道とされた禅が中国に伝来し、菩提達摩を初祖とする系統がやがて中国禅宗を形成し、更にそれが独自の展開を果たし、後にチベット、韓国、日本へと伝承された。この中国禅の歴史的展開を、近年出現した敦煌資料を活用しながら検討する。

講義の内容・授業スケジュール

菩提達摩の渡来以前の仏教における禅の状況を序説的に第Ⅰ部とし、達摩の渡来による独特の禅法の開示から、馬祖の洪州宗、石頭の石頭宗によって禅宗が1宗として確立された中国禅宗の成立を第Ⅱ部とし、禅宗が五家七宗として各々その特性を発揮する唐宋・五代から、日本の禅宗の元となった宋朝の禅、更に元代以後の禅という中国禅宗の展開を第Ⅲ部として全体を体系化する。

履修上の留意点

中国・日本の禅学や曹洞宗学を学ぼうとする学生諸君には、その基礎的な知識として歴史的な禅の流れを確かなものしておくことが、その後の学習にとって最善の方法であると確信している。

成績評価の方法

学年末試験を中心とするが、平常の授業への出席を重視し、その結果を加味して評価する。

教科書

現在適当なものが存在しないので、ノートを使用する。

参考書等

比較的理解しやすいものに、〈講座禅〉第3巻『禅の歴史—中国—』中の柳田聖山稿『中国禅宗史』があるが、入手困難のため図書館を利用されたい。専門書としては、関口真大『禅宗思想史』、柳田聖山『初期禅宗史書の研究』、『禅仏教の研究』、田中良昭『敦煌禅宗文献の研究』、篠原壽雄・田中良昭編『敦煌仏典と禅』、鈴木哲雄『唐五代禅宗史』、『中国禅宗史論考』、石井修道『宋代禅宗史の研究』等が代表的なものである。

そ の 他

授業の方法は講義であり、ノートを使用し、必要に応じて資料を配布し、内容についての説明を可能な限り詳細に加えていきたい。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日本禅宗史	いし い せい じゅん 石 井 清 純	経 営	4

講義のねらい

中国において成立した禅宗は、鎌倉時代に日本に伝播し発展した。それは、ある部分では中国の叢林制度そのままの移植であり、またある部分では柔軟に日本の文化に順応して変容した。本講義では、その展開の様相を歴史的に概観し、現存する禅宗各派の成立基盤を明確化してゆく。

講義の内容・授業スケジュール

禅の伝来より、時代を追って明治時代の禅宗三派の成立までを概観する。
1. 奈良・平安時代の「禅」の伝来、2. 「禅宗」の成立、3. 五山と林下、
4. 禅宗教団の地方展開、5. 江戸幕府の宗教政策と禅宗、6. 隠元の来朝
7. 明治維新と禅宗の統合、8. 禅宗各派の再成立。

成績評価の方法

前期終了時のレポートおよび年度末の筆記試験をもって判定する。

教科書

講義ごとにプリントを配布。

参考書等

竹貫元勝『日本禅宗史』（大蔵出版）・船岡誠『日本禅宗の成立』（吉川弘文館）

科目名	担当者名	配当学科	単位
禅籍講読 I	田中良昭	経営	4

講義のねらい

この講義は、中国で成立した初期の禅籍（禅宗語録）を講読するものである。本年は、昨年に引続き、初期の禅籍の内、六祖慧能（638～713）が韶州大梵寺で道俗のために説法した記録とされる『六祖壇経』を読む。『六祖壇経』は、長い年月にわたって数多くの異本が生み出され、その間に著しい増広がなされたが、本講義では、最も素朴な姿を伝える現存最古のテキストである敦煌本の内、最初にその存在の知られたスタイン本（S5475号）と、近年、周紹良氏によってその内容が明らかにされた敦煌県博物館所蔵本（敦博本）を比較しつつ、その読解を通じて、初期の禅宗語録の特徴、禅思想、特に南宗禅の基本的立場を明らかにしていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

1. 慧能に至る初期の禅宗について、2. 『六祖壇経』とその構成、3. 前年に講読した部分の概要、4. 新たな部分の講読

履修上の留意点

原文（影印本）に触れることの意義を体験し、認識していただきたい。

成績評価の方法

平常の出席状況と学年末試験の結果を総合して評価する。

教科書

スタイン本に興聖寺本を加えて校訂したヤンボルスキー校訂本と周紹良編著『敦煌写本壇経原本』（文物出版社）の該当部分をコピーして配布する。

参考書等

柳田聖山訳『六祖壇経』（世界の名著）18『禅語録』（中央公論社）及び〈世界古典文学全集〉36A『禅家語録』I（筑摩書房）、楊曾文校写『敦煌新本・六祖壇経』（上海古籍出版社）、佐藤悦成和訳『敦煌新本・六祖壇経』（全国曹洞宗青年会事務局）

科目名	担当者名	配当学科	単位
禅籍講読Ⅲ	佐藤秀孝	経営	4

講義のねらい

この講義は日本禅宗でも初期の禅籍（禅宗文献）を講読するものであり、それを通して日本の禅宗の特質を考えていくことを目的とする。日本への禅宗の伝来は平安末期から鎌倉時代に始まり、南北朝時代から室町・戦国時代にはその隆盛期を迎えている。ここで初期の日本禅籍というのは、こうした中世禅林に成立したものをその対象としている。

はじめに日本への禅宗の伝来、兼修禅と純粹禅、臨済宗と曹洞宗の展開とその状況、五山叢林と林下、漢文語録と仮名法語などの問題を概観し、日本禅籍の分類や特徴を講ずる。とくに永平道元（1200～53）や瑩山紹瑾（1264～1325）に始まる曹洞宗の禅籍についてはいくぶん詳しく説明したい。

その後に当該の禅籍を講読するわけであるが、今年は『道元禅師語録』をその対象とし、特徴的な上堂語その他を順次に読み進めることにしたい。本書は道元の語録である『道元和尚広録』（『永平広録』とも）10巻を抜粋編集して1巻となした『永平元禅師語録』すなわち『永平略録』のことであり、その編集は道元と同門に当たる南宋の無外義遠（?～1266）によってなされているらしい。その間の事情などを踏まえて本書を精読吟味していきたい。

講義の内容・授業スケジュール

はじめは講義形式で行ない、後半は内容の講読へと進みたい。

履修上の留意点

仮名の『正法眼蔵』と違い、本書は漢文の語録であるので、読解力を増すように努力してもらいたい。

成績評価の方法

平常点（出席率や学習・発表態度）と年度末の定期試験による。

教科書

鏡島元隆訳註『道元禅師語録』（講談社学術文庫）700円

参考書等

大久保道舟訳註『道元禅師語録』（岩波文庫・岩波書店）520円

酒井得元訳註『永平元禅師語録』（『道元禅師全集』第5巻に所収）（春秋社）4,120円

科目名	担当者名	配当学科	単位
仏教概論	池田練太郎	経営	4

講義のねらい

本講義は、仏教の基本的な要素である三宝（仏・法・僧）の体系にしたがって、開祖であるブッダ、その教義、それを維持し展開させた教団の順に仏教の基本的立場を概説していく。内容はインド仏教が中心になるが、中国・日本などの諸地域に広まった仏教にもふれていく予定である。

講義の内容・授業スケジュール

教科書として用いる『仏教入門』の次第にしたがいが、最初に「仏教とは何か」について考え、その後、①ブッダの生涯、②仏の本質、③法——仏教の真理観、④一切法——法の種類、⑤輪廻と業・煩惱、⑥悟りへの道、⑦心——実践の主体、⑧修行者の理想像、⑨戒律と教団の組織、⑩仏教の歴史（インドとその周辺・中国・朝鮮・日本）の順に進めていく。

成績評価の方法

授業中に数回行う予定の小テスト、及び年度末の定期試験によって評価する。

教科書

高崎直道著『仏教入門』、東京大学出版会刊、2,200円

科目名	担当者名	配当学科	単 位
中国仏教文化史	なが い まさ し 永 井 政 之	経 営	4

講義のねらい

ここでいう「文化」とは、現代の我々が日常的にイメージするそれではなく、「人間の営み」としての文化である。当然、「仏教」という宗教も「文化」の枠組みの中に入る。このように「仏教」をとらえるとき、それが中国の歴史の中で、どのような変化展開をしたか。それが本講義のテーマとなる。

今年度は、インドで生まれた仏教が中国に定着するさまざまな紆余曲折の中で、特に興味を引く「仏・菩薩への信仰」を取りあげて考えてみたい。

成績評価の方法

成績評価は平常点に期末試験の結果を加味する。

参考書等

必要な参考書は授業において指示する。またコピーを配布する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日本仏教文化史	はかま や のり あき 袴 谷 憲 昭	経 営	4

講義のねらい

「成仏と捨身と聖（ひじり）」という課題のもとに講義を行いたい。「捨身」は、飛鳥時代の玉虫厨子に描かれた絵を見ても分かるように、我が国古来よりの重要なテーマである。これに穢れなどの観念も加わって、穢れた身を清める行、およびそれを行う行者としての「聖」の観念も我が国の文化の中には大いに定着した。かかる文化の展開の背景には、大乘仏教と共に展開した「成仏」思想というものが大きく影響している。このような文化史の問題を、上記の課題のもとに、高崎直道博士の下記の著書を教科書として用いながら、講義を進めていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

教科書を中心に、そのテーマの展開に応じて、下記の参考書などを資料として取り上げながら、課題追求を行っていく。

講義の内容・授業スケジュール

講義において指示する資料や文献を自分できちんと読むことが要求されるであろう。

成績評価の方法

学年末の定期試験による。

教科書

高崎直道『死は成仏か』（佼成出版社）1,400円

参考書等

『大乘本生心地観経』（大正蔵、3巻、291-331頁）

本居宣長『大祓詞後釈』（本居宣長全集、第7巻、筑摩書房、75-183頁）

科目名	担当者名	配当学科	単位
中国古典語初級	いし 井 こう せい 石 井 公 成	経 営	4

講義のねらい

漢文読解の基本的な力と、中国思想の基本的な知識を身につけることを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

基本的な文法から始め、中国仏教に大きな影響を及ぼした『老子』『荘子』『易経』およびそれらの注釈を読む。

履修上の留意点

口頭での訓読、現代語訳、訓読からの漢文の復原など、学生諸君に作業を課しながら講読してゆくため、予習が必要である。

成績評価の方法

試験を行うが、授業中に上記の作業をよく担当している者については、平常点を加算する。

教科書

使用せず、コピーを配布する。

参考書等

教場で指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
中国哲学史	まえ かわ とおる 前 川 亨	経 営	4

講義のねらい

中国人の世界観、人間観の歴史的展開を把握することを目的とする。儒教・道教・仏教の思想とその相互関係の理解が主な課題である。その際、東アジア世界の中での中国思想という広い視野を失わないように心掛けたい。中国人の思考様式がどのような特徴を持っており、それが日本人の思考様式とどこまで共通し、どれだけ異なるかを考える機会となれば幸いである。

講義の内容・授業スケジュール

受講者の関心を勘案して、前年度同様に孔子から始めて唐・宋代に及ぶか、唐・宋代から始めて近・現代に及ぶかを決めたい。いずれにしても、断代史的ではなく、問題史的に進めていくつもりである。受講者はそこから関心のある問題を発見して行ってほしい。

講義の内容・授業スケジュール

中国の思想・宗教・文化などに関心を有する多様な受講者の参加を期待する。古典中国語もしくは現代中国語の初歩的な知識を持っていること（持とうという意欲をもっていること）が望ましいが、授業じたいはそれなしでも理解可能であろう。継続して出席する意志と意欲を有する者以外の登録は認めない。レポートのみ提出して単位を取得しようなどという安易な気持ちで受講しないでほしい。問題意識と積極的な意欲に富む受講者を求める。

成績評価の方法

授業の内容に関連するレポートを前期と後期に提出してもらおう。

教科書

特に必要としない。

参考書等

授業中に適宜紹介する。

その他

できるだけ多くの情報を提供するため、講義形式をとるが、受講者の意見を微しながら進めたい。積極的な問題提起、討論を歓迎する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
上代文学研究Ⅰ	おののひろし 小野寛	経営	4

講義のねらい

万葉集をよむことから、上代文学の特質を考える。

講義の内容・授業スケジュール

今年度は万葉集巻三から、名作・問題作を選び、その作品について原文の検討、その訓みの確定、語句の研究、ことばの原義・語法、歴史的・社会的・地理的背景を詳細に調べる。授業は全面的講義方式による。毎時出欠をとる。

履修上の留意点

講義はその都度、新しく調査研究してまとめてゆくものだから、必ず出席して、ひたすらノートをとること。講義でわからないことはそのままにせず、チェックし、メモして、自分で調べてみる。質問も歓迎。

成績評価の方法

数回のレポートと学年末の筆記試験（持込一切なし）によって評価する。

教科書

小野寛著『新選万葉集抄』（笠間書院刊）1,600円

科目名	担当者名	配当学科	単位
中古文学研究Ⅰ	まつおかともゆき 松岡智之	経営	4

講義のねらい

古典の文学作品は現代においていかに読みうるか。作品理解の基盤となるものは何であるかということ、『源氏物語』について考える。

講義の内容・授業スケジュール

作中人物の死をめぐる叙述を中心に、『源氏物語』を読み進める。

履修上の留意点

『源氏物語』を通読したことのある者、またはこれを機会に通読する意欲のある者の受講を求める。

成績評価の方法

レポート、筆記試験、出席状況を総合して評価する。

教科書

プリント配布。

参考書等

授業時に紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
中 世 文 学 研 究 I	むら 村 上 光 徳	経 営	4

講義のねらい

「中世女流日記」文学について考察する。作者の問題、時代背景、人間関係などにつき講ずる。

講義の内容・授業スケジュール

「十六夜日記」・「たけむきが記」・「とはずがたり」などの作者、作品を中心に他の時代の作品をも参考にして考える。

履修上の留意点

出席を考慮する。

成績評価の方法

筆記試験が中心

教科書

教科書は使用しない

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
近 世 文 学 研 究 I	この 近 衛 のり 子	経 営	4

講義のねらい

井原西鶴の浮世草子のうち、『本朝二十不孝』を読む。下剋上の世界を生き延びて政権の座に就いた徳川氏は、主君への忠・親への孝を絶対的な価値として、永くその頂点に君臨することとなった。その、幕府による忠孝の奨励を逆手に取って「孝を勧める一助」と称して書かれたのが本書である。徹底した親不孝者を描き出すこの作品は、中国に淵源を持つ『二十四孝』や藤井懶斎作『本朝孝子伝』を下敷にしたパロディともなっている。近世の時代背景を押さえつつ、西鶴の軽妙な文章を味わいたい。

講義の内容・授業スケジュール

- I 西鶴略歴
- II 『本朝二十不孝』概略
- III 卷一の一「今の都も世は借物」
- IV 卷二の二「旅行の暮の僧にて候」
- V 卷二の四「親子五人仍書置如件」
- VI 『二十四孝』『本朝孝子伝』との比較
- VII まとめ

成績評価の方法

出席状況、及びレポートで評価する。

教科書

佐竹昭広『絵入本朝二十不孝』（岩波書店）2,400円。適宜プリントを配布する。

その他

講義

科目名	担当者名	配当学科	単位
近代文学研究 I	やま さき ま さき こ 山 崎 眞 紀 子	経 営	4

講義のねらい

21世紀の幕開けである。日本近代文学を通して私たちはいったい何を学びとることができるのだろうか。20世紀最後のオリンピックは女性の活躍が目立ったと報道されていた。(男性)と(女性)という枠組みで未だ語られることの多い現代であり、それならばこの境界線を崩す前に、(女性)という枠組みから見えるものは何であったのか? この百年間において、(女性)は歴史的・文化的にどのような変貌を遂げたのか? いったい何が変わり、何が変わらなかったのか? を考えてみる必要があるのだろう。講義では日本の近代化が進められた明治期から昭和までの女性作家の作品を読むことを通して、上記の問題を考えていきたいと思う。女性が表現してきた言語空間を、さまざまなアプローチ方法で読みとり、現代に照射させ、未来に向かってどのようなヴィジョンを抱くことができるのかを考察していきたい。また、未だ学問の世界は男性中心である。実社会の現実はそれ以上だ。人=man ではないように男性の視点=ニュートラルではないことを、女性文学を通じて発見・認知していく力をつけたいと思う。

講義の内容・
授業スケジュール

樋口一葉、与謝野晶子、水野仙子、田村俊子、吉屋信子、宇野千代、尾崎翠、岡本かの子、佐多稲子、林芙美子などの短編小説を読む。女性作家の作品を読むからといって、女子学生のみが対象とさせていただきたくはない(そんなことを考える人はいないだろうが)。女性がいったいどのようなメンタリティをもつのかを身体構造も含めて、より一層理解を深めるよい機会となるように小説以外の資料も用いてアプローチしていく。一方的な講義ではなく、双方向的な授業を行う。

履修上の留意点

事前にテキストの指定部分を読んでくること。ただ講義を聴くという受け身的な態度ではなく、常に意見を発表できるよう、積極的な態度を望む。

成績評価の方法

平常点を重要視する。前期・後期終了時にレポート提出を課し、ペーパーテストは行わない。3分の1以上の欠席の場合は単位を認定しない。

教科書

女性文学会編『女性文学の近代』(双文社出版) 2,000円
この他、文庫本などを使用することもあるかもしれない。その際は適宜指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
比 較 文 学	<small>みつたに</small> 満谷マーガレット	経 営	4

講義のねらい

文化交流のもっとも重要な手段である翻訳の問題について考えてみたい。まず、最近話題となっているジェンダー翻訳論やポスト・コロニアル翻訳論を含めて、さまざまな翻訳論を紹介しながら、言語と文化の問題を幅広く扱う。比較文学の伝統的な主題である「影響関係」の枠を超えて、翻訳が創作活動をどう刺激したかが見えてくるはずだ。また、翻訳は「読む」ことから始まるとすれば、それは当然「誤読」を伴う。日本の近代は西洋を「誤読」することから出発したといえるだろうし、西洋も日本を「誤読」し続けているといえるだろう。小説、詩、児童文学など、具体的なテキストを読みながら、明治の翻訳者が西洋から何を、どのように取り入れようとしたのかを見るとともに、十九世紀のジャポニズム（日本趣味）から戦後のハイク・ブームにいたるまで、西洋が日本をどのように読んできたのかを見ていきたい。

講義の内容・
授業スケジュール

授業は講義を中心に進めるが、テキストを読むこともある。教科書はないが、必要に応じてプリントを配る。外国語のテキストには必ず日本語訳か解説がつく。横文字アレルギーの人は困るだろうが、英語に堪能である必要はない。

成績評価の方法

前期、後期と試験を行う。

教 科 書

プリント

参 考 書 等

秋山勇造『翻訳の地平』（翰林書房）1995
 日本近代思想体系15『翻訳の思想』（岩波書店）1991
 西田直敏『「新体詩抄」 研究と資料』（翰林書房）1994など

科目名	担当者名	配当学科	単 位
児 童 文 学	やま ぐち せつ こ 山 口 節 子	経 営	4

講義のねらい

子どもの発見に始まる日本児童文学の流れの中で、リアリズム作品、ファンタジー作品がそれぞれどう描かれてきたかを、具体的作品を通して理解する。特に宮沢賢治の日本的ファンタジー作品については、作品の底を流れる賢治童話のフィロソフィーを共に考え合う。また、ファンタジー作品が今日の状況をのり超える力をもつことを、M. エンデの『モモ』やルグインの『ゲド戦記』などの海外児童文学も含めて読み解く。

講義の内容・授業スケジュール

日本児童文学の成立と展開を年代を追ってリアリズム、ファンタジー作品ごとにとりあげる。今日の現代児童文学の状況と新しい潮流について、作家・作品を具体的にとりあげながら児童文学の流れとこれからの展望を考察する。賢治作品については、人間とは何か、真実とは何か、生きるとは何かといった人間の本質を、作品を通して共に考え合い、生きる力を得る授業としたい。海外児童文学では、テーマ、モチーフ、全体の構成を理解し、ファンタジーのもつ力とは何かに迫る。

履修上の留意点

授業でとりあげる作品は事前に予告するので、必ず読んで授業に臨んでいただきたい。

成績評価の方法

前・後期2回のレポートによる。出席状況や授業態度も考慮に入れる。

教科書

授業の際に、事前に紹介する。

参考書等

授業の進行に併せて関連図書を紹介する。

その他

講義を中心に、ビデオなども用いる。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
西 洋 思 想 史	あ ぞう けん 麻 生 建	経 営	4

講義のねらい

ヨーロッパ人の基本的なものの考え方、さらに思想史という形で何が形成され、求められてきたかを、できるだけ日本との比較の視点から明らかにする。
特に言語の問題に焦点を当て、教科書に基づきながら説き明かし、その背景をも考察する。

履修上の留意点

教科書は毎回持参すること。問題を自分なりに整理し直すため、ノートをとることを勧める。講義は連続しているので、可能なかぎり続けて出席するよう努力すること。

成績評価の方法

学年末の試験による。教科書に記述されていることのみが講義の内容ではないから、その都度の講義に留意すること。

教科書

麻生建著『ドイツ言語哲学の諸相』（東京大学出版会）3,502円

参考書等

特になし。必要な場合は授業中に指示する。

その他

講義。

科目名	担当者名	配当学科	単位
演劇概論	井上理恵	経営	4

講義のねらい

演劇とは何か、演劇学とは何か、について西洋及び日本のこれまでの演劇論を検討しながら考えていく。特に戯曲と演出、俳優、演技の関係、文学と演劇の間に横たわる深く広い大河をいかに収斂すればいいのかについて考察する。

講義の内容・授業スケジュール

演劇史、ドラマトウロジー論、演劇理論史など、ギリシャからフランス、イギリス、ドイツ、そして日本の状況等について比較検討しながら触れることになろう。ビデオや舞台で展開される演劇を観て、西洋と日本の文化の違いを理解し考えるつもりである。

履修上の留意点

個別な日本の戯曲を検討する時間はないので個別研究を学びたい者は国文学特講 X を同時に受講されることが望ましい。

また、実際の舞台を見にいて批評を書いてもらうつもりであるから本講座を受講する者は前期一回、後期一回、劇場に足を運ぶことを条件としたい。

成績評価の方法

成績評価はレポート（二回の観劇批評およびその他二回）およびテスト。

教科書

授業時に販売（約500～800円）「井上理恵講義ノート」（私家版）

参考書等

毛利三彌『東西演劇の比較』（放送大学教育振興会）

その他

講義形式。ビデオ視聴や観劇後には討論をする。

科目名	担当者名	配当学科	単位
編集実務	長谷川孝	経営	4

講義のねらい

編集とは、〈だれかに—何かを—伝える〉過程、つまり「何か」に気づき、その意味をつかみとり、表現の形を整えて、受け手に引き渡していく一連の過程に携わる仕事です。その過程で「どう」伝えるのかに必要な知識・技能とともに、そのための知的基礎体力・感覚的な力をきたえ、「何を・なぜ」伝えるのかを考えて、自分なりの「目のつけどころ」（視点・視野・視角）をつくることを目指します。また、編集のはたらきは日常生活の中でだれもがやっていることなので、それを意識的に適用し、情報化社会で多様な情報を主体的に選択し活用できる「よき受信人」であるだけでなく、「よき発信人」になるために役立つことを願っています。

講義の内容・授業スケジュール

新聞・雑誌・書籍など印刷媒体の編集を中心に、企画・取材・原稿の執筆・原稿の整理やレイアウトなど、実際の知識・技能を取り上げ、その中で「目のつけどころ」や、編集をする上での意思や責任を考えます。とくに、ものごと・できごと、文章やデータから「何か」とその意味を読み取り、感じ取る力、自分の表現をつくり出す力を養うことを大切にします。

履修上の留意点

授業を「取材」する（「教わる」ではなく）という構えで参加してください。また授業で「取材」した（自分なりに感じ気づき考えた）ことを、毎時、短い文章で書いてもらいます。

成績評価の方法

課題作品（B4判2つ折4ページの個人紙・誌を制作）と、自己評価点および感想文（授業で書く短文）など平常の提出物によります。

教科書

プリントを使用します。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
イギリス文学特講Ⅰ	いし 石 原 孝 哉	経 営	4

講義のねらい

シェイクスピアを中心に、ルネッサンス期のイギリス文学を、広くヨーロッパ文学の流れの中で講じる。

講義の内容・授業スケジュール

主として取り上げる内容は、① 神話と文学 ② 文学の源流 ③ 詩・民話・劇 ④ ルネッサンスと新学問 ⑤ トマス・モアと新しい流れ ⑥ エドモンド・スペンサーと『妖精の女王』 ⑦ クリストファー・マーロウとヒューマニズム ⑧ ウィリアム・シェイクスピアの世界Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ ⑨ シェイクスピアと歴史Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ ⑩ イギリスの文化（歴史と文学を中心に）

成績評価の方法

期末試験およびレポートで評価する。

教科書

『シェイクスピア喜劇とロマンスの発展』

科目名	担当者名	配当学科	単 位
イギリス文学特講Ⅱ	たか の まさ お 高 野 正 夫	経 営	4

講義のねらい

18世紀後半までの英詩の世界では、秩序のある洗練された詩が好まれ、自然に対してはそれほど強い関心が持たれなかった。「理性の時代」と呼ばれた18世紀であったからこそ、詩人は秩序を尊び、粗野で洗練されていないものを拒絶したのであろう。その結果として、ある意味では快適で居心地のよい都会が、人の近づき難い荒々しい自然よりも好まれたのである。

もちろん、DrydenやPopeなどに代表される古典主義的な詩の特徴である洗練された秩序に逆らった詩人もいた。James Thomsonのように、人間を研究することなく、自然そのものの素朴な美しさを描いた詩人もいれば、また、Edward YoungやRobert BlairそしてThomas Grayなどのように、主に「死」を主題として陰うつな詩を書いた墓地派の詩人たちもいた。しかしながら、彼らのほとんどは18世紀の詩の特徴である、不自然で形式的な言葉遣いや技巧から抜け出すことはできなかった。

そして、1798年にWilliam WordsworthとSamuel Taylor Coleridgeによって出版された*Lyrical Ballads*という、1冊の詩集によってこのような古典主義的で因襲的な詩の流れが大きく変わってしまったのである。いわゆるロマン主義の時代の到来を告げるこの詩集に表現された素朴な言葉や主題は、保守的な批評家たちにとってはまったく受け入れ難い、あまりにも革新的なものであったが、この小さな流れは、その後19世紀の前半まで英詩の主流となっていった。

イギリスの北西部に位置する湖水地方を愛し、そこに住んだこの2人の詩人の中でも、特に自然を愛したのがワーズワスであった。ワーズワスの詩に描かれた美しい、しかし時には厳しい姿を露にする自然をうたった詩や、彼が得意とした、普通の人々の様々な人生の絵模様をうたった物語詩などを中心に読みながら、ワーズワスの詩の世界を見ていくことにする。

成績評価の方法

前期のレポートと期末試験によって評価する。

教科書

教場にて指示します。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
イギリス文学特講Ⅲ	おか ざき とし いち ろう 岡 崎 寿 一 郎	経 営	4

講義のねらい

おそらく、過去のいかなる瞬間もまた現在であったことの認識をもつことなく「現代性」modernityという言葉の感覚を理解することは、むつかしいとおもいます。この認識の方法によって、19・20世紀の英詩について、その現代的な意味を確認します。

講義の内容・授業スケジュール

講義の進行については、前期では、ワーズワス、コールリッジ、バイロン、シェリー、そしてキーツのロマン派詩人たちの詩について、フランス革命・イギリスの産業革命という時代的背景を捨象することなく論究してみたい。後期では、ヴィクトリア朝の時代と詩人たちについて、テニスン、ブラウニング、スウィンバーン、そしてマシュー・アーノルドの詩を検証した後、イギリスの近代文学を拓いたオスカー・ワイルドの詩と批評を出発として、近代詩人イエーツ、エズラ・パウンド、T.S.エリオットの現代詩（モダニズム）、さらにD.H.ロレンスの詩の論究を経て、現代イギリスの詩人たちの詩にと到達したいとおもいます。

成績評価の方法

成績評価については、平常評価としての出席(50%)、前期試験に代わる夏季レポート(25%)、後期試験(25%)による総合評価とします。

教 科 書

講義では、とくに教科書は指定せず、毎回、対象とした詩人と詩について必要なプリントを配布します。

参 考 書 等

参考書・文献については講義中に適宜言及します。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
イギリス文学特講Ⅳ	なか おか ひろし 中 岡 洋	経 営	4

講義のねらい

イギリス小説のなかで特異な地位を占めつつ、もはや伝統の外部とはいいがたくなっているブロンテ文学について講義する。わが国では比較的よく親しまれていると思われるが、正しく理解するためにあらゆる方面から考察を加えてみようと思う。

講義の内容・授業スケジュール

具体的にはCharlotte Brontë (1816-55)の*Jane Eyre* (1847)をはじめとして、姉妹のすべての小説にふれ、初期作品から詩歌、エッセイの類まで扱う。また映画化された作品もあり、それらを上映、鑑賞する機会ももちたい。全体をほぼ把握した段階で、その周辺の作家たちとの関連に言及し、広くイギリス文学の特質を理解するように努める。

履修上の留意点

出席に励むこと。各自が自覚をもって勉強に励むことを期待している。

成績評価の方法

出席回数と試験の結果によって評価する。

教 科 書

特に定めないが、その都度参考書を挙げて説明するので、読んでおくようにする。

参 考 書 等

教場で適宜指示する。

そ の 他

真面目に受講することを期待し、不真面目な受講態度の学生は退席してもらう。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
イギリス文学特講 V	ふじかわ よしゆき 富士川 義之	経 営	4

講義のねらい	英国における文学と絵画についての講義。ロマン主義時代の風景詩と風景画、ラファエル前派から世紀末の文学と絵画の関連性についてふれる予定である。
講義の内容・授業スケジュール	講義で述べる詩人や作家の文例をコピーで読むとともに、19世紀英国の画家たちの絵画をテレビ画面に映して見ることにより、文学と絵画により親しんでほしいと願っている。
履修上の留意点	積極的に取り組んでいただきたい。毎回出席をとる。
成績評価の方法	レポートと試験。
教科書	コピーを配布する。
参考書等	適宜指定する。
その他	講義が中心だが、討論の機会を随時もうけるつもりなので、ぜひ参加してほしい。

他学部履修科目

科目名	担当者名	配当学科	単位
イギリス文学特講Ⅵ	丸 小 哲 雄	経営	4

講義のねらい

文学研究が感動に始まるとすれば、それは個人的・主観的です。個人的・主観的であるとは、読み手の深奥の中心から「叫びのような声」に触れることです。批評することは、実は、文学テキストと読み手とをリアル・タイムで結んでゆくネットワークのようなものです。作者の世界と読み手の世界とをリアル・タイムで結びつけることで、読み手はテキスト世界との出会いに自らの心を開き、その出合のときその世界に対して読み手は違和感を抱く。かくして読み手は自らの世界を更新してゆくモーメントを獲得することになり、批評が始まります。

批評の世界は個人的・主観的な世界から宇宙的な世界に向けて発信し、文学以外の人間のさまざまな領域と共存していくわけです。批評的行為はいつまでも文学テキストに寄生しないで、自律していきます。

であるから、初発の読書体験を大切に、主体としての自分をどう形成してゆくかを説明し、そこから文学批評方法を修得し確立して、テキストの印象や感想に価値を見出せるようにしてゆきます。とりわけ批評行為は、テキストの読み・解釈・批評の過程にあって、テキストの構造の織り目をゆるめて、テキストの持つ価値や姿勢に対して対立し、そのイデオロギーと対決する最後の機会であり、読み手がテキストに対してどのようにして責任をとるかを見出すことです。その結果文学批評は個人の嗜好ではなく、集団的な判断の問題になってきますので、本講義は文学批評のさまざまな方法に親しみつつ、テキストの印象や感想に価値を見出せるように講義してゆきます。

講義の内容・授業スケジュール

テキストの読み方と研究の仕方を覚えるためにさまざまな文学テキストを利用して、レポートを作成してゆきます。従って、テキスト理論とテキスト実践を平行的に作業することになります。

1. 文学テキストの虚構的世界とその必要性について
2. 文学的言語とは何か；日常言語と虚構言語の差異について
3. 文学テキストの機能と力について
4. 英文学研究の成立過程；文学研究制度の問題について
5. 伝統的方法とテキスト演習
6. ロシア・フォルマリズム
7. ニュー・クリティシズムとテキスト演習
8. 受容理論（読者論の立場）
9. 「精神分析批評と原型批評」とテキスト演習
10. 構造主義
11. 記号論
12. 「構造主義と記号論」とテキスト演習
13. ポスト構造主義
14. ニュー・ヒストリシズム
15. 批評精神の遍在性と批評的態度について

成績評価の方法

試験等による成績評価については、平常点50%、前期・後期のターム・ペーパー（レポート作成）50%。クラスでの発表者には別途評価。

教科書

- イ) *Elements of fiction* by R.Scholes（英宝社）
- ロ) 『〈持続する〉テキストへの意匠』（英宝社）
- ハ) プリント使用：プリントのファイルを用意すること；読書リストのプリント配布

参考書等

- イ) 『楽しく読めるアメリカ文学』（ミネルヴァ書房）
- ロ) 『楽しく読めるイギリス文学』（ミネルヴァ書房）

科目名	担当者名	配当学科	単 位
アメリカ文学特講Ⅰ	<small>あづま</small> 東 <small>ゆう いち ろう</small> 雄 一郎	経 営	4

講義のねらい

アメリカ詩の概観、アメリカン・ルネッサンス、モダニズム、ポストモダニズムの流れにそって、Walt Whitman, Emily Dickinson, Robert Frost, Wallace Stevens, W. C. Williams, Ezra Pound, T. S. Eliot, John Crowe Ransom, E. E. Cummings, Hart Crane, Langston Hughes, Elizabeth Bishop, John Berryman, Robert Lowell, Robert Bly, Allen Ginsberg, Gary Snyder, Sylvia Plath, Mark Strand 等の詩人の作品を読んでゆきます。それぞれの詩人の作品を通して、アメリカの歴史、文化、人種差別、ジェンダー、宗教、自然、自我のヴィジョン、絵画、音楽等の問題を探り上げ、論じてゆきます。アメリカの自由詩をおおいに楽しんで下さい。新しい詩のスタイルは、一個人の技巧的な変革ではなく、新しい思想から生まれます。

教科書

新倉俊一『アメリカ詩入門』（研究社）2,200円

参考書等

新倉俊一『アメリカ詩の世界』（大修館）

科目名	担当者名	配当学科	単 位
アメリカ文学特講Ⅲ	<small>かわ</small> 川 <small>さき</small> 崎 <small>えみ</small> 笑 <small>か</small> 佳	経 営	4

講義のねらい

Mark Twain の作品を読み、歴史的背景等を考慮に入れつつ、その作風、思想を探っていく。

講義の内容・授業スケジュール

ディスカッション形式で授業を行う。又、毎回数名の学生に発表してもらう。

履修上の留意点

予習を前提に授業を進める。

成績評価の方法

積極的な授業態度が必須である。出席と授業中の発言や小レポートを平常点とし、前期・後期あわせて2回のレポートを加えて、年間の評価とする。

教科書

『*The Higher Animals*』（北星堂書店）1,500円

参考書等

必要に応じて紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
演劇特講 (イギリス・アメリカ)	おちろ あい合 かず和 あき昭	経 営	4

講義のねらい

主として、20世紀のアメリカの著名な劇作家、および、現在、活躍中の劇作家を取り上げ、彼等の劇の特徴を、劇の構成要素(「筋」、「登場人物」、「テーマ」、「台詞」、「視覚効果(背景、照明等)」、「効果音(音楽も含む)」等を通して、できるだけ多角的に考察する。その際、演劇史における思潮も考慮に入れるつもりであるが、講義が概念的、抽象的にならないように、必ず、劇作品を通して、具体的に、劇の構成要素等を考察する。アメリカの劇作家以外にも、数人ではあるが、20世紀のアイルランドやイギリスの劇作家も取り上げる予定である。さらに、一般には、あまり知られていない劇作家、特に、一幕劇(短い劇、小説で言うなら、短編小説、通常、「場所」が一つだけの劇)を書いた劇作家も取り上げ、一幕劇の特徴やその多様性をも考察する。また、講義のなかで、折に触れ、重要な演劇用語や劇場の種類等も学ぶ。

講義の内容・授業スケジュール

講義のなかで取り上げる主なる劇作家は、アメリカでは、Susan Glaspell (1882-1948)、Alice Gerstenberg (1885-1972)、Shirley Jackson (1919-65)、Eugene O'Neill (1888-1953)、Thornton Wilder (1897-1975)、Tennessee Williams (1911-83)、Sam Shepard (1943-)、David Mamet (1947-)、アイルランドでは、John Millington Synge (1871-1909)、Samuel Beckett (1906-89)、イギリスでは、John Boynton Priestley (1894-1984)、Harold Pinter (1930-)である。

履修上の留意点

講義の内容をふまえて、劇作品を分析してもらうので、積極的な参加が望ましい。

成績評価の方法

定期試験ではなく、前期二回、後期二回の課題やその他の合計で評価する。一回の課題は原稿用紙400字詰め5枚から10枚(ワープロの場合は、2000字から4000字)

教科書

- 1) マクミラン『演劇用語辞典』3,300円
- 2) プリント

科目名	担当者名	配当学科	単 位
時事英語	Sanders, Leonard P. (サンダース, L. P.)	経 営	4

講義のねらい

このクラスでは、様々なマスメディア(ドキュメンタリーフィルム、TVニュース、雑誌、タブロイドなど)で使われている英語を通じて、表現や文化を学んでいく。
media studiesのメソッドで行う。

講義の内容・授業スケジュール

テキストを読み内容を把握し、ビデオを見てエクササイズを行う。後半はディスカッションを行う。

成績評価の方法

年に2回テストを行う。

教科書

教科書は使用せずプリントを配布する。

その他

ビデオを使用する。授業は英語で行う。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
人口地理学	おおとも あつし 大友 篤	経営	4

講義のねらい

地理学は、地域の特性や機能、地域的關係、地域間の相互作用、地域構造、あるいはこれらの変化を明らかにする学問である。しかし、地域は、地球表面上の一定の広がり（空間）と定義することができるが、きわめて抽象的な実在であるために、上記の諸要素を明らかにするためには、地球上に存在している何らかの事象を媒介にすることが必要になる。すなわち、人口地理学は、人口現象を媒介にして、上記の諸要素を明らかにしようとする学問である。したがって、人口地理学の研究にあたっては、まず、人口現象を正しく理解することが必要であり、そのためには、人口学の知識が必要となる。1年間という制約のなかでは、人口学とその知識に基づく人口地理学の2分野の講義はできないので、ここでは、人口学の基礎知識を説明しながら、これまでに人口地理学研究のなかで明らかにされた法則や理論などを並行して説明する。

講義の内容・授業スケジュール

人口構造（基本的構造、社会的構造、文化的構造、経済的構造）、人口動態（出生、死亡）、人口移動（国内移動、国際移動）、人口の地域分布、人口変動と将来予測、人口と資源、人口と環境などの項目について、体系的に説明する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
文化地理学	おだまさ やす 小田 匡保	経営	4

講義のねらい

文化地理学の内容は幅広いが、本講義では、特に宗教地理学の研究例について述べる。

講義の内容・授業スケジュール

1. 文化地理学とその概要
2. 宗教地理学
3. 宗教分布
4. 宗教集落・宗教都市
5. 巡礼

成績評価の方法

成績評価は、レポートと試験によって行なう。レポートが提出されない場合は、単位認定は保証できない。

教科書

使用しない。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
応 用 地 理 学	たかぎまさひろ 高木正博	経 営	4

講義のねらい

この科目は、地理学と他の研究分野を視野に入れた学際的なテーマを考えている。講義では「河川」を対象とし、これの専門分野である河川工学や農業水理学などの成果をふまえつつ、地理学として河川をどのように扱うかを考える。河川は、河道だけでなく流域全体を捉えることが必要である。流域（地域）における自然的特性とその土地の人々とのかかわり合いを利水・災害・自然環境などの視点から講ずる。

講義の内容・
授業スケジュール

まず、河川の流出に関する基本特性について水文学から講ずる。つぎに、いくつかの具体的な河川を事例として、利水・災害・河川環境などの視点からそれぞれ河川特性を考える。また、都市の水環境など、川をめぐる現実的な課題について、その本質を探る。

履修上の留意点

講義が中心になるが、受講者にも意識を持ってもらうため、夏休み中に現地調査を伴う課題を提示する。

成績評価の方法

学年末試験と夏休みのレポートの他、授業中の課題など平常点も加味する。

教 科 書

授業時間にプリントを配布する。

参 考 書 等

配布プリントをとおり随時紹介する。

そ の 他

講義中心。事例紹介のためのスライドや OHP、ビデオも使用する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
現代地理学特論	はせがわ ひとし 長谷川 均	経営	4

講義のねらい

新聞やテレビで“沖縄”の二文字を目にすることが多い。沖縄県では、本土復帰以降、巨額な資金がつき込まれ、島々の自然がいたるところで痛めつけられている。また最近、本島北部に米軍基地の移転と空港建設を目指した新知事が誕生し、それに伴う自然へのダメージを懸念する声も強い。この講義では、これらの現状とその背景にある沖縄の自然を解説し、地理学の分野で試みられている環境保全の取り組みや新しい調査方法を紹介したい。

講義の内容・授業スケジュール

前期のテーマは「沖縄の自然」「沖縄における土地改変と自然環境の悪化」である。これらは、私が最近興味をもって取り組んでいるテーマでもある。サンゴ礁の自然をとおして、これらの現状を解説したい。地元紙の記事やインターネットで流れている情報なども紹介する予定である。なお、後期は前期の内容を受け「リモートセンシングデータ」や「地理情報システム」を使って、地域や環境の変化を抽出する方法、地理学への応用例を沖縄での事例を中心に解説する。詳しいスケジュールについては、講義開始時に年間計画表（シラバス）を配布し説明する。

履修上の留意点

講義中の私語、いねむり、教室からの退中は認めない。

成績評価の方法

2回の定期試験結果により評価する。出席し講義をまじめに受けていれば単位取得は容易なはずである。

教科書

使用しない。毎回プリントを配布する。

参考書等

シラバスの付録として参考書のリストを示す予定である。

その他

VTR、スライド、PCによるプレゼンもおこなうが、基本的には講義形式の授業である。

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本史特講Ⅶ (近代)	こいずみ まさひろ 小泉 雅弘	経営	4

講義のねらい

近代日本の出発点となった幕末維新期の諸問題について講義し、最近の研究動向にも触れながら維新変革と近代国家の成立について考える。

講義の内容・授業スケジュール

最初に明治維新史の時代区分に関する諸説を検証し、次いで幕藩体制の崩壊から明治国家成立の過程を検討する。その際、必要に応じて史料講読を行いながら授業を進める。具体的には、ペリー来航・開国、安政の大地震と民衆、幕政改革、幕末の政治運動、江戸の都市騒擾、戊辰戦争、維新政権、民権分離問題、廃藩置県、藩閥権力の生成などを、集団・情報・国民国家といった観点も取り入れながら述べていく。

履修上の留意点

既成の歴史認識にとらわれるのではなく、史料批判や史料解釈などを基礎とした自ら歴史を考える姿勢を身につけてほしい。

成績評価の方法

定期試験により評価し、出席状況を加味する。

教科書

特にないが、必要な資料はコピーして配布する。

参考書等

講義内容に則して、適宜参考文献を紹介したい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
東 洋 史 特 講 X (近・現代)	ちょう 趙 ぐん 軍	經 営	4

講義のねらい

〈近・現代日中関係史〉と題して講義する。その目的は外交・貿易・文化往来などの方面を通して、二千年以上にわたる日本と中国の間の友好と不友好の歴史を概的に解説し、日本とアジア諸国とりわけ中国との関係を正しく理解できる知識や教養を高めることである。

講義の内容・
授業スケジュール

近代以前の日中関係史を概的に紹介し、「西力東漸」以後、とりわけ第一次世界大戦以後の日中関係史を具体的に解説する。

1. 近代以前の日中交通史
2. 「日清提携」と「征亜論」の創生
3. 「アジア連帯」と国権主義の台頭
4. 宮崎滔天と中国
5. 頭山滿と中国
6. 辛亥革命・孫文と日本
7. 内田良平と中国
8. 中国の国民革命と日本の対応
9. 「満州事変」から日中戦争へ
10. 日本の敗戦と台湾との「国交」
11. 政経分離と政経不可分
12. 国交正常化と日中平和友好条約
13. フィーバーと摩擦
14. 改革開放と「新アジア主義」
15. 真のアジア共生をめざして

履修上の留意点

受講者とのコミュニケーションを図るため、毎回出席カードを配り、授業内容に関する質問・感想・提言などはそのカードの裏に積極的に記入して提出してほしい。

成績評価の方法

年に2回レポートの提出を要求し、課題は数週間前に提示する。成績評価には出席日数を参考にする。

教 科 書

趙軍著『大アジア主義と中国』（亜紀書房）1996年
竹内実著『日中国交基本文献集』上・下巻（蒼々社）1993年

参 考 書 等

田中明彦著『日中関係 1945-1990』（東京大学出版会）1991年
ホームページ「日中関係資料館」<http://www.est.hi-hone.jp/~zhaojun/> など。

科目名	担当者名	配当学科	単位
考古学特講Ⅲ	酒井清治 <small>さかい じゆ</small>	経営	4

講義のねらい	<p>考古学における古墳時代は、古墳の築造に特色をもつように古墳の変遷はその時代を知る重要な要素である。また、古墳からの出土遺物も古墳時代を知るためにも重要である。このような古墳の変遷、地域色、あるいは出土遺物から、列島における中央・地方の関係、あるいは各地の首長層の動静を知ることも可能である。</p> <p>この講義では、古墳時代を知るために、古墳あるいは出土遺物から古墳時代史を探ってみたい。</p>
講義の内容・授業スケジュール	古墳時代の論文を受講者とともに読み解く。
履修上の留意点	遅刻はしないように。
成績評価の方法	平常点とレポートによる。
教科書	白石太郎編『古代を考える 古墳』（吉川弘文館）
参考書等	授業の中で紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 民 俗 学	谷 口 貢 <small>たに ぐち みつぎ</small>	経 営	4

講義のねらい

日本民俗学は世代をこえて伝承されてきた習俗・慣習の考察を通して、日本社会に展開する生活文化を究明する学問である。民俗はよく「民族」と混同されるので注意を要する。本講義は、民俗学をはじめて学ぶ人のための入門編として、基礎的知識をしっかりと把握できるようにしたい。また近年、国際的視野をもった人材の育成が叫ばれているが、真の国際理解の前提には、自国の伝統文化に対する一定の素養をもつことが益々大切になってきている。講義では、こうした点にも配慮していく予定である。

講義の内容・授業スケジュール

本年度は「日本人の一生」をめぐる民俗文化に焦点をあてながら、生活文化において何が変化する、何が持続しているのかを検証し、われわれの現在の生活のありようを再考していくことにしたい。年間の講義予定は以下に掲げるとおりで、各々2回に分けて行う。

- 第1講 家族と社会
- 第2講 産育儀礼－出産と子育て－
- 第3講 子どもと遊び
- 第4講 若者の民俗文化
- 第5講 成人儀礼
- 第6講 婚姻儀礼
- 第7講 女性の民俗文化
- 第8講 交際と贈答
- 第9講 老人の民俗文化
- 第10講 日本人の靈魂観
- 第11講 葬送儀礼
- 第12講 墓と先祖祭祀

成績評価の方法

夏休みの課題としてレポートの提出を求める。したがって受講者の成績評価は、夏期レポートと学年末の筆記試験の合計をもって行うものとする。

教科書

本講義では教科書は使用しない。

参考書等

谷口貢・他編『現代民俗学入門』（吉川弘文館）
新谷尚紀編『民俗学がわかる事典』（日本実業出版社）

科目名	担当者名	配当学科	単位
哲学史	やまぐちまさひろ 山 口 祐 弘	経営	4

講義のねらい

カントを源とするドイツ観念論の諸思想は現代に様々な照明を与えてくれる。今日確実な思索を行おうとするならば、繰り返しそこに立ち返ることが求められ、またその意義は尽きない。だが、その発展を一瞥のもとに収めることはたやすいことではない。その根本にあった問題は何か、それを駆動したものは何か、が問われねばならない。そうした問題論的展開として捉ええた時に、ドイツ観念論は一つの歴史となるのである。本講は、この意味でドイツ観念論に歴史を発見しようとする試みである。カントが提起しかつ後世に残した課題を明らかにし、それが如何なる方向に解決を求めていったかをフィヒテ、シェリング、ヘーゲルを軸として考察する。

参考書等

山口祐弘『カントにおける人間観の探求』、『ドイツ観念論における反省理論』（勁草書房）

科目名	担当者名	配当学科	単位
歴史哲学	あそうけん 麻 生 建	経営	4

講義のねらい

「歴史とは何か」、「歴史認識はいかにして可能か」という問題は、単なる歴史学の問題ではなく、広く人文科学一般の問題である。講義は、この二つのテーマを中心に行われる。

講義の内容・授業スケジュール

前半はいわゆる「歴史哲学」の変遷をギリシア時代から19世紀に至るまで概括し、そこで展開された諸問題を検討する。後半は主として歴史認識の問題を解釈学を中心に講義する。教科書として下記のものを使う。

履修上の留意点

前半は純粋な講義の形をとるので、きちんとノートを取り、自分なりに問題を整理する努力をすること。後半は教科書に基づいて行なう。

成績評価の方法

学年末の試験による。

教科書

麻生建著『解釈学』（世界書院）2,500円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
社 会 福 祉 発 達 史	はやし 林 千 代	経 営	4

講義のねらい

いつの時代にも、人々の生活不安は自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には、常に多くの問題が生じ人々は生活困難におちいった。社会事業は資本主義社会の成立とともに生成した。主に、英国、日本を中心に（部分的に米国にもふれる）社会福祉へ至る歩みを講述する。対象の存在と問題解決の方法、方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思想、その関連等が内容となる。一定の歴史的産物である社会福祉、その本質は何か、その現状は等々を考えるためにこそ、歴史を学ぶ意義がある。

成績評価の方法

後期にレポートを提出してもらいそれによって行なう。

教 科 書

特にきめないが、今岡他編『社会福祉事業発達史』（ミネルヴァ書房）をあげておきたい。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
国民所得論	よしの 吉野 紀	経 営	4

講義のねらい

わが国は法人企業だけで277万(平成3年)あり、就業者6,400万人のうちの約68%にあたる4,380万人がここで働いている。この生産活動からさまざまな財(商品)やサービスが産出されてくるが、その種類や数量たるや膨大なものとなる。この大きさを1年という単位期間内で集計し、金額表示にしたものが大雑把に言ってGDP(国内総生産)にあたる。生産された財・サービスは、誰かが貨幣を支払って支出・購入してくれるからこそ、また次の年の生産活動を実現可能にしてくれる。その誰かは、一つは4,400万に昇る家計世帯であり、二つには他の企業であり、その他に政府もあり、日本からの輸出を引き受けてくれる海外の購入者であったりもする。ここには、財・サービスの売渡しの見返りにあたる円や外貨で支払われる貨幣の流れがみられる。これを称して経済循環とよぶが、わが国の1年間の規模は平成7暦年のGDPによって483兆円に達すると評価されている。

一つの国民経済を眺めようとするれば、このように大きな集計量と接することが不可欠となる。このことは、数限りない取引が日々結ばれていることを考えればむしろ当然とも言えよう。こうした取引関係は複雑に入り込んでおり、その一つ一つを追跡すると、国民経済全体という大きな森の中に迷い込むことにもなりかねない。そこで、森の上に舞い上がって、これらの取引を上空から眺める工夫が生まれてくる。このような視点に立つ経済の分析手法が、巨視的(マクロ)分析とよばれ、経済全体の活動の成果を集計量でとらえようと編み出された国民経済計算の整備とともに発展してきたのである。そこでは、無数の複雑に絡みあった諸取引を、いくつかの類似した性質を共有するグループ(経済主体)毎に分け、それぞれの取引額を記録し、そして経済主体のさまざまな取引相互間の依存関係を説明しようとするところに狙いがさだめられている。

他学部履修科目

講義の内容・授業スケジュール

1. 「国民経済計算の話」 5回
GDP, GNPなどの経済指標や消費、投資、輸出入などの国民経済全体をとらえる単位を理解することと、さまざまな諸取引間の相互関係を日本経済の循環図を通してとらえることが主題である。
《参考》経済企画庁「平成6年日本経済の循環図」(配布資料)
2. 「総需要・均衡産出量・均衡所得」 4回
いわゆる単純なケインズ派の所得決定理論が、モデル分析に則って説明され、次の第3講で活躍するIS曲線の基礎理解を得ることが目標となる。このテーマの終了後、練習問題を解くレポートが課せられる。解答は配布され、解説は授業の中で行なわれる。
《参考》中谷巖『入門マクロ経済学』(日本評論社)第3章
3. 「貨幣・利子および同時均衡」 8回
この段階で貨幣の果たす役割が明示的に導入され、前講までの主題との接合がはかられて、IS曲線とLM曲線を主な武器とする分析が進められてゆく。モデルを用いた説明が中心となるが、日本経済の現況との関連が説明の中に登場する機会も増えてゆくであろう。また、利子率に触れるとき、預貯金の利率に加えて有価証券の利回りにも馴染んでもらうことになるであろう。その他、国家公務員、地方公務員、国税専門官などの専門科目試験の例題を示す事もある。本テーマの終了時にも、簡単な練習問題がレポートの課題として課せられる。正解と解説は授業中で示す。
《参考》伊達邦春(編)『マクロ経済学』(八千代出版)第9章
4. 「金融政策、財政政策」 4回
前講までの内容が理解できれば、金融政策と財政政策の発動によって、望ましい所得水準を達成するプロセスは比較的容易に理解できるものと思われる。その上で、国内および国際的クラウディング・アウト効果が取り扱われる。アメリカのベトナム戦争時に生じた国内的クラウディング・アウト効果に関するケース・スタディは興味をよぶのであるまいか。
《参考》ドーンブッシュ・フィッシャー『マクロ経済学(上)』(CAP出版)第4章
5. 「労働市場を組み込んだ総需要・総供給分析」 5回
ここまで扱われてきたのは、財・サービスの市場と貨幣市場であったが、これに労働市場が明示的に組み合わせられる。さらに物価の変動が重要なテーマとして加わる。

成績評価の方法

基本的には期末試験による。2回の練習問題に対するレポートは一定の評価対象となりうる。再試験は実施。

教科書

R. J. ゴードン『現代マクロエコノミクス(上)』(第6版)(多賀出版)

科目名	担当者名	配当学科	単 位
中小企業論	和田 耕 治	経 営	4

講義のねらい

平成8年度版「事業所統計」によると、わが国の第1次産業を除く約650万の事業所の内、中小企業所は98.9%を占めており、大企業所は0.7%に過ぎない。また、雇用者数についても、総雇用者、約5,435万人の内、中小事業所で雇用されているものは、80.4%、大企業所では19.6%となっている。このようにみていくと、中小企業はわが国経済において、大きな位置にあるといえる。本講義は、わが国経済で大きな地位を占めている中小企業の実態を踏まえつつ、今日までの中小企業研究の蓄積に基づいて、理論的水準を落とすことなく進めることとする。

講義の内容・
授業スケジュール

中小企業に関する実態や問題を理論的、歴史的に把握した上で、中小企業を構造的視点により考察する。また、近年、中小企業研究は非常に多面的な展開を示している現状を鑑み、最新の研究動向について、触れることとする。さらに、必要に応じて、視聴覚教材を用いることにより、受講者の問題意識を鮮明化させる。

成績評価の方法

期末試験とレポートによる評価とする。片方だけの提出は合格点にはならない。

教 科 書

三井逸友編著『現代中小企業の創業と革新（仮題）』（同友館）近刊

参 考 書 等

中小企業庁編『平成13年度版中小企業白書』（大蔵省印刷局）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
社 会 政 策	みつ 光 おか 岡 はく 博 み 美	経 営	4

講義のねらい

社会政策とは、資本主義社会で発生する社会問題や労働問題を体制内において解決する思想や政府の政策を意味している。この社会政策という学問は19世紀の半ばに、その当時のヨーロッパでは後進国であったドイツで発生したが、やがて近代化をめざす日本に紹介された。この意味で、戦前から社会政策学は日本の経済学のなかでも重要な位置を占めてきたが、それは戦前日本の経済学がドイツ経済学から大きな影響を受けてきたからであった。

戦後の時代になると、社会問題や労働問題の処理は、政府の政策によってだけではなく、国民の権利を前提にして、その解決が意図されるようになってきた。殊に、労働問題は政府の介入を避け、労使の自主的な団体交渉によって事態に対峙していくという方向に向かった。労働基準法、労働組合法、労働関係調整法といった労働法体系は、このような体制を作り出すために制定された法律だったのである。

このような現実世界の変化は、社会・労働問題へのアプローチの方法として、労使関係論の学問は発達を促すこととなった。戦後の日本においても欧米社会で開拓された労使関係論を吸収し、労使関係をその実態に即して理解しようという研究が大きな影響を及ぼしている。

なお、全体の講義を通じて、その時々社会政策や労働運動・社会運動によってどのような問題が解決され、どのような問題が未解決のまま残されその解決が迫られているのかを考えてみることにする。

講義の内容・授業スケジュール

そこで、上に述べたような社会政策論や労使関係論の動向を視野に置いたうえで、本年度は、次のような講義内容で授業を行うこととした。

- (1) 社会改良の思想と理論
- (2) 労使関係論の思想と理論
- (3) 日本における社会政策・労働問題（戦前）
- (4) 日本における社会政策・労働問題（戦後）
- (5) 戦後日本における労使関係の展開
- (6) 高齢化社会と社会保障
- (7) 日本の労使関係の現実と未来

上にのべた(1)～(7)のテーマについて、各々約3回程度の講義を予定している。しかし、時には、社会政策や労働問題を勉強するための専門書の解説、最近注目されている外国人労働者問題やフェミニズム論、また私が専門的に研究してきた問題なども解説したいと考えている。

履修上の留意点

特にないが、これまでは毎年かなりの数の履修者がいるために教場も比較的大きな教場であった。そのためか、時として後部座席での私語が目立った。教場での私語は慎むこと。また私の講義では黒板をフルに利用するので、受講者はなるべく黒板の近くで聞いてほしい。

成績評価の方法

本年度は前期末に試験を行うか、あるいはレポートの提出を求める。どちらにするかは適当な時期に講義のなかで指示する。年度末試験については2～3週間前の授業で詳しく解説する。成績評価は前期末の試験かレポートと年度末試験の成績による。なお、再試験は実施しない。

教 科 書

特にないが、講義の内容と関連して参考書を適時指示する予定である。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
教育経済論	谷 敷 正 光	経 営	4

講義のねらい

この講義は経済発展に産業教育が果たした意義とその役割について明らかにするのがねらいである。

日本は近年、「経済大国」として世界的に認められるようになったが、この発展を築いた基礎に日本の高い教育水準と人材養成があるといわれている。そして欧米各国では経済面での国際競争力の低下が教育水準の低下と密接に関連しているとの観点から日本の産業教育政策を解明するとともに、2000年に向けて一連の教育改革を行ってきた。アメリカの「危機に立つ国家」「全米教育サミット」「アメリカ教育法」、イギリスの「教育改革法」「二十一世紀に向けての教育・訓練」、フランスの「ジョスパン法」など各国の改革の中心は厳しい経済競争に勝ち残るための教育水準の向上、教育に市場原理の導入、高等教育の質的充実、教育投資の拡大など教育を「国の最優先課題」と位置づけている。

そこで本年度は、こうした欧米先進国の経済再建と教育改革の動向、日本の経済と教育の現状をまず明らかにする。

次に、外国からは高く評価されている日本の高い教育水準、人材養成教育を戦前は産業資本確立期を中心に、戦後は朝鮮戦争を契機に復興した経済復興期から平成景気までを中心にそれぞれの経済発展段階の特徴とそれに応じた産業界の人材教育要求と国の教育政策、産業教育政策を明らかにしたい。

講義の内容・授業スケジュール

1. 先進国の経済発展と教育
 - (1) 日本の産業化とリテラシー・識字率
 - (2) 日本の経済成長と教育
 - (3) アメリカの教育最前線 (ビデオ)
 - (4) レーガン大統領の経済と教育1 「危機に立つ国家」 (一部ビデオ)
 - (5) レーガン大統領の経済と教育2 「国家は応える」 (一部ビデオ)
 - (6) ブッシュ大統領の経済と教育1 「全米教育サミット」 (一部ビデオ)
 - (7) ブッシュ大統領の経済と教育2 「2000年のアメリカ」 (一部ビデオ)
 - (8) クリントン大統領の経済と教育「アメリカ教育法」 (一部ビデオ)
 - (9) サッチャー首相の経済と教育「教育改革法」 (一部ビデオ)
 - (10) メージャー首相の経済と教育「競争力白書」 (一部ビデオ)
 - (11) ブレア首相の経済と教育「知のネットワーク」 (一部ビデオ)
2. 戦前日本の経済発展と実業教育政策
 - (12) 学制時代における経済と教育1 富国強兵・殖産興業 (映画)
 - (13) 学制時代における経済と教育2 学制公布と「行政管理学校」
 - (14) 教育令時代における経済と教育1 工場払下と産業の勃興 (一部ビデオ)
 - (15) 教育令時代における経済と教育2 教育令公布と実業補習学校・徒弟学校
 - (16) 学校令時代における経済と教育1 産業革命と産業の発展 (一部ビデオ)
 - (17) 学校令時代における経済と教育2 学校令公布と実業教育・「機業地学校」
 - (18) 実業学校令時代における経済と教育1 資本主義の確立 (一部ビデオ)
 - (19) 実業学校令時代における経済と教育2 実業学校令公布と「委託教育」「企業内学校」
3. 戦後日本の経済発展と産業教育政策
 - (20) 復興期の経済発展と教育 産業教育振興法公布 (一部ビデオ)
 - (21) 高度成長第1期の経済発展と教育 (一部ビデオ)
 - (22) 高度成長第2期の経済発展と教育 (一部ビデオ)
 - (23) 高度成長第3期の経済発展と教育 (一部ビデオ)
 - (24) 高度成長終焉後の経済発展と教育

履修上の留意点

- ① 年間5～6回程度小テストを実施し、平常点とする。
- ② 現実的理解のためにビデオ・映画を使用する。
- ③ 毎時間、講義用のプリントを配布する。一度配布したプリントは、後の時間では配布しない。
- ④ 毎時間かなり板書するので、黒板が見えにくい人はできるだけ前に着席のこと。

成績評価の方法

- ① 授業中の小テストと期末試験の成績によって評価する。
- ② 再試験を実施する。

教科書

毎時間、講義の教材として年間40～50枚のプリントを配布するので、教科書は特に使用しない。

参 考 書 等

参考文献は講義の中で適宜紹介するので、興味のある人は読んで講義の参考にして下さい。

- 土志田征一『レーガノミックス』(中公新書)
原田和明『ブッシュの米国経済』(日本経済新聞社)
大原進『クリントンの米国経済』(日本経済新聞社)
小林泰宏『アメリカで進む教育改革』(朝日新聞社)
森嶋通夫『サッチャー時代のイギリス』(岩波新書)
G・メイナード『サッチャーの経済革命』(日本経済新聞社)
舟場正富『ブレアのイギリス』(PHP 新書)
ブライアン・サイモン『現代の教育改革・イギリスと日本』(エイデル)
A・グリーン、J・ハリスン『英国病』(新評論社)
楫西光速『日本資本主義発達史－産業資本の成立と発展－』(有斐閣)
猪木武徳『学校と工場』(読売新聞社)
三好信浩『日本の女性と産業教育－近代産業社会における女性の役割－』(東信堂)
天野郁夫『教育と近代化』(玉川大学出版部)
沼口博『学校教育と経済発展』(学文社)
その他は講義の中で紹介します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
ア ジ ア 経 済 論	ちよん 鄭 ちゃん 章 よん 淵	経 営	4

講義のねらい

この講義では、受講生諸君のアジア経済に対する理解を深めるために、アジア経済を歴史・理論・現状分析の3分野に大きく分け、できるだけその全体像に迫る予定である。基本的な視座としては、1960年代以降本格化したアジアの経済発展を20世紀後半期に新たに勃興した資本主義発展の事例と捉え、その特徴並びに発展と矛盾のメカニズムの解明に焦点を当てる。その際、従来のアジア経済論のように（典型的には、新古典派開発経済学）工業化の本格化した60年代以降の時期にのみ注目するのではなく、その「前史」をなす時期（特に、植民地期や戦後1950年代までの時期）も射程に入れて、通史的に経済発展過程を捉える。また、60年代以降の工業化過程において常に経済発展をリードしてきたアジア国家の役割を重視し、「開発独裁」概念を援用した分析を試みる。そして、あくまでもアジアに視座を置きつつも、現在に至る歴史過程において、その都度、アジア経済に決定的な影響を及ぼしてきた世界経済の動向にも注意を払いたい。

講義の内容・授業スケジュール

〔前期〕

1. 経済発展の前史
 - (1) 植民地経済の概要
 - (2) 戦後経済発展の初期条件
2. アジア NIEs の経済発展
 - (1) アジア NIEs の範疇と経済発展の特徴
 - ※ NIEs の用語説明、経済開発戦略の特徴、産業的特徴
 - (2) 開発独裁体制の成立
 - ※ 韓国の事例、その他の開発独裁
 - (3) 経済発展と民主化の弁証法
3. ASEAN 諸国の経済発展
 - (1) タイ・マレーシア・インドネシアの経済発展過程
 - (2) ASEAN の歴史
 - (3) 日本企業の進出状況

〔後期〕

4. アジア社会主義諸国の開放政策
 - (1) 中国の開放政策
 - (2) その他……ベトナム、北朝鮮
5. アジア経済発展論の系譜
 - (1) アジア NIEs 論
 - (2) 東アジア経済発展論
6. アジアにおける地域経済協力
 - (1) APEC の発展過程
 - (2) ASEAN の自由化過程
 - (3) その他の中小規模経済圏
7. アジア経済の現状
 - (1) アジア通貨危機の発生とその影響
 - (2) その他の諸問題…環境問題 etc.
 - (3) 日本とアジアとの関係の展望

成績評価の方法

前後期二回のペーパーテストと夏期レポートで総合的に評価する。試験の際に自筆のノートを参照にしてもらうので、講義中ノートをよくとってもらいたい。追・再試験を実施する。

教科書

特に定めないが、準テキストとして以下の文献を読んでもらいたい。
大野健一・桜井宏二郎『東アジアの開発経済学』（有斐閣アルマ）2,000円（税抜き）

参考書等

参考文献については、講義中に随時紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
ア メ リ カ 経 済 論	瀬 戸 岡 紘 <small>せ と お か ひろし</small>	経 営	4

講義のねらい

現代のアメリカ経済事情を幅ひろくわかりやすく解説します

最新のアメリカ情報と、過去の私のアメリカ生活および研究活動でのエピソードを多数まじえながら、今日のアメリカ経済事情について、幅ひろく、トータルな解説をするのがこの講義です。それとともに、アメリカのできごとと関係のふかい世界の情勢を、ひろく検討します。

特別な経済学の予備知識がなくても理解できる授業です

この講義を受講するために特別な経済学の予備知識は必要としません。経済学部以外の学生でも十分に理解できるように、理路整然と、わかりやすく話をすすめます。しかし同時に、アメリカ経済につよい関心をもつ学生諸君には、さらにふかめた研究をしていく動機をつかめるような学問的挑発をしてみようかとも考えています。他方、講義でとりあげるニュースとキーワードは、就職などでの試験を受けようとする者にも役にたつものとなるでしょう。全体として、この講義は、いわゆる専門的な特定領域の探究をこころみるものではなく、奥ふかく興味のつきないアメリカ経済の世界に諸君を道案内するものなのです。

アメリカ経済について自力で学習していく力をつけることが目標です

受講者のみなさんが、アメリカ経済について自分の力で学習研究していくための動機をつかみ、その基礎的能力をつけることが、この講義のねらいです。ビデオの多用とか、資料の過剰な配布などはしませんが、それもむしろ受講者諸君が自力でビデオを活用し、資料を収集する力量がつくように指導したいと考えるからです。この講義は、新入生から卒業年度生まで、いずれの学年でも受講できますが、以上にのべたこの講義の性格からして、3年生までに受講することをすすめます。

講義の内容・授業スケジュール

年間をとおしてきくと現代のアメリカ経済の全体の輪郭がわかるように講義を組んでいます。とりあげるテーマにはおおむね以下のような項目を予定していますが、すべてをとりあげることは時間の制約上むずかしいので、受講者の要望の強いものから優先的に講義していきます。

《導入の話題》

◇大統領の今年の経済政策とアメリカ経済の近況

《総論》

◇アメリカの建国の理念と現代の経済

◇アメリカ経済の歴史的過程

《アメリカ経済各論》

◇アメリカの農業

◇アメリカの工業

◇アメリカの企業家とベンチャービジネス

◇アメリカの雇用と労働者

◇アメリカの商業とサービス

◇アメリカの交通・通信・情報

◇アメリカの金融

◇アメリカの教育と経済

◇アメリカの科学技術

◇アメリカの先端産業

◇アメリカ経済と環境問題

◇アメリカ社会とヴォランティア

◇女性・マイノリティとアメリカ経済

《世界とアメリカ》

◇国際通貨ドルの地位とIMF

◇アメリカと貿易 (GATT と WTO)

◇アメリカ軍の世界的ネットワークとその経済的意義

◇アメリカの海外援助

◇アメリカの多国籍企業

◇多国籍企業とアメリカ経済

《アメリカと世界の諸地域》

- ◇アメリカとEU
- ◇アメリカと日本
- ◇アメリカとアジア・太平洋
- ◇アメリカとカナダ・メキシコ

《むすびの話題》

- ◇アメリカの経済学（あたらしい学派の見解）

授業の方法

1回の講義でひとつのテーマをとりあげます

原則として1回ごとに独立したひとつのテーマをとりあげ、完結させるように話します。毎回の講義では、まずテーマに即した最新のニュースを話題にするところから話をはじめ、ついでそれぞれのテーマを理解するための基礎的な事実とキーワードを具体的な資料やデータにもとづいて解説します。各講義のしめくりは、ふたたび今日的话题にもどって、その日の講義で学んだことが現実経済のなかでどのように機能しているのかを確認します。

あたらしい情報やトピックスを、解説つきで、つねに受講者に紹介します

年間予定とは別に、あたらしいニュースや情報は、随時、解説をつけて、お話しします。ただし、ただあたらしいことを追うばかりにおちいらぬで、ことの真相や本質的なことがらを、ちょっとたちどまって考えることができるような、多少とも理論的な視角をもちこみます。トピックスのコーナーは、この講義の大きな特色として位置づけています。

アメリカの諸大学にみられる長所をとりいれた授業です

講義は、極力、受講者諸君の希望をいかして楽しくすすめるつもりです。とくに、この講義には、アメリカの大学に見られる望ましい習慣をとりいれるようにこころがけています。たとえば、ながい時間の講義に諸君がつかれて集中力をおとさないように、講義の途中で小休止をおくようにしています。講義のなかでの受講者諸君の発言や質問は大歓迎です。講義にたいする受講者の側からの評価や採点、改善提案などは、もちろん今年も実施します。

成績評価の方法

熱心な受講者には楽勝の、単位だけがほしい学生には恐怖の科目です

年間をとおして随時、ほぼ授業2～3回につき1回の割合で受講者のみなさんに小論を書いてもらい、それをもって成績評価をします。それぞれ前回または前々回の講義の内容にかんすることを書いてもらうことになるので、おのずと授業には恒常的に出席していないとよい成績がとれないこととなります。

この講義については、いわば単位をかすめとることなど考えないほうが無難でしょう。すすんで受講しようとする者には退屈させない楽しい講義をするつもりですし、またそういう受講者がよい成績をおさめられるようにしているからです。この平常点重視のたてまえから、一発勝負の年度末試験は、受講者の強い要望がないかぎり実施しない方向です。また、この成績評価のたてまえから、再試験も実施いたしません。

教科書・参考書等

最新の情報をもとに講義をすすめます。だから特定のテキストは使用しません

この講義では、特定の図書を教科書として使用しません。アメリカ経済をあつかった文献はあまりにたくさんあって、しかもどの一冊も、これさえ読めばアメリカ経済が把握できるというほどアメリカ経済は単純ではないからです。講義では、その都度よい文献などを紹介していきます。日々のニュースと諸君の周囲にあるさまざまなアメリカものの本の全体が、この講義の教科書ですが、今、どうしてもといわれれば、グリーンバーグ著『資本主義とアメリカの政治理念』（瀬戸岡訳 青木書店 1994年）をおすすめします。

科目名	担当者名	配当学科	単位
ロシア・東欧経済論	やまがたひろし 山 縣 弘 志	経 営	4

講義のねらい

外国経済研究の課題を、その経済事情に通じることという形で、狭く設定する必要はないので、各自の問題意識に引きつけてとらえてもらえばよいが、とりわけ、独特のソ連経済からロシア的・資本主義的・市場経済への転換を、資本主義世界経済のあり方、日本経済のあり方を念頭に置きつつ講義する予定である。その際、ソ連経済史の評価のためには社会主義論の捉え直しが不可欠であり、他方で政策も含めた経済現象の総体を文化的基盤と切り離して論じることはできないから、常に総合的視点と批判精神を伴った受けとめを期待する。

講義の内容・授業スケジュール

ソ連邦が解体し、東欧諸国も再編成されて、一つの歴史的移行過程にあるが、「どこからどこへ？」の問題は必ずしも決着済みではない。この地域が従来の歴史的経緯を背負って今後も多少とも独自の経済圏を形成していくことは確かであろう。

ロシア・東欧圏は、ヨーロッパとアジアにまたがりオリエントと接するユーラシア地域として、独自の、また内部的には多様な文化を醸成してきた。この地域は、帝国主義の時代に入って、第1段階としてロシア革命、第2段階として第2次大戦を契機に社会主義をめざすことになった。そしてその歴史は通例まぎれもない社会主義の歴史として通俗的に理解されてきたが、本来は社会主義の模索として開始されたものであり、社会主義に到達しえたか否か自体が吟味の対象である。これは同時代史の問いかけに応えるために必要な認識であろう。

社会主義論の歴史的な捉え直しの上に立って、1930年代にソ連邦で形成され40年代に東欧に移植された独特の体制の認識が深まれば、「どこからどこへ？」の問題の第1段階に答える可能性が生まれるであろうし、その第2段階を検討することは、我々の時代の当面している課題を明らかにすることに通じるであろう。

1. 社会主義とロシア革命
 - (1) 社会主義論とマルクス
 - (2) ロシア革命のめざしたもの——レーニン時代——
2. ソ連経済体制の成立とスターリン時代
 - (1) 1920年代から30年代への転換
 - (2) ソ連型「社会主義」の特質と行きづまり
3. 「計画経済」と经济管理システム
 - (1) 「計画経済」の成立と実態
 - (2) ソ連型经济管理システム
4. ソ連経済の生産力水準
 - (1) 経済構造の特質と軍事生産
 - (2) 工業生産力と工業技術
 - (3) 農業問題
5. 停滞からペレストロイカへ
 - (1) 経済改革の時代
 - (2) プレジネフと停滞の時代
 - (3) ペレストロイカとその挫折
6. ロシア・東欧経済の現状と課題
 - (1) ロシア・東欧の文化と社会
 - (2) 資本主義化の諸問題
 - (3) ロシアと日本——比較経済史——

履修上の留意点

トピックスにコメントすることが多いと思われるので、必ずしも授業計画通り、またその全てを網羅して進むとは限らないが、部分から全体を照射するように心がけたい。敢えて挑発的な講義にしたいので、学生諸君にはステレオタイプから脱して自分自身の頭で考えることを期待する。

成績評価の方法

成績評価はレポート（9月提出、40点配点）と定期試験（自筆ノート持込み可、60点配点）によって行う。模範答案等の丸写しは認めない。オリジナリティを評価する。
再試験あり。

教科書

教科書はない。参考書は適宜指示する。歴史の見直しが必要とされ、変化の激しい時代に、万全の教科書はありえない。

その他

教科書はないので、授業中にノートを取るの当然のことになるだろう。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
商 業 政 策	いわ した ひろし 岩 下 弘	経 営	4

講義の内容・
授業スケジュール

- 一 わが国の小売商業構造と蓄積構造
 - 1 90年代の小売商業構造
 - 2 80年代の大手小売業の資本蓄積構造
 - 3 90年代の大手小売業の資本蓄積構造
- 二 わが国の流通政策論
 - 1 中小小売商保護政策論
 - 2 流通近代化政策論
 - 3 流通システム化計画論
 - 4 流通革命論
- 三 流通ビジョンと流通政策
 - 1 70年代の流通
 - 2 80年代流通産業ビジョン
 - 3 90年代流通ビジョン
 - 4 21世紀へ向けた流通ビジョン
- 四 わが国の小売商業調整政策の展開過程
 - 1 百貨店法
 - 1) 第一次百貨店法 2) 第二次百貨店法
 - 2 中小小売商業振興法
 - 3 小売商業調整特別措置法
 - 4 大店法
 - 1) 1973年法 2) 1979年改正法
 - 3) 1991年改正法
 - 5 凍結宣言、要綱及び条例
 - 6 通産省による行政指導=抑制措置
 - 7 規制緩和
 - 1) 規制緩和の流れ-前川レポート、行革審報告
 - 2) 日米構造問題協議 3) 適正化措置
 - 8 特定商業集積法
 - 9 街づくりと都市計画
- 五 流通政策の転換
 - 1 大店立地法
 - 2 中心市街地活性化法
- 六 海外の流通政策
 - 1 イギリス
 - 1) 出店調整政策-都市・農村計画法
 - 2) 日曜営業問題-商店法
 - 2 フランス-ロワイエ法
 - 3 ドイツ-土地利用計画
 - 4 アメリカ-ゾーニング規制

成績評価の方法

定期試験、レポート、出席により評価。再試験は実施しない。

教 科 書

指定しない

参 考 書 等

その都度指示する

科目名	担当者名	配当学科	単位
貿易論	ふるさわ こうぞう 古 沢 紘 造	経営	4

講義のねらい

オゾン層破壊、熱帯林破壊、温暖化、酸性雨、放射能汚染など地球を取り巻く環境はますます深刻になっています。一方、私たち生命体は水・大気・土壌の汚染により生存を脅かされるところまで来ています。本講義では、こうした危機的状況を踏まえ、生命系の経済学の立場に立って、貿易問題、さらには国際分業のあり方について深く考えてみたいと思います。その中で、経済学、生態学、倫理学からなる総合的視角の重要性を認識しつつ、私たちの生活のありようを問うことにも力を注ぎたい。

生命系の経済学とは、人格をもった人間としてのニーズ、環境、資源、地球のすべての生命との共存、などを基準とした主体的な指標の確立と、それを実現し保証する政策と運動を具体的に提出する経済学です。詳しくはポール・エキンズ編著『生命系の経済学』（御茶の水書房）を読まれるとよいでしょう。

講義の内容・授業スケジュール

- I. 生産・消費と貿易
 1. 農産物と貿易
 2. 水産物と貿易
 3. 林産物と貿易
 4. 鉱物資源と貿易
 5. 工業製品と貿易
- II. 政治・経済・社会と貿易
 1. 開発援助と貿易
 2. 環境と貿易
 3. 公正と貿易
 4. グローバリゼーションと貿易
 5. 持続可能な発展と貿易

具体的な内容については、最初の講義のときに話したい。

成績評価の方法

ペーパーテスト、レポート、討論、報告発表など、できれば多面的な評価を試みたい。答案やレポートを書くとき、論点を明確にし、自分の考えをしっかりと出すように努力してもらいたい。思考の跡がうかがえないものは、評価の対象とはならないでしょう。再試験を実施する。

教科書

とくにこれといった教科書は使いません。専門用語などむずかしいことは、そのつど説明しますので、授業に出てもらえれば内容は充分理解できると思います。

参考書等

講義の中で特に興味をもち、もう少し掘り下げてみたいことがありましたら、遠慮なく相談にきてください。参考になる本など教えます（研究室：第2研究館、4階34号室）。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
行 政 法 各 論	さいとう ひさし 齊 藤 寿	経 営	4

講義のねらい

「各種行政法原理の究明」

1年間・全体を通して、極めて楽しい雰囲気の中で、各種行政法の法理究明を、興味深く行います。特にこの講義は、生きた行政法を重視しながら行います。

講義の内容・
授業スケジュール

- 第1回 「行政組織法」の概要について。
- 第2回 国家行政組織法について。
- 第3回 内閣法について。
- 第4回 行政官庁について。
- 第5回 府・省・委員会・庁・地方支分部局について。
- 第6回 人事院と会計検査院について。
- 第7回 地方自治法について。
- 第8回 地方公共団体の種類と性質と区域と名称について。
- 第9回 大都市の特例と特別地方公共団体について。
- 第10回 公共組合と営造物法人について。
- 第11回 地方公共団体の議決機関と執行機関について。
- 第12回 地方公共団体の住民の諸権利と事務と権能について。
- 第13回 国と地方公共団体の関係について。
- 第14回 公務員法の概要について。
- 第15回 国家公務員法について。
- 第16回 地方公務員法について。
- 第17回 公物法について。
- 第18回 営造物法について。
- 第19回 「行政作用法」の概要について。
- 第20回 警察法・消防法・防衛法について。
- 第21回 警察行政における五大原則と規制手段について。
- 第22回 統制法について。
- 第23回 公企業法について。
- 第24回 公用負担法について。
- 第25回 公用取用について。
- 第26回 財政法について。
- 第27回 会計法について。
- 第28回 租税法について。
- 第29回 試験

履修上の留意点

※学生への要望

この講義は、楽しくかつ役に立つ講義です。私といっしょになって、「行政法各論」を楽しく研究してみませんか。

— 私が、みなさんを、「水飲み場」へ、ご案内します。

目には火を、顔には光をいだいて、ついてきて下さい。

Rouse up, O, Young Men of the New Age! (目覚めよ、新時代の若者たちよ!) — との、イギリスの詩人、ウィリアム・ブレイクの叫びを、この際、みなさんに送らしましょう。

成績評価の方法

試験の成績とレポートの成績を合わせて、学年の成績とします。

教 科 書

拙著の中から、講義の際、選択・指示します。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
親 族 法	たけ なか ち か 竹 中 智 香	経 営	4

講義のねらい

民法典第四編にあたる「親族法」の講義を行う。親族法は最も身近な家族生活を規制する部分であることから、民法の他の部分に比べて、初めて法律を勉強する者にとっても取り組みやすいと思われる。本講義では、家族という身近な問題の検討を通して民法になじみ、法的な視点・考え方を身につけることを目指す。

講義の内容・授業スケジュール

親族法の講義ではあるが、民法の初学者にとってわかりやすい私法入門であることも目指したい。民法の中でも親族法は、家族生活を規制する法律であるために、財産法の領域と異なる特徴を有している。この相違と親族法の特徴、さらに欧米家族法と比較したときのわが国の親族法の特徴を示しつつ、親族・婚姻・離婚・親子・親権・後見・扶養について順次論説していく。また、親族法に関する今日的な問題にも、できる限り触れたい。

履修上の留意点

教科書を読んだうえで講義に出席することが望ましい。

成績評価の方法

おもに定期試験によって成績を評価するが、出席状況などの平常点も加味する。

教科書

遠藤浩ほか編『民法(8)親族〔第4増補版〕』(有斐閣双書) 1,600円

参考書等

久貴忠彦・米倉明編『家族法判例百選〔第5版〕』(有斐閣) 2,200円
六法

科目名	担当者名	配当学科	単 位
相 続 法	たけ なか ち か 竹 中 智 香	経 営	4

講義のねらい

民法典第五編にあたる「相続法」の講義を行う。わが国の相続法は、戦前の家督相続から戦後の均分共同相続へと変遷し、さらに今日においては遺言制度の利用も増加するなど、大きく変化している。本講義では、こうした動向とその背景の理解とともに、財産法の応用問題といわれるほど難解な相続法の理解を図りたい。

講義の内容・授業スケジュール

わが国の相続法の変遷とその背景を検討したうえで、相続人・相続の効力・相続の承認および放棄・財産の分離・相続人の不存在・遺言・遺留分について、順次論説していく。

履修上の留意点

教科書を読んだうえで講義に出席することが望ましい。

成績評価の方法

おもに定期試験によって成績を評価するが、出席状況などの平常点も加味する。

教科書

遠藤浩ほか編『民法(9)相続〔第4増補版〕』(有斐閣双書) 1,600円

参考書等

久貴忠彦・米倉明編『家族法判例百選〔第5版〕』(有斐閣) 2,200円
六法

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
西 洋 法 制 史	きたの 北 野 かほる	経 営	4

講義のねらい

イギリスの法制度の歴史を、社会の法的構造と国家統治機構のかかわりを軸に解説する。特に注目される法的現象を挙げながら、各時代毎の法制度の全般的特徴と、基本的社会・政治構造との関連について考察する。

講義の内容・
授業スケジュール

- 第1部 総論
 - 第1章 法制史学概説
 - 第1節 法制史学の方法と対象
 - 第2節 法制史学の目的と効用
 - 第3節 イングランド法制史学の対象と方法
 - 第2章 イギリス歴史学の基本的知識
 - 第1節 時間的範囲
 - 第2節 空間的範囲
- 第2部 イングランド法制史
 - 第1章 古代
 - 第1節 歴史過程
 - 第2節 社会構造
 - 第3節 法構造
 - 第2章 中世 (1066-1350)
 - 第1節 歴史過程
 - 第2節 社会構造Ⅰ 中世ヨーロッパの封建制
 - 第3節 社会構造Ⅱ イングランドの封建制
 - 第4節 統治構造 封建制の解体
 - 第3章 近世 (1350-1650)
 - 第1節 歴史過程
 - 第2節 社会構造
 - 第3節 統治構造
 - 第4節 法構造

履修上の留意点

講義中の私語・騒音は厳しく規制する。予め十分留意すること。

成績評価の方法

論文式筆記試験 (後期試験期間・年1回)

教 科 書

特に指定しない。

参 考 書 等

年度当初に指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
英 米 法	<small>きた</small> の 北 野 か ほ る	経 営	4

講義のねらい

近現代法治国家の主要法系のひとつである英米法系について、日本法を含む大陸法系と比較しての基本的特徴を外観し、その主要な理由をなすと考えられる、法形成における裁判の意味について、司法機構と判例法を中心に考察する。

講義の内容・授業スケジュール

- 第1編 概論
 - 第1章 法系論
 - 第1節 西洋近代法の法系
 - 第2節 英米法系の特色
 - 第2章 英米法の特徴
 - 第1節 法内容の歴史性
 - 第2節 法観念の社会性
 - 第3節 法思考の実務性
 - 第3章 判例法の理論
 - 第1節 総論：「判例法主義」
 - 第2節 先例拘束性の原理
 - 第3節 判決における「法」
 - 第4節 法形成作用
- 第2編 司法制度
 - 第1章 裁判所制度
 - 第1節 イギリス
 - 第2節 アメリカ合衆国
 - 第2章 訴訟過程
 - 第1節 英米訴訟制度の特徴
 - 第2節 陪審

履修上の留意点

講義中の私語・騒音は厳しく規制する。予め十分留意すること。

成績評価の方法

論文式筆記試験（後期試験期間・年1回）

教科書

特に指定しない。

参考書等

望月礼二郎『英米法（改訂第二版）』（青林書院）現代法律学全集55 5,150円
その他の参考書：年度当初に指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
経 済 法	おが だ と し ひろ 岡 田 外 司 博	経 営	4

講義のねらい

独占禁止法は、企業の経済活動に関する世界共通のルールとしてますます重要になりつつあるのみならず、実は私達の生活にも深く関わっている。ところが、独占禁止法の条文を見ると、一般になじみのうすい抽象的な用語が並んでいて難解であり、その理解は決して容易ではない。そこで、本講義では、最初数回は理論的問題にも触れるが、その後は独禁法の規制の内容とその実際の解釈運用について、具体的事例を多くふまえてできるだけわかりやすく解説することを目標にしたいと考えている。

講義の内容・授業スケジュール

講義は2回に1枚プリントを配布し、そのプリントに書かれた設問にこちらの方で答えて行くという方法をとる。

履修上の留意点

プリントを受け取らずに講義を聴いても意味がないので、出席は取らないが、講義に出席して少なくともプリントを受け取ることを勧める。

成績評価の方法

試験（後期1回のみ）によって判定する。

教 科 書

丹宗暁信・厚谷襄児編『新現代経済法入門』（法律文化社）

科目名	担当者名	配当学科	単 位
国 際 政 治 学	みなみ やま あつし 南 山 淳	経 営	4

講義のねらい

近代ヨーロッパに成立した国民国家体系は「戦争」と「新たな世界秩序の構築」というサイクルを描きながら、地球全体を覆うまでにその規模を拡大してきた。他方、「グローバリゼーション」に象徴される国境を越えた様々な活動の増殖が、今日では国際政治構造そのものに大きな影響を与えるようになってきている。

このような（国家間関係およびトランスナショナルな行為主体間の関係の総体としての）国際政治現象を構造として理解することが本講義の目的である。構造的な理解とは、近代から現代にいたる国際政治の動態のなかで「持続」と「変容」の領域を各々確定していく作業に他ならない。具体的には、変動する国際政治構造の全体像を歴史と理論の両側面を連関させながら検証していきたいと考えている。

講義の内容・授業スケジュール

前期は主権国家、国際的アナキー、権力政治、安全保障、相互依存等、国際政治学の基礎概念の理解と主要理論の概説に重点をおき、後期は地域紛争、グローバル経済、地球環境、ジェンダー等、冷戦後の国際政治における具体的諸問題を取り上げる予定である。詳細については開講時に述べる。

履修上の留意点

政治学、近現代史および国際問題に関する基本的な知識を整理したうえで受講すること。

成績評価の方法

レポートおよび定期試験。

教 科 書

特定の教科書は使用しないが、講義理解のために下記の参考書を読んでおくことを必須とする。

参 考 書 等

PR.ビオティ・M.V.カピ 著 (D.J.ウェッセルズ・石坂菜穂子 訳)
『国際関係論 第二版-現実主義・多元主義・グローバリズム-』（彩流社）1993年。
小林誠・遠藤誠治 編『グローバル・ポリティクス』（有信堂）2000年。
石井修 著『国際政治史としての二〇世紀』（有信堂）2000年。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
ヨーロッパ政治史	浦田早苗	経営	4

講義のねらい

現代西ヨーロッパの政治は、そこから多くのことを学んできた我々の先達が描いたほど理想的な状態で機能しているわけではなく、数々の矛盾にみちている。自由、平等の精神なり、『華やかなりし議会政治』の概念は、激動の現代政治のなかにあっては時として空虚な響きを投げかけてくることは否定できない。しかし、国家や政党、国民や民族といった西洋で生まれた近代政治の概念に再検討が迫られている今ほど、そうした概念の本質を成立した歴史過程のなかで考察することの重要性が問われたときはなかった。本講義では、近代ヨーロッパの歴史全般を概説しながら、ヨーロッパが抱える問題の本質を明らかにすること、及び現代政治を誤りなく把握する上で必要な基礎概念を検討することに視点がおかれている。

講義の内容・授業スケジュール

- 近代の始点—ルネサンス期と18世紀
- 英国革命とIRA
- ジャコバイトと英国王室
- 議院内閣制の成立変遷過程
- 英国における政治腐敗防止過程
- フランス革命と国家の概念
- フランス政治におけるジャコバン主義
- 「後発国型近代化」の問題点—ドイツの場合—
- 統合ヨーロッパの源流

成績評価の方法

前期レポート—7～8×400字—は任意ではあるが、年5～6回とる出席点とともに学年末試験に加算する。試験はあらかじめ提示した5問から2題出題する。(ノートの持ち込みは不可)

教科書

特に教科書は指定しないが、さらに詳細な研究を望む学生には適宜参考書を推薦する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
地方自治法	富井幸雄	経営	4

講義のねらい

日本国憲法下における地方自治の法制度を体系的に理解する。すなわち、昭和22年に制定された地方自治法が具体的にいかなる意味をもち現実化されているか、憲法の意図する地方自治の理念がそこに具体化されているかを批判的に検討する。平成12年度より、地方分権を旨とした新しい地方自治制度がスタートする。この改革がいかなる意義をもつのかをきみしめながら、新地方自治法の理念を理解する。

講義の内容・授業スケジュール

地方自治法の体系に沿って講義を行う。前期は、憲法と地方制度の関係を比較法的ならびに歴史的に考察を行った後、地方公共団体の概念、住民の地位及び権利、自治立法権について議論する。後期は、地方公共団体の事務、組織、財政、地方公務員制度について勉強する。教科書を基本に講義するが、毎回レジュメを配布し、それに沿って授業を行う。判例等の資料も適宜配布する。

成績評価の方法

前期試験(40%)と学年末試験(60%)で総合的に評価する。

教科書

開講時に指示する。

参考書等

原田尚彦『地方自治の法としくみ』(学陽書房)、『地方自治判例百選(第2版)』(別冊ジュリスト)

なお制度の概要を大まかに理解するには、鈴木正明他『図解 地方自治法』(良書普及会)は便利。地方自治の制度的問題を勉強するには、新藤宗幸『地方分権』(岩波書店)、同他『概説日本の地方自治』(東京大学出版会)は必読。

その他

講義では頻繁に法律の条文に言及するので、六法(『地方自治小六法』(学陽書房)があるがポケット六法でよい。)は必携。その都度チェックすること。平成12年度に地方自治法の大規模な改正がなされたので、必ず平成13年度版を購入すること。憲法や行政法の履修者が望ましいが、少なくとも両法分野について高い関心を持つこと。わからないことは遠慮なく質問に来て欲しい。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
立法過程論	まえ だ ひで あき 前 田 英 昭	経 営	4

講義のねらい

法律はどのような経過を経て、どのような人々の手によって、どのようにつくられるのかを勉強することによって、法律、政令、条例などの法令の起案の仕方や、社会生活において必要とされる規則のつくり方に習熟し、法令や規則の理解を容易にすることを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

立法過程とは、立法を中心に議会でのさまざまな決定をめぐって繰り広げられる議会内外諸勢力の公式・非公式の相互作用の実質的な過程であり、狭義には、議会内部での法律制定に関する立法手続の諸過程をさす。今年度は、後者を主として対象とする。

[取り上げるテーマ] 立法過程とは、国会における審議過程。立法過程における政府の役割。立法過程における議員の役割。内閣提出法律案。議員提出法律案。内閣法制局と議院法制局。常任委員会制。法律の体裁と用語の解説。法律・政令・条例。政府委員。審議会。会期制。会議の公開。委任立法（行政立法）。法律と予算。法律の公布・施行。その他サッカーくじ法など個別法案。（順不同）

履修上の留意点

この講義は、公務員志望の学生、立法機関としての国会や地方議会に関心のある学生向きである。できるだけ出席して国会職員としての経験談も聞き、講義のテーマに関連した時事問題の解説にも注目すること。

成績評価の方法

平常点と期末試験（ノート持ち込み可）

教科書

前田英昭『国会の立法活動』（信山社）

参考書等

小島和夫『法律のできるまで』（日本評論社）
 浅野一郎『立法過程』（ぎょうせい）
 前田英昭『国会の100年』（原書房）
 岩井奉信『立法過程』（東大出版会）
 林修三『法令用語の常識』（日本評論社）
 中村陸男・前田英昭『立法過程の研究』（信山社）

科目名	担当者名	配当学科	単位
比較政治学	三 ^み 竹 ^{たけ} 直 ^{なお} 哉 ^や	経営	4

講義のねらい

世界のいろいろな国で起きていることを手がかりに、さまざまな政治現象がどう説明されるかを、いっしょに考える授業です。

講義の内容・授業スケジュール

民主化、民族対立管理、移民政策という三つのテーマを柱にします。

履修上の留意点

専門科目の中でも専門性の高い授業として提供します。

成績評価の方法

期末試験は12月の授業期間中と、1月の定期試験期間中の二度です。授業中の発言や小テストでも得点できます。詳しいことは最初の授業で説明しますし、下記のホームページにも掲載しますので、履習登録される方は〈必ず〉参照してください。

教科書

高根正昭『創造の方法学』（講談社）640円

参考書等

授業中に指示します。

その他

最新の情報は、ゼミのホームページで確認できるようにします。法学部の公式ページからリンクをたどってきてください。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
現 代 国 家 論	おお つか かつら 大 塚 桂	経 営	4

講義のねらい

福祉国家の見直しが叫ばれて久しい状況にあります。大国・日本丸はどこへすすもうとしているのでしょうか。ありべき国家とは何か、が現代政治学にとって重要課題とされています。本講義は、諸君がいままで履修してきた政治学、憲法学などの学科目の知識をふまえて、現代国家の実相にせまるのを目的とします。

さしあたって、現代国家を理解するには、国家概念の展開を理論(史)的に整理することからはじめるのが、ベターでしょう。政治学の発達を顧みたととき、政治学=国家論であったことがわかります。講義では、隣接科目(憲法・行政法・政治制度・政治思想史・政治史・行政学)の研究成果を積極的にとりいれながら「国家」の問題を討究していきます。国家論は総合科学としての性格を有するからです。

講義の内容・授業スケジュール

- A 国家論の課題ならびに研究方法
 ①序論 ②官立アカデミズムの形成
 B 国家学説の史的展開
 ①古代国家学説 ②中世国家学説 ③近代国家学説 ④現代国家学説
 C 法治国家の構成原理
 ①法治国家論 ②政治制度 ③官僚制 ④国家緊急権
 D 行政国家の構成原理
 ①福祉国家論 ②ネオ・コーポラティズム ③シティズンシップ ④きたるべき国家像

成績評価の方法

- 受講生と相談の上で、以下のいずれかの方式によって単位を認定します。
 A方式(レポートによる単位認定)
 ~年4回の課題を提出してもらい成績を評価します。レポート作成を通して、読解力と書く能力を涵養します。
 B方式(試験による単位認定)
 ~ペーパーテスト(中間・期末)による評価です。
 C方式(AとBの折衷)
 ※ なお、B方式のみ追・再試験を実施します。

教 科 書

大塚桂『現代国家へのアプローチ』(成文堂)3,000円

参 考 書 等

上記教科書にかかげてある〈関連文献〉を参照のこと

そ の 他

私の研究室は、第2研究館8階(2835)にあります。電話は、3418-9377(直)です。質問など気軽に訪問してください。

科目名	担当者名	配当学科	単位
時事英語 (前期)	おが 岡 もと 本 まこと 誠	経営	4

講義のねらい

「時事英語」なる英語があるわけではない。英語でいえば“Current English”ということになろうか。文学作品でお目にかかるような構成や文体のものではないわけである。メディアの英語と考えてよい。

小説やドラマには起承転結というか、順を追ってプロットが展開され、終りに近くなってクライマックスに達する。時事英語では、これとは逆に、最初に話の内容を全部さらけ出し、重要な点から説明していく。この最初の部分を lead という。

かくして、内容の構成や文体の点で新聞・雑誌・放送といったメディアで接する英語についてはそれなりの認識が必要となる。本講義ではそういった分野の英語にふれることをねらいとする。

講義の内容・授業スケジュール

その日の朝のアメリカからの短波放送のニュースを聴き、そのニュースキャスターの原稿を作ってみる。英字新聞や Newsweek などの記事も併用する。受講する諸君はこの分野の語法である journalese に親しみ、新聞英語ぐらいは読み慣れるようにしてほしい。

履修上の留意点

世界の政治・経済の動きに注意を払ってほしい。それが社会の事象に対して問題意識をもつことに通ずる。こういう態度はいよいよ社会人になるときにモノを言う。講義中にケータイを鳴らした者は減点。

成績評価の方法

受講中の発表。小テスト。出席情況。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書等

『時事英語講座』(研究社)

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
応 用 計 測 学 (前 期)	かし お えい じ 檀 尾 英 次	経 営	1

講義のねらい

放射線機器工学を2年次に学習し、医用機器工学を3年次に学習するが、これらの講義で含まれなかった重要な機器について行う。

医用画像診断装置を主体とするが、生体電気計測および生体磁気計測についてもそれらの基本を学ぶ。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1) 核医学診断装置
 - 放射性核種および放射線計測の基礎
 - ガンマカメラ
 - SPECT
 - PET
 - 核医学データ処理装置およびソフトウェア
- 2) X線診断装置
 - CR (Computed Radiography)
 - DSA (Digital Subtraction Angiography)
- 3) 超音波診断装置
- 4) PACS (画像管理システム)
- 5) 生体電気計測
- 6) 生体磁気計測

履修上の留意点

あらかじめ放射線計測学および放射線機器工学を習得していること。国家試験で核医学機器関連に対応できるよう講義するので全員受講することが望ましい。他学科にあっては高校で物理を習得していることが望ましい。

成績評価の方法

定期試験および出席状況により評価する。

教 科 書

教材としてプリントを使用する。

3. 「日本語」・「日本事情」科目

3. 「日本語」・「日本事情」科目 (対象：外国人留学生・海外帰国子女)

《日本語科目》

日	本	語	I	〈佐野典子〉	129
日	本	語	I	〈多田羅哲子〉	129
日	本	語	II	〈佐野典子〉	130
日	本	語	II	〈多田羅哲子〉	130
日	本	語	III	〈多田羅哲子〉	131
日	本	語	III	〈湯村礼子〉	131
日	本	語	IV	〈石川守〉	132
日	本	語	IV	〈湯村礼子〉	132
日	本	語	V	〈石川守〉	133
日	本	語	V	〈多田羅哲子〉	133
日	本	語	VI	〈石川守〉	134
日	本	語	VI	〈多田羅哲子〉	134

《日本事情科目》

日本事情I〔地	理〕	〈前期〉	〈須山聰〉	135
日本事情II〔自	然〕	〈前期〉	〈清水善和〉	135
日本事情III〔歴	史〕	〈後期〉	〈宮本由紀子〉	136
日本事情IV〔思	想〕	〈前期〉	〈赤羽由規子〉	136
日本事情V〔社	会〕	〈後期〉	〈牛島千尋〉	137
日本事情VI〔政治・法律〕		〈後期〉	〈前田英昭〉	137
日本事情VII〔文	学〕	〈後期〉	〈奥原淳子〉	138
日本事情VIII〔文化・芸術〕		〈後期〉	〈赤羽由規子〉	138
日本事情IX〔経	済〕	〈前期〉	〈瀬戸岡紘〉	139
日本事情X〔経	営〕	〈前期〉	〈鈴木幸毅〉	140

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 語 I	ま 佐 の のり こ 野 典 子	全 学 科	2

講義のねらい

日本語の聴解能力の向上を目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

日本の映画、TVドラマ、ニュース、などの内容を把握する。

成績評価の方法

試験、提出物、授業態度、出席率等により、総合的に評価する。

教 科 書

特に教科書は使わない。聴解シートはその都度、配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 語 I	た た ら あき こ 多 田 羅 哲 子	全 学 科	2

講義のねらい

常用漢字の読み方を中心に日本語の知識を強化する。
漢字の正確な読み書き、語彙の様々な意味・使い方、文法、表現等の練習を通して日本での生活および専門教科の学習に役立つ日本語の知識を身につける。

講義の内容・
授業スケジュール

- 常用漢字を正確に読めるようにする。そのためには読み方のルールも知る。
- 語句の基本的意味・用法とともに学生生活に必要なと思われる派生的意味や使い方も練習する。
- 助詞・機能語・慣用表現・文法事項等の復習もする。

成績評価の方法

平常点と期末試験の成績で評価する。

教 科 書

プリント教材（常用漢字を基本とした語彙集、および文系教科の概論、入門書、小説、新聞等から抜粋した例文集）を配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 語 II	佐 野 典 子	全 学 科	2

講義のねらい

日本語の読解能力の向上を目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

日本の現代作家の小説、ノンフィクション、エッセイ等を輪読する。

成績評価の方法

試験、提出物、授業態度、出席率等により、総合的に評価する。

教 科 書

授業で使用する教材は担当者がそのコピーを用意する。

日
本
事
情
科
目
・
日
本
語

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 語 II	多 田 羅 哲 子	全 学 科	2

講義のねらい

- 話すことを中心に日本語の運用能力を養う。
- 事実の説明や、スピーチ、質疑応答、討論等を通して、正しく適切な表現を用いて日本語が自由に話せるようになることを目指す。
 - 発音、アクセント、イントネーション等、自分の日本語を自分で見直し矯正する習慣をつける。
 - あわせて書く練習もする。

講義の内容・
授業スケジュール

- 発音アクセントの基礎練習、朗読練習等を行う。
- 読んだこと、聞いた内容を自分の言葉で説明したり、それに対する自分の考えを述べる練習をする。
- スピーチをし、その内容について質疑応答、意見交換、討論等を行う。
- ディベートを通して適切な表現で自己主張したり、相手を説得する練習をする。
- 話したことを文章にまとめる。
- テープを聞き自分の日本語を意識し矯正する。

履修上の留意点

積極的に授業活動に参加し、提出物は必ず提出すること。

成績評価の方法

平常点を重視する。

教 科 書

必要に応じてコピーを配布する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本語Ⅲ	多田羅 哲子	全学科	2

講義のねらい

- 聴きとることを中心に日本語の総合的能力を養う。
- 話題になっていることについて生の日本語を通じて深く理解し、また的確に表現できるようになることを目指す。
 - 一つのテーマについて聴きとる（見る）・読む・話す・書く活動を通じてバランスのとれた日本語の力を身につける。

講義の内容・授業スケジュール

- 今話題になっているテーマについてビデオを見たり、本・新聞・雑誌などの文章を読んで内容を把握する。
- その内容を説明したり、それについて自分の考えを述べたり討論したりする。
- また、それらを文章に表現する練習もする。

履修上の留意点

必ず出席し、授業に積極的に参加すること。

成績評価の方法

平常点、つまり授業中の発言や提出物を重視する。

教科書

ビデオを使用。プリントを配布する。

日本語
日本事情
科目

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本語Ⅲ	湯村 礼子	全学科	2

講義のねらい

これまで修得してきた日本語能力をさらに強化し、文献を自分で調べながら読み、理解できるようにする。さらに、文献を通して、考え、自分の意見を持ち、発表・説明ができるようになることを目指す。

講義の内容・授業スケジュール

新聞・雑誌・文学作品・専門書などから教材を選び、読み進める。読んだ後に、意見を出し合ったり、討論を行ったりし、さらに認識を深め、最後に小レポートを提出してもらう。後期には、各自分担を決めて調べたり、資料を収集したりしての発表も行なう。

履修上の留意点

授業活動を重視するので、当然、毎時間の出席を原則とする。

成績評価の方法

試験（漢字・語彙テスト etc）、内容把握小レポート、授業での発表、その他の授業活動（発言、他の人の意見を良く聴くこと・授業態度 etc）を総合的に評価する。

教科書

授業中にプリントを配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 語 IV	いし かわ まもる 石 川 守	全 学 科	2

講義のねらい

日本語の中・上級のさまざまな文型の用法を分析して、理解するばかりでなく、会話や作文で使えるようにしていきたい。

講義の内容・
授業スケジュール

講義の進め方は、テキスト「日本語中上級文型」を使って、そこに出てくる文型や、文法事項、語彙、表現、アクセントの問題などをともに分析して進めていきたい。

履修上の留意点

授業は一方的な講義の形ではなく、教師の側が、学生に質問をしながら進めて行く。教師から教えてもらうのではなく、自分で考え、自分で準備し、積極的に参加するようにしてもらいたい。

成績評価の方法

成績評価は、筆記試験と平常点（出席、授業への参加度）の二つで評価する。

教 科 書

教材は、授業中にプリントを配布する。

参 考 書 等

特になし

そ の 他

授業は講義形式ではなく、常に教師から学生に質問をする形で行っていく。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 語 IV	ゆ むら れい こ 湯 村 礼 子	全 学 科	2

講義のねらい

書くことを中心に授業を進める。日常生活、大学生生活に必要な文章力をさらに高めることを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

文・段落・文章の書き方、文章の種類などについて講義し、実践し学生に書いてもらう。書いたものについて再度見なおし進めていく。

履修上の留意点

講義・授業中の実践活動が重要なので、毎時間の出席を原則とする。

成績評価の方法

作文・レポートなど（5回程度）
授業活動（発言、授業態度、授業中の提出物 etc）

教 科 書

授業中にプリントを配布する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日 本 語 V	いし かわ まもる 石 川 守	全 学 科	2

講義のねらい

日本語の「基礎文法」についてより深く理解するために詳しく分析し、そこに潜む日本語文法の特徴を考え、ひいては話し、聞き、書き、読む際により正確に深く日本語が理解できるようになることを目指したい。したがって、基礎的な文法に特に自信のない学生に受講してもらいたい。

講義の内容・
授業スケジュール

講義は、テキスト「日本語基礎文法」を使って、そこに出てくる項目を中心に、ともに考え分析しながら進めていきたい。始めは、初級レベルから始め、時間が許せば中級レベルのものも分析してみたい。

履修上の留意点

扱う学習項目は主に初級文法であるが、文法的な問題は基本的なものほど難しく、また深く掘り下げて分析して行くので、内容は単なる初級であると考えないでほしい。

成績評価の方法

成績評価は、筆記試験と平常点（出席、授業への参加度）の二つで評価する。

教 科 書

教材は、授業中にプリントを配布する。

参 考 書 等

特になし

そ の 他

授業は講義形式ではなく、常に教師から学生に質問をする形で行っていく。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日 本 語 V	た た ら あき こ 多 田 羅 哲 子	全 学 科	2

講義のねらい

- ・読むことを中心に話す力、聴解力、作文力など日本語の総合的な能力を高める。
- ・現在マスコミ等によく使われている表現、外来語等の語彙などを知る。

講義の内容・
授業スケジュール

本・新聞・雑誌等の生教材を読んで、今話題になっていることについて、語彙・表現・文法事項などを確認する。
テーマについて話し合ったり書いたりする。

履修上の留意点

授業中の活動が大切なので必ず出席すること。

成績評価の方法

平常点を重視する。

教 科 書

プリントを配布、ビデオも使用。

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本語 VI	いし かわ まもる 石 川 守	全学科	2

講義のねらい

「いろはがるた」にあらわれる古くから庶民に親しまれてきた日本のことわざを通し、日本人の考え、日本語の表現、文法などを学んでいく。

講義の内容・
授業スケジュール

「いろはがるた」を読みながら、その内容について討論し、また、自国のことわざについて考えていく。

履修上の留意点

できるだけ、発言すること。

成績評価の方法

平常点と試験

教科書

コピーを配布する。

参考書等

随時、教室で指示する。

その他

特になし。

日
本
事
情
語
科
目

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本語 VI	た た ら あき こ 多 田 羅 哲 子	全学科	2

講義のねらい

読解能力を向上させる。
文章を読むことを通して、文法や適切な語彙の使い方を確かめ、表現力を養う。

講義の内容・
授業スケジュール

小説・エッセイなどを中心に読み、そこに出てくる表現、語彙の使い方、文法などを確かめ、正しくより適切に使えるよう練習する。

履修上の留意点

授業に積極的に参加すること。

成績評価の方法

平常点と筆記試験

教科書

プリントを配布。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 事 情 I 〔 地 理 〕 (前 期)	須 山 聡 <small>す やま さとし</small>	全 学 科	2

講義のねらい

日本のさまざまな地域についての知識を深め、日本の地域的な特徴について考察する。

講義の内容・
授業スケジュール

授業はゼミ形式で進める。受講者で日本の特定地域（都道府県あるいは都市）を分担し、それぞれの地域について毎回2～3人に発表してもらい、それをもとに議論する。

成績評価の方法

出席と発表内容、および議論への参加状況によって評価する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 事 情 II 〔 自 然 〕 (前 期)	清 水 善 和 <small>し みづ よし かず</small>	全 学 科	2

講義のねらい

日本はアジア大陸の東端に位置する島国であり、亜寒帯の北海道から温帯の本州を通り、亜熱帯の沖縄まで約3,000kmの細長い国土を有している。国土の67%は山地であり、複雑な海岸線とあいまって多様な地形を形成している。また、日本は複数のプレートの境界域に当たり、世界でも有数の火山・地震地帯となっている。このような多様な環境を反映して、日本には独特の動物・植物が多数生息・生育している。

本講義では日本の自然を気候・地形・地質、生物の3分野に分けて解説する。その際に次の3つの視点に留意する：(1)アジアの自然の中での日本の位置づけ、(2)現在の状態と過去の歴史とのつながり、(3)自然と日本の文化との関係。すなわち、できるだけ時間的、空間的に広い視野から日本の自然をとらえることによって、留学生の母国の自然とのつながりも確認できるようにしたい。また、講義の最後には日本の自然破壊の歴史とその保護の在り方についても言及する。

成績評価の方法

レポート（2、3回）と出席回数に基づいて評価する。

教 科 書

特定の教科書はなし。参考書は適宜紹介する。

そ の 他

毎回配付する補助教材のプリントを用いて講義する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日本事情Ⅲ 〔歴史〕(後期)	みやもと ゆきこ 宮本由紀子	全学科	2

講義のねらい

日本の歴史を学ぶことで日本民族の持つ民族性を理解する手掛りとしたい。

講義の内容・
授業スケジュール

特に江戸時代に至る過程を講義し、鎖国制度の完成までを目安にする。

履修上の留意点

板書を中心とし、わかり安く楽しい講義をこころがけるので、ノートを取り、理解できないところは質問するなどして疑問を残さないようにすること。

成績評価の方法

出席日数を評価の参考とし、レポートで成績の評価とする。

教科書

なし

参考書等

なし

その他

講義のみ

日
本
事
情
語
科
目

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日本事情Ⅳ 〔思想〕(前期)	あかば ゆきこ 赤羽由規子	全学科	2

講義のねらい

日本人が古くから伝承してきた民俗音楽の中に、日本人の精神世界を見ていく。
民俗音楽とは、古来、人々が生きていく上で、衣食住と同じように必要としてきた音楽で、それは、例えば信仰、祭り、作業、遊びなどに伴う形で存在している。ほとんどは作者不詳であり、楽譜もなく、普通の人々の間で口頭伝承されていく性質のものである。テープやビデオを用いて、実際に音楽を視聴しながら講義を進めていきたい。

履修上の留意点

第一回目にオリエンテーションを行うので必ず出席すること。

成績評価の方法

出席数、筆記試験によって採点する。

その他

その都度知らせる。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 事 情 V 〔 社 会 〕 (後 期)	うし じま ち ひろ 牛 島 千 尋	全 学 科	2

- 講義のねらい

本講義は、新聞・雑誌記事、ビデオ、関連文献・資料を用いて、日本の社会・文化等に関する基礎的な知識の学習とともに、現代日本の社会の仕組み、および、その成り立ちを学習することを目的とする。
- 講義の内容・授業スケジュール

講義内容の概略は次の通りである。1. 都市と農村の変容 2. 労働と余暇 3. マスメディアと若者文化 4. 都市と環境問題 5. 家族の変化と少子化 6. 女性の社会的地位 7. 日本の教育と階層構造 8. ライフスタイルと生活意識
- 成績評価の方法

レポートと講義中の発言によって総合的に評価する。
- 教科書

特に指定しない。資料を配布する。
- その他

ビデオなどのマルチメディア教材を利用した講義を行う。履修者の人数にもよるが、それぞれのテーマについて、毎回、質疑応答や議論を合わせて行いたい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 事 情 VI 〔 政 治 ・ 法 律 〕 (後 期)	まえ だ ひで あき 前 田 英 昭	全 学 科	2

- 講義のねらい

日本の政治状況を外国との比較において解説する。
- 講義の内容・授業スケジュール

日本の政治状況をとらえた新聞記事などを読み、学生の間で意見交換する方法で勉強し、主として次のテーマの理解につとめる。
日本の国会、選挙、官僚、政策、政治史、政治文化など。
- 成績評価の方法

出席回数と平常点による。
- 教科書

『国会と政治改革』（小学館文庫）

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本事情Ⅶ 〔文学〕(後期)	おくはらじゆんこ 奥原淳子	全学科	2

講義のねらい

本講義は、日本語を母語としない留学生を対象に、問題発見能力の涵養と、日本文学・日本語に対する理解を深めることを目標とします。

講義の内容・
授業スケジュール

各自がテーマを選定し、調査研究して発表する、という方法で授業を進めます。その際、内容はもちろん、言語面での問題点も共に考えていきます。

テーマは、文学作品、作家、日本語の言語項目を対象とします。

第一回の授業には、予め関心のある作品や作家、言語項目を持って出席してください。

履修上の留意点

受身でなく積極的な姿勢で臨むこと。

成績評価の方法

出席・提出物・発表・授業態度

教科書・
参考書等

その都度指示します。

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本事情Ⅷ 〔文化・芸術〕(後期)	あかばゆきこ 赤羽由規子	全学科	2

講義のねらい

いわゆる「伝統邦楽」といわれている、日本の古くからの和楽器による音楽や芝居の中に、日本人の義意識を探っていく。

また、日本の伝統音楽は、そもそもアジア諸国の音楽を学ぶことから始まり、そこから次第に日本人に合った独特のものを生み出していったのであり、更に明治以後には西洋音楽からも多くの触発を受け、戦後には「現代邦楽」を目差している。そのような過程をも合わせて見て行きたい。テープやビデオを用いて、わかりやすく講義を進めていく。

履修上の留意点

第一回目にオリエンテーションを行うので必ず出席すること。

成績評価の方法

出席数、筆記試験によって採点する。

参考書等

その都度知らせる。

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本事情Ⅸ 〔経済〕(前期)	瀬戸岡 紘 <small>せと おか ひろし</small>	全学科	2

講義のねらい

日本の経済事情のアウトラインをわかりやすく解説します。わかっているようで、わからないことを、なるべくいいねいに話します。たとえば、明治時代以来の工業化は、アジア諸国のなかでなぜ日本が先んじて成功したのか？ 日本的経営が今あちこちで問題にされていますが、どのようにしてそれが日本に根をおろしていったのか？ 就業人口にしめる農業人口の割合は、日本とオーストラリアとイギリスとアメリカでは、どこが一番高いか？ そして農業生産高はどうか？ そして時には余談もします。たとえば、この国の本当の名前ってニホンなの？ ニッポンなの？ それともジャパンでもいいの？ など、みなさんが日本にきた以上、ぜひ知って帰りたいことを、たくさん話することがねらいです。

講義の内容・授業スケジュール

以下のようなトピックを一回の講義でひとつずつとりあげます。しかし、とりあげる順序は、みなさんの希望に応じていれかえることがあります。

日本の工業地帯と工業
日本の農村と農業および日本の水産業
日本のサービス業および金融
明治維新以前の日本経済の歴史
明治維新以降の日本経済の歴史
第2次世界大戦以降の日本経済の展開
日本経済とアメリカ経済
日本経済とアジア経済
日本経済と政府の役割
日本の労働者・サラリーマンの生活
日本経済と社会や文化の変化
その他

成績評価の方法

日ごろの授業態度で評価します。具体的には、出席40%、小テスト30%、宿題30%が目安です。なお、この成績評価のためまえから、再試験は実施いたしません。

教科書・参考書等

日本経済について書かれた本はあまりにたくさんあるので、特定の本を指定することはいたしません。しかし、授業のなかでその都度適切な本を紹介します。日々のニュースをよく聞いてください。この講義では、日ごろあなたが目にするそのものを題材として授業をすすめます。いわば、あなたの周囲にあるものそれ自体が教科書です。とくに、よい本をもとめたい人は、私に相談してください。いくらでも紹介します。

その他

授業は、おおむね日本語です。しかし、希望があれば、その日の要点を英語でも話します。質問は、日本語でも英語でもどちらでも受けつけます。授業のなかで、みなさんが積極的に発言することを期待しています。はじめのうち、どうしても日本語がうまくつかえなければ、英語で発言してもかまいません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日 本 事 情 X 〔 経 営 〕 (前期)	すず き こう き 鈴 木 幸 毅	全 学 科	2

講義のねらい

環境問題を取り上げ、外国の状況と比較しながら日本の特徴をとらえる。

成績評価の方法

出席を重視し、時々短いレポートの提出を求める。

教科書・
参考書等

教科書、参考書は、授業のはじめに指定する。

4. 教職課程・資格講座科目

- I 教 職 課 程
- II 学校図書館司書教諭講座
- III 社会教育主事講座
- IV 博物館学講座
- V 社会福祉主事講座
社会福祉士基礎

※上記の教職課程および資格講座授業科目の講義内容が掲載されていますが、各学部において受講できる課程および講座は以下のとおりです。
(履修についての詳細は、『教職課程・資格講座履修要項』を参照すること。)

課 程 ・ 講 座 名	資 格 取 得 学 部
教 職 課 程	全 学 部
学校図書館司書教諭講座	全 学 部
社会教育主事講座	全 学 部
博物館学講座	仏教学部・文学部
社会福祉主事講座 社会福祉士基礎	全 学 部

4. 教職課程・資格講座科目

〔注意〕頁（ ）は、他の課程・講座と兼用科目のため、講義内容は、主たる課程・講座にのみ掲載し、その頁を表示しています。

I 教 職 課 程

(1) 教職に関する科目（必修）

教 職 入 門	〈大浜幾久子・伊藤茂樹・遠藤 司・北村三子 坂本信昭・豊田千代子・村山輝吉〉	153
教 育 の 思 想	〈豊 田 千代子〉	153
教 育 の 思 想	〈北 村 三 子〉	154
教 育 の 思 想	〈伊 藤 茂 樹〉	154
教 育 の 思 想	〈村 山 輝 吉〉	155
教 育 の 思 想	〈坂 本 信 昭〉	156
教 育 と 社 会	〈豊 田 千代子〉	157
教 育 と 社 会	〈北 村 三 子〉	157
教 育 と 社 会	〈伊 藤 茂 樹〉	158
教 育 と 社 会	〈村 山 輝 吉〉	158
教 育 と 社 会	〈坂 本 信 昭〉	159
発 達 と 学 習 の 心 理 学	〈大 浜 幾久子〉	159
発 達 と 学 習 の 心 理 学	〈川 田 三 夫〉	160
発 達 と 学 習 の 心 理 学	〈上 淵 寿 夫〉	161
発 達 と 学 習 の 心 理 学	〈角 野 善 司〉	162
カ リ キ ュ ラ ム と 学 習	〈大 浜 幾久子〉	163
カ リ キ ュ ラ ム と 学 習	〈川 田 三 夫〉	163
カ リ キ ュ ラ ム と 学 習	〈上 淵 寿 夫〉	164
カ リ キ ュ ラ ム と 学 習	〈角 野 善 司〉	165
教 育 と メ デ ィ ア	〈小 倉 康 仁〉	166
教 育 と メ デ ィ ア	〈石 橋 達 也〉	167
教 育 と メ デ ィ ア	〈芝 崎 順 司〉	168
道 徳 教 育 の 研 究	〈加 藤 幸 夫〉	169
道 徳 教 育 の 研 究	〈小 川 一 郎〉	170
道 徳 教 育 の 研 究	〈鶴 卷 武 夫〉	171
特 別 活 動	〈加 藤 幸 夫〉	172
特 別 活 動	〈小 川 一 郎〉	173
特 別 活 動	〈鶴 卷 武 夫〉	174
生 徒 指 導 論 (進 路 指 導 を 含 む)	〈小 宮 山 要〉	175
生 徒 指 導 論 (進 路 指 導 を 含 む)	〈国 眼 眞 理 子〉	176
生 徒 指 導 論 (進 路 指 導 を 含 む)	〈佐 藤 尚 人〉	177
生 徒 指 導 論 (進 路 指 導 を 含 む)	〈遠 藤 司〉	177
生 徒 指 導 論 (進 路 指 導 を 含 む)	〈川 原 誠 司〉	178
教 育 臨 床	〈小 宮 山 要〉	178
教 育 臨 床	〈国 眼 眞 理 子〉	179
教 育 臨 床	〈佐 藤 尚 人〉	180
教 育 臨 床	〈遠 藤 司〉	180
教 育 臨 床	〈川 原 誠 司〉	181
総 合 演 習 (1) [障 害 児 と 教 育]	〈遠 藤 司〉	181
総 合 演 習 (2) [障 害 児 と 福 祉]	〈遠 藤 司〉	182

総合演習(3)	〔環境教育〕	〈北村和夫〉	182
総合演習(4)	〔近代社会と身体〕	〈北村和夫〉	183
総合演習(5)	〔対人関係とストレス〕	〈川原誠司〉	183
総合演習(6)	〔学校における対人関係〕	〈川原誠司〉	184
総合演習(7)	〔精神障害者と地域〕	〈野中弘敏〉	184
総合演習(8)	〔精神障害者とボランティア〕	〈野中弘敏〉	185
総合演習(9)	〔教育と法律〕	〈広沢明〉	185
総合演習(10)	〔子どもの人権〕	〈広沢明〉	186
総合演習(11)	〔生と死の教育〕	〈柳堀素雅子〉	186
総合演習(12)	〔生命倫理〕	〈柳堀素雅子〉	187
総合演習(13)	〔現代的学習課題とジェンダー〕	〈中澤智恵〉	187
総合演習(14)	〔学校教育におけるジェンダー〕	〈中澤智恵〉	188
総合演習(15)		〈休講〉	
総合演習(16)		〈休講〉	
総合演習(17)	〔現代家族の諸問題と教育〕	〈熊谷一乗〉	189
宗教科教育法	〈小山一乗〉	190	
国語科教育法	〈神谷道倫〉	191	
書道科教育法	〈那須隆吉〉	191	
英語科教育法	〈荒井良雄〉	192	
社会科教育法Ⅰ	〈生田清人〉	192	
地理歴史科教育法Ⅰ	〈生田清人〉	193	
社会科教育法Ⅰ	〈桜井明久〉	193	
地理歴史科教育法Ⅰ	〈桜井明久〉	194	
社会科教育法Ⅰ	〈藤木正国〉	194	
地理歴史科教育法Ⅰ	〈藤木正国〉	195	
社会科教育法Ⅱ	〈橋爪敏〉	195	
公民科教育法Ⅰ	〈橋爪敏〉	196	
社会科教育法Ⅱ	〈谷敷正光〉	197	
公民科教育法Ⅰ	〈谷敷正光〉	198	
社会科教育法Ⅱ	〈小川輝之〉	199	
公民科教育法Ⅰ	〈小川輝之〉	199	
商業科教育法	〈谷敷正光〉	200	
職業科教育法	〈前田幸一〉	201	
教育実習Ⅰ・Ⅱ	〈豊田千代子〉	201	
教育実習Ⅰ・Ⅱ	〈坂本信昭〉	202	
教育実習Ⅰ・Ⅱ	〈村山輝吉〉	202	
教育実習Ⅰ・Ⅱ	〈北村三子〉	203	
教育実習Ⅰ・Ⅱ	〈伊藤茂樹〉	203	
(2) 教科又は教職に関する科目〔平成12年度以降入学生〕			
教職に関する科目(選択)〔平成11年度以前入学生〕			
教育関係法規	〈広沢明〉	204	
教育評価	〈大浜幾久子〉	204	
教育法規研究	〈休講〉		
教育哲学	〈北村三子〉	205	
教育情報学	〈小倉康仁〉	205	
教育臨床心理学	〈牟田隆郎〉	206	
教育社会学	〈熊谷一乗〉	207	
教育史	〈山本敏子〉	208	

教 育 調 査	〈鈴木規夫〉	209
芸 術 教 育	〈香川良成〉	209
現代社会の諸問題と教育Ⅱ	〈熊谷一乗〉	210
青少年問題研究	〈讚岐真佐子〉	211
宗 教 教 育	〈小山一乗〉	212
生涯学習概論Ⅰ	〈豊田千代子〉	(213)
生涯学習概論Ⅱ	〈豊田千代子〉	(213)
視 聴 覚 教 育	〈飯森彬彦〉	(213)
社会教育施設	〈村山輝吉〉	(213)
学校経営と学校図書館	〈山田節子〉	(213)
読書と豊かな人間性	〈山田節子〉	(213)
学校図書館メディアの構成	〈源昌久〉	(214)
学校図書館メディアの構成	〈篠田耀子〉	(214)
情報メディアの活用	〈源昌久〉	(214)
情報メディアの活用	〈篠田耀子〉	(214)
学習指導と学校図書館	〈山田節子〉	(214)
(3) 教科に関する科目		
【社会・地理歴史・公民】		
東 洋 思 想 史	〈末木恭彦〉	215
美 術 史 概 説	〈矢野陽子〉	215
民 間 信 仰 論	〈谷口貢〉	216
人文地理学概説	〈小池とみ子〉	216
自然地理学概説	〈高木正博〉	217
自然地理学概説	〈中村和郎〉	217
地 誌 学 概 説	〈川元豊和〉	218
地 誌 学 概 説	〈新井祥穂〉	219
地 誌 学 概 説	〈藤島範孝〉	219
日 本 仏 教 史	〈休講〉	
日 本 文 化 史 Ⅰ	〈廣瀬良弘〉	220
日 本 文 化 史 Ⅱ	〈休講〉	
歴 史 哲 学	〈麻生建〉	220
日 本 史 概 説	〈出口宏幸〉	221
日 本 史 概 説	〈小松寿治〉	221
世 界 史 概 説	〈井村行子〉	222
世 界 史 概 説	〈渡辺惇〉	223
社 会 学 原 論	〈渡辺源樹〉	224
宗 教 人 類 学	〈佐藤憲昭〉	225
経 済 原 論	〈畠中貴〉	226
経 済 原 論	〈大石雄爾〉	227
経 済 原 論	〈浅野克巳〉	228
経 済 原 論	〈松井柳平〉	229
経 済 原 論	〈橋本泰明〉	230
民 法 学 原 論 Ⅰ	〈大宮隆〉	231
政 治 学 原 論	〈大塚桂〉	232
日 本 宗 教 文 化 史	〈池上良正〉	233
民 衆 宗 教 成 立 史	〈津城寛文〉	233
宗 教 学 概 説	〈洗建〉	234
宗 教 学 概 説	〈池上良正〉	234

宗 教 学 概 説	〈津 城 寛 文〉	235
哲 学 概 説	〈久 保 陽 一〉	235
哲 学 概 説	〈末 木 恭 彦〉	236
倫 理 学 概 説	〈河 谷 淳〉	236
【職 業】			
産 業 概 説	〈前 田 幸 一〉	237
職 業 指 導	〈前 田 幸 一〉	237
商 業 実 習	〈前 田 幸 一〉	238
【商 業】			
職 業 指 導	〈前 田 幸 一〉	(238)
コ ン ピ ュ ー タ 基 礎 [教 職 課 程 登 録 者 用] 〈鈴 木 健 司〉		 239

II 学校図書館司書教諭講座

必修科目

学校経営と学校図書館〈山 田 節 子〉	243
読書と豊かな人間性〈山 田 節 子〉	243
学校図書館メディアの構成〈源 昌 久〉	244
学校図書館メディアの構成〈篠 田 耀 子〉	244
情報メディアの活用〈源 昌 久〉	245
情報メディアの活用〈篠 田 耀 子〉	245
学習指導と学校図書館〈山 田 節 子〉	246

III 社会教育主事講座

(1) 必修科目

社会教育計画〈村 山 輝 吉〉	249
生涯学習概論Ⅰ〈豊 田 千代子〉	250
生涯学習概論Ⅱ〈豊 田 千代子〉	251
社会教育実習〈豊 田 千代子〉	252
社会教育実習〈村 山 輝 吉〉	252

(2) 選択必修科目

社会教育行政〈荒 井 隆〉	253
社会教育施設〈村 山 輝 吉〉	253
成人学習論〈荒 井 隆〉	254
ジェンダーと教育Ⅰ〈中 澤 智 恵〉	254
ジェンダーと教育Ⅱ〈中 澤 智 恵〉	255
職業教育Ⅰ〈塩 川 正 人〉	255
職業教育Ⅱ〈塩 川 正 人〉	256
社会体育Ⅰ〈古 田 潤 子〉	256
社会体育Ⅱ〈古 田 潤 子〉	257
教育の思想	(257)
教育と社会	(257)
発達と学習の心理学	(257)
教育とメディア	(257)
社会心理学〈坪 井 健〉	258
視聴覚教育〈飯 森 彬 彦〉	(258)
教育社会学〈熊 谷 一 乘〉	(258)
教育史〈山 本 敏 子〉	(259)
教育調査〈鈴 木 規 夫〉	(259)
青少年文化〈香 川 良 成〉	259
現代社会の諸問題と教育Ⅰ〈熊 谷 一 乘〉	260
現代社会の諸問題と教育Ⅱ〈熊 谷 一 乘〉	261
青少年問題研究〈讚 岐 真 佐 子〉	(261)
青少年指導演習〈平 野 学〉	262
博物館学Ⅰ(概論)〈太 田 喜 美 子〉	(263)
博物館学Ⅱ(資料論)〈岸 上 興 一 郎〉	(263)
情報メディアの活用〈源 昌 久〉	(263)
情報メディアの活用〈篠 田 耀 子〉	(263)
読書と豊かな人間性〈山 田 節 子〉	(263)

IV 博物館学講座

(1) 必修科目

視聴覚教育〈飯森彬彦〉	267
考古発掘実習〈飯島武次・酒井清治〉	267
博物館学Ⅰ(概論)〈太田喜美子〉	268
博物館学Ⅱ(資料論)〈岸上興一郎〉	268
博物館学Ⅲ(経営論・情報論)〈岸上興一郎〉	269
博物館実習Ⅰ(館務)〈太田喜美子・飯島武次・酒井清治〉	269
博物館実習Ⅱ(収集)〈太田喜美子・國見徹・久保田昌希 小林和幸・酒井清治・佐々木真 瀧音能之・廣瀬良弘〉	270
博物館実習Ⅲ(見学)〈太田喜美子・酒井清治・松本信道〉	270
教育の思想	(271)
教育と社会	(271)
生涯学習概論Ⅰ〈豊田千代子〉	(271)
生涯学習概論Ⅱ〈豊田千代子〉	(271)

(2) 選択必修科目

インド仏教文化史〈休講〉	
中国仏教文化史〈永井政之〉	272
日本仏教文化史〈袴谷憲昭〉	272
禅美術	〈前期:松村哲文〉 〈後期:海老根聰郎〉 273
仏教美術	〈松田誠一郎〉 273
仏教民俗学	〈須藤寛人〉 274
日本民俗学	〈谷口貢〉 275
美術史概説	〈矢野陽子〉 275
現代美術	〈矢野陽子〉 276
地形学	〈小池一之〉 276
第四紀学	〈鈴木毅彦〉 277
考古学概説Ⅰ(日本)	〈酒井清治〉 277
考古学概説Ⅱ(外国)	〈飯島武次〉 278
日本文化史Ⅰ	〈廣瀬良弘〉 278
西洋文化史Ⅰ	〈休講〉
日本文化史Ⅱ	〈休講〉
西洋文化史Ⅱ	〈佐々木真〉 279
考古学特講Ⅰ	〈休講〉
考古学特講Ⅱ	〈田村晃一〉 279
考古学特講Ⅲ	〈酒井清治〉 280
考古学特講Ⅳ	〈矢野和之〉 281
西域美術史	〈松平美和子〉 282
宗教人類学	〈佐藤憲昭〉 282

V 社会福祉主事・社会福祉士基礎講座

(1) 必修科目

※社会福祉原論〈伊藤秀一〉	285
※社会福祉原論〈船水浩行〉	286

(2) 選択科目

※法学(福祉)〈小林弘人〉	287
社会福祉発達史〈林千代〉	288
リハビリテーション論〈生川善雄〉	288
※社会保障論〈船水浩行〉	289
家庭福祉論〈休講〉	
社会福祉計画論〈川廷宗之〉	290
国際社会福祉論〈山本真実〉	291
保健福祉論〈長尾譲治〉	292
※公的扶助論〈伊藤秀一〉	292
※障害者福祉論〈桐原宏行〉	293
※老人福祉論〈東條光雅〉	294
児童福祉論〈山本真実〉	295
女性福祉論〈林千代〉	296
医療福祉論〈春見静子〉	296
※地域福祉論〈豊田宗裕〉	297
※社会学(福祉)〈橋爪敏〉	298
※心理学(福祉)〈高橋良博〉	299

上記科目のうち、※印は、社会福祉主事、社会福祉士基礎に兼用する科目、それ以外は社会福祉主事のみを対象とする科目です。

I 教 職 課 程

(1) 教職に関する科目（必修）

科目名	担当者名	配当学科	単位
教職（後）入門（期）	大浜幾久子・伊藤茂樹・遠藤司・北村三子 坂本信昭・豊田千代子・村山輝吉	12以降入学生/教職1必	2

講義のねらい

高度消費社会の出現や、情報化社会の進展の中で、今日の日本の教育界は多くの困難な問題を抱えています。将来教師になろうとする人には、そうした問題に自ら取り組んでいく覚悟とそれを越えてゆける力量が必要となるでしょう。その力量の中には、知識ばかりでなく、関心の広さ、感受性、想像力、柔軟な発想、そして体力など、きわめて多様なものが含まれます。この講義では、教職課程の専任教員7名に加え、外部からも講師をお迎えして、さまざまな角度から教育を語っていきますが、教師になるための勉強の第一歩として、教師という職業には関心を持つべき多くのことがあるということ、を、まずは実感してください。

講義の内容・授業スケジュール

今日の教育に関する諸問題をオムニバス形式で講じていきます（毎回テーマと講師が代わっていきます）。また11月12日（月）および11月15日（木）は、普通の講義ではなく、学部1年次生を対象とした教職課程・資格講座のガイダンスが予定されています。詳しいスケジュールは、初回の講義で配布される予定です。

成績評価の方法

レポートによる評価。

その他

この科目は、平成11年度以前入学者は履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育の思想（前期）	豊田千代子	教職2必（禅・仏教）	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

この授業では、「子どもの権利条約を思想として読む」ことをめざす。1989年に国連で採択された「子どもの権利条約」は、ポーランドによって提案された。この背景の一つには、第一次世界大戦および第二次世界大戦下で多くのポーランドの子どもたちが戦争の犠牲になった（第二次大戦では、とくにユダヤ系ポーランド人の子どもたちの人権が守られなかった）という歴史的事実とそのことへの反省がある。

ユダヤ系ポーランド人の教育者であり医者であり、また作家でもあったヤヌシュ・コルチャック（本名ヘンリク・ゴールドシュミット、1878～1942）は、当時、孤児院の子どもたちのくらしや教育に携わっていたが、それらにみられる「コルチャック先生」の教育の思想、とりわけその核をなす子ども観は、子どもの権利条約の思想的基礎となっているとも言われている。

このようなコルチャック先生の教育の思想を土台にしつつ、わが国の教育をめぐる子どもたちの現状について考えたり、子どもの権利条約を読んでみたい。

講義の内容・授業スケジュール

- ・自分たちの受けてきた教育のふり返り
- ・教育をめぐる子どもたちの現状
- ・コルチャック先生の思想
- ・子どもの権利条約とコルチャック先生

成績評価の方法

出席点、レポート等によって成績評価を行なう。

教科書

教科書は用いず、必要に応じて資料を配布する。

参考書等

樋渡直哉『子どもの権利条約とコルチャック先生』（ほるぷ出版）

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

この科目は、平成11年度までに「教育原理」の単位を修得した者は、履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
教育の思想 (前期)	きたむらみつこ 北村三子	教職2必 (国文・英米文・社会・福祉・心理)	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

今日の日本の教育制度の理念や思想について深く理解するために、その源流となる西洋近代の教育思想を学んでいきます。あわせて、今日の教育をめぐる諸問題乗り越えていけるような新たな教育思想のあり方を探っていききたいと思います。

講義の内容・授業スケジュール

- ①近代教育思想の特徴…18世紀の啓蒙思想、19世紀後半から20世紀にかけて発展をみる教育学や発達論など、近代社会・国家の成立と手を携えて近代学校制度を生み出したもののうち、代表的なものをいくつか取り上げて検討します。
- ②近代教育思想の再考…今日の不登校や学級崩壊などの現象は、近代学校システムが機能不全になりつつあることを暗示していますが、それはまた近代教育思想の行き詰まりを意味しています。そこで近代教育思想から何を受け取り、何を変革しなくてはならないのかを探るために、近代では周辺的だった教育思想や実践を検討します。

履修上の留意点

この科目は教養教育科目ですが、同時に教職の専門科目でもあります。教育に関心をもつ人の参加を期待します。

成績評価の方法

試験（あるいはそれに代わるレポート）

参考書等

教場で指示

そ の 他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

この科目は、平成11年度までに「教育原理」の単位を修得した者は、履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
教育の思想 (前期)	いとうしげき 伊藤茂樹	教職2必 (地理・歴史・法A・政治)	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

私たちが今日知っている学校教育という営みは、近代という時代の到来とともに出現した制度であり、また近代社会を成り立たせる不可欠の制度でもある。この「公教育」のバックボーンとなった思想、歴史的経緯、その特色や社会的機能について概観し、今日の教育やそれが直面する諸問題について考えるための手がかりを探索する。

講義の内容・授業スケジュール

- とりあげるテーマ群として以下のようなことがらを予定している。
- ・近代社会と教育
 - ・学校という場

履修上の留意点

自分が通ってきた学校やそこで受けてきた教育について、批判的に再考する姿勢を求める。

成績評価の方法

学期末試験により評価する。

教科書

教科書は特に指定せず、参考書はその都度指示する。

そ の 他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

この科目は、平成11年度までに「教育原理」の単位を修得した者は、履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育の思想 (前期)	むら やま てる よし 村 山 輝 吉	教職2必 (経 A)	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

教育は個々人の人格形成に深く関与する個人的事象であると同時に、社会のありようによって大きく影響され、また逆に、社会のあり方やその形成に直接間接作用を及ぼす歴史的・社会的事象でもある。従ってここでは、「教育の思想（前期）」と「教育と社会（後期）」の両科目を通じて、教育事象にかかわる学生自身の個人的経験やおもいを出発点としながらも、各種の資料や下村湖人の著作等をも参考にしながら、人間の形成と教育・文化・社会のかかわりについて原理的・総合的な考察をおこなう。両科目を通じて、人間形成にかかわる諸事象を狭い個人的見地を超え広く開かれた歴史的・社会的視座から考えられる能力を育てることをめざしているが、この「教育の思想」では、主として教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に関する基礎的な理解を図ることに重点を置く。

講義の内容・授業スケジュール

第1ステップ 教育にかかわる学生自身の体験やおもいの発表（口頭または作文）と、それを系統的・論理的に整理する作業

第2ステップ 第1ステップで整理された諸課題のうち、主として教育の理念や歴史、思想にかかわるものについて、資料や文献を参考にしながら考察を深める作業

成績評価の方法

出席、レポート、口頭発表、試験等により総合的に判定する。

参考書等

そのつど紹介する。

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

この科目は、平成11年度までに「教育原理」の単位を修得した者は、履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教 育 の 思 想 (前 期)	さか もと のが あき 坂 本 信 昭	教 職 2 必 (商 ・ 経 営)	2

※経 B・法 B・二管の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

民主主義的教育思想はルソー、ペスタロッチ、フレーベル、エレン・ケイ、デューイなど多くの思想家によって生み出され、継承されて今日に至り、教育思想と実践の面で多様な展開を示した。

20世紀の教育思想を生み出し、継承することに貢献した思想家たちの教育思想・教育目的を概観することを手初めに、次のようなテーマを取り上げて進める。

- ・教育の理想と目的
- ・わが国の教育目的
- ・現代・社会の変化と教育目的
- ・その他

履修上の留意点

授業の出欠は厳密にとる。

成績評価の方法

課題レポート、自主レポート、試験、出席等により総合的に評価する。

教 科 書

西村絢子他著『現代教育を考える』（昭和堂）2,600円

参 考 書 等

デューイ著『学校と社会』（岩波文庫）410円

そ の 他

- ・必要な資料を適宜配布する。
- ・この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。
- この科目は、平成11年度までに「教育原理」の単位を修得した者は、履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育と社会 (後期)	豊田千代子	教職2必 (禅・仏教・国文)	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

教育と社会とは、相互に緊密な関係にある。教育は社会のあり方に影響を受けるとともに、社会にも影響を及ぼしている。したがって、教育を考える場合、それを社会と切り離して考えることはできず、社会の中での教育・教育の中にみられる社会という視点からの検討が不可欠であろう。授業では、現代における教育の諸問題を総合的にとらえる力を形成するために、このような視点を養うことをめざしたい。

講義の内容・
授業スケジュール

自分たちが受けてきた教育をふり返り、その中でみえてきた教育のさまざまな問題を、社会の歴史や構造等との関連で検討する。また、障害者、女性、在日外国人、義務教育未修了者などの教育に焦点を当て、それらの教育と社会との関係を考える。

成績評価の方法

出席点、レポート等によって成績評価を行なう。

教科書

教科書は用いず、必要に応じて資料を配布する。

参考書等

適宜紹介する。

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

この科目は、平成11年度までに「教育原理」の単位を修得した者は、履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育と社会 (後期)	きたむらみつこ 北村三子	教職2必 (禅・仏教・国文・英米文・地理・歴史)	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

教育のあり方と社会のあり方との間には密接な関係がありますが、本講義では、とりわけ、近代社会と教育との関係を中心に考察してゆきます。今まで体験してきた学校教育をもう少し広い視野から捉えなおし、自分達がどのように社会的に形成されてきたのかを改めて考えてみたいと思います。

講義の内容・
授業スケジュール

- ①近代学校システムの特質……近代学校システムの成立とその特徴について論じます。
- ②近代学校システムを越えて……不登校その他の具体的な問題を通して近代学校システムの矛盾について考察し、今後の教育のありかたを探ります。

履修上の留意点

この科目は教養教育科目ですが、同時に教職の専門科目でもあります。教育に関心をもつ人の参加を期待します。

成績評価の方法

試験（またはそれに代わるレポート）

参考書等

教場で指示

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

この科目は、平成11年度までに「教育原理」の単位を修得した者は、履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
教育と社会 (後期)	伊藤 茂樹 <small>いとう しげき</small>	教職 2 必 (地理・歴史・社会・福祉・心理) 経A・法A・政治・経営	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

学校教育という営みは社会のあり方や他の諸領域に広く影響されると同時に、社会に影響を及ぼす関係にある。また一方で、学校という場もひとつの社会を形成している。こうした観点から、現代社会において学校教育が直面している諸問題や、これからの時代に学校教育が向かおうとしている方向性について、多面的に考えていく。

講義の内容・授業スケジュール

- とりあげるテーマ群として以下のようなことがらを予定している。
- ・現代の教育問題
- ・教育改革の現在

履修上の留意点

ふだんから教育に関するニュースに気をつけ、自分なりに考えることを心がけること。

成績評価の方法

学期末試験により評価する。

教科書

教科書は特に指定せず、参考書はその都度指示する。

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

この科目は、平成11年度までに「教育原理」の単位を修得した者は、履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
教育と社会 (後期)	村山 輝吉 <small>むらやま てるよし</small>	教職 2 必 (英米文・福祉・心理・経A・商)	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

教育は個々人の人格形成に深く関与する個人的事象であると同時に、社会のあり方によって大きく影響され、また逆に、社会のあり方やその形成に直接間接作用を及ぼす歴史的・社会的事象でもある。従ってここでは、「教育の思想(前期)」と「教育と社会(後期)」を通じて、教育事象にかかわる学生自身の個人的経験やおもいを出発点としながらも、各種資料や文献を参考にし、人間の形成と教育・文化・社会のかかわりについて原理的・総合的な考察をおこなう。両科目を通じて、人間形成にかかわる諸事象を狭い個人的見地を超え広く開かれた歴史的・社会的視座から考えられる能力を育てることをめざしているが、この「教育と社会」では、主として教育に関する社会的・制度的事項についての基礎的な理解を図ることに重点を置く。

講義の内容・授業スケジュール

第1ステップ 教育にかかわる学生自身の体験やおもいの発表(口頭または作文)と、それを系統的・論理的に整理する作業

第2ステップ 第1ステップで整理された諸問題のうち、主として教育に関する社会的・制度的事項について、資料や文献を参考にしながら考察を深める作業

成績評価の方法

出席、レポート、口頭発表、試験等により総合的に判定する。

参考書等

そのつど紹介する。

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

この科目は、平成11年度までに「教育原理」の単位を修得した者は、履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育と社会 (後期)	さか ほと のぶ あき 坂 本 信 昭	教 職 2 必 (商・法A・政治・経営)	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

人間の社会に余暇をもつ少数の人々が生まれたときに学校は生まれた。いわば余暇とともに学校は生まれたのである。もし余暇がすべての人々のものとなる時、それは、社会そのものが全体として学習と教育の場所、つまり学校になるときであるかも知れない。

講義で取り上げるテーマとしては、次のようなものを考えている。

- ・学校教育のあゆみ
- ・学校の社会的機能
- ・学校教育の現実と課題
- ・その他

履修上の留意点

授業の出欠は厳密にとる。

成績評価の方法

課題レポート、自主レポート、試験、出席等により総合的に評価する。

教科書

西村絢子他著『現代教育を考える』(昭和堂) 2,600円

参考書等

デュイ著『学校と社会』(岩波文庫) 410円

その他

- ・必要な資料を適宜配布する。
- ・この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。
- この科目は、平成11年度までに「教育原理」の単位を修得した者は、履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単位
発達と学習の心理学 (前期)	おお はま きく こ 大 浜 幾 久 子	教 職 2 必 (禅・仏教・国文・英米文) (経A・商・法A・政治・経営)	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

子どもが大人になる過程を20世紀の心理学は、どのようにとりあげ、また解明しようとしてきたのだろうか。他の諸学問分野が心理学の成立に果たしてきた役割にも言及しつつ、次のような基本的な問題をめぐる諸研究を学んでいく。その際、基礎的な心理学実験の実習も試みたい。

講義の内容・授業スケジュール

- 1) 発達と学習は、どのように定義され、また両者の関係はどのように説明されるのか。
- 2) 知能の発達と情意の発達は、どのような関係にあるのか。
- 3) 障害をも含む発達および学習における個人差を、どのようにとりあげ得るのか。

成績評価の方法

レポート提出を中心とした平常点評価の予定である。

教科書

参考資料等については、必要に応じて準備、指示していく。

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程または社会教育主事講座に登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

この科目は、平成11年度までに「教育心理学(教育方法論を含む)」あるいは「青年心理学(教育方法論を含む)」の単位を修得した者は、履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
発達と学習の心理学 (前期)	かわ だ みつ ち夫 川 田 三 夫	教 職 2 必 (経A・商・法A・政治・経営)	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

- (1)子供の成長・発達の概要を理解する。
(2)教育や学習の基本的な知識の学習をもとにして教育者としての基礎を作る。

講義の内容・
授業スケジュール

- ①発達について、乳児期、②幼児期前期、③幼児期後期、④児童期前期、⑤児童期後期、⑥青年期前期、⑦青年期中期、⑧青年期後期、⑨人格の発達、⑩社会性の発達、⑪問題行動、⑫学習・教育心理学、⑬教育学・教育原理、⑭学校・教員をめぐる問題点、⑮試験

履修上の留意点

教科書は指定せずプリント、資料等を配布し講義を行う。

成績評価の方法

学期末に定期試験を行う以外にも不定期に小試験を行う。以上の合計得点(100点満点)で所定の基準に従い評価される。

教 科 書

教科書は特に指定しない。

参 考 書 等

参考文献は授業中に適宜紹介する。

そ の 他

授業の方法は講義が中心で、アンケート等を実施することがある。
この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程または社会教育主事講座に登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。
この科目は、平成11年度までに、「教育心理学(教育方法論を含む)」あるいは「青年心理学(教育方法論を含む)」の単位を修得した者は、履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
発達と学習の心理学 (前期)	うえぶち 上 淵	教 職 2 必 (地理・歴史・社会・福祉・心理) 経 A・商・法 A・政治・経営	2

※経 B・法 B・二管の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

本講義は、従来でいえば「教育心理学」と呼ばれていたものである。そのため、学校教育に関する問題や現象について理解し、そこにいかに心理学的知識をもって関わっていく必要があるのかを、理解することが重要である。

したがって、講師からの一方的な講義は問題に焦点をあてたり、この内容の理解の導入を容易にするのにとどめる。受講者の人数にもよるが、受講者同士でグループによるディスカッションや資料調査などを中心に行ってもらうこともある。

講義の内容・ 授業スケジュール

- 1 オリエンテーション (全体の概説)
 - 2 教育心理学とは (学校心理学と教育心理学) グループ編成
 - 3 問題を抱える教師 1 - 子どもがわからない - (教師の教育観、学級崩壊)
 - 4 問題をかかえる教師 2 - 忙しさと向き合う - (教師のバーンアウトとその対策)
 - 5 問題を抱える子ども 1 (意欲の減退、他人との関わり、ひきこもり)
 - 6 問題を抱える子ども 2 (学習観や認知方略の指導等、学習相談)
 - 7 みとりとまなざし (評価、学力の問題)
 - 8 意思決定と判断のあやまり (教育活動の判断の偏り)
 - 9 発達に応じた関わりをするには？
- 以上のような内容について講義をする。

履修上の留意点

単に受け身で講義を聴くような態度では、単位取得は難しいだろう。

当然だが、講義中の私語はマナー違反である。いつまでも平気で私語をするような学生には、即座に退室してもらう。

授業には流れがあるので、履修登録だけして一月以上も経ってから教室に現れるようなことはないようにしてほしい。

成績評価の方法

学期末に提出するレポートによる。具体的な評定の仕方については、初回の講義で述べる。

教 科 書

無藤隆・市川伸一 (編著)「学校教育の心理学」(学文社)

参 考 書 等

講義中に指示する。

そ の 他

講義形式で行うが、ビデオ・OHP 等を使うこともある。また、グループによるディスカッションや、資料調べなどもする場合がある。

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程または社会教育主事講座に登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1 回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

この科目は、平成11年度までに「教育心理学 (教育方法論を含む)」あるいは「青年心理学 (教育方法論を含む)」の単位を修得した者は、履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
発達と学習の心理学 (前期)	すの 角 野 ぜん じ 善 司	教 職 2 必 (禅・仏教・国文・英米文) (地理・歴史・社会・福祉・心理)	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

教育心理学は、教育場面に対して心理学的にアプローチする学問です。すなわち、教師が、生徒を理解し、効果的な教育を行うためにはどうしたらよいかを、多様な観点から心理学的に考えようとするものです。この科目では、教育心理学の中でも、特に発達と学習に焦点を当てていきます。講義を通じて学び、考えたことを、教育場面で生徒と接するにあたっての1つのヒントにしてほしいと願っています。

講義の内容・
授業スケジュール

以下の2つを中心テーマとして進めます。
①人間の生涯にわたる発達
②学習への動機づけ

履修上の留意点

この科目は、教職課程の科目として開講されます。自らの意志で教員免許や社会教育主事などの資格の取得を目指す以上は、毎回講義に出席して、主体的な態度で臨んでください。また、教養教育科目としても履修可能ですが、それらの学生にも同様のことを要求します。

成績評価の方法

出席・課題提出・学期末テスト・学期末レポートの4点から、評価する予定です。いずれか1つでも、合格水準に達していなければ、単位を与えません。

教 科 書

使用しません。講義は、図表などを載せた資料プリントを活用して進めます。

参 考 書 等

講義の進行に合わせ、適時紹介します。

そ の 他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程または社会教育主事講座に登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

この科目は、平成11年度までに、「教育心理学(教育方法論を含む)」あるいは「青年心理学(教育方法論を含む)」の単位を修得した者は、履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
カリキュラムと学習 (後 期)	おお はま きく こ 大 浜 幾 久 子	12以降入学生/教職2必 (禅・仏教・国文・英米文) (経A・商・法A・政治・経営)	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

はじめに、学生自身が学んできた小学校、中学校、高等学校における教育課程がどのように編成されていたのかを、当該の学習指導要領により考える。次に、新しい教育課程を学び、その背景にある基本的考え方について考察していく。とくに教科・科目等の具体的内容の削減や再編については、子どもの発達と学習の観点からの考察を深めたい。さらに、諸外国における学習課程の歴史や編成原理について、異文化間教育学的な観点から検討を試みる。その際、潜在的カリキュラムにも注目することとする。

成績評価の方法

レポート提出を中心とした平常点評価の予定である。

教科書

『(小学校・中学校・高等学校)学習指導要領』(文部省)

その他

前期、「発達と学習の心理学」を履修することを原則とします。
この科目は、平成11年度以前入学者は、履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
カリキュラムと学習 (後 期)	かわ だ みつ お 川 田 三 夫	12以降入学生/教職2必 (経A・商・法A・政治・経営)	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

- (1)教育課程を中心に学校の全般的な運営について理解する。
- (2)教育や学習の基本的な知識の学習をもとにして教育者としての基礎を作る。

講義の内容・
授業スケジュール

- ①教育について、②学習・教育心理学、③教育学・教育原理、④発達心理学、⑤教育課程、⑥学習指導要領、⑦普通教育・職業教育、⑧障害児教育、⑨教育方法、⑩教育評価、⑪新しい動向(1)、⑫新しい動向(2)、⑬生徒・教師の諸問題、⑭教育・学校の諸問題、⑮試験

履修上の留意点

教科書は指定せずプリント、資料等を配布し講義を行う。

成績評価の方法

学期末に定期試験を行う以外にも不定期に小試験を行う。以上の合計得点(100点満点)で所定の基準に従い評価される。

教科書

教科書は特に指定しない。参考文献は授業中に適宜紹介する。

その他

授業の方法は講義が中心で、アンケート等を実施することがある。
前期に、「発達と学習の心理学」を履修することを原則とします。
この科目は、平成11年度以前入学者は、履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
カリキュラムと学習 (後 期)	うえ ぶち ひよし 上 淵 寿	12以降入学生/教職2必 (地理・歴史・社会・福祉・心理) 経A・商・法A・政治・経営	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

本講義は、教師が実際に学校の中でどのように学習者とかかわり、教え、教育内容を作り上げていくのか、といった点の理解に主眼をおく。

したがって、そのまなざしは、教師からのものを中心になるが、逆に受講者は、自分もっているであろう、学習者としてのまなざしとのギャップ、そしてそれをいかに乗り越えていくのかについて、考えてもらいたい。講師からの一方的な講義は問題に焦点をあてたり、この内容の理解の導入を容易にするのにとどめる。受講者の人数にもよるが、受講者同士でグループによるディスカッションや資料調査などを中心に行ってもらうこともある。

講義の内容・ 授業スケジュール

- 1 オリエンテーション (全体の概説)
 - 2 教師としてのまなざしをもつ (教師の見方、学習者の見方)
 - 3 教育をめぐる考え方の変化 (新しい学力観、生きる力、体験型学習、学力低下等)
 - 4 ふれあい、かかわり、つきはなし (ケアリング、教師学など)
 - 5 教室に入って出るまで (子どもへのかかわり、支援、教育方法)
 - 6 教えないことと教えること (カリキュラムの構成原理)
 - 7 わかることとわからないこと (カリキュラムと経験主義、活動)
 - 8 なぜ学校教育があるのか (人格陶冶、形式的陶冶、実質陶冶…)
 - 9 教師として生きる (気質、熟達化、専門性、一人の人間として)
- 以上のような内容について講義をする。

履修上の留意点

単に受け身で講義を聴くような態度では、単位取得は難しいだろう。

当然だが、講義中の私語はマナー違反である。いつまでも平気で私語をするような学生には、即座に退室してもらおう。

授業には流れがあるので、履修登録だけして一月以上も経ってから教室に現れるようなことはないようにしてほしい。

成績評価の方法

学期末に提出するレポートによる。具体的な評定の仕方については、初回の講義で述べる。

教 科 書

鹿毛雅治・奈須正裕 (編著) 『学ぶこと・教えること－学校教育の心理学－』 (金子書房)

参 考 書 等

講義中に指示する。

そ の 他

講義形式で行うが、ビデオ・OHP等を使うこともある。また、グループによるディスカッションや、資料調べなどもする場合がある。

前期に、「発達と学習の心理学」を履修することを原則とします。

この科目は、平成11年度以前入学者は、履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
カリキュラムと学習 (後 期)	すみの 野 善 司	12以降入学生/教職2必 (禅・仏教・国文・英米文) (地理・歴史・社会・福祉・心理)	2

※経B・法B・二管の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

教育心理学は、教育場面对して心理学的にアプローチする学問です。すなわち、教師が、生徒を理解し、効果的な教育を行うためにはどうしたらよいかを、多様な観点から心理学的に考えようとするものです。この科目では、教育心理学の中でも、特にカリキュラムと学習に焦点を当てていきます。講義を通じて学び、考えたことを、教育場面で生徒と接するにあたっての1つのヒントにしてほしいと願っています。

講義の内容・
授業スケジュール

以下の3つを中心テーマとして進めます。
 ①カリキュラムとは
 ②生徒の学習、および学習に対する教授過程
 ③教育場面における評価の目的やあり方

履修上の留意点

この科目は、教職課程の科目として開講されます。自らの意志で教員免許や社会教育主事などの資格の取得を目指す以上は、毎回講義に出席して、主体的な態度で臨んでください。また、教養教育科目としても履修可能ですが、それらの学生にも同様のことを要求します。

成績評価の方法

出席・課題提出・学期末テスト・学期末レポートの4点から、評価する予定です。いずれか1つでも、合格水準に達していなければ、単位を与えません。

教 科 書

使用しません。講義は、図表などを載せた資料プリントを活用して進めます。

参 考 書 等

講義の進行に合わせ、適時紹介します。

そ の 他

前期に、「発達と学習の心理学」を履修することを原則とします。
 この科目は、平成11年度以前入学者は、履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教育とメディア (前期)(後期)	おぐら やすよし 小 倉 康 仁	教 職 2 必 (禅・仏教・国文・英米文) (地理・歴史・社会・福祉・心理)	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

ここ十年あまりの間に、コンピュータ関連技術のめざましい進歩と同時に、我々とコンピュータとの係わり合いの在り方が以前と比べて様変わりしてきている。かつてルーティンワークの省力化・効率化の手段として我々の社会に導入されたコンピュータは、今や個人の表現・創造活動や問題解決思考のツール(道具)として不可欠のものとなっている。しかもそれらの活動を行うための単なる道具的手段に止まるものではなく、我々がそれらの活動を通じてこの世界に参加していく(世界と相互作用する)際のメディア(媒介物・媒体)としての役割を果たしていると言える。とくに最近では、個人と個人の間を取り持ち人間のネットワークを支える「コミュニケーションのメディア、コラボレーション(協働作業)のメディアとしてのコンピュータ」という位置づけが重要視されるようになってきている。

このようなコンピュータの利用形態と社会的位置づけの変化を背景として、教育分野におけるコンピュータ活用形態も大幅に変化してきている。そこでこの授業のねらいは、次の三つとする。

1. 「メディアとしてのコンピュータ」という切り口で、教育分野におけるコンピュータの活用方法について、教育学(教育方法論)の視点から理論的に考察する。
2. 問題解決思考のツール(メディア)としてコンピュータを利用してみる。
3. コミュニケーションやコラボレーションのメディアとしてコンピュータを利用してみる。

講義の内容・ 授業スケジュール

授業は常にコンピュータ教室で行ない、講義と実習を適宜組み合わせて授業を進める。講義部分の授業内容は、上述のねらい1.としてあげた事柄が主体となる。実習部分の授業内容は、上述のねらい2.と3.としてあげたものが相当し、具体的には以下の事項を予定している。(なお実習授業の進行速度は、パソコン初心者でも付いて来られるように配慮するつもりである。)

パソコンの基本操作

表計算ソフト EXCEL によるデータ整理・集計・分析、およびシミュレーション

WWW ブラウザによるホームページ閲覧

インターネット (WWW) 上での情報検索・収集

インターネット上での電子メールによるやりとり

履修上の留意点

履修者はなるべく早く総合情報センター主催のネットワーク講習会に参加して、電子メールアドレスを取得するように心掛けること。

成績評価の方法

平常点(出席、学習態度、提出物など)と期末試験(ペーパーテスト)との総合点によって、成績評価を行なう。

教 科 書

教科書は使用せず、配布プリント等を利用して授業を進める予定である。

参 考 書 等

参考書等については、そのつど授業時間内で指示する。

そ の 他

授業内の操作実習には Windows パソコンを使用する。

また、この授業の履修希望者は、前期履修/後期履修を問わず、全員必ず4月の第1回授業に出席すること。(正当な理由なしに欠席した場合には、履修を認めないこともあります。)

この科目は、平成11年度までに、「教育心理学(教育方法論を含む)」あるいは「青年心理学(教育方法論を含む)」の単位を修得した者は、履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教育とメディア (前期) (後期)	いし げし たつ や 石 橋 達 也	教 職 2 必 (専・仏教・国文・英米文・地理・歴史・社会) (履修・心理・経A・商・法A・政治・経営)	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

本授業では、情報化社会が著しく進展していく今日の実況での教育の在り方について学んでいきます。はじめに、教育／学習あるいは授業の捉え方や教育におけるメディアの利用の仕方について、教育心理学や教育方法論の観点から眺めます。それに続いて、インターネットなどを含めたコンピュータ活用教育について焦点を当て、その実践のために必要な操作や教師としての姿勢などについて学ぶとともに、コンピュータ利用上の注意点や問題点についても検討していきます。

講義の内容・
授業スケジュール

授業のスケジュールとしては、およそ以下に示すテーマに沿って進めていく予定です。
1. 教育の情報化と教育方法、2. 授業と学習過程の理解、3. 学習者特性の理解、4. 授業モデルと授業設計、5. 教育メディアとメディアリテラシー、6. 教育へのコンピュータの導入、7. コンピュータと情報活用能力、8. インターネットの活用と協同学習、9. インターネット社会の参加態度など。

履修上の留意点

履修する学生には、この授業が教職を目指す上で必要な科目であることを自覚して、毎回まじめに出席することと授業に積極的に取り組むことを期待します。

成績評価の方法

成績の評価は、期末試験の得点を中心にして、授業への出席状況や参加態度などの平常点を加味して行ないます。

教科書

教科書は、次のものを使用する予定です。今柴国晴編著『新版 教育の情報化と認知科学——教育の方法と技術の革新——』（福村出版）1988 定価：本体2,400円＋税

参考書等

授業の中で必要に応じて、参考文献・関連資料・ビデオ映像などを紹介していく予定です。

その他

授業の中で、毎回コンピュータを使用する実習時間があります。初歩的なレベルから始めていきますので、初心者でも学ぶ意欲があれば、安心して学習していけるはずですが、教室のパソコンの台数にあわせて、受講者数を制限する場合があります。前期の1回目の授業に出席して、担当者の指導に従ってください。また、学部(昼間)の後期に履修を希望する者も、前期の1回目の授業に出席することを原則とします。
この科目は、平成11年度までに、「教育心理学(教育方法論を含む)」あるいは「青年心理学(教育方法論を含む)」の単位を修得した者は、履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教育とメディア (前期)(後期)	しば さき じゅん じ 芝 崎 順 司	教 職 2 必 (種・仏教・国文・英米文・地理・歴史・社会 福祉・心理・経A・商・法A・政治・経営)	2

※経B・法B・二管の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

本講義は、マルチメディア・ネットワーク時代の学校教育・社会教育等教育活動の担い手として、さらには、生涯学習者として、必須と思われる各種のリテラシー（知識・技能・態度）を修得する目的や方法論について検討することを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1 メディアの歴史を概観し、現状、および将来の展望について検討する。
- 2 学校教育・社会教育におけるマルチメディア・ネットワーク利用の目的・方法について具体的に検討する。
- 3 マルチメディア・ネットワークに対応する各種のリテラシーについて、主として、欧米の先行的事例を紹介し、かつ、検討する。
- 4 マルチメディア・ネットワークワークリテラシープログラムを具体的に体験し、自己の情報リテラシーを高めるとともに、その目的や方法論について検討する。

履修上の留意点

コンピュータや各種の映像機器を活用した講義や実習を多く取り入れる。現在進行中の内容を扱うため、問題提起にならざるをえない内容も多く含む。授業への積極的参加を期待する。

成績評価の方法

出席重視。評価は小レポートと最終レポートを総合的に評価しておこなう。

教 科 書

授業中に紹介する。

参 考 書 等

必要に応じて、授業中に紹介する。

そ の 他

コンピュータや各種の映像機器を活用した講義や実習を中心とする。
この科目は、平成11年度までに、「教育心理学(教育方法論を含む)」あるいは「青年心理学(教育方法論を含む)」の単位を修得した者は、履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
道 徳 教 育 の 研 究 (前 期)	か とう ゆき お 加 藤 幸 夫	教職 2・3 必 (地理・歴史・経A・商)	2

※経B・法B・二當の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

道徳教育の問題は、単に学校教育だけの問題ではなく、子どもを取り巻く社会生活全体に係わる問題である。すなわち、時代や社会の変化の中で、人間（子ども）はいかに生きるべきかという課題と密接に関連している。それ故、道徳教育の研究においては、道徳性の原理的追究と学校教育における実際の側面を精確に把握することが常に求められる。

このような視点に立って、人間形成における道徳教育の位置づけを明確にし、且つ、道徳教育の歴史の変遷を概観しながら、現代における道徳教育の基本的課題を分析・考察することが本講義のねらいである。

講義の内容・
授業スケジュール

- I 道徳および道徳教育の本質
- II 現代社会と道徳教育
- III 戦前・戦後における道徳教育
- IV 道徳性の発達と道徳教育
- V 学習指導要領と道徳教育
- VI 道徳の時間における道徳教育
- VII 道徳教育の評価
- VIII 道徳教育の課題と展望

履修上の留意点

これまで各自が受けた道徳教育を思い起こし、整理しておくことが望ましい。

成績評価の方法

出席状況、レポート及び期末試験により総合的に評価する。

教 科 書

中野日直明・小川一郎編『新しい道徳教育』（酒井書店・育英堂）1,995円

参 考 書 等

岩村俊郎・志村欣一・他編『資料 道徳教育の研究』（北樹出版）

そ の 他

講義形式を主とするが、テーマに応じて適宜討論形式も併用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
道 徳 教 育 の 研 究 (前 期)	お 小 川 一 郎 がわ いち ろう	教 職 2 ・ 3 必 (国 文 ・ 英 米 文 ・ 法 A ・ 政 治)	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

道徳教育は、人格の完成を目指す教育の根幹をなすものである。道徳教育は学校の教育活動全体を通じて行うものであるが、小・中学校には、その中核として「道徳の時間」が設置され、学級担任が担当することになっている。

この「道徳の時間」を指導することができることを目指して、授業案を作成したり、模擬授業など実施し、実践的指導力を身につけさせたい。

講義の内容・ 授業スケジュール

- ①道徳教育の目的と意義
- ②戦前の道徳教育の特色
- ③戦後の道徳教育の特色、道徳の時間の設置の意味
- ④学習指導要領と道徳教育
- ⑤道徳性と道徳的実践力
- ⑥道徳の時間の内容と方法
- ⑦学習指導案の作成
- ⑧模擬授業の実施
- ⑨道徳の授業展開の問題点
- ⑩道徳教育と教師の役割

履修上の留意点

単なる知識の習得でなく、実践的指導力をつけることを目指しているので、授業に出席して、指導力を身につけるようにする。

成績評価の方法

授業への参加を重視する。レポートか筆記試験のどちらかを行う。

教 科 書

小川一郎・中野目直明編著『新しい道徳教育』（酒井書店）2,000円

参 考 書 等

小川一郎著『在り方生き方指導の理論と実践』（清水書院）1,500円

科目名	担当者名	配当学科	単 位
道徳教育の研究 (前期)	つる 鶴 <small>まさき</small> たけし 武	教職2・3必 <small>(徳・社会・福祉・心理・経営)</small>	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

今日の学校教育では、一人ひとりの生徒が夢や目標をもち、自らの人生や社会を切り開くことのできる豊かでたくましい心を育てるための道徳教育の一層の充実発展が求められている。この時間では、教育課程の一領域として位置づけられている「道徳」の教育的意義や目標及び内容、方法等についての研究を行う。また、新学習指導要領に示された改善の趣旨に基づいて教師としての実践的な指導力を身につけるため道徳の時間の指導計画（道徳の学習指導案）について、実際に立案し、具体的な指導の方法などを研究する。

講義の内容・
授業スケジュール

①教育改革の動向と求められる心の教育 ②道徳教育の目標と道徳の時間の目標 ③道徳の時間の指導内容 ④生徒の道徳性をどうとらえるか ⑤規範なき時代の心の教育 ⑥心の底から納得できる道徳の時間の指導 ⑦力のある資料での道徳の時間の指導の実際 ⑧生命を尊重する心を育てる指導の在り方 ⑨社会のルールを守る心を育てる指導の在り方 ⑩道徳の時間の学習指導案の書き方 ⑪道徳の時間の資料分析の仕方 ⑫道徳の時間の学習指導案を実際に書く ⑬教師の指導技術をどう高めるか

履修上の留意点

文献に基づく道徳教育に関する研究だけでなく、道徳の具体的な指導の内容や方法について理解し、実際に指導できる能力を身につけて欲しい。

成績評価の方法

試験、出席状況、学習指導案の作成等を総合的に判断し、評価する。

教科書

文部省『中学校学習指導要領解説－道徳編－』（大蔵省印刷局）260円

参考書等

七條正典編著 『改訂 中学校学習指導要領の展開』（明治図書）1,480円

その他

指導案の立案、毎時間の講義内容に則した小レポートを提出する等

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
特 別 活 動 (後 期)	かとうゆきお 加藤幸夫	教職 2・3 必 (地理・歴史・経A・商)	2

※経 B・法 B・二管の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

登校拒否やいじめ・非行など学校の内外を取り巻く諸問題が社会的問題となりつつある今日、児童・生徒の自主的・実践的態度を育成することを主なねらいとする特別活動が、現代の学校教育において果たすべき役割は誠に重要である。

教育現場において、これまで開発・展開されてきた特別活動の指導原理及びその方法について分析かつ考察し、特別活動の現代的意義と課題を明確にすることが本講の目的である。

講義の内容・
授業スケジュール

- | | |
|----------------|------------------|
| I 学校教育の構造と特別活動 | VI 児童会・生徒会活動の指導 |
| II 特別活動の歴史の変遷 | VII クラブ活動・部活動の指導 |
| III 特別活動の特質と内容 | VIII 学校行事の意義と課題 |
| IV 学級活動 | IX 特別活動の評価 |
| V ホームルーム活動 | X 特別活動の課題と展望 |

履修上の留意点

小・中・高校時代に受けた特別活動の内容を整理しておくことが望ましい。

成績評価の方法

出席状況、レポート及び期末試験により総合的に評価する。

教 科 書

中野目直明・小川一郎 編『現代の特別活動』（酒井書店・育英堂）

参 考 書 等

柴田義松 編『特別活動』（教職課程講座・第6巻）（ぎょうせい）

そ の 他

講義形式を主とするが、テーマに応じて適宜討論形式も併用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
特 別 活 動 (後 期)	小 川 一 郎 <small>お がわ いち ろう</small>	教職 2・3 必 (国文・英米文・法A・政治)	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

特別活動が人間形成に果たす役割は大きい。特に、青少年の社会性の欠如が言われている現代では、望ましい集団活動を通じて人間形成を図る特別活動の重要性は増大している。

すべての教員が学級活動（ホームルーム活動）を中心に特別活動を指導することになるので、その実践的指導力をつけることがねらいとなる。

講義の内容・
授業スケジュール

①特別活動の意義・目的 ②特別活動の方法的特質 ③特別活動の歴史の変遷 ④特別活動の内容 ⑤特別活動の指導計画と実践 ⑥特別活動と新しい学力観 ⑦特別活動と総合的な学習の時間 ⑧特別活動と生徒指導 ⑨特別活動と道徳教育 ⑩特別活動と進路指導 ⑪特別活動と地域との連携 ⑫特別活動と人間形成

履修上の留意点

単なる知識の記憶でなく、実践的指導力を身につけることをねらいとしているので、出席して、意見・疑問等を出すことを希望する。

成績評価の方法

授業への参加を重視する。レポートか筆記試験のどちらかを行う。

教 科 書

小川一郎・中野日直明編著『現代の特別活動』（酒井書店）2,000円

参 考 書 等

小川一郎著『在り方生き方指導の理論と実践』（清水書院）1,500円

そ の 他

講義を主に、随時討議などを行う。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
特 別 活 動 (後 期)	つる 鶴 巻 武	教職 2・3 必 <small>権・私教・社会・福祉・心理・経営</small>	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

現在、教師には生徒の心身の健全な発達を図り、当面する課題に適切な指導や援助をする実践的な指導力が求められている。この時間で学ぶ「特別活動」は、集団活動を通じた教育活動により、集団や社会の一員としての自覚を深め、生徒の個性の伸張と調和のとれた豊かな人間性を育成するとともに、学級や学校生活の基盤の形成に重要な役割を果たしている。この「特別活動」の教育的意義や目標、内容及び方法等について、理論と実践の両面から研究を行う。中でも、実践的な面を重視し特別活動の内容や活動内容の取り扱い方、指導方法などについての具体的な研究を通して、教師としての実践的な指導力を養う。

講義の内容・授業スケジュール

①生きる力の育成と特別活動の役割 ②生きる力の火種を培う指導 ③不登校生徒の現状から生徒指導の課題を考える ④特別活動の目標と基本的な性格 ⑤学級活動の特質と学級経営の関連 ⑥学級活動の指導(1)「適応」を中心に ⑦学級活動の指導(2)「ガイダンスの機能の充実」を中心に ⑧学級活動の指導(3)「生徒の活動と教師の指導性」 ⑨生徒会活動とボランティア活動 ⑩学校行事と開かれた学校・開かれた教育活動 ⑪特別活動と総合的な学習との関連 ⑫学級崩壊と教師の指導の在り方 ⑬生徒指導の充実と教育相談の進め方

履修上の留意点

特別活動の具体的な実践にかかわる指導内容、指導方法等についての理解を深め、教師としての識見を高め、実践的な指導力を身につけて欲しい。

成績評価の方法

レポート、試験、出席状況等を総合的に判断し評価する。

教科書

文部省『中学校学習指導要領 解説－特別活動編－』（ぎょうせい）70円

参考書等

森嶋昭伸・鹿嶋研之助編著『改訂中学校学習指導要領の展開－特別活動編－』（明治図書）1,680円

その他

毎時間の講義の内容に則した小レポートを提出する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
生徒指導論(進路指導を含む) (前期)	こみやま かなめ 小宮山 要	教職2・3必 (得点教職A・商法A・政治・経営)	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

現在の学校現場には、「いじめ」「不登校」「校内暴力」「学級崩壊」等さまざまな問題が発生している。本講義ではこれらの問題を正しく理解し、適切に対応できる教師としての基礎的能力を身につけることを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

本講義では生徒のいじめ問題に焦点を当てながら、生徒指導の理論と方法を下記のような流れに従って具体的に学習する。

- 1 生徒指導の意義と課題
- 2 生徒指導の原理
- 3 生徒の問題行動の実態
- 4 行動理解のための基礎理論・心の法則
- 5 生徒の問題行動の発現メカニズムとその理解
- 6 生徒の問題行動への対応
- 7 学校・家庭・関係機関との連携

履修上の留意点

履修する学生は、教職志望者であることを念頭に置き、授業に積極的に参加することを希望する。

成績評価の方法

定期試験、レポート、出席等をもとに総合的に判断する。

教 科 書

小宮山要著『間違いだらけのいじめ指導』（明治図書）1,760円

そ の 他

この科目は、平成11年度までに「生活指導」の単位を修得した者は履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
生徒指導論(進路指導を含む) (前 期)	こく がん ま り こ 国 眼 眞 理 子	教職2・3必 (国文・英米文・地理・歴史・社会・福祉・心理)	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

心理学をベースにして、生徒理解や、生徒の心の発達を促すうえで必要な基礎的な視点を学ぶとともに、思春期・青年期についての理解を深める。

講義の内容・
授業スケジュール

- ① 「思春期」「青年期」とはいかなる時期か
- ② 青年期における心理的な課題
- ③ アイデンティティの視点から(形成・発達)
- ④ アイデンティティ形成と人間関係
- ⑤ 進路選択と職業的なアイデンティティ
- ⑥ アイデンティティをめぐる混乱
- ⑦ サポーターとしての教師の役割

履修上の留意点

教養教育科目として開設されている「発達と学習の心理学」「教育心理学」「心理学」のいずれかを履修済みであることが望ましい。

成績評価の方法

- ① 指定図書(授業時に提示)を読み、論題に添ってレポートを作成
- ② 「職業的アイデンティティ形成」に関するレポートを作成
- ③ 定期試験

レポート点(各30点、計60点)、定期試験(30点)、出席点(10点)合計100点で成績の認定を行う。但し、レポートの期限内提出と定期試験受験を成績認定の条件とし、いずれかのレポートが未提出ないし定期試験を受験しなかった者は、成績を認定しない

教 科 書

今年度は特に使用しない。授業中に配布する資料に沿って講義を進める

参 考 書 等

- ① 鎌幹八郎『アイデンティティの心理学』(講談社現代新書)1990
- ② 鎌幹八郎・山下格(編)『アイデンティティ』(日本評論社)1999

そ の 他

この科目は、平成11年度までに「生活指導」の単位を修得したものは履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
生徒指導論(進路指導を含む) (前 期)	さ とう なお と 佐 藤 尚 人	教職2・3必 (地理・歴史・社会・福祉・心理)	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

生徒指導や進路指導を行なうにあたり、生徒を正しく理解することは必須の条件である。本講義では、まず年齢に則して子どもの特性を見てゆく。その上で、各年齢各時期で注意しなければならない指導の内容や方法について考えてゆく。

講義の内容・
授業スケジュール

E.H.エリクソンの発達段階・課題の考え方を参考に、発達にともなう子どもの特性やその変化を理解する。その上で、各年齢各時期に起こりやすい問題行動の解決や進路選択での指導を考えてゆく。

履修上の留意点

第1時間めの授業で履修上の留意点(授業に参加する際の注意事項)を話すので、履修希望者は必ず出席すること。

成績評価の方法

評価は原則として期末試験の結果で行なう。ただし、日常の授業への積極的な参加態度(発言・質問・課題提出など)をプラスして評価する。

教 科 書

テキストは特に使用しない。

参 考 書 等

参考書等は逐次紹介する。

そ の 他

この科目は、平成11年度までに「生活指導」の単位を修得した者は履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
生徒指導論(進路指導を含む) (前 期)	えん どう つかさ 遠 藤 司	教職2・3必 (国文・英・文・理・法・政治・経済)	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

教師が生徒の生活面を指導することは、現在の学校において様々な形で行われている。将来、教職に就こうとしている人間として、生徒(他者)の生活を指導することの意味を改めて問いなおし、無意識のうちにもっている自らの生徒指導観、あるいは進路指導観を自覚的にとらえなおすことが本講義の目的である。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 生徒指導、進路指導の理論、歴史とその目的の変遷
2. 「問題行動とは何か」という問いに関わる諸問題
3. 不登校、いじめ等の実際の事例を通しての実践的考察
4. 教師-生徒関係の中での生徒指導、進路指導
5. 個の尊重と組織・集団活動との相克の中での生徒指導、進路指導

履修上の留意点

考えることを厭わない学生の履修を望む。

成績評価の方法

期末試験、またはレポートを予定している。

教 科 書

特定の教科書は用いない。参考書等については授業中適宜紹介する。

そ の 他

この科目は、平成11年度までに「生活指導」の単位を修得した者は履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
生徒指導論(進路指導を含む) (前 期)	かわ 川 原 誠 司	教職2・3必 (経A・商・法A・政治・経営)	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

生徒を指導するとはどういうことか、生徒指導を行っていく上で必要ことは何かを、主に教師の「心のありよう」という点を中心にして、心理学的に解明していくことを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

授業スケジュールについては初めの方の授業で述べる予定です。

履修上の留意点

一番最初の授業で受講人数を把握して、大まかなスケジュールを作成しますので、受講希望の学生は最初の授業に必ず出席してください。いろいろな面で「自分で考えて動くこと」を授業の柱にしますので、そのことを念頭に置いて受講してください。

成績評価の方法

成績評価の柱は、受講人数や受講態度などによって変わるものなので、授業を進めていく中で決定します。詳細は最初の授業で説明します。

教 科 書

教科書は授業中に指示します。

そ の 他

授業の一部では、生徒指導に関する和文献や英文献をグループで発表してもらうこと、あるいは実技を行うことなども考えています。

この科目は、平成11年度までに「生活指導」の単位を修得した者は履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教 育 臨 床 (後 期)	こ み やま かなめ 小 宮 山 要	12以降入学生/教職2・3必 (禅・仏教・経A・商) (法A・政治・経営)	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

教育現場での「いじめ」「不登校」「校内暴力」「学級崩壊」をはじめ「無気力」「学習不振」等さまざまな問題を抱えている。本講義では、学校現場で何らかの援助を必要としている生徒たちに、どのように対処していくかという具体的な手法を身につける。

講義の内容・
授業スケジュール

本講義では幅広い臨床心理学の考え方を柔軟に取り入れて、臨床指導の基本的考え方と方法について下記のような流れに従って学習する。

- 1 心が病むとは何か
- 2 生徒の問題のとらえ方(理解の基本的視座)
- 3 心理診断
- 4 学校カウンセリングの諸問題
- 5 指導の諸技法
- 6 事例研究法
- 7 父母面接の進め方

履修上の留意点

履修する学生は、教職志望者であることを念頭に置き、授業に積極的に参加することを希望する。

成績評価の方法

定期試験、レポート、出席等をもとに総合的に判断する。

教 科 書

使用しない。授業時に資料を配付して講義を行う。

参 考 書 等

授業時に適宜紹介する。

そ の 他

この科目は、平成11年度以前入学者は履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教 育 (後 臨 床 期)	こく がん ま り こ 国 眼 真 理 子	12以降入学生/教職2・3必 (国文・英米文・地理) (歴史・社会・福祉・心理)	2

※経B・法B・二管の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

現代社会における思春期・青年期についての理解を深め、心理学をベースにして、生徒理解についての基本的な視点を学ぶ。

講義の内容・
授業スケジュール

- ① 臨床的な視点とは何か
- ② 現代社会における「思春期」「青年期」
- ③ 思春期・青年期における臨床的な問題
- ④ 演習（「見る」「聴く」を中心にして）
- ⑤ 教師の役割（カウンセリング・マインドとは）
- ⑥ カウンセリングの基礎知識

履修上の留意点

教養教育科目として開設されている「発達と学習の心理学」「教育心理学」「心理学」のいずれかを履修済みであることが望ましい。
なお授業は、後半部分は演習を中心に行うので、積極的に参加してほしい。

成績評価の方法

- ① 指定図書（授業時に提示）を読み、論題に添ってレポートを作成
 - ② 各演習後のレポート提出
 - ③ 定期試験
- レポート点（60点）、定期試験（30点）、出席点（10点）合計100点で成績を認定。但し、レポートの期限内提出と定期試験受験を成績認定の条件とし、いずれかのレポートが未提出ないし定期試験を受験しなかった者は、成績を認定しない。

教 科 書

今年度は特に使用しない。授業中に配布する資料に沿って講義を進める。

参 考 書 等

授業時に提示する。

そ の 他

この科目は、平成11年度以前の入学者は履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教 育 臨 床 (後 期)	さ とう なお と 佐 藤 尚 人	12以降入学生/教職2・3必 (地理・歴史・社会・福祉・心理)	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

不登校やいじめ、非行や無気力などのさまざまな子どもの問題行動を、具体的な事例を参照しながら検討する。あわせて生徒指導や進路指導を行なう際の注意点や教師としての対処方法も考える。

講義の内容・
授業スケジュール

問題行動解決のための方法の1つとして、行動療法や心理療法、カウンセリングなどの考え方を紹介する。教師としてしなければならないこと、してはならないこと、教師として知っておくべきことなどを整理分類して考える。

履修上の留意点

第1時間めの授業で履修上の留意点(授業に参加する際の注意事項)を話すので、履修希望者は必ず出席すること。

成績評価の方法

評価は原則として期末試験の結果で行なう。ただし、日常の授業への積極的な参加態度(発言・質問・課題提出など)をプラスして評価する。

教 科 書

テキストは特に使用しない。

参 考 書 等

参考書等は逐次紹介する。

そ の 他

この科目は、平成11年度以前の入学者は履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教 育 臨 床 (後 期)	えん どう つかさ 遠 藤 司	12以降入学生/教職2・3必 (国文・英米文・経A) (商・法A・政治・経営)	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

心の教育が重視されている現在の教育現場において、生徒が自らの生き方を考え、自己を確立するために、一方的な指導ではなく、相互の対話を基に生徒との関係を作ろうとする教師の姿勢が求められている。特に、カウンセリングに代表されるような、臨床心理学的視点をもつ教師の育成が求められている。この授業においては、臨床心理学的視点に学びながら、生徒が陥りやすい心の危機に対する対処法や援助法について、実践的に学ぶことを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 人が人と関係をもつことの意味
2. カウンセリングマインドとは
3. 教師としてカウンセリングマインドをもつことの意味
4. 教師・生徒関係の見直しと再生の過程
5. 人間の生涯における思春期・青年期の諸問題

履修上の留意点

考えることを厭わない学生の履修を望む。

成績評価の方法

期末試験、またはレポートを予定している。

教 科 書

特定の教科書は用いない。参考書等は授業中適宜紹介する。

そ の 他

この科目は、平成11年度以前入学者は履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育 (後 期)	かわ 川 はら 原 せい 誠 し 司	12以降入学生/教職2・3必 (経A・商・法A・政治・経営)	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

学校という場所で子どもや教師の中に起こっていることについて、主に心理学的な面から注目して、教師の仕事を行うにあたっての視点の広がりや深まりを獲得することを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

授業スケジュールについては初めの方の授業で述べる予定です。

履修上の留意点

一番最初の授業で受講人数を把握して、大まかなスケジュールを作成しますので、受講希望の学生は最初の授業に必ず出席してください。いろいろな面で「自分で考えて動くこと」を授業の柱にしますので、そのことを念頭に置いて受講してください。

成績評価の方法

成績評価の形式は、受講人数や受講態度などによって変わるものなので、授業を進めていく中で決定します。詳細は最初の授業で説明します。

教科書

教科書は授業中に指示します。

その他

授業の一部では、和文献や英文献を読んでもらうこと（グループで発表してもらうこと）や自分自身のことについて考えてもらう機会も予定しています。
この科目は、平成11年度以前の入学者は履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単位
総合演習(1)[障害児と教育] (前 期)	えん 遠 どう 藤 つかさ 司	12以降入学生 /教職2・3必	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

「総合的な学習の時間」の本質やその意義について理解するという目的の上に、本時間の運営のために必要な教師としての諸能力や態度を養う。この授業においては、あらゆる教育の根本に位置するという意味で、教育問題を考える上で非常に重要な問題であるところの障害児教育問題について、障害児教育の在り方について、実践を含めて現在の在り方まで総合的に学んでいく。最終的には、このテーマに即した授業プランを作成できるように学びを深めていく。

講義の内容・
授業スケジュール

「総合的な学習の時間」を実際に授業することを仮定した案を参加者に作成してもらい発表してもらったことをもとに授業を進めていくことを考えている。具体的には、参加者の数や問題意識等を把握した上で決定する。

履修上の留意点

考えることを厭わない学生の履修を望む。

成績評価の方法

授業への参加の仕方を総合的に判断して評価を行う。

教科書

特定の教科書は用いない。参考書等は授業中適宜紹介する。

その他

この科目は、平成11年度以前入学者は履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
総合演習(2)〔障害児と福祉〕 (後 期)	えん とう つかさ 遠 藤 司	12以降入学生 ／教職2・3必	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

「総合的な学習の時間」の本質やその意義について理解するという目的の上に、本時間の運営のために必要な教師としての諸能力や態度を養う。この授業においては、現代日本社会における様々な問題を根本的に考える意味において非常に重要な問題であるところの障害者福祉について、実践を含めて現在の在り方まで総合的に学んでいく。最終的には、このテーマに即した授業プランを作成できるように学びを深めていく。

講義の内容・
授業スケジュール

「総合的な学習の時間」を実際に授業することを仮定した案を参加者に作成してもらい発表してもらったことをもとに授業を進めていくことを考えている。具体的には、参加者の教や問題意識等を把握した上で決定する。

履修上の留意点

考えることを厭わない学生の履修を望む。

成績評価の方法

授業への参加の仕方を総合的に判断して評価を行う。

教 科 書

特定の教科書は用いない。参考書等は授業中適宜紹介する。

そ の 他

この科目は、平成11年度以前入学者は履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
総合演習(3)〔環境教育〕 (前 期)	きた むら かず お 北 村 和 夫	12以降入学生 ／教職2・3必	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

環境問題がなぜ生じているのか、そしてなぜ解決できないでいるのかを検討することを通して、環境問題の解決のために環境教育が何をなしうるのかを考える。

講義の内容・
授業スケジュール

環境教育の意義を理解した上で、具体的内容について考える。特に、人間、社会、環境といったことについて、常識的な見方の修正を迫るものを扱う。視野が広くなるという体験をすることを目標とする。

履修上の留意点

欠席しないこと

成績評価の方法

レポート

教 科 書

北村和夫『環境教育と学校の変革－ひとりの教師として何ができるか』(農山漁村文化協会) 2000年 2,900円(税込)

そ の 他

最初の何回かは講義をするが、その後は、可能ならばゼミ形式で進めたい。
この科目は、平成11年度以前の入学者は履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
総合演習(4)[近代社会と身体] (後 期)	きたむら かずお 北 村 和 夫	12以降入学生 /教職2・3必	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい	近代社会において、身体がどのようなものと見なされ、扱われてきたかを考える。そのことを通して、私たちの身体観が特殊近代的なものであることを理解し、それにどのような問題があるかを考える。
講義の内容・ 授業スケジュール	身体観についての研究成果を学ぶことと平行して、自分自身の身体観が、いつ、どのようにして形成されてきたのかを振り返る。そうする中で、身体観が意外に大きく自分の生き方を左右していることに気付くはずであるが、そこで、別の身体観を持っていたらどうだったろう、と考える。
履修上の留意点	欠席しないこと
成績評価の方法	レポート
教科書	最初に読むべき本の一覧表を配り、内容を解説する。その中から一冊を選び、きちんと読む。
そ の 他	最初の何回かは講義をする。その後は、可能ならばゼミ形式にする。 この科目は、平成11年度以前の入学者は履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
総合演習(5)[対人関係とストレス] (前 期)	かわ ほん せい し 川 原 誠 司	12以降入学生 /教職2・3必	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい	「ストレス」という言葉が日常頻繁に用いられているが、そのメカニズムについて考えることは少ない。本演習ではストレスの心理学的プロセスの詳細について学習し、学校現場でのストレスの実情を理解することを目的とする。子どもの時期のストレスを中心に進めていきたい。
講義の内容・ 授業スケジュール	授業スケジュールについては初めの方の授業で述べる予定です。
履修上の留意点	一番最初の授業で受講人数を把握して、大まかなスケジュールを作成しますので、受講希望の学生は最初の授業に必ず出席してください。いろいろな面で「自分で考えて動くこと」を授業の柱にしますので、そのことを念頭に置いて受講してください。
成績評価の方法	成績評価の形式は、受講人数や受講態度などによって変わるものなので、授業を進めていく中で決定します。詳細は最初の授業で説明します。
教科書	教科書は授業中に指示します。
そ の 他	ストレスに関する文献をできるだけ毎週読んでもらい、それらに対してきちんと思考・批評してもらおうことを考えています。 この科目は、平成11年度以前の入学者は履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
総合演習6〔学校における対人関係〕 (後 期)	かわ 川 原 誠 司	12以降入学生 /教職2・3必	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい	教師－生徒関係、子ども同士の関係、教師同士の関係など学校における対人関係について、心理学的な面から考えていくことを目的とする。とりわけ、対人関係における支え合い（ソーシャル・サポート）の面を中心に考えていきたい。
講義の内容・授業スケジュール	授業スケジュールについては初めの方の授業で述べる予定です。
履修上の留意点	一番最初の授業で受講人数を把握して、大まかなスケジュールを作成しますので、受講希望の学生は最初の授業に必ず出席してください。いろいろな面で「自分で考えて動くこと」を授業の柱にしますので、そのことを念頭に置いて受講してください
成績評価の方法	成績評価の形式は、受講人数や受講態度などによって変わるものなので、授業を進めていく中で決定します。詳細は最初の授業で説明します。
教科書	教科書は授業中に指示します。
その他	対人関係やソーシャル・サポートに関する文献をできるだけ毎週読んでもらい、それらに対してきちんと思考・批評してもらおうことを考えています。 この科目は、平成11年度以前入学者は履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
総合演習7〔精神障害者と地域〕 (前 期)	の 野 中 弘 敏	12以降入学生 /教職2・3必	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい	いわゆる「精神障害」とそれへの援助的関与について、諸事例を手掛りに考えてみたい。 主に以下のようなテーマをとり上げ、輪講及び対話形式で授業を進めていく予定である。 ○「精神障害」を経験する者の体験の様相について。 ○“疾病”というよりは“障害”“ハンディキャップ”としての「精神障害」について。 ○「精神障害者」が地域で生きることをめぐって。
履修上の留意点	授業の中で交わされるであろう語りに、真摯に聴きいることを、基本的な参加態度としたい。 具体的な授業の進め方については、受講数及び受講者の問題意識なども考慮して決定したい。
成績評価の方法	発表を含めた出席状況及びレポートによる。
教科書	講義の中で紹介する。
参考書等	講義の中で随時紹介する。
その他	この科目は、平成11年度以前入学者は履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
総合演習⑧〔精神障害者とボランティア〕 (後 期)	野 ^の 中 ^{なか} 弘 ^{ひろ} 敏 ^{とし}	12以降入学生 /教職2・3必	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

総合演習⑦〔精神障害者と地域〕に掲げたテーマ及び講義形式をふまえて、授業を進めていく。
(総合演習⑦を参照のこと。)

成績評価の方法

発表を含めた出席状況及びレポートによる。

そ の 他

この科目は、平成11年度以前入学者は履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
総合演習⑨〔教育と法律〕 (前 期)	ひろ ^{ひろ} 沢 ^{さわ} 明 ^{あきら}	12以降入学生 /教職2・3必	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

本年度から新設された「総合演習」の一つとして、「教育と法律」について扱う。今年は教育基本法の改正問題に焦点を合わせ、教育基本法の各条文の理解を深めようと思う。

講義の内容・
授業スケジュール

学生をテーマごとにグループ分けし、毎回担当者が報告し、全員で討論する。テーマについては、最初の授業で提示する。

履修上の留意点

演習形式で進めるので、授業への積極的参加が不可欠である。

成績評価の方法

出席状況、報告、レポートで評価する。

教 科 書

『解説教育六法』（三省堂）を必携。

参 考 書 等

授業にて指示する。

そ の 他

この科目は、平成11年度以前入学者は履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
総合演習(10)[子どもの人権] (後 期)	ひろ さわ あきら 広 沢 明	12以降入学生 /教職2・3必	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

本年度から新設された「総合演習」の一つとして、「子どもの人権」について扱う。子どもの権利条約に焦点を合わせ、様々な子どもの人権問題の理解を深めようと思う。

講義の内容・
授業スケジュール

学生をテーマごとにグループ分けし、毎回担当者が報告し、全員で討論する。

履修上の留意点

演習形式で進めるので、授業への積極的参加が不可欠である。

成績評価の方法

出席状況、報告、レポートで評価する。

教 科 書

『解説教育六法』（三省堂）を必携。

参 考 書 等

授業にて指示する。

そ の 他

この科目は、平成11年度以前入学者は履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
総合演習(11)[生と死の教育] (前 期)	やなぎ ほり す が こ 柳 堀 素 雅 子	12以降入学生 /教職2・3必	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

現代医学の中心は「治癒 (cure) を目的にしたものであり、いかに病気を治すかに力点が置かれていた。しかし治癒不可能な病気はどうしたらいいかについては、なおざりにされがちであった。治らない病気に対しては延命中心主義でのぞんできた現代医療のあり方を問い直し、ケア (care) の概念を導入した「ターミナルケア」のあり方について考えていきたい。

講義の内容・
授業スケジュール

- ①現代の死の特徴
- ②現代の病院の状況
- ③末期医療の状況と問題点
- ④ホスピスとはどのようなところか
- ⑤がん告知について etc.

履修上の留意点

与えられたテーマについて報告者を決めて報告してもらい、ディスカッションをしていく予定なので、参加者全員に自分の意見を述べてもらいます。

成績評価の方法

平常点の比重が高くなります。

教 科 書

柏木哲夫『死を看取る医学』（NHK 出版） 870円

参 考 書 等

講義の中で、その都度お知らせします。

そ の 他

講義とゼミとディスカッションを織り交ぜていきます。
ビデオも使用します。
この科目は、平成11年度以前入学者は履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単位
総合演習Ⅻ〔生命倫理〕 (後期)	やなぎほり 柳堀 素雅子	12以降入学生 /教職2・3必	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい	20世紀後半は、医学技術が加速度的に開発された。その結果脳死と臓器移植、安楽死と尊厳死、生殖技術、ヒトゲノム解析、遺伝子治療や出生前診断、クローンの問題など、旧来の生や死の概念の変更を迫るような問題が出てきた。これら人間の生命をめぐる問題と人間の生命の価値を考えていくために「生命倫理」という新しい学問分野が生まれた。現代医療がもたらした問題点を探りながら、改めて人間の生命の尊厳と価値という問題について取り組んでいきたい。
講義の内容・ 授業スケジュール	①生命倫理とは何か ②先端医療をめぐる個別的な問題点 ③患者の人権 ④先端医療と障害者差別の問題 ⑤先端医療の問題点の克服に向けて
履修上の留意点	取り出された問題点について、個々人が自らの意見をきちんと述べられるようにすること。
成績評価の方法	平常点に比重が置かれます。
教科書	なし
参考書等	講義の中で、その都度お知らせします。
その他	ビデオ、OHPなどを使って講義をしますが、それぞれのテーマについてディスカッション、レポート報告などもしてもらいます。自らの意見を述べられるように準備してください。 この科目は、平成11年度以前入学者は履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単位
総合演習Ⅺ〔現代的学習課題とジェンダー〕 (前期)	なかさわ 中澤 智恵	12以降入学生 /教職2・3必	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい	本講義は、ジェンダーと教育に関わる諸問題について理解を深め、教育・学習支援に携わる専門職に必要な資質の向上を目的とする。受講者自身の生活経験をふまえて考察し、受講者同士の相互学習の中で、社会的課題としてのジェンダー・バイアスの解消方策を具体的に検討する。
講義の内容・ 授業スケジュール	講義内容は、①ジェンダーとは何か、②ジェンダーの形成、③学校教育とジェンダーなどを予定している。後半は、受講者各自のレポート発表にもとづいた討議を中心とする。
履修上の留意点	履修上、後期「学校教育におけるジェンダー」とあわせて受講されたい。
成績評価の方法	成績評価は、出席、授業中のディスカッションへの参加状況、およびレポート発表の内容にもとづいて行うので、受講者の授業への積極的な参加を求める。
参考書等	参考書は、石川洋子編『人間発達学』（宣協社、2000年）・木村涼子『学校教育とジェンダー』（勁草書房、1999年）ほか、適宜指示する。
その他	この科目は、平成11年度以前入学者は履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
総合演習Ⅳ(学校教育におけるジェンダー) (後 期)	なか ざわ ち へ 中 澤 智 恵	12以降入学生 /教職2・3必	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

本講義は、ジェンダーと教育に関わる諸問題について理解を深め、教育・学習支援に携わる専門職に必要な資質の向上を目的とする。受講者自身の生活経験をふまえて考察し、受講者同士の相互学習の中で、社会的課題としてのジェンダー・バイアスの解消方策を具体的に検討する。

講義の内容・
授業スケジュール

講義内容としては、ジェンダーの観点からマス・メディアの問題について概説し、メディア・リテラシーに関するワークショップを行う。また、セクシュアリティをめぐる問題について取り上げる。後半では、前期の講義をふまえ、各自の問題意識をほりあげたレポート発表にもとづいて討議する。

履修上の留意点

履修上、前期「現代的学習課題とジェンダー」とあわせて受講されたい。

成績評価の方法

成績評価は、出席、授業中のディスカッションへの参加状況、およびレポート発表の内容にもとづいて行うので、受講者の授業への積極的な参加を求める。

そ の 他

この科目は、平成11年度以前入学者は履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
総合演習Ⅱ(現代家族の諸問題と教育) (前期)	くまがいかずのり 熊谷 一 乗	12以降入学生 /教職2・3必	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

現代社会の諸問題のなかでも、子どもの発達の基盤として重要な意味をもつ家族について、今日の諸問題を取り上げ、教育の観点から、その実態、背景、原因を解明し、有効な問題解決の方策をさぐることをねらいとしている。社会的に憂慮されている社会性の発達の遅れなど子どもの発達をめぐる問題、不登校・いじめ・校内暴力など学校における問題、その他の非行問題の背景には、近年、大きく変容しつつある現代家族の在り方をめぐる問題がある。この点を十分に理解し、どのように対応すればよいかを考えるとところに講義のポイントがある。

講義の内容・
授業スケジュール

講義は、次ぎの三つのセクションに分けて行われる。
 第1セクション「家族集団と子どもの発達」-4月。
 教育の場としての家族の意義。人間形成を方向づける家族の集団力学と文化。教育をめぐる定住家族と生殖家族。
 第2セクション「産業の発展にともなう家族の変容と教育機能の衰退」-5月。
 産業構造の変化と家族規模の縮小、核家族の一般化。役割構造の変化と学習・教育プロセスの変化。共同体としての家族の“崩れ”と教育機能の低下。
 第3セクション「現代の家族をめぐる問題の諸相と人間形成」-6、7月
 出生率の低下・少子化の教育問題。親子関係の変容。メディアの家庭支配と連帯の弛緩。共働きの一般化と保育問題。高齢化における家族の福祉機能と教育機能-その可能性と限界・家族間の格差。

履修上の留意点

家族問題への関心。

成績評価の方法

出席状況と試験の成績。

授業の方法

講義に討論場面を加える。

教科書

プリント配布。

参考書等

授業中に紹介。

その他

この科目は、平成11年度以前入学者は履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
宗 教 科 教 育 法	こ 山 一 乗 こ やま かず のり	教 職 3 必 (禪 ・ 仏 教)	4

講義のねらい

講義と模擬授業とで構成する。
 教育関係法規下での「宗教科教育」の位置づけを概観する。憲法、教育基本法、学校教育法、学習指導要領、教育職員免許法を概観する。
 特に、各教科と宗教科との関係、「宗教科教育」と「宗教教育」との異同点にも留意する。
 我が国にかかわる第2次世界大戦後の、対日米国占領教育改革施策に看取される「宗教教育」の諸問題を例示しつつ、日本国憲法20条と教育基本法9条との関係、基本法9条と初期社会科学学習指導要領の文言との関係等を検証する。
 その上で、「宗教の定義集」への着目をし、「『宗教に関する寛容の態度』の涵養」への展開を検討する。そこからさらに「宗教の社会生活における地位」に関する「宗教的無知」解消を図る授業展開を考える。

講義の内容・
授業スケジュール

宗教一般知識教育、宗教的情操教育、宗派教育の学習指導方法を具体的に探究して、異文化理解の課題にも備えるようにしたい。適宜、童歌なども、導入し、幼稚園教育から高等学校教育までの接続も考察に含めたい。
 『仏教概論——分かりやすい仏教——』をテキストにして、原則として模擬授業(50分)を課します。教材研究の実際、学習指導要領、学習指導案の基礎的・基本的事項を講義する。その上で、具体的に、学習指導案の様式と教育観との関係が思量でき、主体的に選択した様式に基づいて実際に学習指導案を作成してもらおう。
 模擬授業は、その様子をビデオに収録し、再生して、爾後の授業分析の鏡利用とし、自己分析に供する。

履修上の留意点

学年、他教科との関連を常に勘案すること。社会科・地理歴史科・公民科における宗教の教育、宗教科教育における宗教の教育、宗教教育における宗教の教育の異同点、及び、訳語としての用語「宗教」に関し熟考して欲しい。

成績評価の方法

模擬授業、レポート、出席点により総合的に評価する。

教 科 書

小山一乗著『教育と寛容——宗教的事実・規範の取り扱いとそのおしえ方、評価の観点——』(宣協社) 2,940円
 『仏教概論——分かりやすい仏教——』(曹洞宗宗務庁) 800円
 小中高各『学習指導要領』各 230円 250円 370円

参 考 書 等

井上順孝監修『宗教教育資料集』(すずき出版) 3,900円
 『宗教教育の理論と実際』(鈴木出版) 1985年
 『仏教・キリスト教・イスラーム・神道 どこが違うか』(大法輪閣) 1,600円
 『教育小六法』(学陽書房) 2,200円
 その他適宜紹介する。

そ の 他

講義を基調とするが、実際には、講義と模擬授業(演習)を折衷した形態となろう。定例教場での講義を中心とするが、必要に応じ、視聴覚教室でのビデオ、スライド、OHPの視聴をするので視聴覚教場の掲示に注意しておくこと。
 プリントを配布するのでファイル表紙を用意して欲しい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
国 語 科 教 育 法	かみ や みち のり 神 谷 道 倫	教 職 3 必 (国 文)	4

講義のねらい

中学校・高等学校の国語科教育の意義・目標・内容、さらに各領域・教材に応じたそれぞれの指導方法等について概観したのち、実際の教材にあたって、基礎学力を点検するとともに、教材研究のあり方、指導事項、指導方法、指導過程等について、主に模擬授業の形式で具体的に研究を深め、実践に際しての指導力を養成する。

講義の内容・
授業スケジュール

重点的に以下の三点を中心に進める。

- ① 国語科教育の現況の確認
- ② 国語科教育の方法、実践等について先人の試みの意義を探究する。
- ③ 教育実践の準備

以上のうち①②については、教科書・プリント等を用いて講義形式で行う。③については、教材研究の実際、指導案の作成など課題形式のもの提出と、実際の教材による模擬授業の形式(グループ分けにより全員が何らかの形で必ず参加)で行う。基礎学力の点検にも配慮する予定。

履修上の留意点

科目の性質上、出席は当然重視する。(なお、中学校・高等学校時代使用の国語の教科書・副読本があれば、手元に整理して必要な場合参照できるようにしておくことが望ましい。)

成績評価の方法

定期試験の成績を主とするが、提出物、模擬授業の成果、授業参加(出席)の状況等の観点も加えて総合的に評価する。

教 科 書

全国大学国語教育学会編 新中学校・高等学校『国語科教育研究』(学芸図書株式会社)
1,300円+消費税

参 考 書 等

国語科教育法に関するもの、特に後半使用する教材に関するもの等少なからずあるが、その都度指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
書 道 科 教 育 法	な す たか よし 那 須 隆 吉	教 職 3 必 (国 文)	4

講義のねらい

長い歴史を持つ書道の特徴を考察し、その指導法を学習する。そして将来の教師としての自覚を促し、その指導力を養う。

講義の内容・
授業スケジュール

文部省の芸術科学習指導要領を理解し、芸術科書道の指導計画の作成についての基本的な考え方や、学習指導のあり方、指導法の工夫などについて事例を挙げながら講じたい。

履修上の留意点

遅刻をしないように、又教場での私語を慎むように。

成績評価の方法

出席及び随時レポートの提出により評価する。

教 科 書

高等学校芸術科書道指導資料 文部省編著『指導計画の作成と学習指導の工夫』(教育図書)
990円

参 考 書 等

随時紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
英 語 科 教 育 法	あらい よしお 荒井良雄	教 職 3 必 (英 米 文)	4

講義のねらい

英語科教育法の理論と実践を、教授法の実践面を重視しつつ、授業計画、授業の展開、評価などを中心に実習する。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 主な英語教授法
2. 言語材料と指導
3. 「聞き方」の指導法
4. 「話し方」の指導法
5. 「読み方」の指導法
6. 「書き方」の指導法
7. 指導案のあり方
8. 指導形態の研究
9. 評価とテストの方法
10. 視聴覚器具の利用法

履修上の留意点

中学校や高等学校の教壇に立って教える立場になることを常に念頭において、英検準1級、TOEFL600点前後を取得していることが望ましい。中学生や高校生で2級はもとより準1級取得者もいることを忘れないように。

成績評価の方法

平常点を重視し、前期、後期、学年末試験の成績を総合して判定する。

教 科 書

十屋澄男、広野威志著『新英語科教育法入門』（研究社出版）2,500円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
社 会 科 教 育 法 I (後 期)	いく た きよ と 生田清人	教 職 3 必	2

講義のねらい

- (1)中学校社会科がどのような教科であるか理解すること。
- (2)授業を行うために必要な基礎的知識を習得すること。
- (3)実際に授業を計画し展開できる技術を習得すること。

講義の内容・
授業スケジュール

- (1)「社会科」がどのように成立しどのようなあゆみをしてきたのかを、とくに教科書の記述の検証を通して考える。この検討をもとに年間授業計画を作成する。
- (2)学習指導案、授業教材を作成するために、いろいろな教材を使った授業や授業形態の実践例を紹介し、この時期の生徒の発達段階にあった「社会科」の学習指導について考える。また、「社会科」を中心とした総合的学習についても考える。このまとめとして学習指導案と授業教材を作成する。
- (3)「社会科」を構成する地理・歴史・公民各分野の内容とこの時期の生徒の学習活動の発達段階をもとに学習評価について考える。

成績評価の方法

年間授業計画・学習指導案・教材プリントなどをまとめたレポートの到達度評価と出席状況により評価する。なお詳細は最初の講義において述べる。試験は実施しない。

教 科 書

社会認識教育学会 編 『改訂新版 中学校社会科教育』（学術図書出版社）1854円

科目名	担当者名	配当学科	単 位
地理歴史科教育法Ⅰ (前期)	いた きよ と 生 田 清 人	教職 3 必	2

講義のねらい

- (1)地理、歴史それぞれの科目の学習目標を理解すること。
- (2)授業を行うために必要な基礎的知識を習得すること。
- (3)実際に授業を計画し展開できる技術を習得すること。

講義の内容・
授業スケジュール

- (1)同じテーマ（例えば、アメリカ合衆国の西部開拓、イギリスの穀物法など）について、地理と歴史の扱い方の違いを検証し、それぞれの科目の学習目標を考える。
- (2)地理を例に、日本と諸外国（とくにイギリス）の地理教科書の比較から、授業の構成についてのいろいろな考え方を紹介し、授業の構成について各自が自分なりの考え・姿勢を持つことを目標とする。このまとめとして年間授業計画を作成する。
- (3)学習指導案、授業教材を作成するときに必要な知識と技術を習得するために、いろいろな教材を使った授業や授業形態の実践例を紹介し、これらの作成の方法や学習評価について考える。この検討をもとに学習指導案と授業教材を作成する。

成績評価の方法

年間授業計画・学習指導案・教材プリントなどをまとめたレポートの到達度評価と出席状況により評価する。なお詳細は最初の講義において述べる。試験は実施しない。

教科書

社会認識教育学会 編『改訂新版 地理歴史科教育』学術図書出版社 1751円

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会科教育法Ⅰ (後期)	さくら い あき ひさ 桜 井 明 久	教職 3 必	2

講義のねらい

中学校社会科の内容・教授法について、地理分野を例に概説する。

講義の内容・
授業スケジュール

おおよその内容は、以下の通りである。
④指導案の作成 ⑤模擬授業 ⑥授業の研究と方法 ⑦地理教師の仕事

履修上の留意点

授業計画上、前期の地理歴史科教育法Ⅰ（地理A、地理Bを中心課題とする）とセットとして授業計画を組むので注意すること。後期のみ受講するものは、後期の最初に模擬授業の準備のための宿題を課すので、講義の第1日目には必ず出席のこと。それが不可能な場合には、事前に桜井まで申し出ること。

中学校社会科のうち、地理的分野を中心題材とする。
個人またはグループで模擬授業を行うなど、実際に授業を試みてもらうので、授業への積極的な参加が求められる。このため、巡検や調査による公欠以外の欠席については厳しく取り扱う。担当部分の放棄、担当日の欠席は許されない。それが避けられない場合は、事前に連絡し、相談すること。又、実践を中心とするため、必要な情報は教科書から得てもらおうことになるので、そのレポートも指定された時期に必ず提出すること。

成績評価の方法

出欠、授業・討論への参加、模擬授業の成果など 50点
レポート 30点 期末試験 20点

教科書

桜井明久（1999）『地理教育学入門』（古今書院）3,800円

科目名	担当者名	配当学科	単 位
地理歴史科教育法Ⅰ (前期)	さくら い あき ひさ 桜 井 明 久	教職3必	2

講義のねらい

高等学校地理歴史科の教育目標・内容と教授法について、地理A、地理Bを例に概説する。

講義の内容・
授業スケジュール

おおよその内容は、以下の通りである。
①地理教育の目標 ②マイクロティーチング ③教授方法上の工夫
④指導案の作成

履修上の留意点

授業計画上、後期の中学校社会科教育法Ⅰ(中学校地理的分野を中心課題とする)とセットとして、すなわち通年の授業として計画を組むつもりであるので注意すること。
各自マイクロティーチングを試みるなど、実際に授業を試みてもらうので、授業への積極的な参加が求められる。このため、巡検や調査による公欠以外の欠席については、厳重に注意すること。担当部分の放棄、担当日の欠席は許されない。それが避けられない場合は、事前に連絡し、相談すること。なお、地理歴史科の科目・地理A、Bを中心題材とするので注意すること。
また、実践中心の授業を計画するため、伝えたい情報の多くは教科書を読んで掴んでいただくことになるが、指定された期日までに指定された内容のレポートを出すことになることにも十分に注意すること。

成績評価の方法

出欠、授業・討論への参加、マイクロティーチングなど 50点
レポート 30点 期末試験 20点

教科書

桜井明久(1999)『地理教育学入門』(古今書院)3,800円

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会科教育法Ⅰ (後期)	ふじ き まさ くに 藤 木 正 国	教職3必	2

講義のねらい

中学校社会科(特に歴史的分野)の教師として、自ら授業をくみため、実践できる能力を養う。直接的には教育実習にそなえる。

講義の内容・
授業スケジュール

- ①戦後日本教育制度の変遷
- ②社会科成立の事情と学習指導要領の変遷
- ③歴史的分野の目標と内容
- ④学習指導案の作成
- ⑤個別の模擬授業

履修上の留意点

受講する以上は、教員を目指し努力すること。安易な単位修得は考えない。出席状況と提出物はとくに重視する。常に努力と創意工夫とを忘れぬように。

成績評価の方法

出席状況(重視)、提出物、定期考査などを総合し評価する。

参考書等

『中学校学習指導要領解説-社会編-』(文部省・大阪書籍)と中学校社会科歴史分野の教科書を一冊用意すること。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
地理歴史科教育法Ⅰ (前期)	ふじ き まさ くに 藤 木 正 国	教職3必	2

講義のねらい

高等学校社会科(特に日本史)の教師として、白から授業をくみため、実践できる能力を養う。直接的には教育実習にそなえる。

講義の内容・
授業スケジュール

- ①日本教育制度の変遷(古代～戦前)
- ②地理歴史科の目標
- ③日本史(A・B)の目標と内容
- ④学習指導案の作成
- ⑤グループ別の模擬授業

履修上の留意点

受講する以上は、教員を日ざし努力すること。安易な単位修得は考えない。出席状況と提出物はとくに重視する。常に努力と創意工夫とを忘れぬよう。

成績評価の方法

出席状況(重視)、提出物、定期考査などを総合し評価する。

教科書

『高等学校学習指導要領解説・地理歴史編』(文部省・実教出版)と高等学校日本史Bの教科書を一冊用意すること。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会科教育法Ⅱ (後期)	はし つめ さとし 橋 爪 敏	教職3必	2

講義のねらい

この授業は、中学校社会科教師に必要な基礎的認識や知識の習得などを主たる目標とする。

講義の内容・
授業スケジュール

授業の内容としては、上に記したような目的を実現すべく、また、学生諸君の能動的参加が可能となる形式で行いたい。しかし半期科目であり、時間も限られている。受講学生数によっては、その方法を変えざるをえないが、原則として、社会科教育法に関する文献購読(下記テキスト)を主としたい。学生諸君に分担してその内容を報告してもらい、それをもとにして、社会科とは何か、如何にあるべきか、如何に教えるべきかを、ともに気づき、考えることの出来る授業としたい。いずれにせよ、模擬授業の意味を持たせ、学生の報告を主とする形式で行なう。

履修上の留意点

教師に成ることを目指すか否かにかかわらず、積極的に授業に参加する学生の受講を望む。

成績評価の方法

最終レポート並びに普段の報告、質問、授業への参加状況、出席状況などを総合して決定する。

教科書

社会認識教育学会編『社会科教育学ハンドブック』(明治図書)

参考書等

適宜、授業中に紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
公 民 科 教 育 法 I (前 期)	はし 橋 づめ さとし 敏	教 職 3 必	2

講義のねらい

この授業は、高等学校公民科教師に必要な基礎的認識や知識の習得などを主たる目標とする。

講義の内容・
授業スケジュール

授業の内容としては、上に記したような目的を実現すべく、また、学生諸君の能動的参加が可能となる形式で行いたい。しかし半期科目であり、時間も限られている。受講学生数によっては、その方法を変えざるをえないが、原則として、公民科教育法に関する文献購読を主としたい。学生諸君に分担してその内容を報告してもらい、それをもとにして、公民科とは何か、如何にあるべきか、如何に教えるべきかを、ともに気づき、考えることの出来る授業としたい。いずれにせよ、模擬授業の意味を持たせ、学生の報告を主とする形式で行なう。

履修上の留意点

教師に成ることを目指すか否かにかかわらず、積極的に授業に参加する学生の受講を望む。

成績評価の方法

最終レポート並びに普段の報告、質問、授業への参加状況、出席状況などを総合して決定する。

教 科 書

使用するが、未定。

参 考 書 等

適宜、授業中に紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会科教育法Ⅱ (後期)	や 谷 しき ただ みつ 敷 正 光	教職3必	2

講義のねらい

本講は中学校社会科で教育実習を行う学生や社会科教師を目指す学生に、「教育とは」「社会科教育とは何か」といった社会科教育の基本原則から、「授業とは何か」「授業のねらいをどう設定するか」「授業をどう組み立てるか」「授業の教材をどう発掘するか」といった授業設計のたて方、授業づくりに必要な教材開発の方法や授業の基本的指導技術まで社会科教師としての資質・力量形成を目標に行います。

講義の内容・ 授業スケジュール

1. 教育の基本概念
2. 社会科の成立と意義
3. 中学校社会科学習指導要領の変遷
4. 中学校の教育課程と社会科
5. 中学校社会科の授業設計
6. 中学校社会科の指導法
7. 中学校社会科と思考力を育てる授業
8. 中学校社会科の教材開発と資料の活用
9. 中学校社会科学習指導案の意義と作成
10. ビデオによる社会科教師の授業研究
11. 中学校社会科の目標 (平成元年度版・平成10年度版)
12. 中学校社会科の内容・取り扱い (平成元年度版・平成10年度版)
13. 社会科の評価
14. 社会科教育実習における「教師教育」
15. 社会科教師と教員採用試験
(教員採用試験の受験希望者は本講とは別に指導します。)

履修上の留意点

- ① 教科書の補充としてプリントを配布しますので、必ずその時間に受け取って下さい。
- ② 現実的理解のためビデオなどを利用しますので、視聴覚室に変更することがあります。

成績評価の方法

- ① 授業での課題の提出、授業実践、出席、小テストなどで総合的に評価します。
- ② 定期試験、追再試は行いません。小テストは授業中に実施。

教科書

毎時間、講義の教材として年間数十枚のプリントを配布するので、教科書は使用しない。

参考書等

- 講義に関係する参考文献は適宜紹介しますので、興味のある人は読んで下さい。
- ① 大田堯『教育とは何か』(岩波新書)
 - ② 無着成恭『山びこ学校』(角川文庫)
 - ③ 灰谷健次郎『兎の眼』(新潮文庫)
 - ④ 大森・谷敷『社会科教育研究』(粹出版)
 - ⑤ 槐一男『社会科教材発掘の技術』(日本書籍)
 - ⑥ 谷川彰英『社会科の自由研究ヒント集』(黎明書房)
 - ⑦ 谷川彰英『楽しく学べる授業づくりのヒント』(明治図書)
 - ⑧ 浜上薫『発問づくりの技術』(明治図書)
 - ⑨ 鈴木健二『社会科指導案づくりの上達法』(明治図書)
 - ⑩ 中学校社会科(地理的分野、歴史的分野、公民的分野)の教科書
 - ⑪ 文部省『中学校学習指導要領』、文部省『中学校指導書』(大阪書籍)

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
公 民 科 教 育 法 I (前 期)	や 谷 しほ ただ みつ 数 正 光	教 職 3 必	2

講義のねらい

本講は高等学校公民科で教育実習を行う学生や公民科教師を目指す学生に、「教育とは」「公民科教育とは何か」といった公民科教育の基本原則から、「授業とは何か」「授業のねらいをどう設定するか」「授業をどう組み立てるか」「授業の教材をどう発掘するか」といった授業設計のため、授業づくりに必要な教材開発の方法や授業の基本的指導技術まで公民科教師としての資質・力量形成を行います。

講義の内容・ 授業スケジュール

1. 教育の基本概念
2. 社会科の成立と意義
3. 高等学校社会科（公民科）学習指導要領の変遷
4. 高等学校の教育課程と公民科
5. 高等学校公民科の授業設計
6. 高等学校公民科の指導法
7. 高等学校公民科と思考力育成の学習過程
8. 高等学校公民科の教材開発と資料の活用
9. 高等学校公民科学習指導案の意義と作成
10. 4年生による模範授業（授業研究）
11. 模範授業を通じての高等学校公民科の授業実践研究
12. 高等学校公民科の目標（平成元年度版・平成11年度版）
13. 高等学校公民科の内容・取り扱い（平成元年度版・平成11年度版）
14. 教育評価
15. 公民科教師論
16. 公民科教師と教員採用試験
(教員採用試験の受験希望者は本講とは別に指導する。)

履修上の留意点

- ① 教科書の補充としてプリントを配布しますので、必ずその時間に受け取って下さい。
- ② 現実的理解のためビデオなどを利用しますので、視聴覚教室に変更することがあります。

成績評価の方法

- ① 授業での課題の提出、授業実践、出席、小テストなどで総合的に評価します。
- ② 定期試験、追再試は行いません。小テストは授業中に実施します。

教 科 書

毎時間、講義の教材として年間数十枚のプリントを配布するので、教科書は使用しません。

参 考 書 等

講義に関する参考文献は適宜紹介しますので、興味のある人は読んで下さい。

- ①大田堯『教育とは何か』（岩波新書）
- ②槐一男『社会科教材発掘の技術』（日本書籍）
- ③谷川彰英『社会科の自由研究ヒント集』（黎明書房）
- ④谷川彰英『楽しく学べる授業づくりのヒント』（明治図書）
- ⑤福山憲市『資料提示の技術』（明治図書）
- ⑥大森・谷敷『社会科教育研究』（粹出版）
- ⑦高等学校社会科（現代社会、政治経済、倫理）の教科書
- ⑧文部省『高等学校学習指導要領』、文部省『高等学校学習指導要領解説 公民編』（実教出版）

科目名	担当者名	配当学科	単位
社会科教育法Ⅱ (後期)	小川輝之	教職3必	2

講義のねらい

社会科教育の目的、社会科教育の歴史、社会科の各分野（地理的分野、歴史的分野、公民的分野）の目標及び内容構成、授業計画、実践事例等について考える。新学習指導要領における社会科の改善点や社会科教育との関連性が深い中学校道徳についても検討する。

講義の内容・
授業スケジュール

社会科教育の目標、内容構成、年間授業計画、実践事例を検討、その上で授業指導演案（学習指導演案）を作成し、模擬授業を实践する。模擬授業は指定された内容の中から教材を選択し、提出された授業指導演案（学習指導演案）に基づき、できるだけ全員が行うこととするが、受講生が多い場合には、班を編成して代表者が行う。授業終了後には自己評価を行い、受講生による合評会を開いて検討し、さらに評価問題を作成する。

履修上の留意点

社会科の指導に要請される広い視野を養うために、社会科の各分野（道徳も含めて）に関心を持つとともに、教材研究に努めることが期待される。

成績評価の方法

定期試験は実施せず、出席状況・レポート（50%）、授業指導演案（学習指導演案）・模擬授業・評価問題の作成（50%）などにより総合的に評価する。

教科書・
参考書等

教科書は使用しないが、文部省発行の学習指導要領の解説書を使用する。具体的には開講時に指示する。また、授業時に適宜印刷物を配付する予定である。

その他

受講生数にもよるが、講義、討論、発表など多様な授業展開に心がけ、実践力を養うよう工夫したい。

科目名	担当者名	配当学科	単位
公民科教育法Ⅰ (前期)	小川輝之	教職3必	2

講義のねらい

公民科教育の目的、公民科教育の歴史、公民科の各科目（「現代社会」「倫理」「政治・経済」）の内容構成、授業計画、実践事例などについて考える。新学習指導要領における生命倫理や環境教育、福祉教育等の公民科教育における新しい課題についても検討する。

講義の内容・
授業スケジュール

公民科教育の目標、内容構成、年間授業計画、実践事例等を検討、その上で授業指導演案（学習指導演案）を作成し、模擬授業を展開する。模擬授業は指定された内容の中から教材を選択し、提出された授業指導演案（学習指導演案）に基づき、できるだけ全員が行うこととするが、受講生が多い場合には班を編成し代表者が行うこともある。授業終了後には自己評価を行い、受講生による検討会を開き、さらに評価問題を作成する。

履修上の留意点

公民科の指導に要請される広い視野を養うために専門分野にとどまらず、広く公民科の内容領域に関心を持つとともに、教材研究に努めることが肝要である。

成績評価の方法

定期試験は行わず、出席状況・レポート（50%）、授業指導演案（学習指導演案）・模擬授業・評価問題作成（50%）などにより、総合的に評価する。

教科書・
参考書等

教科書は使用しないが、文部省「高等学校学習指導要領解説・公民編」（実教出版）と、のちに指定する公民科の教科書を必ず購入すること。その他資料は授業時に印刷配付する。参考書等については随時授業時に紹介する。

その他

講義、討論、発表等できるだけ多様な授業形態で実践力を養えるよう工夫する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
商 業 科 教 育 法	谷 敷 正 光 <small>やしきただみつ</small>	教 職 3 必 (経 A・商・経営)	4

講義のねらい

「専門教育」(職業教育)の一つである商業教育は、日本の経済をささえる重要な一環としてつねに重視され、産業構造の高度化、経営革新にともなうめまぐるしく変遷してきた。先端産業化、国際化、情報化時代をむかえ、大きく改善されている。さらに1994年度からは、「普通科」と「専門学科」の中間形態ともいえる「総合学科」が誕生し、高等学校教育の改革が急速に進んでいる。従って、この講義のねらいは、「専門教育」のあり方そのものが問われている現在、しっかりと商業教育を樹立するために、この「教科教育法」を商業教育の単なる技術論に終わらせることなく、より基本的な「教育とは何か」「商業教育とは何か」といったところまでさかのぼり、本来的な意味での商業教育論を展開し、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。

講義の内容・授業スケジュール

1. 専門教育・商業教育の現状
2. 専門教育・商業教育の改革動向
3. 専門教育・商業教育の概念
4. 高等学校における商業教育の変遷
5. 高等学校の教育課程
6. 商業科の教育課程
7. 商業科の授業設計
8. 商業科の指導法
9. 商業科の教材開発と資料の活用
10. 商業科学習指導案の作成(実践)
11. ビデオによる商業科教師の授業研究
12. 4年生による模範授業(授業研究)
13. 模擬授業を通じての商業科の授業実践研究
14. 商業の各科目の個別目標・内容・取り扱い
15. 商業科における評価
16. 商業科教育実習における「教師教育」
17. 商業科教師論
18. 商業科教師と教員採用試験
(教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する。)

履修上の留意点

- ① 教科書の補充として年間かなりのプリントを配布するので、必ずその時間に受け取ること。
- ② 現実的理解のためビデオなどで視聴覚教室を利用するので、常に教場には注意しておくこと。

成績評価の方法

- ① 授業での課題の提出、学習指導案の作成、模擬授業実践、出席、小テストなどで総合的に評価する。小テストは授業中に実施。
- ② 定期試験、追再試は実施は行いません。

教 科 書

岡田修二他『新商業教育論』(多賀出版)

参 考 書 等

講義に関係する参考文献は適宜紹介しますので、興味のある人は読んで下さい。

- ①大田 堯『教育とは何か』(岩波新書)
- ②産経新聞社『学校ってなんだろう』(新潮社)
- ③灰谷健次郎『兎の眼』(新潮文庫)
- ④斎藤喜博『授業入門』(国土社)
- ⑤毎日新聞社『教育改革 現場の試み』(毎日新聞社)
- ⑥岩下 修『指導案づくりの技術』(明治図書)
- ⑦新牧賢三郎『やる気を引き出す技術』(明治図書)
- ⑧高等学校商業科の教科書(「流通経済」「商業経済」など)
- ⑨文部省『高等学校学習指導要領解説 商業編』(大日本図書)

科目名	担当者名	配当学科	単 位
職業科教育法	まえ だ ゆき かず 前 田 幸 一	教 職 3 必 (経 A ・ 商)	4

講義のねらい

授業は以下の項目に沿って進めていきます。
 ①『中学校学習指導要領』（昭和52年版、平成元年版、平成10年版）の「技術・家庭」について、その新旧の比較検討をしていく。
 ②「技術・家庭のあり方」について、新聞の切り抜きを通して考えていく。
 ③職業教育について考えていく。

履修上の留意点

自分や周りの家庭や職業について改めて考えてきてほしい。新聞の家庭欄や経済面などにも目を通しておいて下さい。

成績評価の方法

筆記試験はせず、平常点かレポートで成績評価をします。再試験はしません。

教科書

『中学校学習指導要領』（文部省、平成10年12月）、他については授業において指示します。

参考書等

中学校の『技術・家庭』の教科書など

その他

授業を受ける人は少数なので、ゼミ形式で授業を進めていきます。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
教育実習Ⅰ	とよ た ち よ こ 豊 田 千 代 子	教職必(特・仏教・社会・福祉・心理)	3
教育実習Ⅱ		12月帰入学生教職必(特・仏教・社会・福祉・心理)	5

講義のねらい

中学・高校での教育実習を充実させるための準備を行なうことと、実習をとおしてみえてきた教育のさまざまな課題について、ともに考えることを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

事前指導 — ・実習の心がまえ
 ・生徒指導について
 ・教科指導について
 ・指導案作成
 ・模擬授業
 訪問指導 — ・研究授業訪問指導
 事後指導 — ・授業実習の検討

成績評価の方法

実習ノート、実習校からの評価、授業での実習報告、レポート。

教科書

教科書は用いず、必要に応じて資料を配布する。

参考書等

適宜指示する。

その他

教育実習Ⅱの履修が必要となるのは、平成13年度は、科目等履修生の内の一部です。担当教員の指示に従ってください。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
教育実習Ⅰ	さかもと のぶ あき 坂 本 信 昭	教職4必(国文・歴史・法A・政治・経営)	3
教育実習Ⅱ		12以降入学生/教職4必(国文・歴史・法A・政治・経営)	5

講義のねらい

教育実習での失敗を未然に防ぎ、あるいはできるだけ少なくするというよりも、むしろ、不必要な先入観を捨て、持ち合わせている力で、全身で意欲的に向う姿勢に高め、教育実践の場で、間違いや失敗したことについて悩み、苦しむことを通して、自覚的に主体的に一つ一つの教育事象について考える機会にしたい。そのためには、いわゆる事前指導も大事であるが、事後指導(教育)も大事にしたいと考えている。

講義の内容・授業スケジュール

教育実習前の段階では、教育実習の意義・目標・内容(領域)等に関する講義とビデオ教材なども視聴し、実習に際しての事前指導を行う。

教育実習期間中は、できるとき実習校を訪問したいと思っている。

教育実習後は、各自の教育実習報告、レポート作成(提出)、教育問題にかかわるビデオの視聴、ディスカッションなどから教育への理解を深め、教育とは何か-どうあるべきか-について、各自の教育観を明示できるようにし、さらに、望ましい教師像等についても一緒に考えたいと思う。

履修上の留意点

授業の出欠は厳密にとる。

成績評価の方法

①実習校からの教育実習評価及び教育実習ノート、②教育実習報告(口頭報告)及び報告レポート、③ビデオ視聴のコメント(感想)、④年度末試験(または、課題レポート)によって、総合的に評価します。なお、①~④について重視する度合は、全て同グレードに考えている。

教科書

栗原敦雄他編『教育実習ガイド』(宣協社) 1,500円

参考書等

寺崎昌雄他編『教育実習57の質問』(学文社) 1,000円
西村絢子他編『現代教育を考える』(昭和堂) 2,600円

その他

教育実習Ⅱの履修が必要となるのは、平成13年度は、科目等履修生の内の一部です。担当教員の指示に従ってください。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
教育実習Ⅰ	むら やま てる よし 村 山 輝 吉	教職4必(英米文)	3
教育実習Ⅱ		12以降入学生/教職4必(英米文)	5

講義のねらい

学生が教育実習に主体的にとりくみ、教育実践について理解を深めることを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

年間を通じておおむね次の事項をとりあげる。

- 教育実習の意義と心がまえ
- 学習指導について
- 生徒指導について
- 学校と教師に関する諸問題

実習校における実習体験をはさんで、講義、討議、レポート作成、面接指導等、適宜の方法と形態で進めていく。

成績評価の方法

実習校からの評価、口頭発表、レポート、出席等により総合的に評価する。

教科書

教科書・参考書等はそのつど指示する。

その他

教育実習Ⅱの履修が必要となるのは、平成13年度は、科目等履修生の内の一部です。担当教員の指示に従ってください。

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育実習Ⅰ	きたむらみつこ 北村三子	教職4必(地理・経A・商)	3
教育実習Ⅱ		12以降入学生/教職必(地理・経A・商)	5

講義のねらい

中学・高校での教育実習は、教員免許を得るために乗り越えなくてはならない最大の課題であろう。教生とはいえ教師であることを求められる、責任の重い課題でもある。この授業は、その実習のための準備と、実習後その体験を他の人々と共有し、深めることを目的とするものである。実習がスムーズに進み、また、実り多いものとなるように、講義の内容・授業のスケジュールで述べるような様々なことを試みたい。また、実習後は、教える立場から新たに見えてきた、学校や教師、生徒の問題や、それらの存立基盤としての、社会や文化の問題を、考え合いたい。

講義の内容・授業スケジュール

実習の準備としては、全般的な注意、ビデオによる実習の概要把握、学習指導案の作成に関する指導、模擬授業などを行なう。実習後は、実習体験を語り合い、その中から、後期に検討すべきテーマを考えていく。夏休み明けには、それにそった資料を用意し、討議を中心とした授業を進める。具体的内容は、話し合いの上で決めたいが、今まで扱われたテーマは、いじめや体罰といった学校内での暴力、不登校、若者の文化や人間関係に関連するものなど、多岐にわたる。

履修上の留意点

実習の準備としては、教材研究を各自よくやること。後半は積極的に参加すること。教場を変更する場合がありますので注意すること。

成績評価の方法

実習ノート・評価表などの実習の記録、授業への参加度、最終授業時のまとめのテスト。

その他

教育実習Ⅱの履修が必要となるのは、平成13年度は、科目等履修生の内の一部です。担当教員の指示に従ってください。

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育実習Ⅰ	いとうしげき 伊藤茂樹	教職4必(歴史)	3
教育実習Ⅱ		12以降入学生/教職4必(歴史)	5

講義のねらい

中学・高校での教育実習を実りあるものとするために、その準備と、実習の経験を生かして現代の教育と青少年、それをとりまく様々な社会的要因について考える機会を持つ。

講義の内容・授業スケジュール

実習前には、教育実習の意義や目的、内容に関しての講義と受講者による模擬授業を行う。実習後は、各自の実習の経験をふまえたうえで、そこから見えてきた教育や青少年の現実について、口頭発表、討論、文献講読、レポート作成などを通じて批判的にとらえる目を養うことをめざす。

履修上の留意点

受け身ではなく主体的な参加を求める。

成績評価の方法

実習校からの評価、実習ノート、授業への参加、レポートにより総合的に行う。

教科書・参考書等

教科書は特に指定せず、参考書はその都度指示する。

その他

教育実習Ⅱの履修が必要となるのは、平成13年度は、科目等履修生の内の一部です。担当教員の指示に従ってください。

(2) 教科又は教職に関する科目〔平成12年度以降入学生〕
 教職に関する科目（選択）〔平成11年度以前入学生〕

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教 育 関 係 法 規	ひろ さわ あきら 広 沢 明	教 職 2 選	4

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

憲法、教育基本法、学校教育法など教育に関する基本法規につき、具体的事例に触れながら講義を行う。校則、体罰、いじめ、内申書、日の丸、君が代、宗教、教科書検定、障害児、民族教育など今日的な教育問題について、法的観点から検討をしたい。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 学校の種類
2. 教育の機会均等（民族・性・障害）
3. 義務教育
4. 教育の中立性（政治・宗教）
5. 教育行政
6. 懲戒

履修上の留意点

ただ漠然と聴講するだけでなく、授業で取り上げたテーマにつき、自ら調べたり考えたりする前向きな姿勢を求める。

成績評価の方法

試験と出席状況によって評価する。毎回出席をとり、その結果は成績にかなり反映される。

教 科 書

『解説教育六法』（三省堂）を必携。

参 考 書 等

授業中に指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教 育 評 価	おお はま き く こ 大 浜 幾 久 子	教 職 2・3・4 選	4

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

狭義の教育評価にとらわれず、人間の能力とは何か、学力とは何かについて、様々な側面から討論し、研究することを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

はじめに、教育心理学の研究手法（実験・観察・調査・テスト）の基礎を学ぶ。その上で、発達や学習の測定、評価にかかわる研究実習を行う。実習においては、必要に応じパソコンも活用していく。

履修上の留意点

ゼミ形式で進める。討論、実習への積極的参加が不可欠である。パソコンに関しては、まったくの初心者でも可。

成績評価の方法

平常点による。

参 考 書 等

資料等は随時、準備し指示する。また、受講生からの提案も歓迎する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育哲学	きたむらみつこ 北村三子	教職2・3・4選	4

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

今日、近代社会の矛盾が様々な形で人間の生活を脅かしており、その中で、かつての人々が当然のこととしてあてにできた子育ての社会的、自然的基盤も揺るがされている。この混迷の時代に、私たちはどのようなありかたに向けて、またいかにして、次の世代を育み、支えてゆくことができるのだろうか。この授業では、生命とは何か、また、生命的な知とは何かを学ぶことを通して、そうしたことを考えていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

G・ベイトソン『精神の生態学（上・下）』（思索社）を検討する予定であるが、進め方等は、受講者と相談の上決定したい。

成績評価の方法

平常点

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育情報学	おぐらやすよし 小倉康仁	教職2・3・4選	4

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

この授業のねらいは、次の三つである。

1. 我々の社会におけるコンピュータの役割・位置づけの歴史的変遷について概観し、コンピュータと我々の社会との係わり合いの在り方について考察する。
2. 教育分野でのコンピュータ利用方法・形態の変化について教育学の視点から理論的に考察し、コンピュータの教育的活用とは何かを探る。
3. 普遍性のあるソフトウェアの操作実習を通して、教育現場で必要とされる実際的なコンピュータ（パソコン）活用能力とセンスを育成する。

講義の内容・授業スケジュール

授業は常にコンピュータ教室で行ない、講義と実習を適宜組み合わせる。

前期の授業内容としては、以下のものを予定している。

コンピュータの基礎知識（講義）、情報理論の基礎知識（講義）、パソコンの基本操作（実習）、コンピュータの社会的役割の変遷（講義）、ワープロソフトの基本操作（実習）、表計算ソフトの基本操作（実習）、インターネットの基礎知識（講義）、ネットサーフィンと検索エンジンおよびリンク集（実習）

後期の授業内容としては、以下のものを予定している。

教育分野でのコンピュータ利用形態の分類・整理（講義）、コンピュータの教育的活用とは？（講義）、教育用ソフトウェアの選択・活用方法について（講義と実習）、コンピュータネットワーク（LAN、パソコン通信、インターネットなど）と教育（講義）、インターネット（WWW）上での情報収集の方法（実習）、HTMLによるホームページ作成方法（実習）、画像データの加工処理方法（実習）

履修上の留意点

パソコンに初めて触れるという初心者も歓迎する。履修者はなるべく早く総合情報センター主催のネットワーク講習会に参加して、電子メールアドレスを取得するように心掛けること。

成績評価の方法

平常点（出欠、学習態度）、小テスト（ペーパーテスト）、提出物（レポート、課題作品）の総合点によって成績評価を行う。

教科書

教科書は使用せず、配布プリント等を利用して授業を進める予定である。

参考書等

参考書等については、そのつと授業時間内で指示する。

その他

授業で使用するパソコンは Macintosh のみを用いる。
また、スキャナやデジタルカメラの操作実習も行う予定である。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教 育 臨 床 心 理 学	お ち だ たか お 隆 郎	教職2・3・4選	4

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

教育現場並びに教育をとりまく諸状況において生じている青少年の問題（教師、学校の問題も含む）の、臨床心理学的観点からの考察を施す。

講義の内容・授業スケジュール

初めに、人間事象を見つめる基本的視点について講義する。次いで、リアルタイムに今現在教育並びにその周辺に生じている種々の出来事を、新聞・雑誌・書籍等の媒体をテキストとし、その「人間心理」的側面の解説を試みる。

履修上の留意点

知識伝達型の講義ではなく、種々生起している事柄を「何故そうなのか」と共に考え、そしてまたそれらが、実は自ら自身にも深く関わるものとして考察する態度をもつことを期待したい。

成績評価の方法

出席点を基本とする。

教 科 書

特定の教科書・参考書は使用しない。必要とあらばその都度紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教 育 社 会 学	くまがいかずのり 熊 谷 一 乗	教職2・3・4選	4

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

教育は、親と子、教師と生徒などの関係を中心に実に多くの社会的文化的要因が作用しあうなかで行われている。講義では、教育が行われるためにさまざまな要因が作用しあう社会的関係を明らかにして、教育の本質に触れ、よりよい教育への方途をさぐることをねらいとしている。また今日の教育問題の社会的背景、その発生のメカニズムを明らかにすることもめざしている。

講義の内容・
授業スケジュール

講義は、次ぎの四つの章に分けて行われる。

第1章「教育問題と今日の社会」－4、5月。

社会の急激な変化にともなって発生している教育問題-特に教師と児童・生徒との関係における問題の実態。子供の意識・性質の変化。教育問題を発生される社会的要因。生活環、生態系の変化にともなう子供の生活と文化をめぐる問題。子供の発達をめぐる問題-「社会性不全症候群」の問題と教師の悩み。

第2章「人間の発達と集団」－6、7月。

人間を文化的共同存在として把握し、人間が社会的環境の刺激のもとで文化を学習して発達する過程の解明。社会化と教育。集団の性質・構造と教育。集団力学と教育の効果。家族と教育。家族の変容と教育問題。

第3章「教育の社会的条件」－9、10、11月。

教育をめぐる社会的関係。社会システムとしての教育。教育の政治的性質。政治体制と教育の在り方との関係。ナショナリズムの圧力と公教育。教育と経済との関係、特に教育の機会と経済的条件。経済成長と教育。

第4章「社会としての学校」－12、1月。

現代社会の特徴と学校の機能。学校と現代人の生涯。生涯学習と学校。学校選択の問題。学校批判と教育改革。学校をめぐる病理。

履修上の留意点

教育への問題意識。

成績評価の方法

出席状況と試験の成績。

教科書

プリント配布

参考書等

熊谷一乗『現代の教育社会学』（東信堂）
その他、教室で紹介。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教 育 史	やまもととしこ 山 本 敏 子	教職2・3・4選	4

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

今日、近代の教育システムは様々な問題を孕み、子どもたちの日々の暮らしを生きにくいものになっています。私たちの身体に染み込んでいる学校の時間もその一つです。この授業では、近代学校の抱えている矛盾や困難を発生史に沿って検討していきますが、近代教育史の歴史時間を遙かに遡って、人類史、さらには自然史の視点から、人間形成や教育の営みを捉え直す試みも同時に行います。

講義の内容・
授業スケジュール

前半は、下記教科書を共通文献に日本の近世から近代への教育史の大きな流れを捉えることに重点をおきます。後半は、時間論に焦点を絞って、学校の時間の成立、それとは異なる「もうひとつの時間」世界の再発見と回復ということをテーマに、例えば、次のような著作や論文を検討していく予定です。

福井憲彦著『時間と習俗の社会史』

阿部謹也著「ヨーロッパ・原点への旅」

内山節著『時間についての十二章』

星野道夫著『イニユニック〔生命〕』

松井友著・小田イト語り『火の神の懐にて』

履修上の留意点

歴史の授業ですが、現代の子どもや若者が置かれている社会状況、教育諸問題などにも関心をもって受講されることをのぞみます。

成績評価の方法

授業時間内の発表および期末レポート。

教 科 書

高橋敏著『近代史のなかの教育』（岩波書店）2,300円。随時、史・資料も配布します。

そ の 他

最初は講義や史料講読の時間を多く入れますが、徐々にゼミ形式へ移行させていきます。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教 育 調 査	すずき のりお 鈴 木 規 夫	教職2・3・4選	4

※経B・法B・二管の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

人間の行動について科学的な方法によるリサーチの技術と推論の論理を身につけるため、教育にかかわる身近な問題について具体的に調査を実施する。

講義の内容・
授業スケジュール

具体的な調査内容は受講者自身が主体的に提案するものとし、授業ではその内容について議論するとともに調査を実施するにあたっての必要な基本プロセスを学習する。また、実際に調査を実施し、コンピュータを利用して調査結果をまとめる。その際、結果を要約するために不可欠なデータの解析法や推論の論理についても分かりやすく解説する。

履修上の留意点

調査内容は受講者自身が提案することになるので、受講前に何を調査したいのか予め考えておくことが望ましい。また、コンピュータを利用して分析を行うので多少のコンピュータに関する知識を有していることが望ましい。

成績評価の方法

成績評価は提出された調査結果報告書によって行う。

教科書

講義要旨および資料のコピーを授業当日配付する。

参考書等

特に指定しない。

その他

授業は討論中心の形態をとる。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
芸 術 教 育	か がわ よし しげ 香 川 良 成	11以前入学生/教職2・3・4選	4

講義のねらい

日本の児童青少年演劇史（大人による子供のための演劇）と、演劇教育史（子供自身による子供のための劇活動）を中心に捉え、各時代の児童文学の流れにも目を配りながら、それらの明治以後の発展の歴史を振り返ってみたい。

講義の内容・
授業スケジュール

以上の講義と、取り上げる諸作品の、受講者による研究発表とその講評を併せながら授業を進めたい。

履修上の留意点

実習でやむをえない場合以外は、極力出席してもらいたい。

成績評価の方法

平常点（発表、レポート）と試験で成績評価を決めたい。

参考書等

富田博之著『日本児童演劇史』（東京書籍）、富田博之著『日本演劇教育史』（国土社）、菅忠道著『日本の児童文学』Ⅰ総論（大月書店）

その他

現在行われている演劇教育（“劇あそび”その他）の様子が舞台をビデオで観たり、実際観劇するというも行いたい。またテーマを決めて討論するという事も考えています。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
現代社会の諸問題と教育Ⅱ (後 期)	くま がい かず のり 熊 谷 一 乗	12以降入学生/教職2・3・4選	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

現代の社会は、急激な変化にともなって解決の難しい多くの問題を発生させている。これらの問題は、教育の在り方に直接的、間接的に重大な影響をおよぼしている。わが国の場合、社会的変化は、とりわけ、1960年代の経済成長政策以降、テンポを早め、激しさを増している。講義では、わが国の高度経済成長以降の社会的変化の過程で生じた重要な問題と教育との関係を明らかにして将来を展望し、問題解決の方途を探ることをねらいとしている。

講義の内容・
授業スケジュール

講義は、次ぎの三つのセクションに分けて行われる。

第1セクション「高度経済成長にともなう社会の諸問題と教育」－9月。

経済成長のための教育と能力主義。都市化－過疎・過密の問題と教育。環境問題と教育。非行、心の問題と教育における能力主義の限界。社教審答申の問題提起。第三の教育改革。ナショナルリズムの高揚と教科書裁判。高度成長にともなう“光”と“陰”のなかの教育。

第2セクション「情報化にともなう問題と生涯学習」－10・11月。

コンピューターの普及・メディアの発達にともなう脱工業化－情報の大量流通・第三次産業の発展にともなう学習需要の増大、学習機会の普遍化。生涯教育論から生涯学習論へ。学習権の主張。生涯学習体系をめざす。

第3セクション「自由化をめぐる問題と教育」－11・12・1月。

自由化と個性重視の教育政策。変化の激しさと生きる力。“ゆとり教育”の問題。再びナショナルリズムと教育基本法改正問題。

履修上の留意点

現代の社会への問題意識。

成績評価の方法

出席状況と試験の成績。

教 科 書

プリント配布。

参 考 書 等

授業中に紹介。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
青少年問題研究	讃岐真佐子	教職2・3・4選	4

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

この講義では、「青少年」つまり児童期、青年期（小学生～20代前半頃）に生じ得る諸問題について、主に発達の、臨床心理学的視点から学ぶ事を目的とする。現代は不適応状態や問題が低年齢化し、またその質的側面も、従来の自己葛藤型から漠然とした無気力型の増大、さらに言語で訴えるよりも身体化の傾向等、様々な変化が見られるように思う。そういう意味でも「青少年」に関わる諸現象は、その時代を映し出す1つの鏡のようにも思われる。またこの時期は、一般に親や兄弟、友人、学校や地域等の多くの人との関わりを通して子どもが大人に成っていく、まさしく自分自身を作っていく時である。それだけにこれらの人々といかなる質の関係をもてるか、そしてそこからどう自分を育てていけるかという事が、この時期の中心的テーマになると思われる。

講義では、このような問題意識を基に、この期間に発現する諸問題の実際を、発達にそって具体的に学んでいきたい。

講義の内容・ 授業スケジュール

まず人間の精神的発達に関する知見を、これまでの発達心理学や臨床心理学的見地から概観し、その中での青少年の発達段階の意味や位置づけを考えていく。そしてこれを踏まえ、児童期、青年期に生じる様々な状態（不登校、非行、対人緊張、思春期やせ症、無気力状態等々）について深く掘り下げて学んでいく。

履修上の留意点

出席を重視する予定。授業は講義中心となるが、その日の内容への質問や感想を毎回書いて提出してもらい、受講生同士のフィード・バックも考えていきたい。

成績評価の方法

出席状況と定期試験

教科書

必要な資料は適宜配布する

参考書等

- ・馬場謙一・小川捷之他編『子どもの深層』『青年期の深層』
『日本人の深層分析』第9巻と10巻（有斐閣）
- ・季刊『仏教——特集癒し』No. 31（法藏館）2,000円
- ・河合隼雄著『あなたが子どもだったころ』（檢出版）『子どもの宇宙』（岩波新書386）
- ・岩宮恵子著『生きにくい子どもたち』（岩波書店）1,200円
- ・小川捷之・村山正治編『学校の心理臨床』（心理臨床の実際2）（金子書店）4,000円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
宗 教 教 育	こ 小 やま かず のり 山 一 乗	教職2・3・4選	4

※経B・法B・二管の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

命題「法は風土の産物」(モンテスキュー『法の精神』)を問題意識の根柢におく。世界各国の風上、風習、習慣、慣習、法、比較法の知見に示唆されつつ、いわゆる「宗教(の)教育」の法的思考(Legal mind)、そこに看取されるいわゆる宗教的思考(religious mind)、教育的思考(educational mind)の総合的考察をし、各国の宗教教育の実態も眺めつつ、これからのいわゆる宗教教育での、教授概念検討を経て、意味、目的、目標、内容、方法について具体的なデザインを試みる。特に宗教の教育における寛容の態度育成について広く深く考察したい。

いわゆる「宗教教育」論議は、政策・法律論議で、「何を教えることができないのか」の禁止事項に注意が傾斜した論議が久しく盛んでその喧しさは大である。だが、この論議に反して、同じ現行憲法・法規下で、「何を教えることができるのか」の肯定的事項に注意を向けた教育方法上の教授概念検討論議が極めて少ない。これはいわゆる戦後教育の盲点でさえある。この不均衡を醸成してきた歴史的背景を検証する。幕末、明治維新、対日米国占領宗教教育政策、憲法・教育基本法・教育関係法規立法審議制定過程を検証し、手垢の付いた用語としての「宗教教育」論を見直す。用語「宗教教育」は解釈者により一様ではない。本講義では、手垢の付いた先入観を回避し白紙から議論を構想したく、そのために、しばらくの間「宗教の教育」と措定したい。その上で、tell(告げる)とteach(教える)との差異、(religious education)と(education about religion)との差異につき、教授概念を検討する。

講義の内容・ 授業スケジュール

種々様々な事柄を取り上げ考察を試みる。用語・訳語としての宗教教育、宗教、religion、畏敬等を注意深く観察する、(再)結合、宗、教、育、education、誓願、アニミズム、アニメーション等の字源・語源をさぐる。更に、何～何事、what～whatness、児童生徒の疑問態(の調査研究)、内外の種々の童謡、節分、雛祭り、節句、七夕、盆祭り、七五三、合格祈願、お守り、羽田空港長の朝、クリスマス、ターミナル・ケア等を組上に載せる。憲法20条・教育基本法9条・初期社会科学学習指導要領との絡みの中に、対日米国占領教育改革政策が胚胎していた異文化理解問題の史実を見る。宗教を文化現象の一形態として考えるか否かについて、諸説を見ておきたい。道徳教育の内容項目上の宗教的用語が「宗教の定義集」・「現代日本の諸家の宗教観」の二典中では、どう規定されているか、その脈絡を意味論的に概観する。多民族多文化多宗教共存社会のうねり、隣人は異邦人等がいわれ日常生活化しつつある国際化社会時代の問題・課題解決に与する宗教教育の目的論・目標論・内容論・方法論を具体的に考えたい。今後は例えば、国際結婚等にもより、混血児も学級には数人は存在するとの推計もある。家庭教育・学校教育・社会教育のいずれの教育の場面も、まさに、迂闊ではいられなくなる。宗教的無知は宗教的偏見よりも致命的な悲劇を生もう。本講義では無知解消の教育を考える。

履修上の留意点

社会科・地理歴史科・公民科における宗教の教育、宗教科教育における宗教の教育、宗教教育における宗教の教育の異同点、及び、訳語としての用語「宗教」に関し熟考して欲しい。

成績評価の方法

レポート、出席点によって総合的に評価する。

教 科 書

小山一乗著『教育と寛容——宗教的事実・規範の取り扱いとそのおしえ方、評価の観点——』(宣協社)2,940円

参 考 書 等

指定図書→『宗教教育の理論と実際』(鈴木出版)1985年
井上順孝監修『宗教教育資料集』(すずき出版)3,900円
杉原誠四郎『教育基本法の成立「人格の完成」をめぐる』(日本評論社)
小中高各『学習指導要領』各230円 250円 370円
『仏教・キリスト教・イスラーム・神道どこが違うか』(大法輪閣)1,600円
参考図書→KYOUKO INOUE. 1991. MACARTHUR'S JAPANESE CONSTITUTION (THE UNIVERSITY OF CHICAGO PRESS)

そ の 他

定例教場での講義を中心とするが、必要に応じ、視聴覚教室でのビデオ、スライド、OHPの視聴をしますので視聴覚教場の掲示に注意しておくこと。プリントを配布するのでファイル表紙を用意して欲しい。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
生涯学習概論Ⅰ (前期)	とよ た ちよ 子 豊 田 千代子	教職2・3・4選	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.250) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
生涯学習概論Ⅱ (後期)	とよ た ちよ 子 豊 田 千代子	教職2・3・4選	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.251) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
視聴覚教育	い い もり あき ひこ 飯 森 彬 彦	教職2・3・4選	4

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.267) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会教育施設	むら やま てる よし 村 山 輝 吉	11以前入学生/教職2・3・4選	4

(P.253) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
学校経営と学校図書館 (前期)	やま た せつ こ 山 田 節 子	教職2・3・4選	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.243) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
読書と豊かな人間性 (後期)	やま た せつ こ 山 田 節 子	教職2・3・4選	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.243) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
学校図書館メディアの構成 (前期)	<small>みなもと</small> 源 <small>しょう</small> 昌 <small>きゆう</small> 久	教職2・3・4選	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.244) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
学校図書館メディアの構成 (前期)	<small>しの</small> 篠 <small>だ</small> 田 <small>しょう</small> 耀 <small>こ</small> 子	教職2・3・4選	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.244) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
情報メディアの活用 (後期)	<small>みなもと</small> 源 <small>しょう</small> 昌 <small>きゆう</small> 久	教職2・3・4選	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.245) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
情報メディアの活用 (後期)	<small>しの</small> 篠 <small>だ</small> 田 <small>しょう</small> 耀 <small>こ</small> 子	教職2・3・4選	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.245) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
学習指導と学校図書館 (前期)	<small>やま</small> 山 <small>だ</small> 田 <small>せつ</small> 節 <small>こ</small> 子	教職2・3・4選	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.246) 参照

(3) 教科に関する科目

【社会・地理歴史・公民】

科目名	担当者名	配当学科	単 位
東洋思想史	すえ き やす ひこ 末 木 恭 彦	教職教科	4

講義のねらい

始めに、二つのことを断っておく。第一に「東洋思想」と題しているが、私は漢文による思想言説に限って問題とする。特に、中国と日本に限られるであろう。第二に、「思想史」と題しているが、通史や他の歴史現象との関連付けは主要な関心ではない。長い時間をかけて蓄積された、漢文文化の思想言説、その思想言説に光を当て、その一斑なりとも理解しよう——これが本講義の目指すところである。

講義の内容・授業スケジュール

今年度は、『経史博論』を手掛りにして上記の試みを行う。但し、『経史博論』そのものの理解を目指すのではない。この書は、中国思想（儒教的教養）の概説書である。近代の眼差しが入る以前の儒教の基礎的教養を、この書を通じて確かめることができる。授業では、この書を購読する。購読を通じて、その背景にある中国の思想言説の伝統の一端に觸れてゆきたいと考えている。

履修上の留意点

最低書下し文が理解できる程度の漢文の基礎的教養が必要である。

成績評価の方法

成績判定は下記の材料を勘案して行う。

1. 試験又はレポート（年1回以上）
2. 平素の受講態度（年数回内容理解の調査を行う。なお、この調査は予告せずに行う。）
3. 受講の積極性（質問、任意のレポートなどによって判断する。質問は書面で必ず質問者名を明記して提出して欲しい。）

教科書

授業は講師が用意したプリントを用いる。

参考書等

適宜授業中に指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
美術史概説	や の よう こ 矢 野 陽 子	教職教科	4

講義のねらい

フランス絵画史。西欧の中心に位置するフランスは、交通の要衝であり、商業活動の経由地であり、巡礼の道も通っていた。国際的に開かれているという状況から、フランスは周囲の国々からさまざまな要素を受け入れながら固有の文化を生み出していった。この授業では、17世紀から19世紀にいたるフランス絵画の歴史をたどり、その特色を考える。

講義の内容・授業スケジュール

絶対王政が確立する17世紀から始め、18世紀末フランス革命を経て、新しい芸術運動が次々に起こった19世紀まで、時代を追って主要な流れを見ていく。前期は17・18世紀を、後期はフランス革命以後を扱う予定である。

履修上の留意点

前期のレポート提出と後期の筆記試験、出席等を合わせて評価する予定。

参考書等

高階秀爾著『フランス絵画史』（講談社学術文庫）

その他

授業ではスライドを使用する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
民間信仰論	谷口 貢	教職教科	4

講義のねらい

日本社会の各地に展開している神祭りや信仰行事の具体的な調査事例を紹介しながら、神と人が織り成すさまざまな世界には、どのような意味があるのかを探っていくことにしたい。そして、民間信仰の性格や機能、あるいは現代的意義といった問題に考察を加えていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

本年度は、「人と神との交流」をテーマとしてとりあげ、東京都青ヶ島の神祭り、福島県会津地方の神社参拝を中心とした講集団、東北地方の巫俗文化、死霊結婚の習俗、山岳信仰と修験道、憑霊信仰などを題材にしながら、民間信仰の基層性を明らかにしていきたい。そして、民間信仰と成立宗教との関係や、成立宗教が地域社会に受容されて土着化していく過程で民間信仰がどのような機能を果たすのかについても分析の目を注いでいくことにしたい。

成績評価の方法

学年末に課題に基づくレポートの提出を求めて成績評価を行う予定。

教科書

使用しない。

参考書等

桜井徳太郎著『日本民俗宗教論』（春秋社）、宮家準著『日本の民俗宗教』（講談社学術文庫）、宮田登『日本人と宗教』（岩波書店）

その他

授業は講義形式で行う。講義に必要な資料等については、そのつどコピーで配付する。また、講義に関連したビデオを2回ほど見る予定にしている。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
人文地理学概説	小池 とみ子	教職教科	4

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

地理学における人文地理学分野をとり扱う。地理学的視点から、世界の諸地域の問題を検討することによって、現代世界の現状と課題を明らかにすることをめざす。

講義の内容・授業スケジュール

最初に、人文地理学と地域論をとりあげる。
次に前期は主として民族・国家・人口の観点から、後期は経済発展と地域の変容の観点から、世界の諸地域が現在どのような問題をかかえているか、具体的に各地域をとりあげながら検討する。

履修上の留意点

地図帳を持参していただきたい。

成績評価の方法

試験を行う。また平常時のレポートも参考にする。

教科書

特に指定しない。講義時に資料プリントを配布する。

参考書等

高校用地図帳（『新詳高等地図』帝国書院など。高校時代に使用したものがあればそれでもよい。）
その他の参考書は講義の中で順次紹介する。

その他

授業は講義形式で行う。ときどきビデオ、スライドなどを取り入れる予定である。

科目名	担当者名	配当学科	単位
自然地理学概説	高木正博 <small>たかぎまさひろ</small>	教職教科	4

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

自然地理学の分野のうち、河川や地下水などにかかわる水の地理学を講ずる。
近年、河川環境や地下水汚染などに関心が寄せられている。これらのテーマを考えるため、その基礎となる河川や地下水の特性について、地域事例をもとに説明する。

講義の内容・
授業スケジュール

次の諸点について講ずる。
1) 水循環・水収支など水文学の基礎について
2) 河川や地下水の水量・水質などの特性と地域とのかかわりについて
3) 河川地形と水災害について
4) 身近な水源としての地下水・湧水の保全などについて
地域事例を紹介する際、地形図や空中写真などを利用して地域調査の基礎についても概説する。

履修上の留意点

講義が中心になるが、受講者にも問題意識を持ってもらうため、夏休み中に現地調査を伴う課題を提示する。地域を把握するために、地図帳や地形図を利用してほしい。

成績評価の方法

学年末定期試験と夏休みの課題の他、授業中に随時実施する課題など平常点も加味して行う。

教科書

授業時間にプリントを配布する。

参考書等

配布プリントをとおし随時紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
自然地理学概説	中村和郎 <small>なかむらかずお</small>	教職教科	4

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

日本の自然は、世界のほかの地方と比べて、どんな特色をもつのだろうか。自然は人間にとって美しく、やさしい一面をもつと同時に、激しくて、一瞬にして多数の人命を奪う恐ろしさも持っている。人文地理学で扱う諸現象と違って、長い時間スケールで初めて理解できるものもある。日本各地の自然（地形、気候、植生、土壌、海など）を取り上げ、なぜそのような現象が起こるのか、世界のほかの地域と比べてどのように違うのかなどを学んでいきたい。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 火山と地震
2. 川と平野
3. 海と海岸
4. 森と草原
5. 大気の流れ
6. 自然の変化
7. 人間が変えた自然
8. 自然災害

履修上の留意点

OHPなどを使って講義をすることが多い。
講義を聴きっぱなしにするのではなく、参考書を読み、自ら進んで学んでほしい。
学校地図帳などを活用してほしい。

成績評価の方法

出席状況。前期のレポート、および年度末の試験によって評価する。

参考書等

- 貝塚爽平『富士山はなぜそこにあるのか』（丸善）1990
 貝塚爽平ほか編『日本の自然』（全8巻）（岩波書店）
 貝塚爽平ほか編『日本の自然 地域編』（全巻）（岩波書店）
 小泉武栄『日本の山はなぜ美しい』（古今書院）1993
 杉谷隆・平井幸弘・松本淳『風景のなかの自然地理』（古今書院）1993
 中村和郎『雲と風をよむ』（岩波書店）1991

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
地 誌 学 概 説	かわもととよかず 川 元 豊 和	教 職 教 科	4

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

南及び東南アジアの地誌について講義する。テーマは「地域の変貌」であり、主な対象地域としてバングラデシュとマレーシアを予定している。

講義の内容・
授業スケジュール

前半では、主にバングラデシュの村落を対象とし、1960年代後半以降の「緑の革命」にともなう農耕の変化や農業開発の過程で生じる地主・小作関係に根ざす土地問題や小作制度の変更、労働力の問題などについて考えてゆきたい。また、農村から大量の人々を吸収し続けている都市についても考察したい。後半では、主にマレーシアを対象とし、多民族社会の地理的特徴やマレー村落とその変貌、社会経済構造の変化などについて最近の地域研究の成果を紹介しながら、地域の特性を明らかにしたい。また、近年の高度経済成長にともなう工業化・都市化の問題についても考えてゆきたい。

履修上の留意点

高校時代に使用したものでよいから、地図帳を持参して講義に臨んでもらいたい。

成績評価の方法

出席及び前期末のレポート提出を前提とし、学年末の筆記試験と併せて総合的に評価する。

教 科 書

特に定めず、プリントを配布する。

参 考 書 等

臼田雅之・佐藤宏・谷口晋吉編『もっと知りたいバングラデシュ』（弘文堂）1993 2,800円
水島司編『アジア読本マレーシア』（河出書房新社）1993 2,000円

そ の 他

年に2～3回はスライドを使用した授業を予定している。

科目名	担当者名	配当学科	単位
地誌学概説	<small>あら</small> 新 <small>い</small> 井 <small>さち</small> 祥 <small>ほ</small> 穂	教職教科	4

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義の内容・
授業スケジュール

わが国の農村・山村・離島部では、かつての基幹産業であった第一次産業が停滞する中で、そこに居住する人々は、就業先の確保を始めとして、生活の組み立て方にさまざまな課題を抱えている。このためこれら地域には、各種問題の解決をめざし、さまざまな公共投資がなされてきた。

しかし、これら公共投資を許してきた社会経済状況も、90年代の不況以降は大きく変化しつつある。国の財源不足が切実になる中で、いったい農山村の何が、公共投資を用いて「解決すべき問題」であるかを、厳しく吟味すべき時期にきている。とはいえマスコミその他論調によって伝えられるこれら地域の情報は限られており、彼らの生活のあり様やその変化の具体的なイメージがわきにくいのも事実である。

本講義では、各種資料を用いて、日本の農山村がどのような経済社会であるのか、またそれがどういった方向に向かっているのかについて、具体的に正確な理解をめざす。

成績評価の方法

成績評価は試験で行う。

科目名	担当者名	配当学科	単位
地誌学概説	<small>ふじ</small> 藤 <small>しま</small> 島 <small>のり</small> 範 <small>たか</small> 孝	教職教科	4

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

中国大陸について正確な地誌の情報が少く、ややもすると政治経済が先導し本来あるべき地理的知識が脱落し興味中心とした物語りで語られる事が多い。地理教育という観点からは、より基礎的識点を拡大すべきと思われる。回想と感想の見方を排し、今回の中国の地理的諸環境の分析を指標としている。

講義の内容・
授業スケジュール

前半と後半に区分すると、前半は大陸中国の自然環境と河川文明との関わりを中心として、基礎的総論を追求し、後半は生活の基盤たる大地と作目、少数民族の習慣的日常生活の背景を考える。

履修上の留意点

地図上で史的領域と影響圏の把握、各族の垂直分布に多重的生活を重ね立体的生活を把握する。

成績評価の方法

出席の度合い、課題別報告書、指定地域の地図、各種見解についての討論等併せて個人面接で総合判断するものとする。なお、地図板書の技術などについて対象とする。

教科書

現段階で適切なものがないので、板書と資料配布を中心とする。

参考書等

参考書は都度指示する。

その他

ノートの整理及使用方法、地誌としてのまとめを要求するので、常に提出できるようにしておく。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 文 化 史 I	ひろ せ りょう こう 廣 瀬 良 弘	教 職 教 科	4

講義のねらい

日本の文化の歴史が、社会の生産や生産組織の問題と深くかかわっていたことに留意し、朝廷・公家・武家ばかりでなく、民衆も文化の創造にかかわっていったことを、明らかにする。

講義の内容・授業スケジュール

日本文化の流れを概観し、平安期から江戸期にかけての文化について講述する。つぎのような順序で授業を進めていく。

- ① 日本文化史概観
- ② 平安期の文化と中世文化、中世文化の成立
- ③ 中世文化史研究の動向
- ④ 中世文化の展開
- ⑤ 室町文化（北山・東山文化）
- ⑥ 禅宗と文化
- ⑦ 京都と大名領国の文化
- ⑧ 下剋上の世と文化
- ⑨ 桃山文化
- ⑩ 宣教師たちがみた日本の文化と南蛮文化
- ⑪ 近世文化史研究の動向
- ⑫ 寛永文化
- ⑬ 元禄文化と化政文化

履修上の留意点

日頃、身のまわりにある道具や私たちの“しぐさ”にも歴史・文化がみえかくれするものである。物・道具にも文化・歴史を感じとれる感覚を養ってほしい。また、受講中は、図書館に文化史・美術史などの資料やビデオが所蔵されているので大いに活用してほしい。

成績評価の方法

定期試験の結果、出席状況など。

教科書

特に指定しない。必要な資料は随時コピーを配布する。

参考書等

授業中に随時示していく。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
歴 史 哲 学	あ そう けん 麻 生 建	教 職 教 科	4

講義のねらい

「歴史とは何か」、「歴史認識はいかにして可能か」という問題は単なる歴史学の問題ではなく、広く人文科学一般の問題である。講義は、この二つのテーマを中心に行われる。

講義の内容・授業スケジュール

前半はいわゆる「歴史哲学」の変遷をギリシア時代から19世紀に至るまで概括し、そこで展開された諸問題を検討する。後半は主として歴史認識の問題を解釈学を中心に講義する。教科書として下記のものを使う。

履修上の留意点

前半は、純粋な講義の形をとるので、きちんとノートを取り、自分なりに問題を整理する努力をすること。後半は、教科書に基づいて行なう。

成績評価の方法

学年末試験

教科書

麻生建著『解釈学』（世界書院）2,500円

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日本史概説	てぐちひろゆき 出口宏幸	教職教科	4

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

日本の歴史を概説的に学ぶことにより、各時代の社会のあり方について考える。その際、できるだけ現代社会との対比をすることで、歴史上の問題をより身近な感覚で捉えていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

古代～近・現代へと続く時代の流れには、いくつもの画期があり、社会的にも様々な変化を遂げてきた。そこで、日本の歴史を概説的に学び、その展開過程を考えることで、各社会を有機的に捉えたい。なかでも、近代社会の直前に位置し、幕藩体制が260年もの間続いた近世社会に注目し、その多様性と独自性などについて、時間が許す範囲で詳しく言及したい。

また、歴史を理解するには、政治・経済・文化、あるいは都市と農村など、様々な角度からのアプローチが可能であるが、できるだけその時代に生きた人々に焦点をあて、その生活をピピットに描くことに努めたい。

歴史上に起こった事件や、いろいろな問題の背景を探りながら、その時代を迫体験する。そのことが年代や事件を記憶することから、一步踏み込んだ歴史学の世界への入り口になれば、と思う。

成績評価の方法

試験80% 平常点20%

教科書

特に指定しない。必要な資料はコピーを配布する。

参考書等

適宜紹介する。

その他

講義

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日本史概説	こまつとしはる 小松 寿治	教職教科	4

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

社会科教員として最低限の日本史に関する知識をつけてもらえればと思います。したがって高校時代に日本史の経験がなくても問題はありません。

講義の内容・授業スケジュール

講義は日本史全般を話すつもりですが、武士の時代が中心になります。板書を多くしますのでノートをとることを勧めます。

成績評価の方法

成績の評価は試験で行いますが、出席を重視しますので、より多く出席することを望みます。

教科書

教科書等は設定しませんが、参考図書については、必要に応じて話しますが、強制するものではありません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
世 界 史 概 説	井 村 行 子 <small>むら けいこ</small>	教 職 教 科	4

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

西洋史を中心に世界史を概説する。できるだけ情報量を制限して、考え方の筋道がつかみやすい授業を心がけたい。

講義の内容・授業スケジュール

第1講	世界史とは何か	第13講	南北戦争と農奴解放
第2講	古代オリエント	第14講	イタリアとドイツの統一
第3講	古代ヨーロッパ	第15講	19世紀後半のヨーロッパ
第4講	中世ヨーロッパ	第16講	帝国主義の世界分割
第5講	16世紀のヨーロッパ	第17講	20世紀初頭のヨーロッパ
第6講	17世紀のヨーロッパ	第18講	第1次世界大戦とロシア革命
第7講	18世紀のヨーロッパ	第19講	1920年代のヨーロッパ
第8講	産業革命とアメリカ独立革命	第20講	戦間期のアメリカとソ連
第9講	フランス革命	第22講	1930年代のヨーロッパ
第10講	ナポレオン独裁	第23講	第2次世界大戦
第11講	ウィーン体制	第24講	第2次世界大戦後のヨーロッパ
第12講	自由主義の発展		

成績評価の方法

前期と後期の筆記試験の成績による。

教 科 書

近藤和彦編『西洋世界の歴史』(山川出版社) 1999 3,200円 (必ずしも購入しなくてよい)

参 考 書 等

開講時に世界史全般に関する文献目録を配布する。個々のテーマについてはその都度、必要性に応じて適宜紹介する。

そ の 他

歴史映画のビデオ等によって歴史的なイメージの喚起に努めたいが、扱わなければならない事項は多く、時間は限られているので、現実にはなかなかむずかしい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
世 界 史 概 説	わた なべ 渡 辺 惇	教 職 教 科	4

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

世界史概説は担当者の関係により、東洋史と西洋史の二つの部分に分けて行われます。受講者はこのいずれか1つをとればよい。

上記のうち、私は東洋史の部分を担当します。東洋史はアジア全体を対象とするもので、その領域は非常に広く、かつ多元的です。この授業は教職科目であり、また時間の関係から、以下に記すような順序で、広く浅く行うことになります。換言すれば“アジア歴史散歩”とでもいえましょう。

講義の内容・授業スケジュール

(1) 世界史教育の歩み

学校教育における世界史という科目は戦後の教育の中で新しく成立したもので、はじめは東洋史と西洋史を束ねたようなものであったが、やがてヨーロッパ中心主義、大国（中国）中心主義が批判され、よりグローバルな世界史が求められるようになった。以上の経緯を文部省の世界史指導要領の変遷等を折り込んで説明したい。

(2) アジアの歴史世界は多元的でモザイクである。それゆえ、以下のような5つの世界に分けて、それぞれの世界の歴史の舞台となった自然環境、風土、そして歴史展開の特色などについて概観する。

- a. 東アジア世界；中国を中心とし、その周辺を含む地域。農耕生活。
- b. 中央(内陸)アジア；海への出口をもたない砂漠と草原の地域。遊牧とオアシス農耕の生活。
- c. 西アジア世界；オリエント及び地中海の一部を含む乾燥風土の地域。オアシス農耕と遊牧生活。
- d. 南アジア世界；インドを中心とした地域。農耕生活。
- e. 東南アジア世界；半島部と世界最大の多島海よりなる地域。海洋生活。

履修上の留意点

出席は必ずとります。

成績評価の方法

評価は定期試験、平常点に出席点を加味する。

そ の 他

またビデオを活用して、各地域の特色を視覚を通して把握することも行いたい。その際感想文を書いてもらいます。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会学原論	わた なべ もと き 渡 辺 源 樹	教職教科	4

講義のねらい

社会学の主要な対象である社会的人間、集団、組織を柱に据え、加えて社会変動の問題を加味させた社会意識論を配置し、その各々を構成する主要な問題を講述する。そのためのものとして社会学の概念や理論を用いて、身近な社会現象をとらえて社会学的な理解や認識を深めさせたい。

講義の内容・
授業スケジュール

- 授業内容とそれに必要な準備
- 第1回 社会学とは何か
社会的事実／実証性 “予期せんがために見る” ／社会学的分析／現代社会学の領域と方法
- 第2回 社会的行為
なぜ“action” からののか／社会の基礎的単位として行為／行為の社会性・歴史性
- 第3回 相互行為・社会関係・社会過程
人間の行為は“inter” して社会的となる／人間関係・社会関係・国際関係／交換／社会過程
- 第4回 社会的役割の基本公準
- 第5回 1. 役割の取得 — 社会化 フロイドとパーソンズの“社会化の過程” を中心に
- 第6回 2. 役割の準拠 — 準拠集団 準拠枠／所属集団と準拠集団／動機と態度の概念
3. 役割の葛藤 — マージナル・マン アイデンティティとモラトリアム／マージナルマンとして青年期／マージナルマンとして職場人間
- 第7回 社会統制と逸脱行為
- 第8回 1. 規範と同調 — 逸脱の次元 行為と社会的秩序／サンクション・パターン
2. ラベリングと予言の自己成就 印象操作／シンボルとシンボル操作／逸脱とラベリング／予言の自己成就
- 第9回 アノミー デュルケムのアノミー、マートンのアノミー論、マクロ社会学とミクロ社会学
- 第10回 社会集団
- 第11回 1. 社会集団とは何か 集団の特質／集団の分類／家族と企業体
2. 集団の構造と機能 社会有機体説と構造・機能／機能連関／機能要件(AGIL 図式)
- 第12回 3. 集団の構造と機能 地位と役割 集団の単位としての役割／ロールセット、地位系列／業績的地位・帰属的地位
- 第13回 4. 集団のリーダーシップ 集団目標／集団効果性／ホワイトのリーダーシップ論／PM 理論とリーダーシップ
- 第14回 5. 集団の凝集性・モラール 同調への圧力・斉一性／集団規範／凝集性を高める条件／モラール
- 第15回 集団・文化・パーソナルティ
- 第16回 組織論と官僚性
- 第17回 1. 組織の一般理論 現代社会と組織体／組織の一般理論
2. 官僚制組織の基本原理 ウェーバーの支配の3類型／官僚制組織の基本原理 (ウェーバー、ミヘルス)／支配・権力・権威
- 第18回 3. 官僚制組織の動態 官僚制組織における“目標の転移” ／ホーソン実験／ダールドナー、ブラウの官僚制論
- 第19回 社会意識
- 第20回 1. 社会意識とは何か 社会意識の2つの途／マルクスとウェーバー
2. ウェーバーのエートス論 「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」を中心として
- 第21回 3. 社会的性格
- i) フロムの社会的性格 「自由からの逃走」を中心として
- ii) ミルズ、リースマンの社会的性格 「ロンリー・クロード」を中心として
- 第22回
- 第23回 4. 社会的態度(社会心理) 行為の科学的説明／ニューカムの社会的行動の説明図式
- 第24回 全体社会の構成
- 第25回 1. 経済と社会…経済と経済社会学／産業社会・消費社会／経済の国際化・従属理論
2. 政治と社会…政治と政治社会学／権力／政治文化
3. 法と社会…法と法社会学／法の機能／規範
4. 教育と社会…教育と教育社会学／学歴と社会移動
- 第26回 社会成層の社会学 階級と階層／職業構成／社会移動／地位の一貫性・非一貫性／成層研究の課題

成績評価の方法

定期試験（有り）、レポート（有り）

教科書

開講時に提示。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
宗教人類学	佐藤憲昭	教職教科	4

講義のねらい

文化人類学の視点と方法から諸民族の宗教文化を比較研究する学問が宗教人類学である。そしてその営為を通して「人間とは何か」という問題にひとつの解答を与えようとするものである。本年度は、人類に根源的・普遍的な宗教文化のひとつに教えられている憑霊文化を取り上げる。

日常語で「私はツイテイル」という場合のツキとは神霊・精霊が憑いていることを本来は意味しているが、日常の会話ではツキの正体を不問にしている。神霊・精霊が憑いている現象は憑霊現象と呼ばれるが、その内容はすこぶる多岐にわたっている。本講では宗教人類学の学問的特色について概観した後に、日本及びアジアの諸地域で見られる憑霊文化を取り上げて、社会組織との関係を含むさまざまな角度から考察する。そして憑霊文化を通して人間理解の可能性を探ってみたい。

講義の内容・授業スケジュール

1. 文化人類学・宗教人類学・宗教民族学、2. 宗教人類学と宗教民俗学、3. フィールドワーク、4. 民俗宗教の特質、5. アニマ（霊）とマナ（力）、6. 憑きもの研究・憑霊研究・シャーマニズム研究、7. 憑霊現象と社会組織、8. 民俗仏教に見られる憑霊現象、9. 憑霊文化と王権、10. 憑霊文化から見た人間理解の可能性。

履修上の留意点

欠席をする場合（または欠席をした場合）には、欠席届（形式は任意）を提出することが望ましい。

成績評価の方法

講義内容を踏まえたレポート試験の予定。

教科書

佐々木宏幹『聖と呪力の人類学』（講談社学術文庫）

参考書等

授業中に適宜紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 済 原 論	はた なか たかし 島 中 貴	教 職 教 科	4

講義のねらい

価格機構が果たす基本的な役割をよりよく理解するための理論（ミクロ経済学）について一通り講義する。価格機構がうまく機能しないのはどのような場合かという問題（市場の失敗）も扱う。

この講義の目標とするところは、以下の2点である。

- (i) 経済のありさまを自分なりに把握するための能力を磨く。
- (ii) 注意深く筋道だった思考ができるようになるための訓練を行う。

講義の内容・
授業スケジュール

授業は基本的に教科書に沿って行う。ただし、この講義で扱うのは、教科書の第3章（数学からの準備）から第9章（価格機構と経済の効率）までである。教科書に書かれている内容は、経済学の骨子である。上記の二つの目標を達成するためにはまず、教科書に書かれている内容を正確に理解し、ミクロ経済学の理論体系をしっかりと頭に入れることが肝要である。

数学は議論を単純化し論理の厳密性を実現する上で非常に有益な道具であり、ミクロ経済学の醍醐味を味わうためには、ぜひとも初歩的な数学をマスターする必要がある。したがって、初歩的な数学（集合・関数・微分）も併せて一から講義する。初歩的な数学のマスターは、経済学の勉強に役立つだけでなく、自分の頭で物考える力をつけてくれる。数学をこれまであまり勉強してこなかった人や苦手意識を持っている人は、これを機会にがんばって得意科目にしてほしい。

履修上の留意点

講義の内容は、大した苦勞もせずですすいと理解できるような簡単なものではない。根気よく予習・復習を行い、分かるよう努力することが肝要である。「高く飛ばんと欲すれば深く学ばざるべからず」

成績評価の方法

基本的に二度の期末試験の総合評価

教 科 書

丸山徹著『新講 経済原論』（岩波書店）3000円

参 考 書 等

S. ラング著・松坂和夫他訳『解析入門 原書第3版』（岩波書店）3700円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 済 原 論	おお いし ゆう じ 大 石 雄 爾	教 職 教 科	4

講義のねらい

現在私たちが生活している社会は、資本主義社会とよばれています。それは利潤を追求する資本が生産や分配を規定する力となっているからです。現代社会はますます複雑化していますが、資本主義の一般的な経済法則やその仕組みを学ぶことは、この社会で生活していく私たちにとって不可欠のことといえるでしょう。経済理論IA（およびIB）では、現実の経済現象を分析することによって立ち立てられた、科学的な方法を駆使したマルクスの経済学を講義することになります。

今の世界は封建制が崩壊することによって確立され、今でも変化発展しています。しかし、そのことは資本主義社会が調和的かつ平穏なたちで発展してきたものであることを意味するものではありません。たしかに、アメリカ・日本など先進資本主義国では人々の所得が多くなりましたが、それだけに南の貧しい発展途上国の人たちの所得格差は拡大しています。先進国どうしの間にも貿易摩擦などの形で対立が明るみに出ています。先進国内部をさらにみみると、財政赤字や高い失業率という実態があり、特に日本では労働者は長時間労働に悩まされています。

資本主義は経済成長をとげてきたのに、どうしてこれらの問題を解決ができないのか、という疑問が生じるのも当然のことといえるでしょう。環境問題も、実はよく見ると資本主義の発展がひきおこしてきたものであることが分かります。私たちは、21世紀に向けてこうした直面する問題について考え、その解決に向けて取り組むことを余儀なくされています。このように、少し考えてみると、様々な問題をひきおこす資本主義の一般法則をよく理解し把握しておくことが何よりも重要であることが分かります。

講義の内容・授業スケジュール

この講義は、以上のようなところに焦点を当てながら、次のようなテーマにそって進めていく予定です。

1. 経済学とはどのような学問か
2. 商品の2要因と商品生産関係
3. 貨幣の諸機能
4. 貨幣の資本への転化
5. 資本の生産過程
6. 資金とは何か
7. 資本の蓄積
8. 資本の循環と回転
9. 社会的総資本の再生産
10. 剰余価値の利潤への転化
11. 平均利潤率と生産価格
12. 資本主義経済の長期的傾向

履修上の留意点

経済理論は1つのまとまりをもっていますので、毎回出席してノートをよく取る必要があります。この講義はまた、経済理論IBと切っても切れない関係にありますので、次年度以降に経済理論IBも必ず履修することを勧めます。

成績評価の方法

授業時間中に何回か小レポートを書いていただきます。後期に定期試験を実施し、成績の評価は、その定期試験と小レポートの点数を合計することによって行ないます。追・再試験を実施します。

教科書

金子ハルオ編著『資本主義の原理と歴史』（青木書店）2,000円

参考書等

大石雄爾編著『労働価値論の挑戦』（大月書店）3,400円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 済 原 論	あさの かつみ 浅 野 克 巳	教 職 教 科	4

講義のねらい

現代経済学は「マクロ理論」と「ミクロ理論」からなる。「マクロ」とは「大きい」という意味をもち、「ミクロ」とは「小さい」という意味をもつ。このコースでは経済全体の動きを分析する「マクロ理論」の基礎を勉強する。たとえば、景気の良し悪しは何によって決まるのか？物価の変化はどのような要因によるものか？現在、我が国の失業率は上昇傾向にあるといわれるが、その原因は何か？さらに政府の経済活動についてどのように考えるべきか。また輸出・輸入、経常収支といった外国との経済関係をどのように捉えたらよいか。マクロ理論はこれらの疑問に答えようとするもので、きわめて日常的で身近な分野であるといえる。しっかり勉強すれば、面白くてためになる「一粒で二度おいしい」基礎コースの1つだ。

なお、上にも述べたように「ミクロ理論」とはペアであるから、必ず両方の授業を履修することが現代経済学を体系的に理解するためには不可欠である。

講義の内容・授業スケジュール

年間のスケジュールは以下のとおりであるが、理解しにくい部分をできるだけクローズアップし時間をかけて説明するが、テキストなどで「読めばわかる」箇所は簡単に済ませ時間の節約を心がけたい。

1. マクロ経済の仕組みと考え方
2. 国民経済計算と国民所得の諸概念
3. 国内総生産とは何か、それはどのようにして決まるのか
4. 独立収支の変化と国内総生産の関係
5. 消費と投資は何によって決まるのだろうか
6. 利率率とは何か
7. IS-LM モデルと財政金融政策の考え方
8. インフレとデフレ
9. 輸出と輸入
10. 経済成長の仕組み

履修上の留意点

現代経済学を勉強するうえで不可欠なことは、現実の経済問題にできるかぎり関心をもつことだ。これらはさまざまなメディアをとおしあふれるほど提供されている。特に『日本経済新聞』には毎日必ず目をとおしてもらいたい。授業でも関連する記事やデータは参考にするので、できるだけ持参してもらいたい。また必要な記事・データはスクラップ・ブックなどに整理しておく、授業だけでなく将来の就職試験などにも大いに役立つだろう。

また、経済学を理解するために数学の知識が必要だといわれるが、入門的なコースで用いる数学は高校の基礎解析あるいは代数程度で十分。必要があれば授業の中でも説明するが、要は「習うより慣れる！」のつもりで反復練習にかさがる。

ついでに、初心者でも使いやすいコンピュータのソフトが「駒沢大学情報センター」に常備されている。それらを利用しシミュレーションしてみることも、おもしろく経済学を学ぶ方法だろう。ともあれ、授業には必ず出席しノートをしっかりと取り、予習復習を実行すれば「100点取るのも夢じゃない！」なお授業中は、私語厳禁、勝手に席を立たないこと、ケータイなどもってのほか、以上厳守。守れない者は、直ちに退席してもらおう！

成績評価の方法

定期試験（再試験も実施する）による。問題は2種類出す。1つは論述形式で、もう1つは客観式（グラフを書いたり、簡単な計算問題など）を教題出題する予定。

教科書

浅野・荒木・浅田『エコノミックス』（成蹊堂）1995年

参考書等

青山『経済原論の頻出問題』（実務教育出版）1998年、これは問題集だけど、できるかぎり練習問題を解くことも、理解を確実にする第一歩。自分で復習を兼ねて解いてみることをすすめる。この方法は公務員試験等の国家試験の受験対策としても大変有効だ。

その他

経済学部浅野ゼミ HP の『過去問コーナー』には、授業に必要な資料・参考文献、あるいは練習問題と解答などを掲載しておくので、各自でダウンロードして参考にしてもらいたい。また、質問その他どんなことでも書き込み OK！大いに利用してください。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 済 原 論	まつ い りゅう へい 松 井 柳 平	教 職 教 科	4

講義のねらい

世の中にはさまざまな経済的社会的問題が存在する（いままで経済的社会的な問題意識をもったことのない極楽な人には、新聞を毎日読む習慣を身につけることを勧める）。さまざまな経済的社会的問題に対して、どのように考え答えていったらよいのであろうか。

現実の経済はあまりに複雑すぎて、そのままでは物事の本質を見失いかねない。そこで複雑な現実の経済をある程度単純化し、実際の経済の模型（モデル）を構築し、それを対象に分析をおこなうことになる。もちろん、プラモデルのような物理的な模型を作るのではないが、現実を単純化、抽象化することによって、本質を取り出そうというのである。経済モデルは数学を用いて記述される場合が多いが、経済学には、十分整理して議論しないと、とんだ理由づけをしかねない場合や、論点が未整理のため自ら混乱を招く例は少なくなく、このようなとき、数学的思考が役に立つのである。実際、数学における思考訓練は、無限の可能性の中から必要な論理をえぐり出すことにある。いわゆる抽象力である。それは単純化による論理の明確化と言ってもよいし、あるいは見通しをつける能力と言ってもよい。理論にとって、数学的思考による自己点検は怠ることはできない。だが、本講義では微分等の数学は一切使わない。小学校レベルの四則演算と中学校レベルの1次方程式程度の理解のみを前提する。

こうして現実を単純化、抽象化した経済モデルを用いて得られた結果は、分析の前提となっているさまざまな仮定に大きく依存している。得られた結論は、あくまでそこでの仮定、つまり採用したモデルに依存しており、仮定が変われば、結論も自ずと変わりうる。そのため、経済学（少なくともミクロ経済学とマクロ経済学）においては、導かれた結論だけを暗記したりしてもまったく意味はない。議論の前提となるさまざまな仮定や論理的な推論プロセスといっしょになってはじめて、結論が意味をもつのである。

講義の内容・授業スケジュール

本講義では、ミクロ経済学の基礎理論を教場での実験等を通じて体験的に学習する。

ミクロとは微視的ということであり、ミクロ経済学は諸主体の行動の動機づけにまでさかのぼって、経済全体を理解しようとする。社会に存在する資源は稀少であり、すべての人の欲望を無制限に満たすことはできない。当然、稀少な資源の利用を、だれに、どれだけ、許すべきか、といった資源配分の問題が発生する。資源配分のメカニズムとしてはさまざまなあるが、私たちが生活している市場経済における価格メカニズムが挙げられる。価格メカニズムは、その資源に対してもっとも高い価格を支払える人に優先的にその資源の利用を許すメカニズムである。本講義ではこの価格メカニズムという資源配分の機構に焦点を当てることになる。

こうした価格メカニズムのしくみを、教場での市場取引のシミュレーション等を通じて学んでいくことになる。

履修上の留意点

授業に出席する人には、授業前の予習が必須要件として求められる。授業に出席していれば偉いというものではない。授業後、熟考してもなお疑問点があれば積極的に質問してほしい。

成績評価の方法

期末試験によって評価するが、授業中の練習問題解答のプレゼンテーションや実験への参加などにも特別の評価を与える。（再試験実施）

教科書

開講時に指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 済 原 論	はし 橋 もと 本 ひろ 泰 あき 明	教 職 教 科	4

講義のねらい

経済学的ものの見方、考え方を修得することを目標とする。より具体的には、前期では、一国の経済規模や国民の所得の大きさ、物価、労働環境などの決まり方を理論的に把握し、後期では、消費者と生産者の経済的行動が市場を形成し、その結果、ものの価格の決定や経済の効率性がどのように作用されるのかを理解することを目標とする。

講義の内容・
授業スケジュール

前期：経済循環 国民総生産 国民所得 消費・貯蓄 国民所得の決定要因の分析 乗数理論
物価 為替変動と国民所得

後期：需要と供給 消費者の経済行動 無差別曲線 所得の制約 需要量の決定 生産者の経済行動 生産曲線 費用曲線 限界費用曲線 利潤最大化 供給量の決定 市場による価格決定 余剰概念 市場の効率性

履修上の留意点

さまざまな経済政策の背後にある理論的メカニズムを理解することが目標であるので、かなりの出席率を確保し、しかも授業中に脳細胞を働かせて思考を繰り返し、論理展開を十分理解することが大切である。しかしいったん考え方をマスターしてしまえば、かなりの応用が利く財産になり、試験のための丸暗記は不要になるであろう。

成績評価の方法

前期と後期の二回の筆記テストおよび授業中に課せられる小レポートによる。なお再試験は実施しない。

教 科 書

小野編著『現代経済学の基礎』（学文社） 3,000円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
民 法 I	おお <small>みや</small> <small>たかし</small> 大 宮 隆	教 職 教 科	4

講義のねらい

民法という法律は、日常の社会生活（財産関係と家族関係）を規律の対象とし、総則・物権・債権・親族・相続の五編に編別されている。本講の対象は、第一編総則、第二編物権である。なかでも総則は、全編に共通な規定と、どの編にも入れることができない規定を集めて構成されているので、抽象的な法文形式が多い。講義においては、具体例を挙げてわかりやすく説明したいと思っている。

講義の内容・
授業スケジュール

- ① 民法の意義
- ② 民法典の編別
- ③ 民法の指導原理とその修正
- ④ 自然人
- ⑤ 法人
- ⑥ 物
- ⑦ 法律行為
- ⑧ 期間
- ⑨ 時効
- ⑩ 物権変動
- ⑪ 占有権
- ⑫ 所有権
- ⑬ 地上権
- ⑭ 永小作権
- ⑮ 地役権
- ⑯ 留置権
- ⑰ 先取特権
- ⑱ 質権
- ⑲ 抵当権

履修上の留意点

講義には六法持参のこと。講義終了時に次週の予告をしますので、教科書を読んでくること。

成績評価の方法

年度末の定期試験と出席状況を総合して評価する。

教 科 書

玉田弘毅『図解民法講義 総則・物権』（住宅新報社）

参 考 書 等

講義の中で随時紹介します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
政 治 学 原 論	おお つか かつら 大 塚 桂	教 職 教 科	4

※経 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

私は、いままでイギリスの政治的多元主義と新自由主義、ならびにフランスの社会連帯主義を研究してきました。現在は、日本における多元的国家論の受容過程に関して勉強をしています。このような私の研究経歴からして、講義内容は少しばかり哲学的、観念的なものになるかもしれませんが。政治学のみならず、ひろく隣接領域（法学・哲学・歴史学・社会学・経済学）にもふれながら一年間の授業をしてみたいと思います。

私の研究室は、第2研究館8階（2835）にあります。研究上支障が生じたときや質問があるときには訪問してください。なお、研究室の電話番号は、3418-9377（直）です。

講義の目的

第一の目的は、将来教壇にたったときに役立つ基本的な知識の習得をめざすことです。

第二の目的は、社会科学の思考方法を会得することです。

第三の目的は、自己の意見を論理的にはっきりと述べられるようにすることです。

講義の内容・
授業スケジュール

講義のすすめ方

政治学の基本問題を、一回一テーマ主義でとりあげます。ワン・ウェイの講義をするのではなく、学生諸君との対話・討論形式をとりいれて授業をすすめていきます（場合によっては、学生諸君の報告や模擬授業も）。質問には、はずかしがらずに積極的にこたえて授業を盛り上げてください。

授業では、政治学のみならず隣接科目にまで話がおよんでいきます。履修者はあらかじめ高校時代の「政治経済」の教科書や参考書などに目をとっておくとよいでしょう。

講義内容

講義でとりあげる問題は、以下のとおりです。

- | | |
|-----------------|----------|
| A 政治の思想 | C 日本の政治 |
| ～古代ギリシャ・ローマ政治思想 | ～明治国家の形成 |
| 中世政治思想 | 大正デモクラシー |
| 近代政治思想 | 軍部独裁 |
| 現代政治思想 | 戦後の政治 |
| B 政治の仕組み | D 国際政治 |
| ～議会 | ～国際連合 |
| 内閣 | N G O |
| 地方自治 | 国際関係 |
| 官僚制 | |
| 政党 | |
| 選挙 | |
| 世論 | |

履修上の留意点

将来教職を希望する人間が、教室に足を運ばないのはもってのほかです。単位の認定にあたっては、出席を特に重視します。正当な理由があって欠席する場合（実習・研修など）には、必ず届けを提出してください。

成績評価の方法

出席：30% 中間試験：20% 学年末試験：30% レポート：20%

以上の割合で評価します。

なお、追・再試験も実施します。

教科書

大塚桂編『政治学へのいざない』（成文堂）2,500円

大塚桂『現代国家へのアプローチ』（成文堂）3,000円

参考書等

大塚桂『政治学原論序説』（勁草書房）3,296円

大塚桂『政治哲学入門』（法律文化社）2,900円

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本宗教文化史	池上良正 <small>いけがみよしまさ</small>	教職教科	4

講義のねらい

日本の宗教文化を考えるうえで、巫覡、ミコなどとよばれてきた巫者信仰の系譜は重要な意味をもつ。本講義では、この巫者信仰に焦点を合わせ、宗教史と実態調査研究の両面から得られた成果をもとに、その多様な形態と文化史的な意義を明らかにしてみたい。

講義の内容・授業スケジュール

まず、柳田國男にはじまる巫者研究の歴史を概観したうえで、主として東北地方や沖縄地方の巫者信仰の具体的事例を考察する。ここでは、東北地方のイタコ、カミサマ、沖縄地方のユタ、ムヌシリなど、様々な名称で呼ばれてきた「野の宗教者」の世界に光を当てる。前期は東北地方、後期は沖縄地方が中心となる。

成績評価の方法

年度末に筆記試験。

教科書

特に指定しない。

参考書等

授業中に適宜紹介する。

その他

スライドを適宜使用する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
民衆宗教成立史	津城寛文 <small>つしろひろふみ</small>	教職教科	4

講義のねらい

深層文化論と宗教学の接点にたつて、民間信仰、民俗宗教、民衆宗教などの成立と基盤とを扱います。大伝統に対する小伝統、エリートに対する民衆、イデオロギーに対する非イデオロギー的な習慣習俗などに焦点を当てて、われわれの文化や社会や心の深層にある、民衆的な宗教性を浮き彫りにしたいと思います。

講義の内容・授業スケジュール

主要テーマは下記の4つであり、前期は深層文化論を軸に、後期は民衆宗教論を軸に、講義を進めます。

- 前期
- ① 深層文化論の整理
 - ② 深層文化と宗教研究
- 後期
- ③ 民俗主義的な深層文化
 - ④ 深層文化と集合的宗教

履修上の留意点

私語だけは慎んで下さい。

成績評価の方法

出席を参考に、主に年度末のレポートで行います。

教科書

拙著『日本の深層文化序説——三つの深層と宗教』（玉川大学出版部）1995年を用います。

参考書等

その都度紹介します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
宗 教 学 概 説	あらい けん 洗 建	教 職 教 科	4

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

実証的研究としての宗教学の立場から、宗教を理解することがあらゆる人間の営み（諸文化、諸学問）を理解することといかに深くかかわっているかを明らかにする。
この教科は教職科目であるので、国家と宗教、憲法理念と宗教の問題を中心に考える。

講義の内容・授業スケジュール

宗教改革以降、信教の自由の確立に至るまでのキリスト教思想の変遷をたどって、その特質を理解し、日本における導入と変容、現代における諸問題を考える。

履修上の留意点

できるだけ出席し、事実を覚えることより、宗教学のものの見方を理解して貰いたい。したがって、原則として出席をとる。

成績評価の方法

試験またはレポートと、出席点を総合して評価する。

教 科 書

特に指定しないが、水野弘元、柴田道賢監修『宗教学ハンドブック』（世界書院）を持っていれば、参照すること。

参 考 書 等

随時、紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
宗 教 学 概 説	いけ がみ よし まさ 池 上 良 正	教 職 教 科	4

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

「宗教」という言葉を聞くと、特定の教祖によって開かれ、経典や教団を備えた組織的宗教や、そこで説かれてきた高度な宗教思想などを思い浮かべる人が多いと思う。しかし宗教には、共同体の生活慣習や年中行事に組み込まれた習俗や、祈祷・供養・祭礼・禁忌・呪詛などとよばれる実践や行為としての側面もある。

本講義では、こうした広がりやを考慮したうえで、とくに実践的な行為としての宗教について考えてみたい。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、儀礼、タブー、イニシエーション、アニミズムなどのトピックを取り上げ、実践的宗教の多様な側面に光を当てる。

後期は、「死をめぐる宗教的観念と実践」というテーマで、仏教やキリスト教をはじめとする諸宗教が、人間の死や死者を実際にどのように扱ってきたか、という問題を考えてみたい。

成績評価の方法

年度末に筆記試験。

教 科 書

特に指定しない。

参 考 書 等

授業中に適宜紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
宗 教 学 概 説	つ 津 しろ 城 ひろ 寛 ふみ 文	教 職 教 科	4

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい	集团的宗教から個人的宗教まで、また、原始宗教・古代宗教から現代の宗教現象まで、宗教としての共通点と、それぞれに固有の特性が明らかになるような講義にしたいと思います。
講義の内容・授業スケジュール	前期は宗教と他界を軸に、後期は宗教と社会を軸に、講義を進めます。おおまかなスケジュールは次のとおりです。 前期 比較宗教学の前提、呪術と宗教、アニミズム・シャーマニズム、原始宗教・古代宗教、神秘主義、スピリチュアリズム 後期 公共宗教、市民宗教、宗教と国家、宗教と文化
履修上の留意点	私語だけは慎んで下さい。
成績評価の方法	出席を参考に、主に年度末のレポートで行ないます。
教科書	用いません。
参考書等	その都度紹介します。
その他	数回ビデオを用います。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
哲 学 概 説	く 久 ぼ 保 よう 陽 いち 一	教 職 教 科	4

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい	ヘーゲルの主著『精神現象学』（1807年）の主要な箇所を解説しながら、哲学の諸問題を取り上げる。『精神現象学』は、個人的意識の形成の叙述であると同時に、人類の精神の歴史でもあり、また現代にも通ずる様々な思想内容の宝庫である。これを読解することを通して、「自己」や「世界」に関するものの考え方の基本を学んでほしい。
講義の内容・授業スケジュール	『精神現象学』の主要な箇所（例えば「感覚的確信」の弁証法、主人と奴隷の関係、「不幸な意識」、「快楽とさだめ」等約20箇所）を解説する。
履修上の留意点	よく出席し、ノートを取る。疑問点は遠慮なく質問すること。
成績評価の方法	出席やレポート等によって評価する。
教科書	いずれかの邦訳（ヘーゲル『精神現象学』）を手もとに置くのが望ましい。
参考書等	加藤尚武編『ヘーゲル「精神現象学」入門』（有斐閣） イポリット『ヘーゲル精神現象学の生成と構造』（岩波書店） 久保陽一『ヘーゲル論理学の基底』（創文社）
その他	時々、講義内容について簡単なレポートを書いてもらい、それについてコメントをつけて返すことにする。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
哲学概説	すえ き やす ひこ 末 木 恭 彦	教職教科	4

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

哲学とは何であろう。そして、それは人生に如何なる意味を持つのであろうか。—哲学を学ぶ以前にこの様な問いがある。この問いにこそ、この講義を通じて探究を試みる。始めに述べた問いは、我々東アジアの人間にとっては極く自然である。何故なら、東アジアの学問の伝統の中には哲学なる学問は無かったからである。この地域では近代欧米諸国文化の強い圧力下に、新しい学問として哲学を成立させた。その時、唯翻訳するのではなく東アジアの伝統的学問を再構成して、哲学として成立させようと努力する一群の人々もいた。中国にあって、伝統をふまえて独自の哲学を試みた人々の仕事を紹介し、それを通じて冒頭の問いに我々なりの見解を持ちたい—そのような企図の下に、この講義を行う。

講義の内容・授業スケジュール

今年度は、中国の近代哲学者として最も世界に名を知られた馮友蘭を取挙げる。始めに彼の哲学の背景を理解するために、伝記を紹介する。その後、彼独自の哲学新理学の主要著作の中から『新原人』の学説を紹介する。

成績評価の方法

次のものを材料にして成績をつける。

1. 試験あるいはレポート
2. 平常の受講態度（年数回抜き打ちの理解調査を行う）
3. 受講をこえる積極的な学習（任意のレポート、質問〈書面で提出して貰う〉などで判断する）

教科書

『馮友蘭自伝』、馮友蘭『新原人』（ともに和訳はないので、必要箇所を講師が訳し編集したものをプリントして配布する。中文版については授業中に解説する）

参考書等

馮友蘭『哲学回憶録』（吾妻重二訳、『みすず』275号～284号）／柿村峻・吾妻重二訳『中国哲学史』（富山房）／佐藤慎二編『近代中国の思索者たち』（大修館書店）

科目名	担当者名	配当学科	単 位
倫理学概説	かわ たに あつし 河 谷 淳	教職教科	4

講義のねらい

倫理学とは「人間の行為がかかわる限りでの善悪についての学」だと定義できよう。しかしながら、これはあくまで暫定的な定義にすぎず、その十全な意味は「人間」・「行為」・「よい」とは何かという点にかかっている。この問題を考えるにあたり、本講義は次のような二段構えの構成を採る。すなわち、一方では (a) 主に、古代ギリシア以来の西洋思想史における様々な倫理観を取り上げることでそうした倫理思想と現代との関係を考え、他方で (b) 現代倫理学の諸問題とそのアプローチの仕方を取り上げることで私たちに身近なことがらを「倫理的に考える」とはどういうことなのかを考えることにしたい。

講義の内容・授業スケジュール

本講義では概ね次のような内容を取り扱う。

- (a) 西洋倫理思想史：徳倫理学（古代ギリシア）、義務論（カント）、功利主義（ベンサム、ミル）
- (b) 現代倫理学の諸問題：メタ倫理学、生命倫理、環境倫理など

成績評価の方法

中間試験と期末試験、レポート等で評価する。

教科書

開講時に指示する。

参考書等

講義においてその都度紹介する。

【職業】

科目名	担当者名	配当学科	単位
産業概説	まえだ ゆきかず 前田 幸一	教職教科	4

※経 B の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

授業は'85（昭和60）年以降の日本の産業界の動向を業種別に流れをつかんでいく。

講義の内容・
授業スケジュール

（総論）バブル経済と平成不況
 （各論）非鉄金属、建設、食品、紙・パルプ、化学、繊維、石油、エネルギー、鉄鋼、産業機械、造船、重電、家電、コンピューター、半導体、自動車、商社、流通、銀行、生損保、証券、住宅、不動産、運輸、サービス、レジャー、外食産業、通信、ノンバンク、
 なお、受講者の要望を聞きながらですが、今年度は工場見学などを授業に組んで、実施したいと考えています。
 （その他）企業見学などを実施（昨年は三菱自動車工業の工場見学を実施）

履修上の留意点

日経新聞などの経済・産業欄に目を通して授業に望んで欲しい。

成績評価の方法

当授業は多分に受講者が少ないと思いますので、ペーパーテスト等はしません。平常点で決めます。再試験はしません。

教科書

高村寿一・小山博之編『日本産業史4』（日本経済新聞社）1,500円

参考書等

授業の際に提示します。

その他

授業での受講者は恐らく少人数であろう。そこで授業の初段階では私が講義をしていきますが、その後はゼミ形式で、皆で議論しながら授業をすすめていきます。

科目名	担当者名	配当学科	単位
職業指導	まえだ ゆきかず 前田 幸一	教職教科	4

※経 B ・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

日本及び諸外国の職業教育の特徴を把握しながら、今後の職業指導を考えていく。

講義の内容・
授業スケジュール

前期では日本の職業教育制度の歴史を、また後期ではアメリカ、ドイツ、イギリス、フランスなどの職業教育について授業をしていく予定です。

成績評価の方法

筆記試験はせず、平常点及びレポート提出等で評価をしていく。

教科書

開講時に指示

参考書等

宮地誠哉・倉内史郎編『職業教育』（開隆堂）
 有本章・近藤大生編『現代の職業と教育』（福村出版）
 寺田晃・佐藤怜監修『進路指導』（中央法規出版）
 仙崎武・野々村新・渡辺三枝子編『進路指導論』（福村出版）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
商 業 実 習	まえ だ ゆき かず 前 田 幸 一	教 職 教 科	4

※経 B の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

貿易における商品取引の基礎的な実務を習得するに目標をおいて授業を進めていく。

講義の内容・
授業スケジュール

授業は基本的に以下の項目で進めていきます。

- | | |
|------------------|-------------|
| 1. 輸出実務の概要 | 10. 為替の予約 |
| 2. 取引関係の創設 | 11. 海上保険契約 |
| 3. 取引条件の取決め | 12. 輸出検査と包装 |
| 4. 売買条件の取決めと契約成立 | 13. 輸出通関 |
| 5. 輸出信用状の照合 | 14. 船積み |
| 6. 約定品の調達 | 15. 船積書類 |
| 7. 輸出保険 | 16. 輸出決済 |
| 8. 輸出承認と認証の取付け | 17. 貿易クレーム |
| 9. 運送契約の締結 | |

成績評価の方法

筆記試験はしない。評価は平常点かレポート提出等によって行います。
再試験はしません。

教 科 書

開講時に指示します。

参 考 書 等

石田貞夫『貿易取引の実務』（教出版）
 渋谷源蔵『貿易実務』（同文館）
 藤田栄・『貿易取引の英語』（勁草書房）

【商 業】

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
職 業 指 導	まえ だ ゆき かず 前 田 幸 一	教 職 教 科	4

※経 B・二宮の12年度以降入学生も履修できます。

(P.237) 参照

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
コンピュータ基礎(教職課程登録者用) (前期)(後期)	すずき けん じ 鈴 木 健 司	12以降入学生2選 (禅・仏教・国文・英米文) (地理・歴史・法A・政治)	2

講義のねらい

コンピュータの操作法の習得とコンピュータの基本構造の理解、およびインターネットを利用した情報収集、情報発信法の習得を目指す。

講義の内容・
授業スケジュール

1. コンピュータの基礎 (ハードウェア、ソフトウェア、ファイルシステム)
2. Windows の基礎知識と操作法
3. インターネットの原理と利用法 (電子メールの利用、ホームページ)

成績評価の方法

出席を重視し、レポートを加味して総合的に評価する。

教 科 書

適宜プリントを配布する。

II 学校図書館司書教諭講座

必修科目

科目名	担当者名	配当学科	単位
学校経営と学校図書館 (前期)	やま だ せつ こと 山 田 節 子	司書教諭2・3・4必	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

学校教育における学校図書館の果たす役割を明らかにし、学校図書館の理念、発達過程と課題・教育行政との関わり、学校図書館経営のあり方など、学校図書館全般についての基本的な理解をめざす。また司書教諭の任務と担うべき役割を明確にし、校内の協力体制作り、司書教諭としての研修の重要性にもふれる。さらに、学校図書館のメディア・学校図書館活動・他の館種を含めた図書館ネットワーク等についての基本的な理解を図る。

講義の内容・授業スケジュール

- 1 学校図書館の理念と教育的意義
- 2 学校図書館の発展と課題
- 3 教育行政と学校図書館
- 4 学校図書館の経営
- 5 司書教諭の役割と校内の協力体制、研修
- 6 学校図書館メディアの選択と管理、提供
- 7 学校図書館活動
- 8 図書館の相互協力とネットワーク

成績評価の方法

小論文とテストによる。

参考書等

- 全国 SLA 図書館学編集委員会編『学校図書館学1 学校図書館の原理と運営』
- 全国 SLA 編『司書教諭の任務と職務』

その他

講義・討論・ビデオ

この科目は、平成10年度までに「図書館学 I」の単位を修得した者は、履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単位
読書と豊かな人間性 (後期)	やま だ せつ こと 山 田 節 子	司書教諭2・3・4必	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

現代社会に生きる子どもの発達や、読みの多様化などの進展している実態に即した読書教育の理念を探る。さらに、子どもたちの読書生活の実情と読書資料の現状についての理解に基づき、子どもと本を結びつけ、読書の生活化を図る方法を探る。これらを通じて子どもたちの豊かな人間性の涵養に資するため、司書教諭の役割と自らの責務を中心に、活動の原理と方法、技能についても、具体的に体得してもらう。

講義の内容・授業スケジュール

- 1 読書の意義と目的
- 2 子ども読書の実態と指導
- 3 読書資料の種類と活用
- 4 発達段階に応じた読書指導
- 5 子どもと本を結ぶための方法
- 6 読書指導推進活動と教員の責務
- 7 地域社会の関連施設等との連携

成績評価の方法

小論文とテストによる

参考書等

- 全国 SLA 編『学校図書館白書2 学校図書館と子どもの読書の現状と課題』
- 全国 SLA 編『司書教諭の任務と職務』

その他

この科目の受講は下記の1、2を終了してからが望ましい。

1. 学校経営と学校図書館 (前期)
2. 学習指導と学校図書館 (前期)

この科目は、平成10年度までに「図書館学 I」の単位を修得した者は、履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
学校図書館メディアの構成 (前 期)	みなもと しょう きょう 源 昌 久	司書教諭2・3・4必	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい	本講義は、学校図書館メディアの構成に関する理解および実務能力の育成を図る。
講義の内容・ 授業スケジュール	1) 学校図書館メディアの概念的フレーム・ワーク 2) 分類法(表)の解説・演習 3) 目録の解説・演習 4) 資料組織の機械化 5) 多様な学習環境と学校図書館メディアの配置
履修上の留意点	予習・復習をしっかりと行ってほしい。
成績評価の方法	平常点および試験の成績を併せて評価する。
教 科 書	『日本十進分類法 改訂9版』(日本図書館協会) セット定価 6,000円 『日本目録規則 1987年版 改訂版』(日本図書館協会) 3,500円
参 考 書 等	講義中に指示する。
そ の 他	必要に応じて、ビデオを活用する。 この科目は、平成10年度までに「図書館学Ⅱ」の単位を修得した者は、履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
学校図書館メディアの構成 (前 期)	しの ば よう こ 篠 田 耀 子	司書教諭2・3・4必	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい	図書および視聴覚メディア、その他多様なメディアの構成を学校現場に合わせて考え、選択できる実務能力の育成をはかる。
講義の内容・ 授業スケジュール	①学校図書館メディアの種類と特性 ②学校図書館メディアの選択と構成 ③学校図書館メディアの組織化 ・分類の意義と機能、日本十進分類法等の解説 ・目録の意義と機能、日本目録規則の解説 ・目録の機械化(コンピュータ化) ④多様な学習環境と学校図書館メディアの配置 ◆授業スケジュール 上記①② 4～5月 講義 ③④ 6～7月 講義および実習
履修上の留意点	実習を伴う授業を行うので、欠席したり、実習レポート等の提出を怠らないこと。
成績評価の方法	レポート等を含む平常点評価の予定。
参 考 書 等	志村尚夫編著『学校図書館実践テキストシリーズ2：学校図書館メディアの構成』(樹村房) 1,800円
そ の 他	現役の司書教諭という立場で、学校図書館の現状と将来への展望など実践を生かした授業を心がけたい。

科目名	担当者名	配当学科	単位
情報メディアの活用 (後期)	みなもと しょう さまう 源 昌 久	司書教諭2・3・4必	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい	学校図書館における多様な情報メディアの特性と活用方法の理解を図る。
講義の内容・ 授業スケジュール	1) 情報化社会と人間 2) 情報メディアの特性と選択 3) 視聴覚メディアの活用 4) 学校図書館におけるコンピュータの活用 5) 情報検索
履修上の留意点	予習・復習をしっかりと行ってほしい。
成績評価の方法	平常点および試験の成績を併せて評価する。
教科書	情報科学技術協会編『CD-ROM 版情報検索の演習』(H外アソシエーツ) 2,200円
参考書等	講義中に指示する。
その他	この科目は、平成10年度までに「図書館学Ⅱ」の単位を修得した者は、履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単位
情報メディアの活用 (後期)	しの だ よう こ 篠 田 耀 子	司書教諭2・3・4必	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい	学校図書館における多様な情報メディアの特性と活用方法の理解をはかる。
講義の内容・ 授業スケジュール	①高度情報社会と人間 (情報メディアの発達と変化を含む) ②情報メディアの特性と選択 ③視聴覚メディアの活用 ④コンピュータの活用 ・教育用ソフトウェア活用 ・データベースと情報検索 ・インターネットによる情報検索と発信 ⑤学校図書館メディアと著作権 ◆授業スケジュール ①②……10、11月 講義 ③④⑤……11、12月 講義 小、中、高いずれかの学校を選んで、学校現場での視聴覚メディア、コンピュータの活用の状況を調査し、分析報告をする。
履修上の留意点	実習を伴う授業を行うので、欠席をしたり、実習レポート等の提出を怠らないこと。
成績評価の方法	レポート等を含む、平常点評価の予定。
参考書等	大申夏身編著『学校図書館実践テキストシリーズ1：情報メディアの意義と活用』(樹村房) 1,800円

科目名	担当者名	配当学科	単 位
学習指導と学校図書館 (前期)	やま だ せつ 子 山 田 節 子	司書教諭2・3・4必	2

※経 B・法 B・二営の12年度以降人学生も履修できます。

講義のねらい

学習において学校図書館が果たすべき役割は大きい。学習図書館は、児童生徒が、「自分で調べて学ぶ」学習を中心に、教育活動のさまざまな場面で、メディアを積極的に利用するよう指導し、それを活用する能力の育成を図らなければならない。

この科目は、その原理と方法を学ぶと共に教師に対するサービス・支援のあり方に関し、理解を深めることを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1 教育課程の展開と学校図書館
- 2 発達段階に応じた学校図書館メディアの選択
- 3 児童生徒の学校図書館メディア活用能力の育成
- 4 学習課程における学校図書館メディア活用の実際
- 5 学習指導における学校図書館の利用
- 6 学校図書館における情報サービス
- 7 教師への支援と働きかけ

成績評価の方法

小論文とテストによる。

参 考 書 等

- 全国 SLA 編『これからの学校図書館と司書教諭の役割：改正学校図書館法マニュアル』
- 井澤純著『図書館学大系7 読書教育原論』（全国 SLA 刊行）

そ の 他

講義・討論・ビデオ・演習

この科目は、平成10年度までに「図書館学Ⅰ」の単位を修得した者は、履修できません。

Ⅲ 社会教育主事講座

(1) 必修科目

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会教育計画	むら やま てる よし 村 山 輝 吉	社教主事2必	4

※経 B・法 B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

かつて社会教育職員の専門性として、4P論（プランナー、プログラマー、プロデューサー、プロモーター）がいわれた。いま各自治体では住民の生活課題や地域づくりの課題に対応したきめ細かな生涯学習振興策とその計画化がもとめられている。この講義では、自治体の生涯学習計画の策定を中心に、できるだけ具体例に即して、ひろく生涯学習の方法、事業計画などの理論について理解を深められるようにしたい。

講義の内容・授業スケジュール

1. 生涯学習の方法と計画の今日的課題
2. 住民の課題と生涯学習計画
3. 生涯学習の方法と事業の計画・運営
4. 生涯学習と条件整備
5. 地域生涯学習計画の策定
6. 生涯学習計画と社会教育計画
7. 学習権の思想と社会教育計画の課題

履修上の留意点

できるだけ「生涯学習概論」を修得していることが望ましい。

成績評価の方法

出席、レポート、試験等により総合的に判定する。

教科書

酒匂・村山他編著『生涯学習の方法と計画』（国土社）2,800円

参考書等

そのつど紹介する。

その他

夏休み中に、各自、自分のまちの社会教育行政の実情について調査し、レポートにまとめることとする。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
生涯学習概論Ⅰ (前期)	とよ た ち よ こ 豊 田 千 代 子	社教主事2必	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

1965年に、ユネスコのポール・ラングランによって「生涯教育」が提唱されて以来、教育を生涯教育・生涯学習という観点で捉えることが、教育改革の国際的動向となっている。わが国でも、今日、生涯学習の観点からの教育の見直しが課題となっている。

授業では、OECDやILOなどの国際機関ならびにわが国における生涯学習政策の動向を概観し、その検討を通して、今日求められている学校教育改革・社会教育改革の方向性について考えていきたい。

講義の内容・
授業スケジュール

- ・生涯教育・生涯学習の理念
- ・生涯教育・生涯学習の国際的動向
- ・わが国における生涯学習政策
 - ・国レベルの政策－「生涯学習振興整備法」の制定とその後の動き
 - ・地方自治体における生涯学習政策の展開
- ・生涯学習と学校計画
- ・生涯学習と社会教育

成績評価の方法

レポート等により成績評価を行なう。

教 科 書

教科書は用いず、必要に応じて資料を配布する。

参 考 書 等

適宜紹介する。

そ の 他

この科目は、平成11年度までに「生涯学習概論」の単位を修得した者は、履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
生涯学習概論Ⅱ (後 期)	とよ ちよ こ 豊 田 千 代 子	社教主事2必	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

今日、わが国では、生涯学習の観点での教育の見直しが、学校教育でも社会教育でも求められている。授業では、とくに社会教育に焦点を当て、改革の方向性を探ることを目的としたい。そのために、社会教育の歴史や社会教育行政の役割等とともに「おとなの学び」に注目しながら、社会教育についての理解をはかりたい。

講義の内容・
授業スケジュール

- ・社会教育とは
 - ・社会教育の定義
 - ・社会教育の歴史
 - ・社会教育法
 - ・社会教育施設（公民館など）
 - ・社会教育行財政
- ・成人教育としての社会教育
 - ・「おとなが学ぶ」とは
 - ・「おとなの学び」の事例
 - ・おとなの学びに関わる職員の役割
- ・生涯学習と社会教育

成績評価の方法

レポート等により成績評価を行なう。

教 科 書

教科書は用いず、必要に応じて資料を配布する。

参 考 書 等

適宜紹介する。

そ の 他

この科目は、平成11年度までに「生涯学習概論」の単位を修得した者は、履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
社 会 教 育 実 習	とよ たちよ こ 豊 田 千 代 子	社教主事3必	4

講義のねらい

公民館、図書館などの社会教育施設や、教育委員会での実習をとおして、社会教育についての理解を深めることを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

事前指導 — 社会教育の具体的なイメージをつかむために、様々な社会教育実践を取りあげ、グループで報告する。
訪問指導 — 実習先訪問指導。
事後指導 — 実習をとおして学んだこと、疑問に思ったことなどについて報告する。
実習報告書を作成する。

成績評価の方法

①実習ノート ②授業への参加度（授業での実習報告、報告書作成への取り組みなど）

教 科 書

教科書は用いず、必要に応じて資料を配布する。

参 考 書 等

小林文人編『公民館の再発見 — その新しい実践』（国土社）
社会教育推進全国協議会編『新版 社会教育・生涯学習ハンドブック』（エイデル研究所）

そ の 他

実習報告書の作成に関しては、企画、編集、印刷、製本のすべてを自分たちで行なう。このことをとおして、共同で学ぶ方法を身につけたり、共同で学ぶことの楽しさに気づいてほしい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
社 会 教 育 実 習	むら やま てる よし 村 山 輝 吉	社教主事3必	4

講義のねらい

学生が社会教育実習に主体的にとりくみ、社会教育実践について理解を深めることを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

- ・社会教育実習の意義と心がまえ — これまでの実習の経験に学ぶ事前指導
- ・実習期間 — 個別の訪問指導
- ・実習後 — 個別の体験の整理・検討と共通する課題の追求。
〔例〕社会教育職員の専門性とはなにか。

成績評価の方法

平常の受講態度（出席、口頭発表、レポート、討議の質等）や実習ノート等により総合的に判定する。

参 考 書 等

そのつど紹介する。

そ の 他

社会教育実習を受講する学生は、前年11月中におこなわれるガイダンスに必ず出席すること。

(2) 選択必修科目

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会教育行政	あら 井 隆 たかし	社教主事2・3・4選	4

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

社会教育行政現場で永く実践を続けてきた立場で講義をしますので、体験に基づく具体的な話を中心となります。堅い印象の講義題ですが、内容は柔らかいものです。理論だけでなく、実践的な社会教育の見方を身につけたいと考えている人を歓迎します。

講義の内容・授業スケジュール

①私の社会教育行政の体験談、②社会教育から行政を見る、③東京23区の社会教育行政の特徴、④社会教育行政の仕組み、⑤社会教育行政の働き、⑥社会教育主事の具体的な仕事
概ね以上の内容を、それぞれ4回を目安（1ヵ月）に講義し、1年を通じ社会教育行政の具体像の把握を目指します。

履修上の留意点

社会教育の基礎知識があればより広く深く理解ができますが、初めて社会教育の講義に参加する場合でも、体験に基づきわかりやすい講義をしますので、安心して参加してください。

成績評価の方法

出席及び試験内容等をもって評価します。

教科書

特に使用しません。

参考書等

講義に関係する参考書を随時紹介しますので、理解を深めるため読んでください。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会教育施設	むら やま てる よし 村 山 輝 吉	社教主事2・3・4選	4

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

社会教育の方法や形態を考えるうえで、戦後のわが国では公民館をはじめとする図書館・博物館等社会教育施設の重要性があらためて認識された。本講ではその社会教育施設の歴史と現状について考察を深め、それが抱える諸問題について、望ましい展望を拓きたいと考えている。

講義の内容・授業スケジュール

- ・社会教育施設とは何か
 - ・社会教育施設にかかわる人々
 - ・公民館の歴史と現状
 - ・図書館の歴史と現状
 - ・博物館の歴史と現状
 - ・社会体育施設の歴史と現状
 - ・その他の社会教育施設・関連施設
 - ・社会教育施設をめぐる最近の動向と課題
- それぞれできるだけ具体例・実践例を挙げて理解をはかるようにしたい。

履修上の留意点

できればいくつかの施設見学を実施したいと考えているが、学生自身もすすんで適宜、施設の利用、見学、施設で行われている学級・講座・サークル活動等に参加して施設体験を豊かにしてほしい。

成績評価の方法

出席・受講態度等の平常点、レポート等により総合的に判定する。

教科書

適宜指示または紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
成人学習論	あら い 荒 井 たかし 隆	社教主事2・3・4選	4

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

成人の学習は、生涯学習時代といわれる今日、その具体的な姿が私たちの周辺で見られるようになりました。講義ではその実像の一端にふれて、成人の学習のリアリティに接し、生涯学習の意義を理解するだけでなく、自らの学習の一助にもなることができれば幸いです。

講義の内容・
授業スケジュール

①大人も学習するのか、②成人の学習事例～自分史～、③成人の学習事例～人権学習～、④成人の学習事例～文字を獲得する学習～、⑤成人の学習のあり方

履修上の留意点

実践に基づく授業です。本からの理解と異なり、できるだけ多様な方法を用いて学んでいきます。学生の学習と少し趣きの違う成人の学習に興味のある人の参加を期待しています。

成績評価の方法

出席及び試験内容等を参考に、総合的に評価します。

教科書

特に使用しません。

参考書等

授業で随時紹介します。理解を深めるため授業で使用する場合があります。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
ジェンダーと教育Ⅰ (前期)	なか ざわ ち え 中 澤 智 恵	社教主事2・3・4選	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

本講義は、ジェンダーと教育に関わる諸問題について理解を深め、教育・学習支援に携わる専門職に必要な資質の向上を目的とする。受講者自身の生活経験をふまえて考察し、受講者同士の相互学習の中で、社会的課題としてのジェンダー・バイアスの解消方策を具体的に検討する。

講義の内容・
授業スケジュール

講義内容は、①ジェンダーとは何か、②ジェンダーの形成、③学校教育とジェンダーなどを予定している。後半は、受講者各自のレポート発表にもとづいた討議を中心とする。

履修上の留意点

履修上、後期「ジェンダーと教育Ⅱ」とあわせて受講されたい。

成績評価の方法

成績評価は、出席、授業中のディスカッションへの参加状況、およびレポート発表の内容にもとづいて行うので、受講者の授業への積極的な参加を求める。

参考書等

参考書は、石川洋子編『人間発達学』（宣協社、2000年）・木村涼子『学校教育とジェンダー』（勁草書房、1999年）ほか、適宜指示する。

そ の 他

この科目は、平成11年度以前の入学者には、総合演習(13)の単位としては認められません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
ジェンダーと教育Ⅱ (後 期)	なか ざわ ち え 中 澤 智 恵	社教主事2・3・4選	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

本講義は、ジェンダーと教育に関わる諸問題について理解を深め、教育・学習支援に携わる専門職に必要な資質の向上を目的とする。受講者自身の生活経験をふまえて考察し、受講者同士の相互学習の中で、社会的課題としてのジェンダー・バイアスの解消方策を具体的に検討する。

講義の内容・
授業スケジュール

講義内容としては、ジェンダーの観点からマス・メディアの問題について概説し、メディア・リテラシーに関するワークショップを行う。また、セクシュアリティをめぐる問題について取り上げる。後半では、前期の講義をふまえ、各自の問題意識をほりさげたレポート発表にもとづいて討議する。

履修上の留意点

履修上、前期「ジェンダーと教育Ⅰ」とあわせて受講されたい。

成績評価の方法

成績評価は、出席、授業中のディスカッションへの参加状況、およびレポート発表の内容にもとづいて行うので、受講者の授業への積極的な参加を求める。

そ の 他

この科目は、平成11年度以前の入学生には、総合演習(4)の単位としては認められません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
職業教育Ⅰ (前 期)	しお かわ まさ と 塩 川 正 人	社教主事2・3・4選	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

本授業のねらいは「就職に役立つ授業」この一点にある。二十一世紀の大学志願者は「就職率の高い大学」を最優先で選ぶ時代となる。本授業はそうした学生達のニーズに真正面から応える授業としたい。

講師の本業は経営コンサルタント。ゆえに日々ビジネスを共にしている企業の人事・採用責任者の立場から、カリキュラムを編成する。

本授業を選ぶ諸君は、先ず学生意識の甘えを捨てなければならない。「社会人」としての意識と行動なくして「就職」への準備は成り立たない。

学生諸君の未来を決める「人生最大の決断」が就職への準備である。しかもその門に入ることは極めて厳しい。君の未来を、この授業の中で見出す覚悟をもって、授業に参画してほしい。

講義の内容・
授業スケジュール

- ①学生と企業人の違い。
- ②企業は学生に何を期待しているか。
- ③就職への準備。
- ④企業選択の基準。
- ⑤面接試験の本質と取組み方。
- ⑥論文試験の本質と取組み方。
- ⑦いかにして自己を鍛えるか。

授業の半分は、学生との質疑応答の時間としたい。質疑応答の中で、企業という「生きもの」の厳しさと素晴らしさを伝えたい。

履修上の留意点

- ①講師が企業で実践している資料の配布が多い。資料を保存するためのバインダーを準備すること。
- ②授業の度に発言や返答、意見発表、討論などがあることを想定していること。
- ③教員や公務員を志望する諸君にとっても「就職」の基本は同じ。役立つことと確信する。

成績評価の方法

平常授業とレポートによって評価

そ の 他

この科目は、平成11年度までに「企業内教育・職業訓練」の単位を修得した者は、履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単位
職業教育Ⅱ (後期)	しお かわ まさと 塩 川 正 人	社教主事2・3・4選	2

※経B・法B・二宮の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

前期と全く同じである。授業の目的は「就職試験に勝つ」。そのための自己革命を学生諸君は本授業で実践する。

授業内容は、前期の内容を更に詳しく掘り下げていく。前期以上に、面接や自己アピールのための演習を多くしたい。

成績評価の方法

前期同様に平常授業とレポートによって行う。

その他

この科目は、平成11年度までに「企業内教育・職業訓練」の単位を修得した者は、履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単位
社会体育Ⅰ (前期)	ふる た じゅん こ 古 田 潤 子	社教主事2・3・4選	2

※経B・法B・二宮の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

現在、社会の複雑なうねりは日々変化の度とスピードを上げて、私たちの日常生活に深刻な影響を及ぼしつつあります。本当が見えにくく現実の諸問題に対応しきれない不安さに様々なストレスも生まれています。しかしこのような不安定な状態に置かれた時こそ今までとは別の新しい安定が生まれる可能性があると思います。この授業では、私たちのからだは自然が生み出した自然の一部であり、自然と調和して生きる生命だという原点に戻って、それぞれの人に本来備わっている能力を回復すること、そこから自然や自分自身、そして他者とどのように関わっていくのかなどを模索しながら、社会生活の中で安定し共生していける創造的なからだを育てることに取り組みます。

講義の内容・授業スケジュール

野口三千三の野口体操理論に基づいています。野口三千三は、従来のからだの価値基準を解剖、分析、計測による数値化可能なものによって作り出された、外側にあるものを体に当てはめるというものではなく、人間のからだを生きている丸ごと全体として捕らえ、自分自身のからの動きを手がかりにして人間とは何かを探検するいとなみ、というからの内側に価値基準を置いています。従ってこの授業では、私がこの理論に基づいて長年体験し研究してきたものを、皆さんに体験してもらいます。それを手がかりに各人が自分の本来のからの自然に気づき、自分の価値観で現実に対処できるからだを育てていきます。

〈基本となる要素〉

自然の原理に沿った動きで、ゆったりと自分のからだに向き合いからの声を聴く。

その時々からのを支える必要最小限の緊張を残してリラックス。

その時々姿勢におけるからの最下部に全体重を任せ切る。

自然な呼吸。

履修上の留意点

からのの内的感覚に基づく履修内容なので連続受講が必要です。

成績評価の方法

平常授業（レポートも含む）

参考書等

野口三千三著『原初生命体としての人間』（三笠書房）

野口三千三著『野口体操からだに貞く』（柏樹社）

野口三千三著『野口体操重さに貞く』（柏樹社）

池田潤子執筆 雑誌「からののレッスン」「ひと」（太郎次郎社）

古田潤子「自然なからののあり方を考える【円筒エリア】の発見と意義」

『駒沢大学教育学研究論集』第13号1997年

その他

授業は実技を主に行います。

科目名	担当者名	配当学科	単位
社会体育Ⅱ (後期)	ふるたじゅんこ 古田潤子	社教主事2・3・4選	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

他者とひびき合う豊かな関係を拓いていきます。

講義の内容・
授業スケジュール

環境の変化に応じて、的確に落ち着いて対処できる心とからだを、自らの力でとらえて自信を身に付けます。屋内、屋外のいろいろな場所での体験実習も考えています。

また、海外でのワークショップにおける豊富な経験をもとに様々な遊び道具の製作や、それを使った楽しい遊びも加味します。同時に日本人と外国人の考え方、感じ方、環境の変化に対する即応の仕方の違いなどについても一緒に研究をしていきます。

科目名	配当学科	単位
教育の思想	社教主事2・3・4選	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.153～156) 参照

科目名	配当学科	単位
教育と社会	社教主事2・3・4選	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.157～159) 参照

科目名	配当学科	単位
発達と学習の心理学	社教主事2・3・4選	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.159～162) 参照

科目名	配当学科	単位
教育とメディア	社教主事2・3・4選	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.166～168) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単位
社会心理学	つばい 井 健	社教主事2・3・4選	4

講義のねらい

この講義は、個人の社会的行動、対人関係、集団行動と個人、集団心理現象など、われわれが日常に出会うテーマについて、社会心理学の興味深い研究成果を紹介する。社会心理学は、元来社会学と心理学の境界科学であり、実験、テスト、観察、調査など社会学と心理学の研究方法が用いられており、社会学の領域から見れば、かなり心理学的色彩の強い研究が含まれる。この講義では、境界科学としての特徴を生かし、具体的テーマを中心に、ビデオ教材を利用したり、小実験や心理テストなど多彩な方法を用いて授業を展開したいと考えている。

講義の内容・
授業スケジュール

1. はじめに - 講義の方針と受講の仕方 -
2. 社会的自己のはなし - 自己過程の社会心理 -
3. 他者との関わり - 友人関係と対人魅力 -
4. 対人関係の心理 - 援助行動と社会的影響 -
5. 集団の中の個人 - 同調行動と意思決定 -
6. 文化現象と個人 - 異文化と日本人 -
7. 現代社会と個人 - 現代人の社会心理 -
8. その他 (社会的認知、社会的欲求、態度変容、リーダーシップなど)

履修上の留意点

1. 授業中に、小実験や心理テスト、エキササイズなど行うことがあるので積極的に参加すること。
2. 授業内容は、通年テーマの概略である。授業の流れとの関係で内容や順序は変更することもある。
3. 授業中は配布プリントを参考にノートを取り、さらに深く研究する人は、紹介した文献を参考に自主的に学習することが望ましい。

成績評価の方法

1. 出席+毎時間の受講態度、感想、意見、質問など (30%)
2. 課題レポート・期末試験 (70%)

教科書・
参考書等

各テーマの授業時間に指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
視聴覚教育	いいもり あき ひこ 飯 森 杉 彦	社教主事2・3・4選	4

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.267) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育社会学	くま がい かず のり 熊 谷 一 乗	社教主事2・3・4選	4

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.207) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
教 育 史	山本敏子	社教主事2・3・4選	4

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.208) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
教 育 調 査	鈴木規夫	社教主事2・3・4選	4

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.209) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
青 少 年 文 化	香川良成	社教主事2・3・4選	4

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

日本の児童青少年演劇史（大人による子供のための演劇）と、演劇教育史（子供自身による子供のための劇活動）を中心に捉え、各時代の児童文学の流れにも目を配りながら、それらの明治以後の発展の歴史を振り返ってみたい。

講義の内容・授業スケジュール

以上の講義と、取り上げる諸作品の、受講者による研究発表とその講評を併せながら授業を進めたい。

履修上の留意点

実習でやむをえない場合以外は、極力出席してもらいたい。

成績評価の方法

平常点（発表、レポート）と試験で成績評価を決めたい。

参考書等

富田博之著『日本児童演劇史』（東京書籍）、富田博之著『日本演劇教育史』（国土社）、菅忠道著『日本の児童文学』I総論（大月書店）

そ の 他

現在行われている演劇教育（“劇あそび”その他）の模様や舞台をビデオで観たり、実際観劇するということも行いたい。またテーマを決めて討論するということも考えています。
この科目は、平成11年度までに「児童文化」の単位を修得したものは、履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
現代社会の諸問題と教育Ⅰ (前期)	くま がい かず のり 熊 谷 一 乗	社教主事2・3・4選	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

現代社会の諸問題のなかでも、子どもの発達の基盤として重要な意味をもつ家族について、今日の諸問題を取り上げ、教育の観点から、その実態、背景、原因を解明し、有効な問題解決の方策をさぐることをねらいとしている。社会的に憂慮されている社会性の発達の遅れなど子どもの発達をめぐる問題、不登校・いじめ・校内暴力など学校における問題、その他の非行問題の背景には、近年、大きく変容しつつある現代家族の在り方をめぐる問題がある。この点を十分に理解し、どのように対応すればよいかを考えるとところに講義のポイントがある。

講義の内容・
授業スケジュール

講義は、次ぎの三つのセクションに分けて行われる。
 第1セクション「家族集団と子どもの発達」－4月。
 教育の場としての家族の意義。人間形成を方向づける家族の集団力学と文化。教育をめぐる定住家族と生殖家族。
 第2セクション「産業の発展にともなう家族の変容と教育機能の衰退」－5月。
 産業構造の変化と家族規模の縮小、核家族の一般化。役割構造の変化と学習－教育プロセスの変化。共同体としての家族の“崩れ”と教育機能の低下。
 第3セクション「現代の家族をめぐる問題の諸相と人間形成」－6、7月。
 出生率の低下－少子化と教育問題。親子関係の変容。メディアの家庭支配と連帯の弛緩。共働きの一般化と保育問題。高齢化における家族の福祉機能と教育機能－その可能性と限界。家族間の格差。

履修上の留意点

家族問題への関心。

成績評価の方法

出席状況と試験の成績。

授業の方法

講義に討論場面を加える。

教科書

プリント配布。

参考書等

授業中に紹介。

その他

この科目は、平成11年度までに「現代社会の諸問題と教育」の単位を修得したものは、履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
現代社会の諸問題と教育Ⅱ (後 期)	くま がい かず のり 熊 谷 一 乗	社教主事2・3・4選	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

現代の社会は、急激な変化にともなって解決の難しい多くの問題を発生させている。これらの問題は、教育の在り方に直接的、間接的に重大な影響をおよぼしている。わが国の場合、社会的変化は、とりわけ、1960年代の経済成長政策以降、テンポを早め、激しさを増している。講義では、わが国の高度経済成長以降の社会的変化の過程で生じた重要な問題と教育との関係を明らかにして将来を展望し、問題解決の方途を探ることをねらいとしている。

講義の内容・
授業スケジュール

講義は、次ぎの三つのセクションに分けて行われる。
 第1セクション「高度経済成長にともなう社会の諸問題と教育」-9月。
 経済成長のための教育と能力主義。都市化・過疎・過密の問題と教育。環境問題と教育。非行、心の問題と教育における能力主義の限界。社教審答申の問題提起。第三の教育改革。ナショナリズムの高揚と教科書裁判。高度成長にともなう“光”と“陰”のなかの教育。
 第2セクション「情報化にともなう問題と生涯学習」-10・11月。
 コンピューターの普及・メディアの発達にともなう脱工業化・情報の大量流通・第三次産業の発展にともなう学習需要の増大、学習機会の普遍化。生涯教育論から生涯学習論へ。学習権の主張。生涯学習体系をめざす。
 第3セクション「自由化をめぐる問題と教育」-11・12・1月。
 自由化と個性重視の教育政策。変化の激しさと生きる力。“ゆとり教育”の問題。再びナショナリズムと教育基本法改正問題。

履修上の留意点

現代の社会への問題意識。

成績評価の方法

出席状況と試験の成績。

教 科 書

プリント配布。

参 考 書 等

授業中に紹介。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
青少年問題研究	さぬ ぎ まさこ 讚 岐 真 佐 子	社教主事2・3・4選	4

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.211) 参照

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
青少年指導演習	ひらの 平野学	社教主事2・3・4選	4

※経B・法B・二管の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

青年期を生きる学生諸君が「青少年指導」について学ぶには微妙な難しさが伴う。まずかかわる側自身、自らの歩みを見つめると共に、かかわりを通して更に色々なことを見つめる作業が大切になってこよう。ここではこうした認識を土台に、青年心理学や臨床心理学、カウンセリング学等の立場から、現代の青少年の状況やトピックス等論じつつ、その援助や指導のあり方について互いに学びたい。

講義の内容・
授業スケジュール

“演習”科目でもあることから、できるだけ体験学習や討議の時間を多くとって行なっていく。一応年間予定としては下記の通りだが、受講者の希望も適宜取り入れて進めるつもりでいる。

《前期》

1. 互いに知り合うための、また自己理解を深めるためのエクササイズを実施。(4回)
2. 青少年について、主に発達の観点から自らのことを振り返りつつ学ぶ。(2回)
3. 援助の基本としてのカウンセリングについて、小グループ形式で主にデモンストレーションやロールプレイを通して体験的に学ぶ。(6回)

《後期》

4. スクールカウンセラーについて及び講師自身の援助例（不登校や非行に陥った青少年及び親へのカウンセリング）の提示と討議。(3回)
5. HIV・エイズ問題やカルト問題、ストーカーやドメスティックバイオレンスの問題とそのカウンセリング(4回)
6. 夏休みレポートをもとに、受講者の様々な体験（ボランティア活動他）の報告と討議。同時にカウンセリングと仏教との接点等についても互いに理解を深めたい。(3回)
7. その他（全体の振り返り他）。(2回)

履修上の留意点

讃岐真佐子講師による『青少年問題研究』を履修済であることが望ましい。

出席して討論に加わり、感想等も適宜記してもらい、いわばコミット型の共に築き上げる授業にしていきたく、意欲的な学生の参加を望みたい。(実習も行うので安易な受講は避けてほしい。)

尚、授業の初日に年間の大まかな予定等お話するが、履修希望者からも何を学びたいか等、記してもらいたく、必ず出席願いたい。

成績評価の方法

学年末レポート（年間授業を振り返る形でのもの）、夏休みレポート（体験報告または読書感想）、平常点（出席等）の三本柱で行なう予定。

教科書

河合隼雄『カウンセリングを語る（上・下）』（創元社）各1,300円

参考書等

河合隼雄『カウンセリングを考える（上・下）』（創元社）各1,300円

同 『大人になることのむずかしさ』（岩波書店）1,240円

同 『ユング心理学と仏教』（岩波書店）1,800円

佐治守夫他『カウンセリングを学ぶ』（東大出版会）2,800円

乾吉佑、平野学編『臨床心理士になるには』（ぺりかん社）1,230円

他にも授業の中で随時紹介していきたい。

その他

VTRも多く使用して、具体的に学べるようにしたい。

授業という限られた場ではあるが、受講者それぞれに自らの成長に資するものとなるよう、心掛けて参りたい。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
博物館学Ⅰ（概論） （前期）	おお たい 喜び 美子 太 田 喜 美 子	社教主事2・3・4選	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.268) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
博物館学Ⅱ（資料論） （前期）	まし がみ こう いち ろう 岸 上 興 一 郎	社教主事2・3・4選	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.268) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
情報メディアの活用 （後期）	みなもと しろう きゆう 源 昌 久	社教主事2・3・4選	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.245) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
情報メディアの活用 （後期）	しの だ よう こ 篠 田 耀 子	社教主事2・3・4選	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.245) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
読書と豊かな人間性 （後期）	やま だ せつ こ 山 田 節 子	社教主事2・3・4選	2

※経B・法B・二営の12年度以降入学生も履修できます。

(P.243) 参照

IV 博 物 館 学 講 座

(1) 必修科目

科目名	担当者名	配当学科	単位
視聴覚教育	飯 森 彬 彦 <small>い い もり あき ひこ</small>	学芸員2・3必	4

講義のねらい

視聴覚教育の背景にある基本的な考えを理解したうえで、個々の視聴覚教材の特性と基礎的な技法（教材の制作の仕方、利用の仕方）を習得する。

併せて、変動する今日の社会におけるメディア事情を把握し、メディアを活用する態度や能力を養う。

講義の内容・授業スケジュール

- ア. 視聴覚教育の歴史とその思想的背景
 - イ. 情報の授受に関する基礎的な理論
 - ウ. 各視聴覚教材の特性と制作法、利用法
 - エ. 教育に関連したメディア状況の展望と諸問題
- 以上のような内容を、実践に関連したウに重点をおいて行う。

履修上の留意点

実践に重点をおくという考えから、夏休み、冬休みなどを中心に2・3度、課題を出し、作品の提出を求める。作品制作のために若干の経費の負担がある。

成績評価の方法

課題で提出された作品の評価で50%、期末のテストで50%。
出席の不足は、作品評価やテストの採点に必ず反映されるので、特に出席状況を評価の基準にはしない。

教科書

使用しない。

参考書等

講義の参考に使用しているのは以下の書物である。
浅野孝夫・堀江固功編著『新視聴覚教育』（日本放送教育協会）
秋山隆志郎・岩崎三郎編著『視聴覚教育』（樹村房）
野津良夫編『視聴覚教育の新しい展開』（東信堂）
赤堀正宣・佐賀啓・中野照海編著『メディアと教育』（小林書房）

その他

ビデオ、写真などをできるだけ多用する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
考古発掘実習	飯 島 武次・酒 井 清治 <small>い い じま たけつぐ さか い きよし</small>	学芸員3・4必	2

講義のねらい

発掘技術の習得を目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

考古発掘実習の授業は、通常の教場での授業と夏休みの野外考古発掘実習からなっている。

履修上の留意点

夏休みの野外考古発掘実習は実習先の都合もあり、夏休み直前まで場所と日程が決定しないのが例年である。従って履修者は、博物館実習との関係等をよく考えあわせ、夏休みの計画の中に、発掘実習と館務実習以外の計画を先行して予定しないこと。夏休みの私的な計画は、発掘実習と館務実習の期間が決定した後に計画を作成すること。

授業と野外考古発掘実習においては、授業連絡・授業教程の関係から無届けの欠席・遅刻は一切認めない。またいかなる理由があっても年度の第1回の授業には出席すること。以上の件に反した学生に対しては、教師側の時々の判断で履修を禁止することがある。これは勝手な欠席・遅刻が該当年度の野外考古発掘実習の計画・実行を妨げるからで、履修学生の協力をお願いする。

成績評価の方法

成績評価は出席点と平常点および発掘実習と発掘日誌。

教科書

『考古学調査ハンドブックス1（野外編）』（雄山閣）1984年 2,800円

科目名	担当者名	配当学科	単 位
博物館学Ⅰ（概論） （前 期）	おお たく きみ こ 太 田 喜 美 子	学芸員 2 必	2

講義のねらい

博物館学講座（学芸員課程）の必修科目である。博物館法施行規則によると、「博物館学」6単位が必修である。この「博物館学Ⅰ」は2単位であり、6単位を充たすためには、あとふたつの「博物館学Ⅱ・Ⅲ（岸上講師）、各2単位」も履修していただかないと次年度へ進めないで注意を要する。

この講義では、「博物館法」をテキストにして、博物館の意義、学芸員の仕事等を理解してもらい、いっぽう「博物館学Ⅱ・Ⅲ」では、実際の学芸員の仕事や博物館の事業について、岸上興一郎講師に講義していただいている。

履修上の留意点

この「博物館学Ⅰ」は、年度初めの第1週の授業で、駒沢大学にあって、学芸員資格を取得する手続きと方法について、細かく説明するので、必ず出席すること。途中で（2回や3回目）出席して、手続きその他質問に来ても、第1回目の教室で説明したことを、欠席者に特に丁寧に説明することはしないので注意しておいてもらいたい。

この授業は前期2単位の授業であるから、後期には無いはずであるが、実は後期になっても、数回教室に出席してもらうことにしている。したがって、水曜日3限目の後期については、「履修届」に書きこまないことをお勧めしたい。けれども、学科の必修科目にぶつかってしまうこともあるだろう。そういう方は、相談に来てほしい。

この「博物館学Ⅰ・Ⅱ」計4単位は、社会教育主事の選択科目にもなっているが、この場合も4単位履修していなければならないので、ⅠとⅡの両方を履修しないと通用しない。注意しておきたい。

成績評価の方法

試験による評価（詳細は、第1回目に説明する。）

科目名	担当者名	配当学科	単 位
博物館学Ⅱ（資料論） （前 期）	まし がみ こう いち ろう 岸 上 興 一 郎	学芸員 2 必	2

講義のねらい

博物館で扱う資料とは何であるのかを問う。

講義の内容・
授業スケジュール

博物館法および関連法という博物館資料について述べる。資料は多様な環境の中におかれている。それらの資料がいかなる過程をへて博物館に寄贈・寄託・借用・購入され、研究・収蔵そして展示されていくのかを事例をもとに展開する。

履修上の留意点

資料のもつ基礎情報を学芸員として熟知し、いかに展示空間に動と静の知的世界を構築するかを考えること。

成績評価の方法

レポート提出。

教科書

財日本博物館協会編『博物館関係法令集』
必要に応じて関係資料を作成し配布する。

参考書等

各大学・各博物館などから刊行されている『紀要』
財日本博物館協会編 月刊『博物館研究』

その他

講義。

科目名	担当者名	配当学科	単位
博物館学Ⅲ(経営論・情報論) (後期)	まし かがみ こう いち ろう 岸 上 興 一 郎	学芸員2必	2

講義のねらい

博物館は学芸職と事務職によって構成されている。その経営にあたっては、各個人の暗黙知、つまり各個人のもっている情報・知識の豊かさが結果を左右する。さらにはそれを言語化・明示化して組織内で共有し、有効活用することを形式知化という。ここを講義のポイントとする。この理論は博物館経営をより発展させる重要な鍵でもある。学芸員の経営関与を問う。

講義の内容・授業スケジュール

各博物館は、その創設時の状況によって、公立・市立・財団など種々の組織形態をとってはいるが、形式知化は、すべての博物館に共通する経営理論である。ここでは、それによって積算された予算、その執行と展開などの事例にふれる。さらには近年論議されている博物館の公設民営化、独立行政法人化についてふれる。

履修上の留意点

予算の仕組みおよび博物館資料のもつ情報と、そのあつかいを理解すること。

成績評価の方法

レポート提出。

教科書

財団法人博物館協会編『博物館関係法令集』
必要に応じて関係資料を作成し配布する。

参考書等

各大学・各博物館などから刊行されている『紀要』
財団法人博物館協会編 月刊『博物館研究』

その他

講義。

科目名	担当者名	配当学科	単位
博物館実習Ⅰ (館務)	お 太 田 喜 美 子 ・ い 飯 島 武 次 さ 酒 井 清 治	学芸員3・4必	2

履修上の留意点

この授業は4月第1週から、来年の最終講義まで、1回でも欠席・遅刻・早退すると、単位が取得不可能なので注意してほしい。この方法は、本学の博物館講座開設以来20年間不変であるので、君だけ特別に単位を出しましょう、というわけにはいかない。

この講義時間に出るということは、君が企画専任者である特別展の開幕日開幕時に君がきちんと会場にいるかどうかということと同じに考えなさい、ということである。

毎週の授業の他に、主として、夏期休暇中に、一つの博物館で、学芸員実習を行う。この実習は、他の大学の実習生といっしょに行うため、他流試合的な趣きももっているのですが、日頃の授業時と同じように、絶対に遅刻・欠席してはいけません。一度、そういうことをすれば「駒大には遅刻した学生がいる」と、10年ぐらいいい言われ続けるので、注意してほしい。また、多くの実習博物館に本学出身の学芸員の方がいらっしやるので、その先輩に迷惑をおかけすることにもなる。実習は夏期に行う館が80%を占めるが、別の時期に行う館もあるので、夏休みに海外短期留学などする方も相談に来てほしい。

この科目は、本学の博物館講座の締括りになる実習なので、特に心を引き締めて履修していただきたい。「博物館学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」・「博物館実習Ⅲ(見学)」に先だて、この科目を履修することはできない。つまり、この「博物館実習Ⅰ(館務)」を3年次生に履修して、「博物館学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」あるいは「博物館実習Ⅲ(見学)」を4年次生に履修してはいけません、ということである。履修にあたっての細かい事柄は、その都度、教室で話をする。後期には実習した館の実習内容につき報告会をするので、きちんとまとめることを忘れぬよう。

成績評価の方法

授業態度・実習評価・発表能力による評価。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
博 物 館 実 習 Ⅱ (収 集)	太田喜美子・國見徹 久保田昌希・小林和幸 酒井清治・佐々木真 瀧音能之・廣瀬良弘	学芸員3・4必	2

講義のねらい

博物館活動の主たる3本柱のうちの「博物館資料の収集」の方法の勉強をする。博物館学芸員は、学芸員の個性を活かさなければならぬ面と、個性を殺さなければならぬ面がある。「博物館実習Ⅱ（収集）」では、一つの博物館が何年あるいは何十年にもわたって資料を収集し続けていても、恰かも、常に一人の人が収集してきたかともみえるような統一性が必要である。また、一つの展示をするにしても、その企画に参画する数人のスタッフの成果は、バラバラであってはならないのである。

その意味では、この「博物館実習Ⅱ（収集）」はあまりに個性豊かな人・あるいは協調性の乏しい人には、かなりきついようである。この実習は、必ず合宿して実施しているので、共同生活を知らうとする意欲の有無がかなり影響をもっているらしい。

博物館学芸員を目指して履修している学生が、学芸員課程を断念するきっかけは、たいてい、この実習の直後であることが多い。つまり、合宿して収集実習を終えた時点で、これほど協調性が必要なら、自分には不向きである、と思いこんでしまうのであろう。そう自覚したら、確かに、君は学芸員に不向きなのかもしれない。そうした場合には、どんどん、個人的に相談に来てほしい。

また、本学で学芸員資格を取るための実習は、「Ⅰ（館務）」・「Ⅱ（収集）」・「Ⅲ（見学）」の3つが必修であるが、「Ⅱ（収集）」の代わりに、「考古発掘実習」を履修しても、学芸員課程の「実習Ⅱ（収集）」に読みかえることができる。ただし、発掘は、真夏の炎天下で1か月間参加することが必要なので、この科目を必修とする、考古学専攻生以外の方には勧められない。

この実習で、今年度予定しているのは、

1. 長野県北佐久郡望月町での近世文書調査と石仏収集調査実習。
2. 同上町での石仏収集調査実習。
3. 長野県飯田市周辺での石仏調査。

履修上の留意点

年度第1回目の授業に必ず出席のこと。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
博 物 館 実 習 Ⅲ (見 学)	太田喜美子・酒井清治 松本信道	学芸員2・3必	2

講義のねらい

本学での博物館実習は、2年次に行うこの実習と、3年次で行う、「Ⅰ（館務）」と「Ⅱ（収集）」の3つが規定されている。

つまり、この実習は、君がこの課程で、初めて行なう、学外での実習ということになる。都内あるいは周辺の博物館で見学をするのであるが、基本的には、見学館は10館。見学の度にレポートを提出する。そのレポートを添削して、原稿用紙の使い方から、字数のまとめ方等、かなり、しっかり、指導することになっている。

履修の方法は、なんといっても、学外の博物館見学であるから、当然、1コマ90分内では無理である。そのため、履修にあたっては、学生の都合を充分、考えに入れたうえで、できるかぎり柔軟に対応して、あふれてしまう人ができるように留意するつもりである。そのために、相談しなければならないことがあるので、年度第1週には必ず出席してほしい。学生の都合を汲んでA～Dの4組ぐらいに分けて、異なる見学方法をとることになることと、今年度は、履修希望者が非常に多くなると予測されるので、第1週に、出席した人数で組分けしてしまう。結果的に、第1週に欠席すると、はみ出してしまうことになる。

この授業は、水曜日の3・4限を通して行うことになるのだが、3限目あるいは5限目に学科の必修科目とぶつかってしまうこともある。そのような問題をもつ人は、必ず、第1週に出席してほしい。第1週の授業終了後に、個人的に相談に来て、もう、対応不能なので、その場合は、翌年履修する以外に方法が無い。

成績評価の方法

レポート点による評価。

科目名	配当学科	単 位
教育の思想	学芸員2必	2

(P.153～156) 参照

科目名	配当学科	単 位
教育と社会	学芸員2必	2

(P.157～159) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
生涯学習概論Ⅰ (前期)	とよ たい ちよ こと 豊田千代子	学芸員2・3必	2

(P.250) 参照

科目名	担当者名	配当学科	単 位
生涯学習概論Ⅱ (後期)	とよ たい ちよ こと 豊田千代子	学芸員2・3必	2

(P.251) 参照

(2) 選択必修科目

科目名	担当者名	配当学科	単 位
中国仏教文化史	<small>なが い まさ し</small> 永井政之	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

ここでいう「文化」とは、現代の我々が日常的にイメージするそれではなく、「人間の営み」としての文化である。当然、「仏教」という宗教も「文化」の枠組みの中に入る。このように「仏教」ととらえるとき、それが中国の歴史の中で、どのような変化展開をしたか。それが本講義のテーマとなる。

今年度は、インドで生まれた仏教が中国に定着するさまざまな紆余曲折の中で、特に興味を引く「仏・菩薩への信仰」を取りあげて考えてみたい。

成績評価の方法

成績評価は平常点に期末試験の結果を加味する。

教科書

必要な参考書は授業において指示する。またコピーを配布する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日本仏教文化史	<small>はかま や のり あき</small> 袴谷憲昭	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

「成仏と捨身と聖（ひじり）」という課題のもとに講義を行いたい。「捨身」は、飛鳥時代の玉虫厨子に描かれた絵を見ても分かるように、我が国古来よりの重要なテーマである。これに穢れなどの観念も加わって、穢れた身を清める行、およびそれを行う行者としての「聖」の概念も我が国の文化の中には大いに定着した。かかる文化の展開の背景には、大乘仏教と共に展開した「成仏」思想というものが大きく影響している。このような文化史の問題を、上記の課題のもとに、高崎直道博士の下記の著書を教科書として用いながら、講義を進めていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

教科書を中心に、そのテーマの展開に応じて、下記参考書などを資料として取り上げながら、課題追求を行っていく。

履修上の留意点

講義において指示する資料や文献を自分できちんと読むことが要求されるであろう。

成績評価の方法

学年末の定期試験による。

教科書

高崎直道『死は成仏か』（佼成出版社）1,400円

参考書等

『大乘本生心地観経』（大正蔵、3巻、291-331頁）
本居宣長『大祓詞後釈』（本居宣長全集、第7巻、筑摩書房、75-183頁）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
禪 美 術	前 期：村 松 哲 文 後 期：海 老 根 聰 郎	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

今年度は前期、後期で別の教官が担当する。
前期（村松）は、宋・元時代の中国禪宗美術について、後期（海老根）は、鎌倉時代以後の日本の禪宗美術、とくに絵画について講義する。講義はほぼ毎回、スライドを影写して進める。

成績評価の方法

成績評価の方法は、各教官担当の前期末、後期末に、それぞれ筆記試験を行ない、両者の総合によって判定する。

禪美術全体については、適当な概説書などの教科書的なものは見当たらないのが現状であるから、試験は講義中に述べたことから出題する。その為、出席を良くすることを要望する。とくに最初の数回は、講義全体の見直しなど基本的なことを述べるから、出席を希望する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
仏 教 美 術	まつ だ せい いち ろう 松 田 誠 一 郎	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

平安時代前期〔784～951〕から平安時代後期〔951～1185〕にいたる仏教彫塑の歴史を詳しく講義する。講義では、関連資料を講読して、作品が造られた歴史的背景をたどる一方、時代ごとの表現や技法の特徴を指摘し、その歴史的変遷や研究上の問題点を説明する。また、中国や朝鮮半島の作品との比較を通して、日本の美意識の問題にも論及する。

講義の内容・授業スケジュール

【前期】

- 第1回 ガイダンス
- 第2～3回 1. 神護寺の薬師如来像
- 第4回 2. 新薬師寺の薬師如来像
- 第5～6回 3. 神護寺・観心寺の密教彫塑
- 第7～8回 4. 広隆寺金堂・講堂の仏像
- 第9～10回 5. 東寺講堂の密教彫塑
- 第11～12回 6. 法華寺の十一面観音像
- 第13～15回 進度調整のための予備日

【後期】

- 第1回 7. 仁和寺の阿弥陀三尊像
- 第2回 8. 清涼寺の阿弥陀三尊像
- 第3～4回 9. 室生寺金堂の仏像
- 第5回 10. 上醍醐寺の薬師三尊像
- 第6回 11. 六波羅蜜寺の十一面観音像
- 第7～8回 12. 同聚院の不動明王像
- 第9～12回 13. 平等院鳳凰堂の仏像
- 第13～15回 進度調整のための予備日

履修上の留意点

仏像の本当のよさは、スライドを見ているだけではわからない。教室で講義を受けるだけでなく、できるだけ履修期間中に東京国立博物館の法隆寺宝物室や奈良・京都の古寺を訪れて、仏像に接する機会を積極的につくるように努力すること。

成績評価の方法

前期末と後期末に筆記試験を実施し、その単純平均によって厳密に評価する。

教科書

水野敬三郎著『奈良・京都の古寺めぐり－仏像の見かた－』、1985年（岩波書店）

その他

毎回スライドを使用する。参考文献については、講義ごとに指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
仏 教 民 俗 学	須 藤 寛 人 す どう ひろ と	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

葬儀や、先祖崇拝、位牌・仏壇といったものを通して、多くの日本人は仏教と接していると思われま。このような日常的な仏教との接点を手がかりとして、大宗教としての仏教が民間に浸透していった経緯を、本講義では考察したいと思います。また仏教的な営みの背景にある民俗の意味と歴史とを考察することによって、仏教と新しい接し方のきっかけになればと考えています。

講義の内容・
授業スケジュール

- a. 先祖崇拝 今日日本仏教における寺院の主たる活動が、葬儀と追善供養からなっている。追善供養は、祖先祭祀という民俗的背景のもとに成り立っていることから、先祖崇拝の考察は重要なテーマであると考えられる。
 - b. 葬送儀礼 葬式は、多くの日本人にとって最も「仏教的」なことを感じさせる出来事である。しかし、そこで何が行われているかは、多くの場合は、一般の人に知らされていないし、また意味も解らないで葬儀を行っている僧侶も多いと思われる。本講義では、民俗的事例をあげながら、葬式の歴史と構成とを明らかにし、そこにどのような意味があるのかを考える。
 - c. 日本の民俗 日本でみられる多くの民俗的事例を紹介・解説する。日本のシャーマニズムや、各地の祭、都市伝説・噂・怪談などにも触れる予定である。また授業内容に応じてタイムリーな話題もとりあげたい。
- 以上の三点を本講義の基軸とし、主要な概念や理論について解説をしていきたいと思ひます。

履修上の留意点

できるだけ遅刻はしないでください。私語は慎んでください。携帯電話・PHS等は授業中には着信音がならないようにするか電源を切ってください。

成績評価の方法

夏期レポートと学期末の定期試験を中心に、出欠状況とあわせて総合的に評価します。

教 科 書

教科書は用いません。要点をまとめたプリントを配布します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 民 俗 学	谷 口 貢	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

日本民俗学は世代をこえて伝承されてきた習俗・慣習の考察を通して、日本社会に展開する生活文化を究明する学問である。民俗はよく「民族」と混同されるので注意を要する。本講義は、民俗学をはじめて学ぶ人のための入門編として、基礎的知識をしっかりと把握できるようにしたい。また近年、国際的視野をもった人材の育成が叫ばれているが、真の国際理解の前提には、自国の伝統文化に対する一定の素養をもつことが益々大切になってきている。講義では、こうした点にも配慮していく予定である。

講義の内容・
授業スケジュール

本年度は「日本人の一生」をめぐる民俗文化に焦点をあてながら、生活文化において何が変化し、何が持続しているのかを検証し、われわれの現在の生活のありようを再考していくことにしたい。年間の講義予定は以下に掲げるとおりで、各々2回程に分けて行う。

- 第1講 家族と社会
- 第2講 産育儀礼－出産と子育て－
- 第3講 子どもと遊び
- 第4講 若者の民俗文化
- 第5講 成人儀礼
- 第6講 婚姻儀礼
- 第7講 女性の民俗文化
- 第8講 交際と贈答
- 第9講 老人の民俗文化
- 第10講 日本人の靈魂観
- 第11講 葬送儀礼
- 第12講 墓と先祖祭祀

成績評価の方法

夏休みの課題としてレポートの提出を求める。したがって受講者の成績評価は、夏期レポートと学年末の筆記試験の合計をもって行うものとする。

教 科 書

使用しない。

参 考 書 等

谷口貢・他編『現代民俗学入門』（吉川弘文館）
新谷尚紀編『民俗学がわかる事典』（日本実業出版社）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
美 術 史 概 説	矢 野 陽 子	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

フランス絵画史。西欧の中心に位置するフランスは、交通の要衝であり、商業活動の経由地であり、巡礼の道も通っていた。国際的に開かれているという状況から、フランスは周囲の国々からさまざまな要素を受け入れながら固有の文化を生み出していった。この授業では、17世紀から19世紀にいたるフランス絵画の歴史をたどり、その特色を考える。

講義の内容・
授業スケジュール

絶対王政が確立する17世紀から始め、18世紀末フランス革命を経て、新しい芸術運動が次々に起こった19世紀まで、時代を追って主要な流れを見ていく。前期は17・18世紀を、後期はフランス革命以後を扱う予定である。

成績評価の方法

前期のレポート提出と後期の筆記試験、出席等を合わせて評価する予定。

参 考 書 等

高階秀爾著『フランス絵画史』（講談社学術文庫）

そ の 他

授業ではスライドを使用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
現 代 美 術	矢 野 陽 子	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

現代美術、すなわち20世紀の美術においてはかつてないほど大胆で革新的な活動が展開されてきた。この授業では、現代美術の多様な動向について、主要な芸術家と作品を紹介しながら、それらのもつ意味や周囲に与えた影響などを考察していく。美術は同時代の社会と共に存在するものであり、したがって美術は戦争、機械文明の著しい発展、マスメディアの発達、大量消費型の生活といった現代社会と深く関わっている。現代美術を知ることは、今日の社会を考えるのに大きな示唆を考えてくれるのである。

講義の内容・授業スケジュール

授業は、20世紀美術のバックグラウンドである19世紀後半の美術から始めていく。前期は20世紀初頭の二大運動であるフォーヴィスムとキュビスムを中心に、後期はシュルレアリスムやポップアートなどを取り上げる。

履修上の留意点

美術館や展覧会に行ったり、画集、テレビなどを通して、現代美術に積極的に触れてほしい。

成績評価の方法

前期のレポートと後期の定期試験、出席等を総合して評価する予定。

参 考 書 等

美術出版社編『現代美術入門』（美術出版社） 2,000円

そ の 他

授業ではスライドを使用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
地 形 学	小 池 一 之	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

地形学は、地表の形態とその形成過程を研究する学問で、山がちで変化に富む日本列島には種々の地形が分布している。このため、日本列島は地形研究の上では、世界的にみても好都合な場所である。世界の最先端の研究が多く排出している。まず、地形学の基礎的な概念から説明し、時に最先端の研究成果や地形変化事変（各種の災害など）にも言及する。

講義の内容・授業スケジュール

年間の授業スケジュールの概要は次の通りである。
 地形学の成り立ち、地表を変化させる種々の営力と地形の分類、
 地表水の働きと地表の変化（マスウェスティング、種々の河成地形、組織地形）
 海水の働きと地形、地球内部の力によって形成される地形（火山地形など）
 地形発達

履修上の留意点

地理学の中ではかなり理学的（地球科学の1分野でもある）な色彩の強い学問分野である。高校時代に地学を履修していることが望ましい。

成績評価の方法

基本的には、学年末試験の成績で評価する。出席など平常点はあまり加味しない。

教 科 書

小池一之・坂上寛一ほか著 新版地学教育講座⑨『地表環境の地学－地形と土壌』（東海大学出版会）2,575円

参 考 書 等

貝塚爽平・小池一之ほか編『写真と図でみる地形学』（東京大学出版会）4,532円
 小池一之ほか訳『一般地質学Ⅱ』（東京大学出版会）3,708円

そ の 他

授業は講義形式で最新の情報を知らせるプリント類を多く配布するとともにスライド、ビデオなどを使用する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
第 四 紀 学	すずき たけひこ 鈴 木 毅 彦	学芸員3・4選	4

講義のねらい

第四紀は最近200万年間のことをさす。この地質時代は人類、動植物、気候、地形など多くの事象が現在みられる姿を成立させた時代でもある。このような最近の地質時代を理解することは人類の動向も含めた地球の将来を予測することにもつながる。

本講義のねらいはこのような問題意識のもとに、第四紀の概要を理解することである。とくに全地球的な規模での歴史と日本列島特有な第四紀の諸現象についての理解を深めることに目的をおく。

講義の内容・授業スケジュール

講義前半では第四紀の基礎的概念を全般的に解説してゆく。主なテーマは第四紀の定義、氷河作用、地形・地質層序、火山灰編年、人類、動植物、年代測定などである。後半では日本列島の第四紀の主要な課題である、火山灰編年と第四紀地殻変動に焦点をあて、火山の地形と噴火、人類、海成段丘、活断層、山地形成史などのテーマをとりあげる。

履修上の留意点

受講の際に高校の社会科で使用される地図帳を持参されたい。

成績評価の方法

おもには前期末と後期末の筆記試験

教科書

特に指定しないが、参考書として、日本第四紀学会編『百年・千年・万年後の日本の自然と人類』（古今書院）2,233円をあげる。それ以外の参考書は講義中に紹介する。

そ の 他

講義では、ビデオ、OHP、スライドを使用する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
考古学概説 I (日本)	さか い きよ じ 酒 井 清 治	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

日本考古学の現状は、細分化された研究が増加している。しかし、細分化された研究を理解する上にも、自ら卒論テーマとして研究する上にも、考古学の基礎なくしては成り立たない。

講義の内容・授業スケジュール

考古学の研究史、方法論、最新の発掘調査事例を紹介しながら、日本考古学の概説をしたい。

履修上の留意点

遅刻をしないこと。

成績評価の方法

定期試験で採点。

参考書等

鈴木公雄『考古学入門』（東大出版会）
安藤政雄『考古学キーワード』（有斐閣）
江上波夫『考古学ゼミナール』（山川出版社）

そ の 他

OHP 等を使用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
考 古 学 概 説 Ⅱ (外 国)	飯 島 武 次 <small>い い し ま たけ つぐ</small>	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

東洋考古学概説の講義を行う。地域的には中国を中心に話をし、中国考古学研究の現状を理解してもらう。

講義の内容・
授業スケジュール

時代的には、旧石器時代から開始して、新石器時代・殷周時代・秦漢時代・南北朝時代を経て、隋唐時代までの講義を完了することを目標に授業をすすめていく。

履修上の留意点

欠席・遅刻をしないこと。

成績評価の方法

成績評価は学年末の試験で行うが、授業内容および試験の内容は、考古学専攻者としては一般的な常識であるのでよく勉強して臨むこと。

参 考 書 等

飯島武次『夏殷文化の考古学研究』(山川出版社)1985年
飯島武次『中国新石器文化研究』(山川出版社)1991年
飯島武次『中国周文化考古学研究』(同成社)1998年

そ の 他

スライドやビデオを多用する予定である。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 文 化 史 I	廣 瀬 良 弘 <small>ひろ せ りょう こう</small>	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

日本の文化の歴史が、社会の生産や生産組織の問題と深くかかわっていたことに留意し、朝廷・公家・武家ばかりでなく、民衆も文化の創造にかかわっていったことを明らかにする。

講義の内容・
授業スケジュール

日本文化の流れを概観し、平安期から江戸期にかけての文化について講述する。つぎのような順序で授業を進めていく。

- ① 日本文化史概観
- ② 平安期の文化と中世文化、中世文化の成立
- ③ 中世文化史研究の動向
- ④ 中世文化の展開
- ⑤ 室町文化(北山・東山文化)
- ⑥ 禅宗と文化
- ⑦ 京都と大名領国の文化
- ⑧ 下剋上の世と文化
- ⑨ 桃山文化
- ⑩ 宣教師たちがみた日本の文化と南蛮文化
- ⑪ 近世文化史研究の動向
- ⑫ 寛永文化
- ⑬ 元禄文化と化政文化

履修上の留意点

日頃、身のまわりにある道具や私たちの“しぐさ”にも歴史・文化がみえかくれするものである。物・道具にも文化・歴史を感じとれる感覚を養ってほしい。また、受講中は、図書館に文化史・美術史などの資料やビデオが所蔵されているので大いに活用してほしい。

成績評価の方法

定期試験の結果、出席状況など。

教 科 書

特に指定しない。必要な資料は随時コピーを配布する。

参 考 書 等

授業中に随時示していく。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
西洋文化史Ⅱ	佐々木 真	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

ヴェルサイユ宮殿についての歴史的解説を中心に、権力と宮廷の関係について検討を加える。ヴェルサイユについて語る場合、その大きさと豪華さが強調される傾向が強い。しかし、ヴェルサイユは、室内装飾や庭園の構成、宮廷での儀礼を通じて、非常に計算された形で国王イメージのプロパガンダを行ったという点で、従来の宮廷とは質的にも大きく変化していた。この講義では、王権の表象物としてヴェルサイユがどのように機能していたのかを、建造物とそこで繰り広げられた儀式を通じて検討し、絶対王政期の権力のあり方について考察する。

講義の内容・授業スケジュール

講義のサブテーマとしては、以下のものを考えている。

1. ヴェルサイユ前史
2. ルイ14世と宮殿の建設
3. 室内装飾
4. 庭園
5. 宮廷儀礼
6. 国王権力と宮殿

履修上の留意点

授業中に紹介する参考文献をなるべく多く読み、広い知識を身につけてほしい。

成績評価の方法

成績は学年末に行う筆記試験の成績に、不定期に調査する出席点を加えて判定する。

教科書

教科書は特に指定しない。

参考書等

参考文献は必要に応じて講義中に紹介する。

その他

授業は講義形式で行う。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
考古学特講Ⅱ	田村 晃一	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

朝鮮半島はその地理的位置のゆえに日本と深い関係をもっている。それにもかかわらず朝鮮半島の文化について、多くの日本人は無関心ないし無知であるように思われる。それは明治時代以来、日本政府のとってきた政策のせいでもあるが、同時にまたわれわれの取り組み方の問題でもあるようである。

ここでは、日本と朝鮮の関係を視野にいれつつ、主として先史時代から三国時代ころまでを対象に、朝鮮半島での考古学的事象について講義し、朝鮮半島の文化の実態を究明することとした。ただし、通史的ではなく、トピック的になるであろう。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
考 古 学 特 講 Ⅲ	さか い きよ じ 酒 井 清 治	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

考古学における古墳時代は、古墳の築造に特色をもつように古墳の変遷はその時代を知る重要な要素である。また、古墳からの出土遺物も古墳時代を知るためにも重要である。このような古墳の変遷、地域色、あるいは出土遺物から、列島における中央・地方の関係、あるいは各地の首長層の動静を知ることが可能である。

この講義では、古墳時代を知るために、古墳あるいは出土遺物から古墳時代史を探ってみたい。

講義の内容・
授業スケジュール

古墳時代の論文を受講者とともに読み解く。

履修上の留意点

遅刻はしないように。

成績評価の方法

平常点とレポートによる。

教 科 書

白石太郎編『古代を考える 古墳』（吉川弘文館）

参 考 書 等

授業の中で紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
考 古 学 特 講 IV	矢 野 和 之 ^{や の かず ゆき}	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

近年、遺跡の保存と活用の必要性が叫ばれている。考古学・歴史学専攻の学生は、将来地方自治体の教育委員会に籍をおき、文化財保護行政に携わるケースが多いと思われる。
このため、単に遺跡の発掘調査のみならず遺跡整備や遺跡博物館の計画を担当するものと考えられるので、文化財の保存計画の基本となる理念、計画プロセス、保存技術等を理解しておく必要がある。

講義の内容・
授業スケジュール

- ・文化財の保存と活用の理念
 - ・日本建築史（古代）概要
 - ・遺構とその上部構造隊の復元
 - ・保存計画概論
 - ・保存科学、保存工学概論
 - ・まちづくりと文化財
 - ・計画策定の実務
 - ・国内の事例
 - ・海外の事例・文化財保存の国際機関
- 以上を一部演習を混ぜえながら講義する。

履修上の留意点

特にないが、人文系の知識だけでなく、理科系の知識も必要となる。

成績評価の方法

試験、演習提出物。

教 科 書

なし。

参 考 書 等

適宜指示。

そ の 他

講義は、スライド、OHP、ビデオ（保存工事の記録等）を使用する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
西 域 美 術 史	まつ だいら み お こ 松 平 美 和 子	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

西域、いわゆるシルクロードは装飾文様の宝庫である。欧米の美術の中では概して二次的な位置が与えられてきた装飾文様は、西域では美術の中心的な位置を占めてきた。本講義ではパミール高原東側の東トルキスタンからイランまでを広義の西域と考え、この地域の古代美術品、特にその装飾文様の中に東西文化交流の様を探りたい。

講義の内容・授業スケジュール

- ①シルクロードの主要な遺跡とその美術。
イラン周辺の遺跡、クシャーン朝の遺跡、タクラマカン砂漠周辺のオアシス都市近郊の遺跡、さらに最近注目を集める旧ソ連領の各遺跡などを概説する。
- ②シルクロードの装飾文様とその東西交流。
各遺跡の出土品にみられる装飾文様をとり上げ、その様式を分析し、地域や時代によりどのように変化しながら伝播していったかを考察する。装飾文様としては「パルメット文」、「聖樹文」、「葡萄唐草文」などの植物文、「花喰鳥文」、「動物闘争文」などの動物文、さらに「飛天文」、「グリロス」、「アラバスク」などをとり上げていく。

成績評価の方法

夏季休暇後と学年末の二回のレポートで評価する。

教科書

講義時にプリントを配布する。

参考書等

講義時に適宜紹介する。

その他

具体的な作品を対象とするので、毎時間スライドを使用し、必要に応じてビデオも用いる。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
宗 教 人 類 学	さ とう けん しょう 佐 藤 憲 昭	学芸員2・3・4選	4

講義のねらい

文化人類学の視点と方法から諸民族の宗教文化を比較研究する学問が宗教人類学である。そしてその営為を通して「人間とは何か」という問題にひとつの解答を与えようとするものである。本年度は、人類に根元的・普遍的な宗教文化のひとつに数えられている憑霊文化を取り上げる。日常語で「私はツイテイル」という場合のツキとは神霊・精霊が憑いていることを本来は意味しているが、日常の会話ではツキの正体を不問にしている。神霊・精霊が憑いている現象は憑霊現象と呼ばれるが、その内容はすこぶる多岐にわたっている。本講では宗教人類学の学問的特色について概観した後、日本及びアジアの諸地域で見られる憑霊文化を取り上げて、社会組織との関係を含むさまざまな角度から考察する。そして憑霊文化を通して人間理解の可能性を探ってみたい。

講義の内容・授業スケジュール

1. 文化人類学・宗教人類学・宗教民族学、2. 宗教人類学と宗教民俗学、3. フィールドワーク、4. 民俗宗教の特質、5. アニマ（霊）とマナ（力）、6. 憑きもの研究・憑霊研究・シャーマニズム研究、7. 憑霊現象と社会組織、8. 民俗仏教に見られる憑霊現象、9. 憑霊文化と王権、10. 憑霊文化から見た人間理解の可能性。

履修上の留意点

欠席をする場合（または欠席をした場合）には、欠席届（形式は任意）を提出することが望ましい。

成績評価の方法

講義内容を踏まえたレポート試験の予定。

教科書

佐々木宏幹『聖と呪力の人類学』（講談社学術文庫）

参考書等

授業中に適宜紹介する。

V 社会福祉主事 講座
社会福祉士基礎

(1) 必修科目

科目名	担当者名	配当学科	単位
社会福祉原論	伊藤秀一	社福主事2必	4

講義のねらい

社会福祉は、かつて、慈善事業、感化救済事業などと呼ばれていたものが、時代とともに拡大し、組織的に発展して、今日では、社会を組み立てていくための不可欠の仕組み、すなわち「社会制度」のひとつになったものである。そして、その制度の内容は、今日の時代なりの貧困をかかえながら、人間性を回復するために他からの援助を必要とする人に対し、対人関係を媒介として、有形無形のサービスを提供することである。

本講では、社会福祉がこのように変化してきた跡をたどり、なぜ、今日社会福祉が現代社会の生活環境基盤として確立されねばならないのかについてのあらましを述べることに重点をおく。また、この講義は、1年次の必修科目であるため、他の1年次配当の科目との関連を考慮しつつ、社会福祉についての基礎知識を整理するとともに、社会福祉の今日的な動向と課題についての理解を深めることを主なねらいとする。

講義の内容・授業スケジュール

- 1 現代社会における社会福祉の意義
 - 1) 社会福祉の意味
 - 2) 社会福祉と関連する諸概念
 - 3) 社会福祉の対象と主体
 - 4) 社会福祉の補充性
- 2 社会福祉の歴史的発展
 - 1) 欧米における社会福祉の発展
 - 2) わが国における社会福祉の発展
- 3 社会福祉の組織と運営
 - 1) 社会福祉法制
 - 2) 社会福祉法制の体系
 - 3) 社会福祉事業の経営主体
 - 4) 福祉の措置
 - 5) 社会福祉の経費
- 4 社会福祉の分野
 - 1) 公的扶助（生活保護）
 - 2) 児童福祉
 - 3) 老人福祉
 - 4) 障害者福祉
- 5 社会福祉の方法
 - 1) ケースワーク
 - 2) グループワーク
 - 3) コミュニティワーク
- 6 社会福祉における人の問題
 - 1) 人の問題の重要性
 - 2) 社会福祉従事者の動向
 - 3) 職種の問題
 - 4) 社会福祉職員の専門職論
 - 5) ボランティアの問題
- 7 社会保障と社会福祉
 - 1) 社会政策と社会事業
 - 2) 社会保障と社会福祉

成績評価の方法

評価は、前期末と年度末の2回の試験の総合評価とする。

教科書

仲村優一著『社会福祉概論』（誠信書房）

参考書等

講義の内容を上記のテキストのみでは十分にカバーすることができないので、講義の進行にあわせて必要な参考文献を紹介する。なお、本講の内容は極めて広い範囲にわたるので、この参考文献にもとづいて各自学習を深めることを求めたい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
社 会 福 祉 原 論	ふな 船 水 ひろ 浩 行	社福主事2必	4

講義のねらい

「社会福祉」という言葉は、現代社会ではとてもポピュラーな言葉となっている。新聞、テレビ等においても、しばしば目にし、また耳にする。選挙があれば、国政・地方、首長・議員いずれのレベルでも多くの候補者がその充実を公約に掲げる。

しかしながら、そのイメージだけが先行し、改めて「社会福祉とは何なのであろうか」とか、「社会福祉の援助や活動とはどのようなものなのであろうか」とか、「社会福祉の基盤となっている考え方はどのようなものなのであろうか」とか、「現代社会において何が求められているのであろうか」といったことを問われた時、多くの人々はなかなか上手く答えることができないのが現実と思われる。

一方、わが国の社会福祉は、現在、「社会保障構造改革」「社会福祉基礎構造改革」「介護保険の創設」等のキーワードに代表されるように、大きな転換期を迎えている。

本講の主題は、上記にあげたような社会福祉を学んでいくにあたってのベースとなる諸点を学習し、わが国における社会福祉のあり方を考察していくことにある。

講義の内容・
授業スケジュール

以下の諸点を柱として授業を展開する。

- 現代社会における私たちの生活と社会福祉
 - ・社会福祉をどうとらえるか、私たちの生活と社会福祉の課題など
- 社会福祉のしくみ
 - ・社会福祉の制度体系、財政など
- 社会福祉とその理論の史的展開過程
 - ・欧米における社会福祉の展開、わが国における社会福祉の展開など
- 社会福祉の分野
 - ・生活保護、高齢者福祉、児童福祉、障害者福祉など
- 社会福祉の実践方法
 - ・社会福祉実践の専門性、基本原則など

成績評価の方法

各学期末の試験、課題レポート、出席状況、等の総合評価により実施します。詳細は、授業時に提示します。

教 科 書

浅井春夫、佐野英司編著『現代の社会福祉入門』（保育出版社）
※テキストを中心に授業を展開しますので、必ず購入してください。

参 考 書 等

随時、紹介します。

(2) 選択科目

科目名	担当者名	配当学科	単 位
法 学 (福 祉)	こ ばやし ひろ ひと 小 林 弘 人	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

社会福祉法制として理解されている各種の法令の意義・内容を理解することを目標とする。具体的には、社会福祉の組織、活動、財政、争訟に関する法令の解説をなるべく平易に説明をする。

講義の内容・ 授業スケジュール

[目標]

- 1 社会生活における法の作用や役割について理解させる。
- 2 憲法、民法および行政法の基礎を理解させる。

[内容]

- 1 社会生活と法
- 2 憲法
 - 1) 基本原理
 - 2) 基本的人権
 - 3) 地方自治
- 3 民法
 - 1) 総則
 - 2) 物権
 - 3) 契約
 - 4) 不法行為
 - 5) 親族
 - 6) 相続
- 4 行政法
 - 1) 行政行為
 - 2) 行政不服審査
 - 3) 行政訴訟
 - 4) 行政手続き
 - 5) 地方行政組織

成績評価の方法

出席状況と年三回位のレポートの提出および定期試験を勘案し、総合評価する。

教 科 書

小林弘人『高齢化社会における社会福祉の法』（創成社）

参 考 書 等

授業時間中に指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会福祉発達史	はやし 林 千代	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

いつの時代にも、人々の生活不安は自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には、常に多くの問題が生じ人々は生活困難におちいった。社会事業は資本主義社会の成立とともに生成した。主に、英国、日本を中心に（部分的に米国にもふれる）社会福祉へ至る歩みを講述する。対象の存在と問題解決の方法、方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思想、その関連等が内容となる。一定の歴史的産物である社会福祉、その本質は何か、その現状は等々を考えるためにこそ、歴史を学ぶ意義がある。

成績評価の方法

後期にレポートを提出してもらい、それによって行なう。

教科書・参考書等

今岡 他編『社会福祉事業発達史』（ミネルヴァ書房）

科目名	担当者名	配当学科	単 位
リハビリテーション論	なる 生 川 善 雄	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

リハビリテーションとは、障害のある人が人間らしく生きる権利の回復、すなわち『全人的復権』である、といえよう。

本講義においては、リハビリテーションの理念について学び、医学・教育・職業・社会の4領域のリハビリテーションについての概略を知る。そして、社会リハビリテーションの基本問題を学習する。これらの学習を進める中で、障害のある人が人間らしく生きる権利をどのように回復してゆくべきかについて考えてゆきたい。

講義の内容・授業スケジュール

まず、リハビリテーションの理念に触れる。次いで、障害の意味、障害の受容について取り上げる。さらに、医学、教育、職業、社会の4領域のリハビリテーションについての概説を行ない、それら4領域の関連性についても言及する。これら4領域のリハビリテーションのうちでも、社会リハビリテーションは、障害者福祉との関連も深いといえるので、本講義においても主としてこれに多くの時間をあてる予定である。

社会リハビリテーションは、医学リハビリテーションや職業リハビリテーションに比べて、その考え方や技術の枠組みはいまひとつ確立されていないといえよう。そこで、社会リハビリテーションについては、諸々の社会リハビリテーションに関する研究を取り上げながら、検討していきたい。すなわち、障害者の社会活動への参加、障害者のQOLとADL、障害者をめぐる環境、障害者と家族、障害者の自立ならびに自立援助、地域に根ざしたリハビリテーション、施設リハビリテーション、社会リハビリテーションの種々の方法などをとりあげながら、社会リハビリテーションの基本問題を論じていきたい。

履修上の留意点

履修者は、リハビリテーションの意味、すなわち「人間らしく生きる権利の回復」という語句の意味を考えながら、学習を深めてほしい。

成績評価の方法

授業中の小課題に対する回答と、レポートにより評価する。

教科書

特に指定しない。

参考書等

- ・小島蓉子・奥野英子編著『新・社会リハビリテーション』（誠信書房）1994
- ・上田 敏『リハビリテーションを考える』（青木書店）1983
- ・新社会福祉学習双書編集委員会編『リハビリテーション論』（全国社会福祉協議会）2000

その他

講義形式で進める。何回かビデオを使用する予定である。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会保険論	ふな 船 水 浩 行 みず ひろ ゆき	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

現代社会における私たちの生活は、多くの場合、働いて収入を得ることによって成り立っている。これにより、食べるもの、着るもの、住むところなどを手に入れる。しかし、働く力を失った人、働く機会に恵まれない人など、所得を得ることができない人々はどうするのであろうか。また、人々の生活そのものを荒廃させかねない、病気やケガになったらどうするのであろうか。

社会保障は、このような所得の欠乏、疾病への対応として、所得と医療の保障を主たる目的に形成されてきた。そして、現代社会においては、各国それぞれの文化、社会・経済の状況等の諸要因により、構造、形態、財源等に相違は見られるものの、人々の生活の維持、向上のために必要不可欠の政策であり、制度となっている。

本講義では、この社会保障がどのような考え方に基づいて形成されてきたものであるのかを踏まえた上で、①現代社会における社会保障の役割と意義はどのような点にあるか、②「社会保障構造改革」という言葉に代表されるように、転換期を迎えているわが国の社会保障制度の課題はどのようなものであるのか、を中心に考察していく。

講義の内容・授業スケジュール

- ※ 以下の諸点を主要な内容とする。
- 1 現代社会と社会保障
 - 2 社会保障制度の体系
 - 3 年金保険
 - 4 医療保険
 - 5 介護保険
 - 6 労働保険（労災保険、雇用保険）
 - 7 民間保険
 - 8 社会保障の運営管理
 - 9 「社会保障構造改革」と今後の社会保障制度

成績評価の方法

学年末毎の試験、レポート課題、出席状況等を勘案し、総合評価します。

教科書

福祉士養成講座編集委員会編集『改訂社会福祉士養成講座5 社会保障論』（中央法規）

参考書等

総理府社会保障制度審議会事務局編『社会保障統計年報』（法研）
厚生省大臣官房政策課監修『社会保障入門』（中央法規）

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会福祉計画論	かわ 川 廷 宗 之 <small>か わ てい もと ゆき</small>	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

- ①. この科目では『社会福祉』と『社会計画』の二つの問題を扱う。
- ②. 社会福祉計画論は、本来は社会福祉援助技術の内容の一つを構成する専門的領域であるが、この授業では、専門に直接ふれるのではなく、その前提としての社会福祉の基本的な問題を含めて解説する。
- ③. 社会福祉計画を必要とする現代日本の社会福祉問題について、その内容の理解を図る。
- ④. 問題対応的なサービス提供から予防福祉的な側面が強調され、その結果、計画化が促進される現代の状況について理解を図る。
- ⑤. 『社会福祉計画』は、市民個々人の『福祉 (Well Being)』の保障を目指すのであるから、個々人の『福祉計画』を前提とした統合としての『社会福祉計画』として、総合的な理解を深める。

講義の内容・授業スケジュール

- ①. 前期は、『社会福祉計画』の前提となる『日本の社会福祉』が扱おうとしている様々な福祉課題について学ぶ。
- ②. 後期は、福祉問題の解決を目指す『社会福祉計画』の詳細について学ぶ。

履修上の留意点

- ①. この講義では、開講第1回目に全体のスケジュール等を説明するので、第1回には必ず出席していただきたい。
- ②. 講義を中心として進めるが、時に授業中に討論を行うこともあるので、積極的な主体的な参加を期待します。
- ③. 学習者である皆さんの主体的な学習態度を尊重すべく、質問重視の授業を進めるので、関連事項について積極的な質問を期待します。

成績評価の方法

- ①. 前期末、後期末のレポートの成績を中心に、主体的な出席への評価を含めて成績評価を行う
- ②. 前期末のレポート課題は、前期の講義に含まれる社会福祉計画が対応することになる「日本の福祉問題」を自分自身の生活課題に引きつけて論じる課題が出題される。
- ③. 後期のレポート課題は、社会福祉計画論の理論的課題について、テキストの課題の中から各自自由に選択して、まとめる課題が出題される。
- ④. 前期レポートと後期レポートは、それぞれ40%と50%の比率で成績評価に反映される。残り10%は、出席状況等を勘案する。

教科書

- ①. 定藤丈弘・坂田周一・小林良二 編集『社会福祉計画』（有斐閣）定価2200円

参考書等

- ①高田真治『社会福祉計画論』（誠信書房）1979年
- ②R. パールマン A. グリン 著 岡村重夫 監訳 『コミュニティ・オーガニゼーションと社会計画』（全国社会福祉協議会）1980年
- ③全社協編『地域福祉計画——理論と方法——』（全国社会福祉協議会）1984年

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
国 際 社 会 福 祉 論	やまもとまみ 山 本 真 実	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

国際社会における福祉、社会福祉における国際化、「国際社会福祉」を捉える視点に定義はない。日本以外の国の生活を通して、社会福祉とは何かを考えること、また国際社会において発生する軋轢や衝突、問題等に対応し解決していくものとして社会福祉をどのように考えるかを考察していくことを目的とする。また、社会福祉を実践サービスとして捉えるよりも、それを支える理念や目的などの概念・考え方を中心にしながら学習していく。「福祉」の意味を諸外国の実態や関係を通して学習する。

講義の内容・
授業スケジュール

国際社会において発生する貧困、戦争、児童労働、異文化への理解等テーマごとにどのような取り組みがあるか、国際機関の役割機能の理解、またそれら問題に対する国ごとの扱いの違いを学習し、生活を支える社会福祉制度の在り方について考察する。また、その具体的な事例として、福祉先進国と言われる北欧の社会福祉制度・サービス、ベトナムやフィリピン等の途上国の社会福祉制度、生活等各国の実情を学習し、それらとの比較を通して日本の社会福祉制度を振り返り、見直す。

成績評価の方法

出席状況、レポート、試験の総合評価により評価する。
適宜意見・感想を記入するカードを配布。積極的な討議、意見発表を高く評価する

教 科 書

特になし

参 考 書 等

適宜授業中に紹介

そ の 他

ビデオ使用

科目名	担当者名	配当学科	単 位
保健福祉論	なが お じょう じ 長 尾 譲 治	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

保健福祉学とは、保健学・福祉学、及び関連諸科学を統合し、これまでのように為政者の都合によるサービス提供に代わって、利用者の立場に立ったサービスのあり方を考える新しい社会福祉の分野である。本講義では、保健福祉学の視座に基づいて、従来の社会福祉諸サービスを再構成し、これからの生活関連諸サービスの動向と課題について考えていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

- 1 保健福祉とは
保健福祉の歴史／保健福祉学の視座
- 2 日本のヘルスケア制度の体系
健康保険／国民健康保険／老人保健／福祉医療／クライアントの人権とこれからのヘルスケア
- 3 ライフサイクルと保健福祉
児童／成人／老人／ターミナル・ケア／女性と保健福祉
- 4 傷病別に見た保健福祉
身体障害／知的障害／精神障害／難病・結核／ハンセン病／AIDS
- 5 リハビリテーションと保健福祉
リハビリテーションの理念と実際／福祉機器・用具サービス
- 6 保健福祉の国際的動向
先進諸国／開発途上国／日本
- 7 保健福祉の課題
保健福祉計画／規制と情報公開／バイオエシックスとインフォームド・コンセント

成績評価の方法

年度末試験に出席点を加味して評価する。

参考書等

追って紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
公的扶助論	い どう しゅう いち 伊 藤 秀 一	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

本講の中心的なテーマは、わが国の生活保護制度をどのように位置づけ、どのように方向づけるかである。

講義内容としては、上述した問題意識のもとに、以下の項目について講じていく予定である。併せてイギリスの福祉権運動（Welfare rights work）の動向等にも触れる。

講義の内容・授業スケジュール

1. 現代社会と公的扶助
2. 低所得問題対策の概要
3. 生活保護制度のしくみ
4. 生活保護の最近の動向
5. 生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方

成績評価の方法

出席状況、小テスト、学年末定期試験を総合して評価する。

教科書

なお、テキスト等については開講時に指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
障 害 者 福 祉 論	きり 桐 ほら 原 ひろ 宏 ゆき 行	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

障害者福祉は、障害者が一人の人間として生活していく過程のなかで、その固有の問題をとらえ、それを権利の視点にたって把握していくが必要になる。

本講では、障害者援助を担うための専門職に必要な基礎的事項の学習が中心となる。具体的には、現代社会における障害の概念、障害者福祉の理念などの基礎となる考え方についての理解の促進、現行の障害者施策や障害者の相談援助活動の原則等についての知識の獲得などを旨とする。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 障害者福祉の理念
2. 障害の概念と実態
3. 障害者福祉の施策
4. 障害者福祉と社会資源
5. 障害者に対する援助活動

前期に1.～3.、後期に4.～5.について扱う。

成績評価の方法

筆記試験及びレポート、授業への出席の状況などの総合評価による。

教 科 書

福祉土養成講座編集委員会編『障害者福祉論』（中央法規）

参 考 書 等

講義中随時指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
老 人 福 祉 論	とう じょう みつ まさ 東 條 光 雅	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

老人虐待の多発、家族介護の深刻化、社会保険料の負担増、高齢年金の減額、介護保険の導入決定等、老年期や高齢者に関する事柄が、近年富にマスメディアを賑わしている。こうした事柄が騒がれる背景は、世界一の「人生80年」という長寿化の進行と急激な少子化による日本社会の高齢化である。

わが国の高齢化の度合いはいよいよ欧米社会のそれに匹敵するまでとなり、近未来の21世紀には人類未曾有の高齢社会を迎えようとしている。その21世紀に高齢者となるのは、現在“青・壮年期”にある人々である。これから一層高度化してゆく高齢社会、深刻化してゆく高齢者問題にどのように準備し対応してゆくかは、日本社会にとって大変重要な問題である。

本講義では、社会的対応策としての老人福祉の制度・政策についてのみでなく、対象者理解の観点から高齢者や老年期の特性をも含み、幅広く講じてゆきたい。

講義の内容・ 授業スケジュール

- 前期 ⇒
- ・人口高齢化の意味
 - ・高齢者問題の背景
社会変動、家族変動
 - ・高齢者の生活問題
 - ・老化と老年期の身体疾患、身体障害、精神障害
 - ・高齢者の保健福祉ニーズ
ニーズ把握の方法、保健福祉ニーズの種類
- 後期 ⇒
- ・老人保健福祉法制と関連施策
近年の制度及び政策の動向、老人保健法、老人福祉法、
介護保険法、関連施策
 - ・老人保健福祉の供給システムと財源
供給システムとは、供給システムの仕組み（含む、シルバーサービス）、
財源、マンパワー
 - ・在宅サービスの制度と処遇
在宅サービスの制度的枠組み、在宅サービスの歴史・理念・目標、
在宅サービスの種類、在宅サービスにおける援助事例
 - ・施設サービスの制度と処遇
入所（入院）施設の種類の概要、社会福祉分野の入所施設、
保健・医療分野の入所（入院）施設、施設における処遇、
施設サービスにおける援助事例
 - ・地域及び住環境の整備と福祉機器

履修上の留意点

この授業は講義形式で進めてゆくが、毎回受講生を指名して質問に回答してもらったり、意見発表をしてもらう。内職や居眠りは出来ないのもので、そのつもりで履修すること。

成績評価の方法

出席点、夏季休暇中のレポート、年度末の定期試験の3つを総合して評価する。しかし、評価は原則的には年度末試験の得点によって行う。出席率が70%を切る（諸実習による公欠は出席扱いとする）場合は、試験そのものの受験を認めない。また、夏季休暇中のレポート点は、定期試験での得点がボーダーラインに位置する学生においてのみ考慮するものである。

教 科 書

東條光雅・冷水豊編『老人福祉論』（第2版）（メヂカルフレンド社）2,000円

参 考 書 等

適宜紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
児 童 福 祉 論	やまもとまみ実 山 本 真 実	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

子ども・子育てをめぐる社会環境をふまえ、児童福祉の理念、制度（基本枠組み）について基礎的な学習を行う。ビデオ教材等視聴覚教材も使用し、具体性をもたせつつ児童福祉サービスの現状を理解することをねらいとする。

はじめに子ども・子育てをめぐる社会環境について整理する。また、子どもや子育て、家庭をめぐる社会的な位置づけについて学習する。児童福祉が対象としてきた範囲、理念について整理する。そして、基本的な児童福祉政策・制度の枠組みについて理解し、その枠組みの中で、どのような問題があるのか、児童福祉制度改革等、今後の展望について考察を深める。

後半では、保育、養護、健全育成、相談体制など各論についての講義を行い、児童福祉の全体系を学習する。

講義の内容・ 授業スケジュール

以下の内容についてテキストに従い講義を行う。

- I. 児童と社会
 1. 児童と家庭・社会
 2. 児童福祉ニーズ
- II. 児童福祉の理念
 3. 児童福祉の理念と児童の権利
- III. 児童福祉の制度
 4. 児童福祉の法体系
 5. 児童福祉実施体制
 6. 児童福祉施策体系
 7. 子育て環境
 8. 児童福祉改革の動向
- IV. 各論
 1. 保育
 2. 社会的養護
 3. 権利擁護
 4. 健全育成
 5. 相談

履修上の留意点

社会福祉士資格の取得希望者だけでなく、履修者全員に対して児童福祉についての理解を深める意識を持つことを期待している。

成績評価の方法

学年末の試験のみによる評価。出席状況を加味することもある。

教 科 書

柏女霊峰『現代児童福祉論（第4版）』（誠信書房）2000

参 考 書 等

柏女霊峰・山縣文治編著『新しい子ども家庭福祉』（ミネルヴァ書房）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
女 性 福 祉 論	はやし 林 ちよ 代	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

歴史を省みるに、女性は社会構造の所産である性差別を根底に、社会的・経済的・精神的なしわよせを受けてきた。女性問題としての発生がそれである。女性が当面する生活の困難や矛盾に対して、社会福祉がかかわる部分はさわめて大きい。

女性を社会福祉の対象者（利用者）としてとり組んできたのは、婦人保護事業（売春防止法）である。それを基底に据えて、社会福祉の分野における女性問題の把握、その発生と解決について考え、女性のそして当然男性の人権の確立をめざす内容としたい。

成績評価の方法

成績評価は、後期にレポートを提出してもらいそれによって行なう。

教 科 書

教科書は特に無いが、資料等は必要に応じて配布する。ビデオなども使用する予定である。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
医 療 福 祉 論	はるみ 春 見 しず 子	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

保健・医療の領域における医療福祉職の実践について理解する。
医療ソーシャルワークがどのような学問を基礎とし、どこで、いかなる援助技術を用いてなされるかを学ぶ。

講義の内容・
授業スケジュール

前期は理論を中心とした講義、後期は実践現場での事例を通して援助技術を学ぶ

前期
社会福祉とソーシャルワーク
医療ソーシャルワークの歴史 英国、アメリカ、日本
専門職としての医療ソーシャルワーカー 倫理綱領と業務基準
医療について：健康と病気概念 キュアとケア
医療機関について
疾病分類と医学知識 リエゾン精神医学 心身症
援助手段としての社会資源
援助関係 面接の技術 援助過程

後期
外来段階のソーシャルワーク
入院段階のソーシャルワーク
精神保健の領域
医療ソーシャルワークの実際 機関別と対象別の実践

履修上の留意点

医療福祉に興味ある人とくに将来、その領域で働きたいと考えている人を歓迎します。

成績評価の方法

出席点と期末試験で評価します。

教 科 書

山川哲也著『臨床医療ソーシャルワーク』（誠信書房）2,500円

そ の 他

医療機関の見学と、現場の医療ソーシャルワーカーの特別講義を行う。

科目名	担当者名	配当学科	単位
地域福祉論	豊田 宗裕	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

- 地域福祉論で学習すべきポイントは、大きく分けて以下の3点である。
 本講義ではこれらについて、われわれがすすんでいる地域そのものの持つ特色を明らかにし、そこに生活する人々の福祉問題を把握し、解決の方法を探る手段や考え方について学ぶ。
- (1) 総論としての地域福祉の枠組みの理解(地域福祉とはどのようなものか。何故必要なのか)
 - ①地域福祉論の概念
 - ②地域福祉の歴史的展開
 - ③コミュニティの捉え方・考え方
 - ④現在の地域福祉施策の特徴
 - (2) 各論としての地域福祉の各種制度や援助方法の理解(地域福祉施策の内容と提供方法)
 - ①地域福祉サービスの種類とその提供方法
 - ②サービス提供組織やその仕組み
 - ③福祉ニーズの把握や組織化活動の展開方法
 - (3) 現在および将来的な地域福祉に関連した施策の動向と展望
 - ①地域福祉に関連した、経済的・社会的な動向と展望
 - ②計画づくりと福祉制度
 - ③これからの方向性

講義の内容・
授業スケジュール

回数	授業のテーマ	授業の内容
1	地域福祉と生活問題	地域福祉の考え方と現代の生活問題
2	地域福祉とコミュニティ/1	地域社会の変遷とコミュニティの変化
3	地域福祉とコミュニティ/2	コミュニティの形成とその考え方
4	地域福祉とコミュニティ/3	住民の社会参加の状況とコミュニティ
5	地域福祉理念の変遷	地域福祉理念の歴史の変遷
6	地域福祉の概念とその範囲	地域福祉の代表的な考え方とその類型
7	地域福祉のサービス体系/1	地域福祉サービス体系の考え方とその基本理念
8	地域福祉のサービス体系/2	在宅福祉サービスの体系とその内容
9	地域福祉のサービス体系/3	組織化活動の考え方とその内容
10	地域福祉のサービス体系/4	環境改善と社会資本整備
11	地域福祉の推進方法/1	地域援助技術(コミュニティワーク)の必要性
12	地域福祉の推進方法/2	ニーズの把握とコミュニティワーク
13	地域福祉の推進方法/3	海外のコミュニティワークについて
14	地域福祉の推進方法/4	社会福祉計画の策定と地域福祉計画
15	地域福祉の推進方法/5	地域福祉計画の内容とその種類
16	地域福祉の推進方法/6	福祉教育の考え方とその推進
17	地域福祉の財源/1	公的財源と共同募金の概略
18	地域福祉の財源/2	社会福祉基金等の概要
19	地域福祉の財源/3	民間財源の内容とその活用
20	地域福祉の財源/4	海外における地域福祉財源
21	地域福祉の推進組織/1	社会福祉協議会について
22	地域福祉の推進組織/2	行政、施設等の諸機関の動き
23	地域福祉の推進組織/3	非営利団体の活動とNPO法
24	地域福祉のマンパワー/1	現代のコミュニティワーカー(社会福祉協議会職員中心に)
25	地域福祉のマンパワー/2	ボランティア活動とその動き
26	地域福祉のマンパワー/3	地域における地域福祉のマンパワー(民生委員を中心に)
27	地域福祉の現状/1	コミュニティワークの現状
28	地域福祉の現状/2	介護保険と地域福祉(相談援助活動を中心に)
29	これからの地域福祉	現代の地域福祉を取り巻く状況と今後への課題
30	まとめ	これまでのまとめと国家試験に向けて

教職課程・資格講座

成績評価の方法

試験期間内の定期試験および授業時間中に課すレポートの提出(随時)の双方の状況により、判定する。

教科書

福祉士養成講座編集委員会編『地域福祉論』（中央法規出版）

その他

講義形式で行う

科目名	担当者名	配当学科	単 位
社会学（福祉）	はし 橋 づめ さとし 敏	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

この講義は、社会福祉士ならびに精神保健福祉士・社会福祉主事をを目指す学生に「社会学」についての基本的な知識の提供を目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

[目標]

- 1 現代社会の特質について理解させる。
- 2 現代社会における家族や地域社会の特徴について理解させる。
- 3 現代社会における社会問題について理解させる。

[内容]

- 1 経済社会の変化と国民の生活及び意識の変化
- 2 現代社会と科学技術
 - 1) 科学技術の展開
 - 2) 現代社会と科学技術
 - 3) 情報化社会と国民生活
- 3 現代社会と専門職
- 4 現代社会における家族
 - 1) 構造及び形態
 - 2) 機能
 - 3) 変化
 - 4) 家族と地域社会
- 5 現代社会における地域社会
 - 1) 都市化と地域社会
 - 2) 過疎化と地域社会
 - 3) 地域社会の社会集団・組織
- 6 現代社会における社会問題

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
心 理 学 (福 祉)	たか 高 橋 よし 良 博	社福主事2・3・4選	4

講義のねらい

- 1 心理学の基本概念をふまえ、人間理解のための基本的知識の理解と習得。
- 2 乳幼児期・児童期・青年期・壮年期・高齢期など人間の発達段階のそれぞれの時期に特有な身体的、心理的特徴についての理解。
- 3 援助を要する人々とかかわって行くための心理的援助技術の概要の理解と習得をはかり、援助者としての資質を高めるための自己理解をもとめる。

講義の内容・
授業スケジュール

- 講義の予定としては、以下の項目についてふれて行く予定である。
- 1 人間の心理学的理解 ①心理学の定義と、領域および研究法 ②欲求・動機づけ ③感情・情動 ④感覚・知覚・認知 ⑤学習・記憶・思考 ⑥知能・創造性 ⑦人格 ⑧適応と不適応
 - 2 人間の成長・発達の心理 ①発達段階と生涯発達 ②発達課題と高齢期 ③発達の障害と発達援助
 - 3 人間理解のための心理学理論と技法 ①基礎理論；心理学的援助技術の基本的人間観 ②心理測定と診断
 - 4 心理的援助技法の概要 ①心理療法（総論） 心理療法の歴史と種類 ②心理療法（各論） 精神分析・カウンセリング・家族療法・行動療法・認知療法・森田療法・自律訓練法など

成績評価の方法

筆記試験・レポートなどの提出物、その他、平常点（講義への出席状況や、参加度）などを総合して評価を行う。

教 科 書

福祉士養成講座編集委員会編『三訂 社会福祉士養成講座 11 心理学』（中央法規）2,500円（税別）

経営学部第2部

1. 専門教育科目

経営学部 第2部

1. 専門教育科目

簿記学	兼村 榮哲	307
簿記学	床井 陸子	308
簿記学	小田 幹雄	309
簿記学	猿山 義広	309
簿記学	大野 満奈	310
簿記学	明石 博行	311
簿記学	加藤 武信	312
簿記学	橋場 利幸	313
簿記学	森博 彦	314
簿記学	阿部 一人	315
簿記学	休講	
簿記学	滝田 公一	316
簿記学	西村 和夫	317
簿記学	宇田 理	318
簿記学	鈴木 幸毅	319
簿記学	各務 洋子	320
簿記学	岩永 宏治	321
簿記学	宮城 徹	322
簿記学	休講	
簿記学	鹿嶋 秀晃	323
簿記学	長瀬 勝彦	324
簿記学	休講	
簿記学	茂垣 広志	325
簿記学	大島 久幸	326
簿記学	兼村 榮哲	327
簿記学	中村 公一	328
簿記学	山田 勝	329
簿記学	森宮 勝子	329
簿記学	石名坂 邦昭	330
簿記学	服部 昌久	331
簿記学	園田 哲男	332
簿記学	近藤 禎夫	333
簿記学	休講	
簿記学	渡邊 惠一郎	334
簿記学	猿山 義広	335
簿記学	片桐 伸夫	336
簿記学	高木 克己	337
簿記学	休講	
簿記学	北島 万次	338
簿記学	西山 司	338
簿記学	速水 昇	339
簿記学	休講	
簿記学	永田 智則	340
簿記学	羽鳥 茂	341
簿記学	佐藤 昇	342

国際金融論	〈秋山誠一〉	343
統計原論	〈山内慎二〉	344
経営情報論	〈高井徹雄〉	345
情報管理論	〈休講〉	
経営統計	〈長国強〉	346
経営科学	〈小沢利久〉	347
生産管理論	〈藤原篤志〉	348
人事管理論	〈休講〉	
イッ経営学	〈高橋成夫〉	349
行動科学	〈休講〉	
国際会計論	〈休講〉	
情報会計論	〈休講〉	
貿易政策	〈休講〉	
システム論	〈青木武典〉	349
民法	〈織田晃子〉	350
商法	〈島原宏明〉	351
労働法	〈藤本茂〉	352
経済法	〈休講〉	
英語	〈町井靖〉	353
ビジネス英語	〈鹿嶋秀晃〉	353
外書講	〈中村公一〉	354
外書講	〈速水昇〉	354

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 営 学	かねむらえいてつ 兼 村 栄 哲	二 営 1 必	4

講義のねらい

受講生の皆さんは、これまで、中学や高校の授業において、「公民」、「現代社会」、「政治経済」、「流通（商業）経済」、「マーケティング」などを学習してきており、企業を中心とした諸組織の経営について、漠然としたイメージをもたれていることでしょう。本講義は、そうしたイメージをより明確なものとするために、一つの学問として、「経営学」を概説していきます。具体的には、皆さんが経営学の初心者であることを考慮しつつ、実例などをまじえて、経営学にかかわる基礎的な用語・概念・理論などをわかりやすく説明していきます。講義を担当する者としては、皆さんが、この「経営学」を履修し、経営学の基礎を勉強した後に、経営および経営学により関心をもち、2年次以降の専門的な科目を積極的に履修・学習してもらえれば幸いです。

講義の内容・ 授業スケジュール

講義は、以下の順序で進めていくことを予定しています。

1. 経営学とは
2. 組織とは

(1)組織の意義	(2)企業とは
(3)企業形態	
3. 管理にかかわる理論 (1)管理論の発展 (2)管理論の体系
4. 組織にかかわる理論

(1)組織構造	(2)組織の動態
(3)モチベーション	(4)経営理念
5. 戦略にかかわる理論

(1)企業目標の形成	(2)企業戦略
(3)競争戦略	
6. 生産管理論
7. マーケティング論（販売管理論）
8. 労務管理論
9. 財務管理論
10. 日本的経営論
11. 企業経営の国際化
12. 組織間関係にかかわる理論

履修上の留意点

受講生には、以下の3点を強く要望します。

1. 出席すること
2. 私語などを慎むこと
3. 板書を頻繁におこなうが、板書される内容以外にも、各自重要だと思われることについては、積極的にノートをとること

成績評価の方法

試験その他を総合的にみて、成績を評価します。

教科書

教科書は指定しません。

参考書等

その都度、紹介します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
簿 記 学	とこ 井 睦 子	二 営 1 必	4

講義のねらい

簿記学において主にその対象とされるのは企業の複式簿記です。経済の具体的担い手である企業は、人・モノ・カネそしてサービス（情報）からなります。そうした企業を資金という統一概念で捉え、その源泉と運用の二側面に着目し、勘定という特殊な様式でこれを記録・計算・表示するシステムが複式簿記と呼ばれ、かのゲートが複式簿記は人間の精神が発明したもっともすばらしいものの一つであると賞賛したものでもあります。本講義では、この複式簿記原理の理解を目的に、(1)仕訳、(2)転記、(3)決算の基本部分を学習します。そして、貸借対照表・損益計算書に代表される財務諸表と関連させながら、企業の計数管理についても考えていきます。

講義の内容・授業スケジュール

- 前期：Ⅰ. 「簿記学」の学習内容とガイダンス（年間計画、各種資格検定試験について）
Ⅱ. 企業会計と複式簿記システム－貸借対照表・損益計算書の意義、作成目的及び複式簿記との関連性
Ⅲ. 複式簿記システムの基礎（総論、簿記の目的と財務諸表）
1 複式簿記の原理とその記帳法（取引の二面認識、取引と勘定、仕訳と転記、仕訳帳と総勘定元帳）
2 決算手続（決算予備手続、決算本手続）
3 簿記の一巡（ビデオを併用し、今までの学習のまとめ）
後期：Ⅳ. 財務諸表作成の基礎（貸借対照表・損益計算書のディスクロージャー制度）
1 期中取引の処理（貸借対照表・損益計算書に係わる勘定各論）
2 決算と財務諸表（決算整理、帳簿締め切り、財務諸表の作成）
3 コンピュータ会計（帳簿記入とコンピュータでの会計処理方法の相違）
Ⅴ. 財務諸表の分析と読み方-簡単な財務諸表分析と企業評価

履修上の留意点

“継続は力なり” 簿記学はその典型かも知れません。毎回の出席を期待しています。

成績評価の方法

前期と後期の2回の試験に平常点（出席点）を加味し、総合評価で行います。

教 科 書

床井睦子著『アカウントINGの基礎』（白桃書房）3,300円

参 考 書 等

必要に応じて紹介していきます。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
簿記学	小田 幹雄	二 営 1 必	4

講義のねらい

簿記の学習が初めてである学生のために、簿記の基礎知識を理解してもらうクラスです。簿記は日常の経済活動の状態を数値的に把握し、記録するための非常に大切な手段であるので、本講座では「簿記とはどのようなものか」ということを認識してもらうために、プリントや練習問題により、簿記学習の基礎である資産・負債・資本の概念や収益・費用の意味について理解してもらいたい。また、いろいろな勘定科目の意味を理解し、簿記の一連の流れである仕訳・転記・試算表・決算修正・決算等についての基本的問題について正確に理解してもらいたい。

講義の内容・授業スケジュール

- 講義の内容は次のようになります。
- I 複式簿記の原理：複式簿記の計算構造・簿記一巡の手順
 - II 期中取引の処理：現金預金、商品売買、売掛金・買掛金、受取手形・支払手形など
 - III 決算に必要な処理：決算修正仕訳・残高試算表の作成など
 - IV 帳簿処理の合理化：伝票制度・コンピュータ簿記

履修上の留意点

簿記の学習は、自分自身がペンと電卓をもって練習問題を数多く解くこと以外にないとの私の教育方針から、練習問題を数多く解かせテストや宿題を出すこともある。テスト用紙等は必ず提出すること。出席のチェックは毎回行う。

成績評価の方法

講義の際のテストの点数及び宿題の点数を合計し平均点を出し、定期試験の点を加算し再び平均点を出して評価する。そのため、講義中のテストや宿題の未提出者は当然平均点が下がる事になるから注意する事。

教科書

鶴飼哲夫・中村義彦編著『簿記イントロダクション』（森山書店）2,625円
 中村義彦編著『基本簿記演習』（プレスウェーブ）1,600円

科目名	担当者名	配当学科	単 位
簿記学	猿山 義広	二 営 1 必	4

講義のねらい

この講義では、会計学の初心者を対象として、日商簿記検定3級程度の商業簿記を学びます。

講義の内容・授業スケジュール

教科書の目次を参照すること。

履修上の留意点

「簿記学」は計算科目なので、かならず電卓を持参すること。

成績評価の方法

期末試験によって評価します。

教科書

『ニューコンセプト日商簿記検定3級商業簿記テキストブック』（税務経理協会）。また、授業中に適宜、プリントを配布します。

参考書等

問題集としては、
 税務経理協会『ニューコンセプト日商簿記検定3級商業簿記ワークブック』
 日商簿記検定2級商業簿記の範囲まで勉強したいという人のためには、
 中村忠著『新訂現代簿記』（白桃書房）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
簿 記 学	おおのの 大野 満 奈	二 営 1 必	4

講義のねらい

簿記は会計学の基本であり、複式簿記の計算構造は、会計学のどの分野を学ぶにしても前提的に理解されることが必要である。この意味において、簿記の基本原則を理解し、経営学部に学ぶ者が最低必要とされる簿記知識を修得することを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

前 期

1. 簿記・会計の意義と目的
2. 企業の財政状態・貸借対照表
3. 企業の経営成績・損益計算書
4. 取引と仕訳
5. 勘定記入と元帳の締め切り
6. 帳簿・伝票・証ひょう
7. 試算表の作成(1)
8. 精算表の作成(1)
9. 現金・預金
10. 小口現金
11. 商品売買の処理と仕入帳・売上帳
12. 総合復習
13. 総合復習

後 期

1. 商品有高帳
2. 売掛金・買掛金と人名勘定
3. 有形固定資産の取得と売却
4. 資本金と引出金
5. 試算表の作成(2)
6. 売上原価の計算と決算仕訳
7. 貸し倒れの見積りと減価償却
8. 精算表の作成(2)
9. 有価証券
10. 手形取引
11. 費用・収益の見越しと繰り延べ
12. 精算表の作成(2)
13. 総合復習

履修上の留意点

簿記は自分で練習問題を解き、照合することによって初めて修得できるものであるから、原則として毎回出席して要点を理解し、自宅では毎回の復習に心掛けること。また、疑問点は、積極的に質問することによって早期に解決しておくこと。

成績評価の方法

試験の点数・出席回数・提出物の三点をもって総合的に評価する。

教 科 書

『要点整理 日商簿記検定練習問題集』3級（一橋出版）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 済 学 概 説	あがしひろゆき 明 石 博 行	二 営 1 選	4

講義のねらい

いわゆる近代経済学派とマルクス経済学派の経済学（政治経済学）について、入門的な講義をします。近代経済学派とマルクス経済学派は、20世紀の経済学における二大学派であり、内部にさまざまな学派や潮流を含んでいます。いずれも21世紀には大きく変貌してゆくと思われませんが、20世紀の経済学を支配したこれらの学派の理論を学ぶことは有益です。経済学をはじめて学ぶ学生が、それぞれの経済観や理論の基本、およびそれぞれの学派の相違を理解できるようにすることをめざし、この講義を進めます。

講義の内容・授業スケジュール

講義は前期と後期にわけて行います。前期では近代経済学について、後期ではマルクス経済学について、それぞれの経済観と理論の基本を説明します。

近代経済学には、大別するとミクロ経済学とマクロ経済学があります。講義はおおよそつぎの順序で進めます。1. 経済学の定義と経済学的な考え方、2. 市場と取引、3. 需要・供給分析の基礎と応用、4. 時間とリスクと企業家精神、5. 公共部門、6. 国民経済計算の基礎、7. 経済成長、8. 失業と総需要、9. インフレーション。これらのうち、2～5でミクロ経済学の基礎を、6～9でマクロ経済学の基礎を解説します。

マルクス経済学には、基礎理論としてのまとまった体系があります。講義はおおよそつぎの順序で進めます。1. 経済体制の区別とマルクス経済学的な見方、2. 商品と貨幣、3. 剰余価値と資本、4. 資本蓄積と貧困、5. 資本の回転、6. 資本と利潤、7. 諸階級、8. 独占資本と国家、9. 帝国主義と世界経済。これらのうち、2～7で基礎理論を、8～9でやや発展した理論を解説します。

成績評価の方法

定期試験の結果に平常点（出席および課題への対応）を加味し、総合的に評価をします。

教科書

前期：ジョセフ・E・スティグリッツ『入門経済学』第2版（東洋経済出版社）3,300円＋税
後期：開講時に指示します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
情 報 処 理 基 礎	か とう たけ のぶ 加 藤 武 信	二 営 1・2・3・4 選	4

講義のねらい

情報化社会の電子文房具であるパソコンを自在に使って、文書の作成、プログラミング言語や表計算によるデータ加工の技法を修得する。パソコンの実習環境は、Windows を用いる。

講義の内容・
授業スケジュール

〈前期〉

①Windows の基本操作

マウスやキーボードを使いながら Windows の各種操作を経験してもらう。

②ワープロ「MS-Word」による文書作成

レポート形式文書、納品書、履歴書などの文書例を参考にして文書作成技法を修得する。

③表計算ソフト「MS-Excel」による作表・作図（基本レベル）

多くの例題・演習課題による作表・作図訓練を行う。

④表計算ソフト「MS-Excel」によるプログラミング

Excel 版 VB (Visual Basic) による初歩的な VBA の作成訓練を行う。

〈後期〉

⑤「MS-Excel」による中級プログラミング

Excel 版 VB (Visual Basic) による種々の VBA 課題を解題する。

⑥データベースソフト「Access」による業務の処理

Access の基本操作から始まり、販売管理業務を遂行するまでの一連のプロセスを遂行する。

⑦その他、必要に応じて「ホームページ作成」の課題を指導する。

履修上の留意点

パソコン実習が全体の80%を占めるので、欠席せず、熱意をもって受講することを望む。また習熟するためには、テキストや配布教材を熟読し、また必要に応じて授業外の時間のパソコン実習をおこなわなければならない。

成績評価の方法

出席、レポートおよびテストにより総合評価するが、授業中の提出レポートを重視する。

教 科 書

加藤武信他著：『[Word・Excel・Access・HTML] プログラムとシステム演習（サンウェイ出版）1,800円』

そ の 他

〔クラス定員〕60名

〔関連科目〕経営科学概論、経営科学、経営情報論

※この科目は4月初旬に教務部で受講票を受け取らなければ履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
情 報 処 理 基 礎	はし ば とし ゆき 橋 場 利 幸	二 営 1・2・3・4 選	4

講義のねらい

この授業のねらいは以下の点に集約される。

- ① 情報化社会で活躍してゆくための基礎的なコンピュータリテラシを身につけること
- ② 技術を身につけるだけではなく情報化社会に対する自己判断ができるようにすること
- ③ 社会人としてのモラルをもてるようにすること

いくら情報化社会だとはいっても、ただ単に技術を身につけているだけではまったく無意味である。受講者の皆さんにはそのような空虚な人間にはなってほしくない。要するに、受講者の皆さんが1年後に「私は、社会が要請する技術力は身につけているが、技術への盲目的な服従はしない。自分なりの情報化社会に対するビジョンを持っている。私はひとりよがりやで頭でっかちの情報技術屋ではなく、責任を持った一個人の人間としての倫理を持った上で情報技術を使いこなして」といった姿勢を持ってもらえるとうれしい。いろいろな点で「ワヤカましい」ことを言うかもしれないが、皆さんにとってよい講義にするための努力は惜しまないつもりである。受講者の皆さんも情報化社会における規範的人物となれるよう努力をしていただきたい。それは次世代に情報技術を健全に伝えてゆく責任を持つ皆さんの役割である。

講義の内容・授業スケジュール

以下のような内容を予定しているが、内容は受講生の皆さんの希望や技術力によって変更することも考えているので、講義中に速慮なく相談されたい。

- ① コンピュータおよびインターネットの基本的な仕組みについての講義・演習
- ② OS (Windows) のしくみと利用に関する講義・演習
- ③ アプリケーションソフト (ワードプロセッサ Word、表計算ソフト Excel) に関する演習
- ④ プログラミング (VBA もしくは JavaScript、Java) に関する講義・演習
- ⑤ ホームページの仕組みと作成に関する講義・演習
- ⑥ プレゼンテーションソフト (Power Point) に関する演習

授業では、講義を一方的に行うのではなく、上記の内容に関する課題を随時出し、皆さんに課題をこなしていただくという形式をとる。課題は印刷物で提出してもらった場合と、コンピュータファイルで提出してもらった場合の両方ある。特に前期のはじめのうちは覚えてもらうことも多く、それに比例して課題も多くなるので、気をつけて欠席のないようにしていただきたい。

履修上の留意点

先に書いたとおり、この授業では「社会人としてのモラルをもてるようにすること」も目標に掲げている。したがって、授業の中では、実際の業務についたときと同様の「厳しさ」を受講生の皆さんに求めたい。具体的には以下のようなことである。

- ① 遅刻や欠席がないように注意していただきたい

例えば取引相手が無断で商談の時間に遅れたら、あなたは相手を信用して取引を進めることができるだろうか。授業では講義開始後には教室への入室を速慮していただく場合もある。

- ② 課題の提出時間は厳密に守ってほしい

例えばあなたの取引相手の商品が、期日までに納品されなかったらどうなるだろうか。この授業でみなさんに提出してもらった課題は、講師に対する「納品物件」だと思っていただきたい。

- ③ 社会人として恥ずかしくない言葉遣いをしてほしい

ここでいう「言葉遣い」は、話す場合だけではなく、書く場合のことも指している。社会にでれば言葉遣い一つで信用を失うこともありうることを忘れないでいただきたい。

これらはいずれも社会人としては当然のことであるが、この姿勢を学生時代から是非身につけておいていただきたい (すでに社会人経験のある方には失礼な言い方をお詫びしたい)。ただし上記の①と②に関しては、正当な理由 (電車の遅れ、急病、冠婚葬祭など) がある場合は例外である。当日か後日に証明書類を提出していただければ、期限外でももちろん課題を受理する。

いずれにせよ、授業の心積もりは第1回の講義で皆さんに直接お話したいので、必ず初回の授業には顔を出していただきたい。また、何か質問などがあれば前もって電子メール (hashiba@komazawa-u.ac.jp) で速慮なくご連絡いただきたい。

成績評価の方法

課題の提出状況と内容、および出席状況から評価させていただく。先に書いたとおり、課題は印刷物とコンピュータファイルのそれぞれの形式で提出していただく場合がある。

教 科 書

太田忠一編/植松康祐・草薙信照著『文化系のためのコンピュータリテラシ[Windows版] - Microsoft Officeによる-』(サイエンス社) 2,200円

参 考 書 等

全くの初心者の方は、できるだけ前もって図書館や書店に足を運び、数冊の文献を比較参照しながら、もっとも自分に相性が合う書籍を選択して勉強しておくことをお勧めする。具体的には、皆さん自身が「わかりやすい」と感じたものを選択されるのがよいと思う。

そ の 他

講義、実習ともすべて情報教育センター (4号館) でコンピュータを使いながら行う。
[クラス定員] 60名

[関連科目] 経営科学概論、経営科学、経営情報論

※この科目は4月初旬に教務部で受講票を受け取らなければ履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
情 報 処 理 基 礎	もり 森	ひろ 博 ひこ 彦	二営1・2・3・4選 4

講義のねらい

コンピュータは企業経営にとってすでに欠かすことの出来ないものとなっており、最近のインターネットの普及により、いち早く情報を集めるための道具として、ますますその必要性は増えていく。

本講義では、コンピュータの基本的な使用法から始めて、コンピュータを使っていかに情報を処理し、それを表現し、書類やプレゼンテーションの形として作成していくかを解説していく。

講義の内容・
授業スケジュール

1. コンピュータの基本的な使用法
電源の入れ方からはじめ、タイピングの練習をおこなう。また、基本的なコンピュータ用語について解説する。
2. ワードプロセッサによる文書の作成法
日本語ワードプロセッサを用い、文書の作成技法について学ぶ。
3. 表計算ソフトによるデータの処理と視覚化
いろいろなデータを用い、そのデータにどのような意味が隠されているのかを探るため、表計算ソフトを用いて、どのように処理をすればいいか、また、その結果をどのように表現すればいいかについて学ぶ。
4. プレゼンテーションソフトによる発表方法
プレゼンテーションソフトを使い、3. で作成した表やグラフを使って効率よく、美しく、わかりやすく発表するかについてまなぶ。マルチメディアによるプレゼンテーションについてもふれていく。
5. インターネットについて
インターネットとは何か、どのようなことが出来るのかなど、インターネットの現状と将来について、電子メール、ワールドワイドウェブ (WWW) を中心に解説をしていく。
6. その他
時間が許す範囲で、これらのソフトをどのように作成するかについて、いくつかのプログラミングの手法について解説していく。

教 科 書

授業時に指示する。

そ の 他

実習を中心に行うので、欠席は極力避けてください。

〔クラス定員〕60名

〔関連科目〕経営科学概論、経営科学、経営情報論

※この科目は4月初旬に教務部で受講票を受け取らなければ履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
会 計 学	あ べ か ず ひ と 阿 部 一 人	二 営 2・3・4 選	4

講義のねらい

今日の会計は、株主・債権者・投資家などの外部利害関係者に対して会社の財産の状態や経営の業績を報告することを目的として、商法、証券取引法、税法等の関係諸法令に組み込まれ、社会的な制度としての会計として実践されている。本講義では、現在の会計学の内容が体系的に理解できるよう概説する。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 会計学の意義と目的
2. 会計学の領域
3. 会計の役割
4. 会計学の理論的基礎
5. 企業会計制度
6. 財務諸表
7. 原価計算制度
8. 監査制度
9. 経営管理のための会計
10. 会計学の課題

履修上の留意点

1年次の「簿記学」が履修済みであるか、本年度併行して履修することが好ましい。

成績評価の方法

評価の方法は、定期試験およびレポートを考慮して総合的に判定する。なお、第1回目の講義において詳細に説明するので受講者は必ず出席すること。

教 科 書

開講時において指示する。

参 考 書 等

講義において指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
近 代 経 済 学	たき た こう いち 滝 田 公 一	二 営 2・3・4 選	4

講義のねらい

本年度は、産業組織論の入門的講義を行います。産業組織論とは、企業及び産業に関する経済分析と理解していただいでよいでしょう。

講義の内容・
授業スケジュール

講義内容は以下の通りです。

1. 産業組織論とは？
2. 企業の理論
3. 生産費用の概念
4. 完全競争と独占
5. 支配的企業と競争的周縁企業
6. カルテル
7. 寡占の理論
8. 製品差別化と独占的競争
9. 産業構造と成果
10. 価格差別
11. 垂直的統合
12. 品質と情報と広告
13. 技術進歩と研究開発競争
14. 規制とその改革

履修上の留意点

初級のミクロ経済学の知識があると、便利ですが、授業で必要な場合には、逐一説明しますので、必ずしも必要ではありません。

成績評価の方法

成績評価は、学年度末試験によります。

教 科 書

教科書は、特に指定しません。

参 考 書 等

参考書：初級のミクロ経済学の知識については、
 倉澤資成、『入門価格理論』（日本評論社）
 伊藤元重、『ミクロ経済学』（日本評論社）1992年
 などを参照されるとよいでしょう。
 産業組織論の参考書として、次のものを挙げておきます。
 新庄浩二編、『産業組織論』（有斐閣ブックス）1995年
 長岡貞男・平尾由紀子、『産業組織の経済学』（日本評論社）1998年
 ロジャー・クラーク、『現代産業組織論』（多賀出版）1989年
 Carlton, D. and J. Perloff, (1994) *Modern Industrial Organization, Second Edition*, Harper Collins,
 Scherer, F and D. Ross, (1990), *Industrial Market Structure and Economic Performance*,
 Third Edition, Houghton-Mifflin.

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 営 科 学 概 論	にしむら かずお 西 村 和 夫	二 営 2・3・4 選	4

講義のねらい

生産活動には、本物の物作りの技術の他に、高能率、高品質、低コスト、短納期を達成するための効率的な生産システムの設計・改善および維持管理の技術が必要である。わが国の産業界は、いち早く QC（品質管理）、IE（経営工学）、OR（オペレーションズリサーチ）をはじめとする経営管理技術の導入を図り、実践することによって生産、品質、コスト面で飛躍的展開を成し遂げた。この講義では QC、IE、OR を中心に、経営管理技術の基本的な理論と方法を概説する。また、今後本学部において経営科学系の科目を受講する上での基礎を学んでいく。

講義の内容・
授業スケジュール

全体を大きく I、II、III の部分に分けて講義を行う。I ではこの講義で扱う学問領域（一般に経営工学と呼ばれている）を概観する。II では経営工学が対象とする経営管理の諸分野を取りあげる。III では経営管理のなかで用いられている技術的な各種手法について解説していく。ただし、II と III は相互に関連するものであり、必要に応じて順番を入れ替え、両者が有機的に結びつくよう講義を進めていく。

I 経営工学の概略と歴史

II 経営工学が対象とする諸分野

- (i) 経営計画：経営計画の策定、経営情報のシステム化
- (ii) 販売管理：マーケティング活動、販売計画
- (iii) 生産管理：生産方式、設備配置計画、日程計画
- (iv) 品質管理：統計的品質管理、総合的品質管理

III 経営管理技術の各種手法

- (i) インダストリアルエンジニアリング：メソッドエンジニアリング、作業測定
- (ii) バリュエエンジニアリング：価値のとらえ方、発想法
- (iii) 経済性工学：資金の時間的価値、設備投資案の経済計算
- (iv) データ解析：需要予測、推定と検定、回帰分析
- (v) オペレーションズリサーチ：線形計画法、PERT/CPM、待ち行列理論、在庫管理モデル、シミュレーション、システムの信頼性解析
- (vi) システム解析：システム概念、情報処理システム

履修上の留意点

履修に際して予備的な知識は必要としない。理解を深めるために適宜演習を行う。教科書はあくまで参考として用いるものなので、毎回出席してきちんとノートをとること。また、手法についての理解を深めるために適宜演習を行う。

成績評価の方法

演習課題と試験（前期末、後期末）により総合評価

教 科 書

秋庭雅夫他著『経営工学概念』（朝倉書店）3,800円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 営 史	宇 田 理 <small>あきひ</small>	二営2・3・4選	4

講義のねらい

本講義では、なぜ、ある企業は競争力があるのに、別の企業はないのかという問いを出発点に、企業の歴史を振り返り、色々な産業における企業の競争力の源泉を理解することが目的である。時代を超えて、どの時代のどの企業にも通じる要因と、時代の状況により変化する要因を、色々なケースを通じて明らかにしていく。

講義の内容・
授業スケジュール

開講時に年間計画のシラバスを配布予定。内容としては、毎回、一定のテーマに応じて、企業発展のケース（セブンイレブン、カーネギー、IBM、GE、日立、SONY、アップル・コンピュータなどの歴史）や、その発展に貢献した企業のリーダーを紹介する。戦後の世界の企業を中心に取り上げるが、テーマに応じて19世紀後半の企業などにも触れる。また、部分的に対話形式の授業も行う予定。

成績評価の方法

学年末テストによって評価する。ただし、夏期休業期間中に各自関心のある企業の歴史をレポートしてもらう。

参 考 書 等

開講時に指示します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 営 管 理 論	すずき こうき 鈴 木 幸 毅	二 営 2・3・4 選	4

講義のねらい

経営管理の理論と現実について、経済社会の動向、資本主義企業の現在の姿を視野に入れつつ、説明する。

講義の内容・
授業スケジュール

下記の1、2、3を前期にとりあげ、それとの関連において後期には4を中心に講義する。

- 1 古典的理論
 - (1) テイラーの科学的管理論
 - (2) 管理過程論（職能論）
 - (3) 管理構造論（組織論）
- 2 新古典的理論
 - (1) ホーソン実験と人間関係論的管理論
 - (2) 行動科学的管理論
 - (3) 管理開発論
- 3 近代理論
 - (1) バーナード革命
 - (2) 組織論的管理論
 - (3) 意思決定論的管理論
- 4 現代理論
 - (1) 環境適応的管理論
 - (2) 戦略的管理論
 - (3) 環境問題と企業責任論

履修上の留意点

自主的学習を期待するので、特に出席をとることはしないが、中間試験に代わるレポート提出を求め、その成績を期末テスト結果に加味して評価する。

教 科 書

鈴木幸毅著『企業と管理の理論』（税務経理協会）2001年4月（前期）
後期は、別の教科書を使う。鈴木幸毅著『循環型社会の企業経営』（税務経理協会）2000年

参 考 書 等

鈴木幸毅著『バーナード組織理論の基礎』（税務経理協会）1998年
鈴木幸毅著『環境ビジネスの展開』（税務経理協会）2001年5月

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
企 業 形 態 論	か 各 務 洋 子 が み よ う こ	二 営 2・3・4 選	4

講義のねらい

企業形態論は、経営学において早くから成立した学問領域の一つである。企業形態を単に企業規模の区分として捉えるのではなく、企業制度の歴史的発展の過程、進化の段階として動的に捉える。資本主義経済の支配的な企業形態である株式会社を中心に据え、株式会社制度の基本、所有と経営との関係、現代株式会社の特質、株式会社支配論等の理論的特質、歴史的発展過程を述べ、現代社会における企業行動の理解を深め、現代経営の諸現象を考察するための基本的知識の修得を目指す。

講義の内容・
授業スケジュール

第1回目の授業に、シラバスを配布し、1年間の講義の流れを説明する。取り上げるテーマは、以下の予定。

1. 企業概念 (企業理論への道程)
2. 企業形態の展開 (企業形態の本質的意味、企業の資本調達メカニズム)
3. 法制上の企業形態 (企業形態の種類、会社法による会社の種類)
4. 日本の企業制度史 (原点としての明治期初頭、官営事業、株式会社制度)
5. 株式会社の現実 (株式の公開と上場制度、株式会社の日本的特質、株式会社を巡る諸問題の検討 - コーポレート・ガバナンス論争、株式会社支配論の展開、株式相互持合いに関する諸理論等)
6. 企業競争と独占 (競争のダイナミズム、構造的独占)
7. 企業の統合とグループ化 (統合による企業の巨大化、統合の法的形式、経済形態、巨大企業のグループ化)
8. 企業格差の構造 (企業規模、企業格差の実態、中小企業施策と今後の課題)
9. 企業の国際化 (国際化の意味、国際化の実態、海外進出に伴う企業経営上の課題)
10. 日本の公企業 (公企業の経緯と種類、政府公企業、地方公企業、経営の課題)

成績評価の方法

年二回の定期試験と、講義の終わりに小レポート (複数回) を実施する。小レポートの合計点 (30%)、前期試験 (30%)、後期試験 (40%) によって総合評価する。

教 科 書

開講時に指示。

参 考 書 等

その他参考文献は、授業中に指示。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 営 学 史	いわ なが こう じ 治 岩 永 宏 治	二営2・3・4選	4

講義のねらい

企業・経営における実践の理論的体系化として生成・発展してきた経営学の歴史的展開を中心に講義していく予定です。その際、アメリカを代表する学説を焦点を当て、それらの学説がいかなる歴史的、経済的、思想的背景のなかで成立し、企業・経営あるいは組織・人間のいかなる側面を問題にし、どのような理解を示してきたのかを解明していきます。そのなかで、アメリカにおける経営学の基本的性格とその歴史的・客観的な意義と役割を明らかにしていくつもりです。

講義の内容・ 授業スケジュール

- ① アメリカ経営学の基本的性格
- ② アメリカ資本主義と管理問題
- ③ 独占形成と管理問題
- ④ アメリカ経営学の思想的背景
- ⑤ テイラリズム
- ⑥ 科学的管理と精神革命
- ⑦ フォーデズム
- ⑧ 合理化運動と労働問題
- ⑨ 人間関係論とホーソン実験
- ⑩ 人間関係論の基本思考
- ⑪ フォレット学説の特徴
- ⑫ 行動科学的管理学説の展開

履修上の留意点

疑問などを積極的に提示して下さい。

成績評価の方法

ペーパーテストと出席状況により評価します。再試験を実施する。

教 科 書

高木・丸山編著『経営管理の理論と歴史』（中央経済社）

参 考 書 等

必要に応じて随時指示します。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
アメリカ経営学	みやぎ 城 徹	二営2・3・4選	4

講義のねらい

世界の経営学をリードしているのは、いうまでもなく、アメリカ経営学とドイツ経営学である。そして、日本の経営学の研究・教育は、第2次大戦前はドイツ経営学から、大戦後はアメリカ経営学から圧倒的な支配的影響を受けて発展してきた。ところが、特に1960年代以降になると、ドイツ経営学にもアメリカ経営学の影響が顕著に見られるようになった。

学生諸君は、必須科目である「経営学」の授業を通じて、無意識のうちに、アメリカとドイツの経営学にかんする基礎知識をある程度身につけていることを前提とした上で、経営学徒のメッカ、アメリカ経営学をその最先端の理論的・経験的研究の基本的成果を踏まえて全般的に講義するが、主として、下記の授業計画の7つの要目について検討する。その際、日本の企業との関連についても検討を加える。

講義の内容・授業スケジュール

マイクと板書。教科書は指定しない。

この授業は1週1回90分で年間30週の時間数（ただし、期末試験日を入れて）から成る。最初の授業時間は、この科目を選択するか否かを判断するために下見に来ている学生諸君に、アメリカ経営学の1年間の授業の概要を説明する。原則として、下記の授業計画の要目をそれぞれカッコ内の授業回数（合計29回）で完結する予定である。

なお、この授業回数は一応の目安であり、授業時間が祝祭日に当る場合は授業の進展状況によって若干変更することがある。

〈2001年度『アメリカ経営学』授業計画〉

- I 1年間の授業の概要 (1)
- II 経営学の対象と方法 (2)
- III 意思決定と権力（パワー）(8)
- IV 戦略（特に提携、グループ、ファミリー）(4)
- V コンティンジェンシー理論 (4)
- VI 取引コスト理論 (6)
- VII プロパティ・ライツ理論 (2)
- VIII プリンシパル-エージェント理論 (2)

成績評価の方法

期末筆記試験。なお、学生諸君の理解度と教育効果を確かめるために、期末試験以外に、小試験をおこない、その結果を評価の対象に加味することがある。

《期末試験の出題形式》

複数の問題から1題選択して論述する。詳細は試験前の授業で説明する。

参 考 書 等

- 1 宮城徹『企業の政治理論序説』（税務経理協会）1997
- 2 宮城徹「企業制度とプロパティ・ライツ理論」『商学研究科紀要』（早大、第20号）1985
- 3 宮城徹「情報と企業経営の理論的諸問題」日本経営学会編『情報化の進展と企業経営』（千倉書房）1987
- 4 宮城徹「経営者論」鈴木英寿編『経営学総論』（第2版）（成文堂）1998
- 5 宮城徹「経営学の歴史」藤芳誠一編『新版・新時代の経営学』（学文社）1993
- 6 宮城徹「組織の経済理論の基礎構造」日本経営学会編『現代経営学の課題』（千倉書房）1997
- 7 宮城徹（単独訳書）『情報時代の企業管理の教科書——組織の経済理論の応用——』（税務経理協会）2000（A. Picot u. a., *Die grenzenlose Unternehmung*, Gabler, 1998）
- 8 宮城徹（共訳書）『新制度派経済学による組織入門』（白桃書房）1999（A. Picot u. a., *Organisation. Eine ökonomische Perspektive*, Schäffer-Poeschel, 1997）

ここでは紙幅の関係で上記の授業内容に直接関連のある私の著書・論文・訳書だけを参考文献の一部として掲げておいたが、その他の文献については適宜紹介してゆく。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 営 労 務 論	か しま ひで あき 鹿 嶋 秀 晃	二 営 2・3・4 選	4

講義のねらい

この講義では、現代の日本企業とそこに働く労働者が抱える経営労務問題を幅広く扱っていく。具体的には経営学と経営労務論、戦後日本経済と日本的経営論、終身雇用、年功序列賃金、企業別組合制度、福利厚生制度、異動と昇進、人材形成、労働時間問題、ホワイトカラーの労働問題、女性労働問題、新しい労働法制と労働問題などの小テーマを設けて講義していく。学生には経営労務論を受講することで企業と労働、社会について幅広い問題関心を持ってもらいたい。

講義の内容・授業スケジュール

講義は1コマ1テーマの原則。各回の最初に「日本は本当に終身雇用なのか？」といったような問題点を掲げ、その解説をおこなう。また、最近の新聞記事から重要な経営労務問題をピックアップして紹介する。

履修上の留意点

詳細は最初の講義で説明する。出席は取らないので、出席点はなし。①私語は真剣に聞いている他の学生に迷惑になるのではないこと。②携帯電話は消音すること。ひどいときには退室してもらい、減点の対象とする。

成績評価の方法

評価は学期末試験のみによる。①空欄補充問題・正誤問題・穴うめ問題(約60点分) ②論述問題3問(約40点分)の予定。中間試験・出席点はなし。詳細はホームページでも公開。

教 科 書

特に指定しない。

参 考 書 等

参考図書としては、津田眞激『人事労務管理』(ミネルヴァ書房)、1993、(3,000円程度)、労務学説史をわかりやすく説明したものとして渡辺峻『企業組織の労働と管理』(中央経済社)、1995、(2,600円程度)、経営労務をより体系的に深く学習するのにより白井泰四郎『現代日本の労務管理第2版』(東洋経済新報社)、1992、(3,500円程度)をあげておく。この他にも講義の中で適宜いろいろな文献を紹介していく。参考文献はホームページで紹介。

そ の 他

授業は講義形式でおこなうが、図表やグラフ、ビデオを多用し、ただ聞いてノートを取るだけでなく「頭をつかう」ような形にする。ホームページでも授業に関する情報提供をしていく。
http://www.komazawa-u.ac.jp/Gakubu/Kashima_Seminar/index.html

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 営 組 織 論	^{なが} 長 ^せ 瀬 ^{かつ} 勝 ^{ひこ} 彦	二 営 2・3・4 選	4

講義のねらい

この講義で論じるのは、第1に企業組織がどのように構成されているのか、第2にそれが環境の中でどのように運動しているのか、第3に個人や小集団が組織とどのように関わっているのかである。

組織というものは形があるわけでもなければ色が付いているわけでもない、目に見えない存在である。それなのに私たちは、会社がどうだとか学校がどうしたとか当然のように会話を交わしているし、法律上も「法人」として人間並みの位置づけがされている部分もある。天然資源から自動車やコンピュータをつくったり、巨大ビルや橋を建築したりすることは個人では何百年かかってもできないが、組織はやつてのける。企業組織の活動によって生活が豊かで便利になることは否定しようがない。しかし一方で企業組織は、自然環境を破壊して私たちの生活を脅かすという側面も併せ持っている。

また、人間は組織の中で高く評価されると嬉しく思うし、「会社人間」といわれるように組織と一体化する人もいる。一方で組織の側も構成員に対していろいろ便益を与えてくれるが、景気が悪くなると手のひらを返したようにみんな嫌がらせをすることも。ショックで病気になるたり自殺したりする人もいほどである。こんなにも社会にも個人の心にも大きなプレゼンスを示す経営組織について、じっくり考えてみようではないか。

授業の展開としては、抽象的な理論や学説の紹介は程々に留め、現代の組織が直面している問題をなるべく多く取り上げて議論していきたい。

講義の内容・ 授業スケジュール

取り上げる予定の主な項目は以下の通りである。ただし授業の回数と項目番号は一致しない。

1. コーポレート・ガバナンス（企業は誰のものか）
2. 企業組織の階層（企業組織を横に切ってみる）
3. 企業組織の部門化（企業組織を縦に切ってみる）
4. 新規事業開発と組織内組織（企業組織の卵）
5. ラインとスタッフ（組織の中の2種類の仕事）
6. 国際化と組織（多国籍企業の組織はどんなものか）
7. 企業と外部環境（コンティンジェンシー理論の貢献と限界）
8. 組織文化と組織開発（企業によって社員のものの考え方が違う）
9. 組織と戦略（組織は戦略に従う？）
10. 企業の寿命と組織エコロジー（会社の寿命は30年？）
11. 組織のリストラクチャリング（企業の建て直し）
12. 新しい人事・処遇制度（出世と給料）
13. 情報化と組織（コンピュータが入って組織はどう変わったか）
14. 企業間関係（ネットワーク論）
15. 個人と組織（人はなぜ組織のために働くのか）
16. 組織的意思決定（経営学とは意思決定の学問である）
17. イノベーション（企業とはイノベーションをする存在である）
18. 組織均衡論と新しい組織論（サイモンはどこまで正しいか？）
19. 意思決定演習（ゲームで組織的意思決定の疑似体験）

通常の講義のほかに、適宜ビデオ教材を使ったりゲーム形式でおこなったりする（臨時の教場変更に注意）。講義時間内にレポートの作成と提出を求めることもある。また講義中に受講生の発言を求めることがあるが、高いレベルは求めていないので、素朴な意見を積極的に開陳して欲しい。

履修上の留意点

私は受講者のために「楽しく、分かりやすく、ためになる」講義をするように、いろいろと工夫をしているつもりである（それが100%成功しているとは言わないが）。それだけに、講義の妨げになる行為（私語や携帯電話など）に対しては厳罰をもって臨む。それが一度であっても成績が「不可」になることもあるので覚悟しておくこと。私語をするくらいなら講義に出席しない方が、単位取得に関してははるかに安全である（もちろん毎回まじめに参加することが最も好ましい）。また講義時間内にレポート作成を課するときは、理由の如何を問わず遅刻者の入室は認めないので注意すること。

成績評価の方法

定期試験の点数が主体となる。それにレポート点が加算される。

教 科 書

なし。

参 考 書 等

長瀬勝彦著『意思決定のストラテジー』（中央経済社）

科目名	担当者名	配当学科	単 位
国際経営論	茂垣 広志	二営2・3・4選	4

講義のねらい

国際経営論とは、「国境を越えて事業展開しているその各拠点の諸活動をどのようにマネジメントするのか?」という課題に取り組んでいる経営学の一領域である。したがって、既存のドメスティックな経営理論を基礎として、各事業拠点を高度に海外に分散化した多国籍企業 (MNC) 特有の問題を扱っている。本講義のねらいとしては、経営戦略論、マネジメント論、組織論等をベースとして、比較経営論ないし異文化経営論の視点を加味して、多国籍企業の戦略行動とマネジメントを考える際の基本的フレームワークについて、種々の理論 (アプローチ)、データ、ケースを援用し考察していきたい。つまり、企業の国際化、多国籍化にまつわる諸現象を企業経営の観点から多面的に捉え、検討することを通じて、国際経営に関する理解を深めることを目的としている。

講義の内容・授業スケジュール

海外に拠点を高度に分散化している MNC にとっての大きな課題は、それら拠点の現地化 (適応性) の要請とグローバルな統合化 (効率性) の要請のバランスないしその同時達成である。日本企業の場合、急速な海外展開と日本のマネジメントの特徴から、アメリカ系および欧州系 MNC と異なる様相を示している。その日系 MNC の戦略及びマネジメント上の特徴を理論、欧米系 MNC との比較、ケースを通じて理解し、課題ないし問題点について理解を深められる授業内容と構成を予定している。より具体的には、以下のような内容を予定している。

- I. 国際経営のフレームワーク (隣接領域との異同と関連性)
- II. 企業の多国籍化を説明する諸理論の検討 (IPLC 仮説、寡占反応仮説、差別化優位仮説、内部化優位仮説、経営資源優位仮説、折衷仮説、経営資源移動仮説等)
- III. 国際経営/企業多国籍化の発展段階モデル (ロビンソン・モデル、小林モデル、マッキンゼー・モデル、アンゾフ・モデル、EPRG モデル等)
- IV. 国際競争戦略 (国際戦略の基本パターンないしタイプ)
 1. 国際競争優位性 (規模の経済・範囲の経済・連結の経済、比較優位・国家特殊優位性)
 2. 国際競争戦略の類型 (ポーター・モデル、ドズ=ブラハラード・モデル、バートレット=ゴシャル・モデル等)
 3. 国際戦略提携
- V. 国際戦略と組織構造
 1. マクロ構造 (国際事業部制、世界的地域別構造、世界的製品別構造、世界的マトリックス構造)
 2. ミクロ構造および内部ネットワーク (トランスナショナル・モデル、ヘテラルキー・モデル)
- VI. 日本企業の国際化と人的資源管理
 1. 欧州系 MNC とアメリカ系 MNC の戦略及びマネジメント上の特徴 (経営伝統と現状)
 2. 日系多国籍企業の海外子会社マネジメントの特徴 (その必要性と問題点、進出地域別特徴)
 3. 異文化マネジメントと海外派遣社員の選抜、教育、給与問題
- VII. 国際マーケティング戦略 (海外市場参入、グローバル・マーケティング・ミクス、製品ポジショニングとグローバル市場細分化戦略等)

以上が講義内容の要目であるが、講義では単なる理論の紹介のみならず、各種調査データや具体的な企業のケースを通じて理解を深めていきたい。

成績評価の方法

成績は、期末試験の結果による。

教科書

茂垣広志『グローバル戦略経営』(学文社) 2,800円

参考書等

茂垣広志・池田芳彦『国際経営論』(学文社) 2,800円

その他

プロジェクターを用いて授業を進める。また、必要に応じて資料を配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 経 営 史	おおしまひさゆき 大 島 久 幸	二営2・3・4選	4

講義のねらい

本講義では、日本の経済発展との関連で、財閥を取り上げる。三井、三菱、住友などの財閥が、近代日本において、経済発展を担う中心的存在であったという事実に着目して、それら財閥が、どのようなプロセスで誕生し、日本の経済発展とともにどのように成長していったのかという点を考察し、そこから日本経済の発展の特徴や日本企業の歴史的な起源を考えてみたい。

講義の内容・
授業スケジュール

講義では以下の内容を取り上げる。1. 政商の誕生 2. 政商の資金源 3. 政商からの脱皮 4. 家政改革と家憲 5. コンツェルンと持株会社 6. 専門経営者の登場 7. 商社ブームと破綻 8. 鈴木商店の挫折 9. 三大財閥の覇権 10. 恐慌とドル買い 11. 財閥の転向 12. 戦時体制と財閥 13. 財閥解体 14. 企業集団と財閥

成績評価の方法

前期レポートと定期試験で総合的に評価する。

教 科 書

武田晴人『財閥の時代』（新曜社）1996年。

参 考 書 等

講義の中で適宜指定する。また必要に応じて教材を配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
マ ー ケ テ ィ ン グ 論	かねむらえいてつ 兼 村 栄 哲	二 営 2・3・4 選	4

講義のねらい

社会的な分業制が成立している今日の経済においては、生産と消費の間に、さまざまな隔たりが発生しており、そのために、円滑な交換が阻害されていることが少なくない。生産と消費の間の隔たりは、一般に経済的懸隔（経済的隔離）と呼称されている。マーケティング論とは、この経済的懸隔を架橋する仕組みを研究する学問であり、マクロ・マーケティング論とミクロ・マーケティング論の2つに大別される。前者は社会経済の観点に立脚し、経済的懸隔がどのように架橋されるのかを主に研究するものである。他方、後者は、企業のマネジメントの観点に立脚し、経済的懸隔をどのように架橋するのかを主に研究するものである。本講義では、以上の2つのマーケティング論を、実例を示しつつ、わかりやすく説明していく。

講義の内容・
授業スケジュール

講義は、以下の順序で進めていく予定である。

《マクロ・マーケティング論》

- ① 生産と消費の間の経済的懸隔および流通の社会的役割
- ② 流通機能（総論）および流通フロー
- ③ 流通機能（各論）－商流にかかわる交換機能－
- ④ 流通機能（各論）－情報流にかかわる情報伝達機能－
- ⑤ 流通機能（各論）－物流にかかわる輸送機能・保管機能－
- ⑥ 流通機構の意義および流通機関
- ⑦ 商業者の分類
- ⑧ 仲介商業者の分類
- ⑨ 流通の客体
- ⑩ 流通機構を取り巻く環境
- ⑪ 流通経路
- ⑫ 流通における商業者の地位の後退

《ミクロ・マーケティング論》

- ⑬ マーケティング・マネジメントの意義およびその過程
- ⑭ 消費者行動
- ⑮ マーケティング・リサーチ
- ⑯ 製品政策
- ⑰ 価格政策
- ⑱ 販売経路政策
- ⑲ プロモーション政策

履修上の留意点

受講生には、以下の3点を要望する。

- ① 出席すること
- ② 私語を慎むこと
- ③ 質問は、各講義終了後におこなうこと

成績評価の方法

試験その他を総合的にみて、成績を評価する。

教 科 書

開講時に指定する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 営 戦 略 論	なかむらこういち 中 村 公 一	二 営 2・3・4 選	4

講義のねらい

経営戦略論は、現実の企業経営と密接に関連している実践的要素の強い科目である。従って、学生が企業に就職した時に、その企業が属する業界がどのように動いており、それに対応して企業が採っている戦略を理解することは、自分達の仕事の意義を考える上で有効なことである。さらに、就職活動の時にも、希望する企業の動向を把握することは重要な選択要因の一つとなるだろう。本講義では、企業の置かれている環境とそれに対する経営戦略を理解し、実践的な場面でも応用できる知識と考え方を提供することを目標にする。

そこで、新聞やビジネス誌などをリソースとして、実際の企業の経営戦略をケースとして取り上げる。そして、なぜこの企業はこの戦略を採るのか、その戦略によってどのような効果が期待されるのか、ということに関して、古典から最先端の理論を使って解釈することを焦点に講義を進める。

講義の内容・授業スケジュール

講義のテーマは企業の成長戦略と競争戦略の分析にある。これは経営戦略論の中心的概念でもあり、企業が存続し発展していくには成長が必要であり、そのためには他企業との競争が避けられないからである。講義内容は一回の講義で一つのトピックの理解に努める。

- I 経営戦略の基本課題；経営戦略とは何か、経営戦略の展開（学説的系譜）、現代企業の経営戦略、外部環境分析、内部資源分析、戦略の策定と実行、組織変革との関係
- II 経営戦略と企業の成長；企業の成長とは何か、内部成長戦略（研究開発・製品開発戦略、社内ベンチャー）、外部成長戦略（M & A・アライアンス）、グローバル戦略、地域企業の戦略
- III 経営戦略と企業の競争；企業の競争とは何か、競争優位、価値連鎖、コア・コンピタンス、イノベーション、業界標準・規格標準
- IV 経営戦略とステークホルダー；各種利害関係者との関係、企業の社会的責任
- V 経営戦略と情報化；情報技術との関係、ナレッジマネジメント

履修上の留意点

経営戦略論は実際の企業活動と密接に関連しているために、日頃から新聞や雑誌などで関連する記事にはできる限り目を通すことが望まれる。方法等については授業で指摘する。

成績評価の方法

授業中に数回行うレポート（小テスト、感想文など）と年度末の定期試験によって判定する。

教科書

特に指定しない。基本図書や参考文献等などは授業中にその都度指摘する。

参考書等

- ・経営戦略論の全般的な内容を理解するには、大滝精一他『経営戦略』（有斐閣）1,900円
- ・企業の事例における経営戦略を具体的に理解するには、東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学』（有斐閣）2,500円

科目名	担当者名	配当学科	単 位
商業史	山田勝 <small>やま だ まさる</small>	二営2・3・4選	4

講義のねらい

商業経営の歴史的発展の過程を、文化との関係に留意しながら講義する。

講義の内容・授業スケジュール

講義内容の主なテーマは次のとおりである。

- | | |
|-----------------|---------------|
| (1) 商業史の視点 | (6) 継続性 |
| (2) 歴史研究とパラダイム論 | (7) 流通量 |
| (3) 利潤 | (8) 大衆消費社会の特質 |
| (4) 商品 | (9) 価格革命 |
| (5) 市場 | (10) 情報社会と商業 |

履修上の留意点

講義を聴くことのみが学習の方法ではないが、講義は各自の学習の導きとしては有益であると思う。出席はとらないが、聴講に努めて欲しい。質問は歓迎する。教場での私語は他人の迷惑となるので厳禁とする。必要があれば教場から出て話すこと。

成績評価の方法

成績評価は定期試験による。

教科書

山田勝著『現代商業の歴史と展開』（創成社）2,850円

科目名	担当者名	配当学科	単 位
商業経営論	森宮勝子 <small>もり みや かつ こ</small>	二営2・3・4選	4

講義のねらい

商業経営論とは、生産者と最終消費者との中間にあつて、商品・サービス・アイデアを購入・販売することを業とする中間商業者の活動をその研究対象とする。中間商業者とは、卸売業者と小売業者を意味するが、講義では、小売業者を中心にその商業経営を検討することとする。

講義の内容・授業スケジュール

総論として、商業の意義と機能を論じた後、小売業の形態と動向について考察する。小売業の形態については、有店舗小売業と無店舗小売業の2つに分けて検討する。有店舗小売業には、百貨店、スーパーマーケット、専門店、コンビニエンスストア、ディスカウントストア等があり、無店舗小売業には、訪問販売業、通信販売業、自動販売業がある。これらの小売業について、その沿革、内容、動向について詳細に講ずる。各論として、多様な小売業の業態で展開されている商業経営の手法について説明する。その内容としては、市場調査と立地分析、店舗管理、商品政策、仕入管理、商品管理、価格政策、販売管理等があげられる。

履修上の留意点

毎時間、資料を配布するが、試験問題の解答に必要となるかもしれないので保管しておくこと。

成績評価の方法

学年末試験の結果により成績評価する。

教科書

出牛正芳・他『商業経営論』（税務経理協会）3,500円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
保 險 経 営 論	いしなぎか くにあき 石 名 坂 邦 昭	二 営 2・3・4 選	4

講義のねらい

本講義においては、保険学のアプローチとして近年一般化しつつあるリスク・マネジメントの基本的な事柄につき理解した後に、保険理論の基本的知識を正確にし、わが国の保険事業並びに一般企業がかかえているリスクに関する諸問題にどのように対処したらよいかの応用能力が持てるようになることを目標とする。

講義の内容・
授業スケジュール

保険学の研究は、保険法学的アプローチ、保険経済的アプローチ、保険経営学のアプローチとそれぞれの時代を背景に論じられてきた。今日、保険学研究については保険経営学の研究をより発展させた、「危険管理論」(リスク・マネジメント)研究が主流となっている。本講義においては、最初にリスク・マネジメントの基本的体系について論じ、リスク・マネジメントの理論、歴史的発展について見た後に、リスク・マネジメントの中心となる保険の機能、保険本質、保険技術について詳しく見ていきたい。

前期はリスク・マネジメントを中心とした講義を行い、後期に保険論を中心とした講義を行う。講義は、理解しやすいように工夫をこらしていく。教科書は使用するが、それは本講義を理解するための基本的共通知識として使用し、講義は教科書に書かれている事柄が理解されていることを前提として進めていく。

履修上の留意点

保険およびリスク・マネジメントを理解するためには使用される専門用語を理解されていなければならない、学ぶことも広範囲にわたるため、講義を受ける前に必ず教科書を読み講義後の復習も忘れないようにしてほしい。学生諸君の積極的な授業への参加を望む。

成績評価の方法

講義への出席状況及び授業時の質疑応答と定期試験の結果を総合して成績評価を行う。

教 科 書

石名坂著『ファミリーリスク・マネジメントと保険』(白桃書房)

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
銀 行 経 営 論	はっ どり よし ひさ 服 部 昌 久	二 営 2・3・4 選	4

講義のねらい

2001年3月を目標として、「フリー」「フェア」「グローバル」を基本理念とする金融制度改革構想（金融ビッグバン）が1996年11月に発表されたが、本年度から「ポスト・ビッグバン時代」が始まる。金融制度は一国の歴史的発展の産物であり、その国の繁栄を築くための社会的インフラである。社会が今日のように大きな変革期にあるときには、長期的な展望に立って変化を先取りして新たな制度を構築しなければならない。経営環境が大きく変化した中で、銀行は新たな道を求めて模索しているが、本講義においては欧米主要銀行の動きにも注目しながら、利用者のニーズに応える銀行のあるべき姿を探りつつ、時事問題も含め、銀行経営にかかわる諸問題を、わかりやすく解説する。

講義の内容・授業スケジュール

講義はおおよそ次のような内容を予定している。

- ① 産業構造の変化と金融
- ② わが国の金融制度の沿革と特徴
- ③ 銀行の機能
- ④ 銀行の業務
- ⑤ 信用秩序の維持と諸規制
- ⑥ 欧米金融事情
- ⑦ これからの銀行経営のあり方

履修上の留意点

講義は基本的な事柄を取り上げ、わかりやすく解説するよう心がけるが、それでも不明な点があれば、質問を歓迎する。

成績評価の方法

学年末の定期試験（リポート試験）で評価するが、授業への出席状況をも加味して総合評価する。

教 科 書

使用しないが、適宜プリント資料を配布する。

参 考 書 等

- ・日本銀行金融研究所『新版 わが国の金融制度』（ときわ総合サービス株式会社）1995年 2,621円
- ・田丸 務『新版 現代の銀行』（財経詳報社）1998年 2,500円
- ・福井和夫他『ネットワーク時代の銀行経営』（富士通経営研修所）1997年 2,500円
- ・ロバート・ライタン、ジョナサン・ロウチ 小西龍治訳『21世紀の金融業』（東洋経済新報社）1998年 2,000円
- ・高瀬恭介『新版 金融変革と銀行経営』（日本評論社）1999年 3,800円
- ・高木仁、高月昭年『入門日本の金融機関』（東洋経済新報社）2000年 2,900円

科目名	担当者名	配当学科	単 位
公益企業論	その だ てつ お 園 田 哲 男	二営2・3・4選	4

講義のねらい

公益企業論の主要内容は、企業規則に関連する諸問題であり、とくに一般的企業規則と区別される意味における公益企業規則である。つまり、公益企業は、料金およびサービスに関し、規制をうけている問題であり、また、公益企業概念が本来、制度的色彩の濃いものである。本講では、今日、企業の社会的責任の問題が論じられ、国民福祉という観点から、企業のあり方が問われ、政策事項として企業規則が問題とされている中で、公益企業の規制とは何か、また、公益企業の特質とは一体どのようなものかについて理解を深めることにある。

講義の内容・
授業スケジュール

講義のすすめ方としては、前期は、公益企業概念の発達と、その問題点および公益企業概念の再検討（規制と競争）を行う。後期は、公益企業における持株会社の形成および評価について考察し、その上で公益企業の特質について理解させる。

履修上の留意点

学問は、単に知識だけを増殖するのではなく、適切な判断と意志決定を行なうための基礎となるものと考えている。本当に学ぶ意志のある学生だけが履修してくれることを望む。

成績評価の方法

成績評価においては、単元ごとに小テストやレポートを課し、総合評価とするが、大学卒業レベルの知識と問題解決能力を養う努力をしない者は厳しく評価を行うつもりである。

教科書・
参考書等

授業中に指示する。また参考文献などを挙げ、できるだけ広範な考察を行うつもりである。

科目名	担当者名	配当学科	単位
原価計算論	近藤 禎夫	二営2・3・4選	4

講義のねらい

《科目の位置づけ》

原価計算論は、たんに製造原価の算定方法を取扱うというのではなく、日常の国民生活と直接に結びついた重要な役割を果たすものであるから、その対象領域はきわめて広いといえる。たとえば価格形成問題、原価管理、予算統制、利益計画および公表会計などに関連する。このような会計と経営の両分野を包摂した科学である。

《科目の概要》

原価計算は会計領域の全般にかかわり機能している。とりわけ経営管理活動と有機的に関連づけられ測定・情報伝達・利用がなされている。企業の経営管理活動とは通常大きく二つに分けて認識される。一つは社会的存在としての企業が、それをとりまく利害関係者（株主、債権者、投資家、徴税当局、労働組合、および広くは国民大衆）に対し社会的責任を遂行する分野である。いま一つは、企業活動について意思決定と業績評価を行い、企業を活性化させ利益の獲得機会を拡大させるための活動分野である。

原価計算の役割は、前者においては公表財務諸表作成のための原価情報の提供にある。また後者についてはきわめて幅が広く、経営管理の全領域にわたって原価情報が提供される。いずれにせよ、企業経営の要となる会計情報を提供される。

本講義では、“授業の内容”等でもふれるように、「企業会計原則」を補完する「原価計算基準」の示す範囲に力点をおいて取組むことになる。したがって、まず原価計算の基本概念および基本的計算構造をしっかりと身につけるよう講義することになる。講義のはじめに際しては、商業簿記から工業会計への橋渡しを平易に展開したい。

前期においては、原価計算が制度会計の枠組みのなかで重要な役割を担っている売上原価の算定、たな卸資産（原材料、製品、仕掛品、貯蔵品など）の評価といった技術的側面を取扱う。具体的には、製造原価計算の算定プロセスを理解しやすいように説明していきたい。順序としては原価の費目別計算、部門別計算、製品別計算の算定手続きを展開することになる。この場合、当初は実際原価計算制度を前提として述べるが、後期には管理手段としての原価計算にもふれるので標準原価計算にも及ぶ。なお、さらに一歩立ち入って、原価計算の管理会計分野での適用問題にもふれる。

原価計算論は製造工業を中心とした計算体系ではあるが、サービス業（電力、ガス、鉄道などの公益事業の運賃、料金問題）など適用範囲は多様にわたる。現実の事例などを紹介しながら講義をすすめていく予定である。

講義の内容・授業スケジュール

原価計算論を学習するにあたっては、制度会計の側面と管理会計の側面との両者に関連を有するので、会計法規集を常に携帯していただきたい。

とりわけ講義は、「原価計算基準」（大蔵省・企業会計審議会中間報告、昭和37年）を中心に行なう予定である（テキストを補うプリント類は随時配布する）。さきの《講義のねらい》で述べた方針とともに、モットーは「高度な内容をやさしく」である。

2001年度においては、下掲のテキストにより以下に示す内容を講義する。

1. 原価計算の現代的役割とその考え方
2. 原価計算の概要
3. 原価の費目別計算
4. 原価の部門別計算
5. 個別原価計算の方法
6. 総合原価計算の方法
7. 標準原価計算
8. 経営計画と原価計算
9. 原価計算の歴史

成績評価の方法

基本的には平常の出席状況と学年末試験で評価する。

教科書

遠藤・近藤他著『会計学』（改訂版）森山書店 2000年 3,500円

参考書等

敷田礼二・近藤禎夫著『原価公開』（新日本出版社）1976年（絶版、図書館での閲覧を乞う）
中央経済社編『会計法規集』（2000年7月頃新版発売）

科目名	担当者名	配当学科	単位
財務会計論	わた なべ え いち ろう 渡 邊 恵 一 郎	二営2・3・4選	4

講義のねらい

財務会計論は会計学の一分野であり、企業の経営成績と財政状態を明らかにするという基本的職能を取り扱っている。財務会計の目的は、企業経営に責任を負う経営者が、投資者、債権者その他企業に利害関係を持つ外部の人々に対して、適切な企業財務情報を提供することにある。この主たる提供手段が、損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書などの財務諸表である。

講義では、財務諸表を作成するための会計処理と表示方法を中心的課題とし、またこれに関するわが国の商法、税法などの会計法規も取り上げ、さらに国際会計基準との関連にも触れる。

講義の内容・授業スケジュール

講義はおおむね下記の教科書により、この授業スケジュールは次のとおり。

- ① 4～5月 財務会計の概念（財務会計の定義、課題、制度など）、財務会計の計算構造及び会計公準と会計原則（財務会計の前提、質的特徴及び一般原則など）
- ② 6～7月、9～10月 財務会計の測定論（収益、費用、資産、負債及び資本の各構成要素に関する会計処理の具体的展開など）
- ③ 11～1月 財務会計の伝達論（個別、中間、連結の各財務諸表の作成と表示、外貨換算、財務分析、国際会計基準の動向など）

履修上の留意点

毎時間の出席率と宿題提出（年1回）を重視する。

成績評価の方法

成績評価は、出席率、宿題提出及び定期試験点数の総合による。

教科書

染谷恭次郎著『現代財務会計』（中央経済社）

参考書等

日本公認会計士協会編『監査小六法』（中央経済社）

その他

(1)授業の方法は、講義による。(2)簿記学・会計学の単位を修得していること。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
管 理 会 計 論	さる 猿 やま 山 よし 義 ひろ 広	二 営 2・3・4 選	4

講義のねらい

この講義では、すでに「簿記学」の単位を修得していることを前提として、企業における管理会計の基本思考を学びます。

講義の内容・授業スケジュール

- I 管理会計の体系
- II 管理会計における原価概念と利益概念
 - 1. 原価態様
 - 2. 全部原価計算と直接原価計算
 - 3. 分権管理のための原価概念と利益概念
- III 利益計画
 - 1. 利益計画の手續
 - 2. 損益分岐点分析と CVP 分析
 - 3. 短期利益計画のための価格分析
 - 4. 短期利益計画のための営業費分析
- IV 生産現場における原価管理活動の取組み
 - 1. 原価企画・原価改善・原価維持の概念
 - 2. TDK株のケース
- V 組織構造の変革と管理会計
 - 1. マネジメントコントロール・システムとは何か
 - 2. 組織形態と責任会計の関係
 - 3. 事業部制会計について
 - 4. マイクロ・プロフィットセンター制
 - 5. 京セラのアメーバ経営、NEC 埼玉のラインカンパニー制のケース
 - 6. オムロン綾部工場、KOA株の WSM のケース
- VI まとめ

履修上の留意点

「管理会計論」は計算科目なので電卓を持参すること。

成績評価の方法

レポートを重視します。

教科書

適宜プリントを配布します。

参考書等

より体系的に勉強したいという人のためには、櫻井通晴著『管理会計』（同文館）。計算問題については、日商簿記検定の「工業簿記」「原価計算」のテキスト。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 営 分 析 論	かたがき のぶ お 片 桐 伸 夫	二営2・3・4選	4

講義のねらい

経営分析とは、文字どおり「企業の経営を分析すること」であり、かなり多方面にわたる内容をもっています。

皆さんが将来を託そうとする会社は、

- 1 財政的に安定しているだろうか（安定性分析）、
 - 2 「儲け」はどうだろうか（収益性分析）、
 - 3 経営活動の成果はきちんと配分されているだろうか（生産性分析）、
 - 4 長期的な会社の「伸び」はどうだろうか（成長性分析）、また、
 - 5 社会に対してどのように貢献しているだろうか（社会性分析）、
- といった内容です。

講義の内容・
授業スケジュール

前期は、企業の毎期の経営活動を報告する「貸借対照表」や「損益計算書」などの「財務諸表」の読み方をまず説明し、安定性・収益性分析を学習します。

後期は生産性・成長性・社会性分析や、さらに、損益分岐点・利益増減その他の分析を取りあげます。

「各自が企業の経営を分析できるようになる」ため、授業で必要最小限の理論を学び、ただちに、新聞などの最新のトピックによって企業の現実にふれます。

履修上の留意点

この授業の目的は、「財務諸表分析」を中心に、各人が就職を希望する、あるいは興味を持っている会社の「分析」をしていただくことにあります。つたなくても、ささやかでも、その成果は皆さんの貴重な「財産」です。

成績評価の方法

成績評価はレポートと授業中のテストで行います。学年末試験は行いませんのでご注意ください。

*レポート・テーマ：前期「各自が関心を持っている企業の収益性・安定性分析」

：後期「各自が関心を持っている企業の成長性その他の分析（続）」

☆提出日（授業はじめに配付するシラバスに明記）以外は受け付けませんのでご注意ください。

*テスト範囲：財務諸表数値を用いた経営比率の算出問題。

☆質問は授業以外にも研究室2307号室で随時受け付けますので、遠慮なくおいでください。

教 科 書

開講時、指示します。

参 考 書 等

随時、紹介します。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
税 務 会 計 論	たか 高 木 克 己	二営2・3・4選	4

講義のねらい

今日、租税は我々個人にとっては、所得税、相続税等の問題として、また、企業にとっては、法人税の問題が大きな関心事として存在している。ここ数年、法人税も税率の引き下げをはじめ、多くの改正がおこなわれている。本講義では、普通法人（株式会社等）を前提とした法人税の算定過程を中心に講義を進めていく。

税務会計とは、一般に企業における課税所得の算定過程を研究する分野をいう。この課税所得は、商法あるいは企業会計原則等によって算出された利益にもとづいて算定される。そこでは、法人税法固有の規定（いわゆる別段の定め）が適用され、負担の公平、簡便性、あるいは政策的配慮等さまざまな考え方が反映されている。講義では、こうした税法固有の考え方の根拠、背景等を出来るだけやさしく説明しながら、今日、法人税法の抱えている問題点を明らかにしていきたいと考える。

講義の内容・ 授業スケジュール

講義内容の概要は次のとおりである。

1. 法人の種類及び課税所得の範囲等
2. 同族会社と青色申告
3. 課税所得の計算構造
 - (1) 企業利益と課税所得の関係
 - (2) 益金の額及び損金の額
 - (3) 公正処理基準及び資本等取引
4. 収益の計上基準についての原則的な考え方
 - (1) 引渡基準
 - (2) 特殊販売収益の計上基準
 - (3) 役務、請負、譲渡収益等の計上基準
5. 受取配当金益金不算入
6. リース取引
7. 給与（報酬、給料、賞与）の税務処理基準
8. 交際費及び寄付金
9. 有価証券、棚卸資産、固定資産、繰延資産等の税務処理
10. 圧縮記帳
11. 引当金と準備金
12. 企業を巡る国際課税の問題
 - (1) 移転価格税制
 - (2) タックス・ヘイブン対策税制
 - (3) 外国税額控除制度
13. 法人税額の計算

履修上の留意点

「簿記学」「会計学」等の基礎的な会計科目を修得した上で履修した方がより理解が深まると思われる。

成績評価の方法

原則として学年末の試験によって評価する。レポートは年1回程度提出を求める。

教科書

講義で使用する教科書、参考書等については開講時に指示する。

その他

毎回出欠をとるかどうかは、初回の講義の中で受講生諸君と相談して決めたい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
日 本 経 済 史	きた しま まん じ 北 島 万 次	二営2・3・4選	4

講義のねらい

第Ⅰ部 日本経済史総論

日本における無階級社会（原始社会）から階級社会（奴隷制社会・封建制社会・資本制社会）にいたるまでの経済史発展の移り変わりについて、そのあらましを述べる。

第Ⅱ部 幕藩体制社会の経済のしくみとその発展

1. 幕藩体制社会における経済構造とその特質について述べる。
2. その前提として、幕藩体制社会（封建社会の経済）のもとで、近代へ向けての経済発展がどのように展開したかについて述べる。その事例としてつぎのことについてふれる。

- ① 江戸時代後期、畿内における棉作経営の展開とその実態
- ② 開港直前における信州諏訪製糸業の展開
- ③ 江戸時代後期、上州における地主制とその経営

第Ⅲ部 幕末維新期の経済変動

1. 明治維新と外圧についてのあらまし
2. 幕末貿易の展開とその実態
3. 日本における資本の形成
 - ① 秩禄処分過程
 - ② 銀行資本の創出
4. 資本の投資
5. 地租改正の実態とからくり

*教材はその都度配布する。

成績評価の方法

出席点とテスト。(注) 出席の著しく悪い受講者には単位を認定しない場合がある。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 済 政 策	にし やま つかさ 西 山 司	二営2・3・4選	4

講義のねらい

従来、経済学の学問体系は、理論、政策、歴史、財政・金融、経営・会計の諸分野から構成されており、特に第二次世界大戦後の現代資本主義経済においては、経済政策を応用経済学の一環として重視する傾向が深まってきているといわれています。

このような動向に対応して、本年度の経済政策の講義は、経済政策の方法論や政策理論の究明および経済政策の史的展開過程の解明を中心に、各国で実施されている現代の経済政策についても論述する予定です。

特に経済政策の実践性と関連した「価値判断」論争をめぐる諸問題点や、従来の経済政策論の主要な学説を検討するとともに、経済学体系における経済政策論の理論的位置を論究し、その果すべき課題を究明して、経済政策論の体系的な解明をおこなうように努めます。

講義の内容・授業スケジュール

年間の授業スケジュールとしては、大きく前期と後期とに大別して、前期には、主として、経済政策の方法論や政策理論について論究し、後期には、資本主義発展と関連した経済政策の史的展開過程と、その特質について論述する予定です。

履修上の留意点

講義の重要箇所や問題点など主要な内容については、出来るかぎり板書して詳説する予定です。受講される諸君は出席してノートされるように希望します。

成績評価の方法

学年末試験が中心になるのは当然ですが、出席も重視します。

教 科 書

開講時に指示します。

参 考 書 等

清水・松原編『経済政策論を学ぶ』〔新版〕(有斐閣)
なお、講義に関係する文献は、その都度紹介するようにします。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
財 政 学	はや <small>のぼる</small> 速 水 昇	二営2・3・4選	4

講義のねらい

私たちの日常生活は、そのほとんどの側面で直接・間接的に政府の経営活動の恩恵を受けている。たとえば、出掛けに傘を持っていくべきか否かは、適確な天気予報によって判断できるし、病気や怪我をしたときにかかる医療費は医療保険のおかげで実際に支払った額の割程度ですむ。また、道路・港湾などの社会資本整備は公共部門が供給しているなど、政府はさまざまな役割を担っている。さらに金融不安、国際の累積残高、高齢化・少子化社会、規制緩和など政府が解決しなければならない問題が非常に多くある。

その反面、わが国の財政は、平成12年度末で国債の発行残高が約364兆円、地方公共団体の赤字が約187兆円、これに約28兆円の旧国鉄の債務や「隠れ借金」といわれる林野事業等の特別会計の借金などを加えると、財政赤字は実に約647兆円になる。この数字は12年度わが国のGDP見込みの129.6%に相当する。EU（ヨーロッパ連合）の基準だと健全な国家の財政赤字はGDPの60%とされているから、わが国の財政はいかに不健全な状態であるかが理解できる。最近の景気低迷、これから高齢化・少子化社会に向けて、納税者としての立場、あるいは日本国民としての立場から財政の問題を考えていくことが大切であるという認識に立って授業を行う。

成績評価の方法

試験 授業中の小テスト

教科書

速水昇著 要説『財政学』（学文社）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
国 際 経 済 論	なが 永 田 とも 智 則	二 営 2・3・4 選	4

講義のねらい

現在の国際経済は、各国経済の急速なグローバル化の進展にともなって、ダイナミックに変動しています。その中で、各国経済は緊密な相互依存関係を構築することによって国際社会から大きな利益を得ています。同時に、相互依存関係の緊密化は、ややもすれば国際間に相互対立を生み出し、さまざまな国際経済現象を引き起こしています。どの国の経済も国際経済の動向と無縁であることはできませんし、逆にどの国の出来事も国際経済に影響を及ぼします。

本講義の目的は、現実が生じている国際経済現象の解明に役立つような基礎的理論を簡潔に提示することにあります。「なぜ貿易が行われるのか」から説き起こし、最近の東アジアの経済発展に大きな役割を演じている「直接投資」まで題材にして講義する予定です。

分析道具が習得できれば、それを利用することによって現実の国際経済現象を自ら解明できるようになるはずです。

講義の内容・
授業スケジュール

本年度の講義内容は以下の6つのテーマを予定しています。

1. 国際分業論
2. 貿易政策
3. 経済成長と貿易
4. 国際マクロ経済学
5. 外国為替と国際収支
6. 資本の国際移動

履修上の留意点

授業中は他の受講生に迷惑が及ばないように、私語を謹み、携帯電話の電源を切るなど全員が授業に集中できるように心がけて下さい。授業内容で不明な点や疑問点があれば遠慮なく質問して下さい。

成績評価の方法

成績評価は、原則として学年末の定期試験で評価しますが、授業への出席も重視します。途中、検討課題を出すことも考えていますので、総合的な評価になることもあります。定期試験だけを受けて、要領よく単位をとりたいと考えている人は、受講を遠慮して下さい。

教 科 書

下記の書物と、授業中に配布するプリントを併用します。
清野一治他著『入門・国際経済学』（有斐閣）3,400円＋税

参 考 書 等

随時必要に応じて紹介します。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日本経済論	は どり 羽 鳥 茂	二営2・3・4選	4

講義のねらい

多様な経済システム（日本の経済システムもその1つ）がどのようにして生まれ、また、それらはどのように進化していくのでしょうか。このことを考えてみたいと思います。

講義の内容・
授業スケジュール

情報・組織・契約のミクロ経済学と、それらの理論的基礎を提供するゲーム理論、およびゲーム理論のフロンティアの1つである進化ゲーム理論の新しい展開をふまえて、「講義のねらい」にチャレンジします。

履修上の留意点

受講生としての一般常識を持っていることはいうまでもないですが、下記の参考文献を必要に応じて参照し、授業内容の理解を確かなものにするよう努力してください。

成績評価の方法

後期授業終了後、筆記試験で評価します。

教科書

青木昌彦、奥野正寛編著『経済システムの比較制度分析』（東京大学出版会、1996年）3,200円

参考書等

読みやすいと思われる順になっています。
 [A] 鶴光太郎『日本的市場経済システム』（講談社現代新書、1994年）
 [B] ジョン・マクミラン『経営戦略のゲーム理論』（伊藤、林田訳、有斐閣、1995年）
 [C] 中山幹夫『はじめてのゲーム理論』（有斐閣、1997年）
 数学はつぎの2冊が適当だと思います。
 [D] 高橋渉『現代解析学入門』（近代科学社、1990年）
 [E] 永谷裕昭『経済数学』（有斐閣、1998年）

その他

数学が必要なときにはできるだけ解説しますが、諸君達の努力は不可欠です。意欲ある皆さんの出席を期待しています。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
証 券 市 場 論	佐 藤 昇 ^{のびる}	二 営 2・3・4 選	4

講義のねらい

資金の調達・運用手段として、有価証券の役割が近年ますます重要性を高め、間接金融を中心とする企業金融は大きく変貌しようとしている。講義では証券市場の機能、市場構成など基礎的な分野の現状解説に止めず、市場の歴史・現状・将来展望を検討し、市場変化の方向性や必然性を見極める事に留意する。

講義の内容・
授業スケジュール

最初に証券市場で取り扱う対象である有価証券を定義するが、とくに近年における有価証券範囲の拡大傾向に注目したい。

つぎに、伝統的な有価証券である債券や株式の種類と機能、およびこれらの発行・流通市場の歴史と現状さらには将来像などについて講義する。また、債権と株式への投資を決定する際の尺度についても、計算方式と利用上の留意点を解説する。

1980年代後半にわが国の株式市場で発生した「バブル」とその崩壊は、現時点においても株式市場はもちろんわが国経済全般にわたって大きな傷痕を残しているが、バブルの歴史や発生・崩壊および後遺症伝播のメカニズムを検討する。

わが国は2001年までと期間を設定して、金融・証券市場全般の大変革「日本版ビッグバン」を実行しつつある。ビッグバン計画に盛り込まれた施策が完成した段階では市場の様相は大きく変貌する筈である。

一方、近年における金融・証券市場のグローバル化にともなって、地球規模でマネーの動きが極めて早くなっており、市場の変化は従来になく激しくなっている。

このように、内外共に激変が予想されるため、ことに証券市場に関連して重要な事態が発生した際には、その都度背景、影響などを解説する。

履修上の留意点

証券・金融市場関連のニュースに関心をもって欲しい。その上で疑問点があれば、積極的に質問をしてもらいたい。

成績評価の方法

原則として学年末の定期試験によって評価する。

教 科 書

佐藤 昇ほか著『入門現代の証券市場』（東洋経済新報社）3,200円

参 考 書 等

佐藤 昇ほか著『現代経済と証券市場』（有斐閣）2,266円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
国 際 金 融 論	あき 秋 やま 山 せい 誠 いち 一	二 営 2・3・4 選	4

講義のねらい

今日の国際取引は、経常取引（商品・サービスの輸出入）と資本取引の両面において、自由化が進んでいる。このなかで国際間の経済取引が拡大するとともに、国際間の決済とファイナンスが重要な問題となってきた。決済は外国為替を用いて行われるので、経常取引と資本取引にもとづく外国為替の需給関係が外国為替相場を決定するが、逆にその変動が経常取引と資本取引に影響を与え、ひいては各国の経済活動全体に影響を及ぼす。このため、為替相場・通貨危機が各国の経済危機の発端となり、また経済危機は為替相場・通貨危機として現れる。このような今日の経済のグローバル化のもとでは、外国為替の仕組みや国際金融市場の一定の知識がなければ、各国および世界の経済状況を正確に理解することはできない。そこで、外国為替や国際金融問題を理解するために必要な基礎的知識を得ることをねらいとして主に以下の内容で講義を進めたい。

講義の内容・授業スケジュール

第一に国際経済取引の全体とその通貨金融との関係を知るための国際収支概念の説明とその決定要因とファイナンスについて見ていく。
 第二に国際決済や資金移動に使われる外国為替の原理と国際通貨を問題とする。
 第三に所在国通貨以外の通貨を用いて国際金融取引を実行するユーロ市場を問題とする。
 第四に国際通貨制度の歴史的発展と為替相場変動を見ることで、一見無秩序に思われる今日の変動相場制の下における為替相場変動の要因を問題とする。

履修上の留意点

講義の理解を助けるため経済理論、国際経済・貿易論、貨幣・金融論等を並行して履修していることが望ましい。

成績評価の方法

成績評価は、原則として学年末試験によって、さらに小テスト、レポートを加味して行なう。

教科書

授業時に指定する。

参考書等

授業の進行に沿って紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
統 計 原 論	やまの 山 うち しん じ 慎 二	二 営 2・3・4 選	4

講義のねらい

大雑把に言えば、統計学は「確率と分布」の性質を用いたデータ処理を通して、「母集団」及び「標本」という2つの親子関係の言葉を繋げて、知識や技術を議論する学問である。

本講義では、最初に簡潔に確率論の基礎を紹介し、次にデータ処理によって母集団と標本の関係を捉え、最後に統計的推測として推定と検定等を丁寧に説明する。本講義では、実用性を重視し、統計的方法や概念を豊富な例題や数値例によって説明し、数式の使用も必要最小限に止めていきたい。

講義の内容・
授業スケジュール

講義内容は以下の通りです。

序説	生活のなかの統計学、量的データと質的データ	1 回
基礎的概念	階乗と総和、順列と組合せ	2 回
記述統計	度数分布表、平均と分散、相関係数	3 回
確率論の基礎	集合、標本空間、確率、2項分布、正規分布	6 回
前期復習と中間試験（7月中旬）		2 回
標本分布	χ^2 分布、t分布、F分布	2 回
統計的推定	点推定（不偏推定、モーメント法、最尤法）	4 回
仮説検定	片側と両側検定、有意水準、棄却域、適合度検定	4 回
回帰と相関	線形回帰モデル、相関係数の標本分布	2 回
後期復習と定期試験（翌年1月中旬）		2 回

履修上の留意点

年間数回程度の練習問題を適時に配布します。これを本講義内容の基礎的部分をもとに、独自に解ければ、中間試験と定期試験はまず大丈夫でしょう。

成績評価の方法

講義への出席状況及び中間試験と定期試験の結果により総合的に判断します。

教 科 書

佐和隆光著『初等統計解析 改訂版』（新曜社）1997 1,500円（税別）

参 考 書 等

数値表としての参考書：
森口繁一編『新編 日科技連数値表』（日科技連出版社）1996 510円（税別）

そ の 他

授業の方法—講義（OHPを使用する場合があります。）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 営 情 報 論	たか い てつ お 高 井 徹 雄	二 営 2・3・4 選	4

講義のねらい

経営スタッフの役割は、意思決定を支援すること、すなわち、意思決定者が適切な意思決定を行えるよう、決定の指針となる情報を提供するとに外ならない。
本講義では、将来、企業や官庁における経営スタッフを目指す諸君のために、経営情報に関するシステムの観点と、情報利用技術の基礎について解説する。

講義の内容・
授業スケジュール

- I. 経営情報とシステムの観点（前期）
- (1) 科学とシステムの観点（4月～5月：4週）
情報学のバックグラウンドにある考え方や知識について整理する。科学の方法とシステムのなものの方、それに基づく問題へのアプローチとはどのようなものかについて理解を深める。
 - (2) 情報学の基礎と周辺領域（5～6月：5週）
情報処理技術に関わる基礎的な勉強をする。主としてコンピュータベースのシステムによる情報の取り扱いに関し、知っておくべき基礎的事項について整理する。
 - (3) 情報環境の発展と経営における利用（6月～7月：5週）
経営の場における意思決定と情報利用技術の関わりについて学ぶ。企業における情報利用の形態の変遷を概観する。また、インターネットと同様な環境をベースとした、イントラネット・エクストラネットに触れ、現在から近未来における戦略的な情報の利用とはどうあるべきかについて考察する。
- II. 情報の利用技術（後期）
- (1) 多変量データ解析（9月～10月：7週）
調査収集された生のデータは、そのままでは情報としての価値はない。データを加工・分析し、それが表す意味を解釈することで初めて意思決定のための情報が得られる。ここでは、定量的データを分析するための、重回帰分析、主成分分析、判別分析法を、またアンケート調査などで得られる定性的データを分析するための数量化理論について、その原理と適用方法を学ぶ。
 - (2) シミュレーション（11月～12月：4週）
複雑な対象の動的な特徴を分析するための有力な方法としてシミュレーション技法がある。ここでは、モンテカルロ法など乱数を用いる基礎的方法に触れた後、離散系シミュレーションモデルの構築方法を学ぶ。
 - (3) DSSとES（12月～1月：3週）
人工知能の原理と、その経営の場での応用として期待されるDSS（意思決定支援システム）、ES（専門家システム）の概要について学ぶ。
※なお、適宜（前期3、後期5回程度）、情報教育センターのコンピュータールームを利用して実習形式で授業を行う。

成績評価の方法

前期、後期末に実施する筆記試験に基づき評価する。
その他、出席状況と実習授業時の課題も評価に反映する。

教科書

開講時に指定する。

その他

情報処理基礎、統計原論を先にまたは同時に履修しておくことが望ましい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 営 統 計	ちよう 長 こつ 国 きよう 強	二営2・3・4選	4

講義のねらい

統計と企業経営の関わりについてを展開する経営統計とは、分析目的に対応して主に経営情報としてのデータを収集・処理・分析し、複雑な現象を理解すると共に、データを生成した集団や構造についてを予測し、いろいろな意志決定をサポートすることである。経営的意志決定において最も重要なことは、将来の経営状況をどう見るかであり、その予測に対して経営統計は十分な役割を果たされるはずである。

この講義では、企業経営における統計データの具体例を数多く取り入れることによって、経営統計の手法をわかりやすく説明していく。また、数学苦手の学生を配慮し、講義の内容説明は微積分などの計算をいっさい用いず、数式の使用も必要最小限に止める。

講義の内容・
授業スケジュール

予定している講義内容は以下の通りである。

経営統計について：	経営統計の役割、基礎概念	1回
統計特性値：	平均、分散、正規分布	2回
市場調査と統計整理：	調査の諸段階、標本設計、データ整理	6回
統計推測：	標本分布、区間推定、仮説検定	2回
前期復習と中間試験：	(7月中旬)	2回
経営時系列：	季節指数、時系列予測	4回
経営指数：	物価指数、数量指数	2回
分散・回帰分析：	一元配置法、相関係数、最小2乗法	3回
統計的意志決定理論：	意思決定基準、期待効用理論	2回
後期復習と定期試験：	(翌年1月中旬)	2回

履修上の留意点

年間6回程度の演習問題を適時に配布し、それを独自かつ理解的に解ければ、中間試験や定期試験に心配する必要はない。

成績評価の方法

講義への出席状況と中間・定期試験の結果により総合的に判断する。

教科書

特に使用しないが、プリントは適時に配布する。

参考書等

西田俊夫・田畑吉雄共著『経済・経営の統計学』（培風館）1992
守口栄一・竹田仁共著『経営数学：経営統計とその応用』（日本理工出版社）1992

その他

統計学、あるいは統計原論を先にまたは同時に履修することが望ましい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
経 営 科 学	小 沢 利 久 <small>お ざわ とし ひさ</small>	二 営 2・3・4 選	4

講義のねらい

経営科学 (Management Science) とは、経営活動において生じる様々な意志決定を科学的に支援する方法論について考える学問であり、数学モデルを用いて問題を解決しようとする点に特徴がある。本講義では、経営科学的な問題のとらえ方と問題解決のための代表的な手法について学んでいく。

講義の内容・授業スケジュール

大きく分けて次の二つの内容を扱う。一つめは、最適化という概念と最適化のための手法である。例えば、与えられた資源 (原料、生産設備、労働力など) から生産計画を立てるという問題は、使用可能な資源の量に関する制約条件の下で利益を最大化するという数学的な問題として表すことができる。この例において最適化とは、与えられた資源を利益が最大となるように各製品の製造へ割り振ることを意味する。最適化のための代表的な手法として線形計画法、動的計画法、ネットワーク解析などがある。しかし、経営活動における意思決定の場面では、単一的な基準から最適化を図ることは必ずしも適切ではない。そのような場面では、得られる情報を多面的に分析していくことが重要となる。その為の考え方を提供しているのが意思決定の理論である。

二つめは、確率的に変動する現象をモデル化し、分析するための方法である。例えば、スーパーのレジに行列ができる理由を考えてみる。閉店までには全ての客が精算を済ませて帰っていくことから、もし、客が適当な等間隔で到着すればだれも待たずに済むはずである。よって、単位時間当たりに到着する客の数が増えたり減ったりと時間的に変動することが、行列を生む原因であると言える。このように時間とともに不規則に変動する現象を理解し分析する方法として、待ち行列理論、在庫管理など、また、関連してオプションの価格付け理論などがある。オプションの価格付け理論では、株式を原資産として構成されたオプション (金融証券) に価格をどう付けるかという問題を扱うが、そこでは株価の時間的変動に対する理解が重要なポイントとなる。

以下に、講義項目一覧を示す。ただし、1年間の講義で全てを取りあげるのは時間的に無理であり、今年度は*の項目を優先することとする。

1. *線形計画法：問題の定式化、シンプレックス法、感度分析、双対定理
2. ネットワーク解析：最短経路問題、PERT/CPM
3. 動的計画法：最適性の原理、確定的多段階決定問題、確率的多段階決定問題
4. *意思決定の理論：不確実性の下での意思決定、情報の価値、階層的意決定法(AHP)、データ包絡分析法 (DEA)、ゲームの理論
5. 在庫管理：経済的在庫量、発注点法、定期発注法
6. *オプションの価格付け理論：コールオプション、裁定定理、幾何ブラウン運動、Black-Scholes の公式
7. *待ち行列理論：M・M・S 及び M・M・S・K モデル、簡単な待ち行列ネットワーク

履修上の留意点

経営科学の手法を理解するためには数学的モデルの取扱いに慣れる必要があり、若干の数学的知識 (高校の数学でいえば数Ⅰ、数Ⅱ、数A程度) を必要とする。これについては適宜講義の中で補っていく。教科書は講義内容を理解するための補助として指定するものであり、講義では教科書が全く触れていない内容も扱う。また、経営科学の手法は、毎回の講義を積み重ねて初めて理解できるものであり、途中で抜けるとその後を理解することは困難である。よって、毎回出席してきちんとノートをとること。手法についての理解を深めるために適宜演習を行う。

成績評価の方法

演習課題と試験 (前期末、後期末) により総合評価

教科書

田畑吉雄著『経営科学入門』(牧野書店) 2,900円

参考書等

経営科学概論、統計原論を先にまたは同時に履修しておくことが望ましい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
生 産 管 理 論	ふじ 藤 原 篤 志	二 営 2・3・4 選	4

講義のねらい

本講義では財務管理、販売管理、労務管理とならぶ現代企業における経営管理の部門管理の1つである生産管理について、また生産システムや生産領域での諸問題について講義を行う。生産管理は文字通り、企業の経営活動における生産の管理であり、財の生産に投入する生産諸要素(資材、設備、労働力)を総合的に調整することにより、企業の生産効率を最大にすることを目的とし展開されている。しかも資本主義社会において企業は利潤の獲得を目的としてその活動を行うので、一般的な管理における利益計画に基づいて生産の管理が展開される。本講義では、このような視点で体系的に生産管理について解説したい。さらに企業内の狭義の生産管理の問題にとどまらず、サプライヤーとの関係をも含んだ生産システムや、広範に生産領域上の諸問題についても解説することを予定している。最後に、企業における生産活動は言うまでもなく労働者による労働と密接に関連している。企業において展開される生産管理や生産システムが労働に及ぼす影響もまた本講義での考察の対象となっている。

講義の内容・授業スケジュール

前期では、生産管理について全般的体系的に解説する。まず最初に生産に関する基本的用語を確認した後、企業経営における生産管理の位置付けについて、次に企業の全般的な管理と生産管理との関連、すなわち利益計画と生産管理との関連について解説する。その後、生産管理の構成とその内容、具体的には生産計画、設備管理、資材管理、作業研究、工程管理、品質管理、原価管理について具体的な資料を用いながら解説する。

後期では、生産システムの歴史的な展開として、テイラー・システム(科学的管理法)、フォード・システム、トヨタ生産システムについて解説したい。その他、オートメーション、TQC、日本の生産システムとその海外移転等について述べる予定である。

履修上の留意点

講義ではできるだけわかりやすくゆっくりと解説し、かつ極力板書するが、前期の内容は少々複雑なものも含むので、講義に対する受講者の熱心な姿勢が不可欠である。そのため講義中の私語は厳禁である。私語や携帯電話の呼出音等、講義を妨げる者は即座に退室扱いになるので注意すること。

成績評価の方法

主として定期試験で行う。

教科書

指定しない。

参考書等

山下高之『体系 生産管理論』(中央経済社)1990年
その他の参考書は講義の中で指示します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
ド イ ツ 経 営 学	たか はし しげ お 高 橋 成 夫	二 営 2・3・4 選	4

講義のねらい

ドイツ経営学の性格や内容を、この学問の歴史の中で明らかにするとともに、現代のドイツの企業経営制度の特徴を説明することにある。

講義の内容・
授業スケジュール

- I. ドイツ経営学の生成
- II. ドイツ経営学の展開
 - (1) 科学的私経済学と技術論的私経済学
 - (2) 私経済学的企業経済学と規範的・技術的経営経済学
 - (3) 理論科学的経営経済学と応用科学的経営経済学
- III. ドイツ経営学の現状
 - (1) 意志決定志向的経営経済学
 - (2) システム志向的経営経済学
 - (3) 労働志向的経営経済学
- IV. ドイツの企業経営制度

履修上の留意点

積極的に出席することが望ましい。

成績評価の方法

定期試験や出席状況等を総合して評価する。

教 科 書

特定の教科書は使用しない。

参 考 書 等

北野利信編『経営学説入門』（有斐閣新書）
北村健之助著『経営経済学』（学文社）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
シ ス テ ム 論	あお き たけ のり 青 木 武 典	二 営 2・3・4 選	4

講義のねらい

経営学、経営科学、システム科学、コンピュータ・サイエンスやこれらの関連領域で用いられるシステムに関連する主要な概念やモデルについて修得する。また、いくつかのモデルについて簡単な例題をとおしてシステムに対する理解を深める。

講義の内容・
授業スケジュール

0. オリエンテーション（本講義の概要説明）
 1. 情報とシステム
 2. 意志決定とシステム
 3. 企業とシステム
 4. ネットワーク社会とシステム
- （前期は1、2、後期は3、4を講義する。）

履修上の留意点

特定の領域について事前の知識は要求しないが、いくつかの数学的モデルについては、高校の数学Ⅰ程度の学力が必要である。また、授業では直接コンピュータを使用することはないが、エクセルなどの表計算ソフトが使えることが望ましい。

成績評価の方法

学年末試験の成績を60%、学期中に出题するレポート（4回程度）を40%程度の割合で総合的に評価する。（通常の授業時に出席はとらない。）

教 科 書

斉藤雄志ほか『インターネット時代の情報管理概論』共立出版

参 考 書 等

高原康彦・中野文平編『経営システム』日刊工業新聞社
高原康彦・高津信三編『経営情報システム』日刊工業新聞社

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
民 法	お 織 だ てる こ 織 田 晃 子	二 営 2・3・4 選	4

講義のねらい

このクラスは民法及び民法1が講義の対象とされている。そこで、民法総則を中心に行うが、具体的には取引行為、特に契約を通して必要があれば物件にもふれながら、下記の講義内容を進める。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1 権利の主体
 - (1) 自然人
 - ① 権利能力
 - ② 意思能力、行為能力
 - ③ 不在者、失踪宣告
 - (2) 法人
 - ① 法人の意義・本質
 - ② 法人格否認の法理
 - ③ 権利能力なき社団・財団
 - ④ 法人設立とその能力
 - ⑤ 法人の不法行為責任
- 2 権利の客体
 - (1) 物の概念
 - (2) 不動産と動産
 - (3) 主物と従物
 - (4) 元物と果実
- 3 権利の変動
 - (1) 法律行為
 - (2) 意思表示
 - (3) 代理
 - (4) 無効及び取消
 - (5) 条件及び期限、期間
 - (6) 時効

履修上の留意点

六法は必ず持参すること。

成績評価の方法

期末試験の成績と出席日数により評価。

教 科 書

河野弘矩著 改訂版『民法総則講義』（八千代出版）3,100円＋税

参 考 書 等

『ポケット六法』（有斐閣）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
商 法	しま 島 原 ひろ 宏 あき 明	二営2・3・4選	4

講義のねらい

実質的な商法の領域の中から主に会社法を対象として講義を進めて行く。商法は民法と共に私法と言われる領域を構成しており、民法の特別法という地位に立つ。したがって本来は商法を学習する以前に民法の基礎知識があることが望ましいが、実情を考慮して、個々の論点の中で民法あるいは法学の領域にまで遡って説明することで補って行くつもりである。

会社法という領域は、商法典の中の第二編会社を中心として、有限会社法、商法特例法等によって構成されている。また、商法上の会社には、商法典に規定されている合名会社、合資会社および株式会社と、有限会社法に規定されている有限会社の四つがある。本講ではこの中から、現代資本主義社会において最も典型的な企業形態であり、かつ最も複雑な法規則を受けている株式会社の制度を中心として解説していく。

講義の内容・授業スケジュール

具体的には、①商法上の四つの会社の特徴、②株式会社の設立、③株式と株券、④株式会社の機関、⑤新株発行、⑥株式会社の計算、⑦社債、の順に講義を進めて行く。また、企業活動との係わりの薄い学生諸君にいくらかでも現実感を持ってもらうために適宜、コピーした判例を配布し、解説して行くつもりである。

成績評価の方法

期末試験による。

教科書

宮島 司『会社法概説（二訂版）』（弘文堂）3,811円

参考書等

倉澤康一郎『商法の基礎〔三訂版〕』（税務経理協会）2,900円
 なお、小型の物でよいが必ず六法全書を携行すること。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
労 働 法	^{ふじ} 藤 ^{もと} 本 ^{しげる} 茂	二営2・3・4選	4

講義のねらい

今日、労働関係は、雇用調整・リストラ、あるいは、出向・転籍や年俸制の導入に見られるように大きく変貌を遂げようとしています。終身雇用や年功型賃金体系といった従来の日本的雇用慣行に見直しがなされています。現在は、激動期にあるといえましょう。労働法は、労働関係において生じる紛争を法的に解決する方法を検討する法領域です。この変動に無関係ではありません。労働法もまた、社会構造の変化とともに変わっていかざるをえません。

この激動期において、労働者個人に降りかかるさまざまな事象は、労働保護法領域において、顕著であるといえましょう。労働基準法の改正（裁量労働、労働時間の弾力的運用の拡大、有期雇用契約の期間の拡大）、解雇制限などの分野がありました。男女雇用機会均等法、労働者派遣法、職業安定法などの改正もなされました。

労働組合を中心に扱う集団的労働関係法領域では、労働条件決定に果たす組合の役割について、法的にどう位置づけられているかを概観します。

解釈においては、何が、変わるのかまた、このような中であっても変わるべきでないものは何か。基本的な事項について、基礎的な知識を得ることは、重要なことであると思います。

講義の内容・
授業スケジュール

(1) 授業では、(2)にあるような事項について、基本的なことを中心に論じて、現代的課題に言及しようと思います。

(2) 内容、スケジュールについては、第1回目の授業のときに、配布するプリントで述べます。ここでは、一応のアウトラインを述べるに止めます。

- ① 労働法の基礎的考え方
- ② 労働関係の主人公——労働者、使用者、労働組合
- ③ 労働条件の最低基準の法定——労働基準法の特徴
- ④ 雇用における平等——同一労働同一賃金、雇用機会均等法、セクシュアルハラスメント
- ⑤ 労働条件の決定——労働契約、就業規則、労働協約
- ⑥ 組合が自由に活動できる環境の整備——不当労働行為
- ⑦ 雇用の入り口——採用、採用内定、試用期間
- ⑧ 人事異動——配転、出向、転籍
- ⑨ 雇用の出口——解雇、定年、退職
- ⑩ 賃金、諸手当、退職金
- ⑪ 労働時間、時間外労働
- ⑫ 休憩、休日、休暇
- ⑬ 労働災害など

履修上の留意点

出席しましょう。また、積極的に質問をしてください。

成績評価の方法

成績は、平常点を加味することはありますが、学年末試験がメインです。追・再試験は実施します。

教科書

教科書は、指定しません。しかし、道しるべとしての参考書は用意してください。参考書として適当と思われる概説書をいくつか、第1回目の授業で、紹介します。これを参考にして受講者は必ず、1冊は用意してください。

その他

皆さんが、各々の事項について何が法的には論点になるのか、イメージを描きやすいように、裁判例など具体的な例を掲げながら、授業を進めることを心掛けます。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
ビ ジ ネ ス 英 語	まち い やすし 町 井 靖	二 営 3 ・ 4 選	4

講義のねらい

「商品の輸出入に関する英文の手紙」を学習する。テキスト「ビジネス英語」に従って、取引先の発見からカタログの送付、オファ、見積り、交渉、注文、船積み、クレームなど、貿易取引の各段階で良く使用される表現を学ぶ。実際の輸出入業務では英文の手紙を書く必要があるため、英作文演習には力を入れたい。

講義の内容・授業スケジュール

テキストは貿易取引の各段階で良く使用される表現を英文解釈で学び、それらの重要表現を使用して英作文をするようになっている。英作文は授業中に1題やり、数題が宿題となるが英文解釈、[研究]、[注]を良く読返して英作文を考え、それらの表現をしっかりと修得していただきたい。

貿易の専門用語の理解も必要なので、テキストの付録「貿易用語集」により、定型取引条件、為替相場、複合運送、信用状、手形買取り、海上保険などを講義する。

履修上の留意点

全員授業に参加していただくので予習（英文解釈）、復習（英作文）が必要である。英作文は間違いを恐れず挑戦していただきたい。個人的に添削指導する。

成績評価の方法

前期、後期の試験成績と出席による。

教科書

町井靖著『ビジネス英語』（創成社）1,600円（本体価格）

参考書等

教室で指示する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
外 書 講 読	か し ま ひ で あ き 鹿 嶋 秀 晃	二 営 3 ・ 4 選	4

講義のねらい

この「外書講読」では、雇用管理、労働市場について書かれた英文を読む。講義ではただの英文解釈に終わってしまうことのないよう、必要に応じいろんな議論にふれていく。最終的な目標は、①20世紀後半の欧米における労働問題の把握、②経済・経営英語力のアップの2つである。

講義の内容・授業スケジュール

本書には10の論文が含まれているので、その中から必要に応じて選択しながら読んでいく。基本は英文の全訳。

履修上の留意点

外書講読は受け身の姿勢では成果が得られないので、十分予習をしてから出席してほしい。3回を越える欠席は単位を認定しない。また、この講義の内容の基礎にあたる部分については「経営労務論」で講義するので、あわせて履修すると理解がしやすくなる。

成績評価の方法

評価方法は受講人数を見て講義の中で決めていく。少人数の場合は平素の成績（＝出席点＋発表点）で評価。多人数の場合は平素の成績と定期試験の合計で評価する。

教科書

テキストは Heery, Edmund&Salmon, John, *Insecure Workforce*(Routledge Studies In Employment Relations), Routledge, 2000の予定。詳細は4月に決定。

参考書等

英文を読むときには高等学校レベル以上の英和辞典(中学生・初學者用のものや携帯用のもの、電子辞書は不可。必ず製本された辞書を使用。)を用意しておくこと。経済用語の英和・和英辞書があるとなお良い。例えば英和英経済用語辞典(富士書房)、最新英和経済ビジネス用語辞典(春秋社)などがある。

そ の 他

最初は、高校英文法の復習もかねながらゆっくと全訳しながら進んでいく。学生に和訳してもらいながら解説をしていくことを考えているので、予習しておくこと。英語力に多少不安があっても丁寧に説明しながら進めていくので、受講者の積極的な参加を期待する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
外書講読	なかむらこういち 中村公一	二営3・4選	4

講義のねらい

近年の企業の経営活動やそれを取り巻く環境変化をテーマにした英文の講読を行う。外書講読の授業であるが、経営学関連の基本知識や最近の企業活動の動向などに関する説明も随時行っていく。授業では難しい英文解釈ではなく、企業経営に関するテーマが英文ではどのように表現され、記述されているのかということや専門用語の理解に焦点を置くので、英語に抵抗感のある人でも十分に対応できるような講義を目指す。

講義の内容・授業スケジュール

主に日本人向けに書かれた英文コラムやビジネス・ウィークなどのビジネス雑誌から、特に学生が興味深いと思える最新のトピックを用いて授業を進める。最初の頃の授業では翻訳付きの資料を用いて英文と和文の対比から内容を理解し、その後で実際の雑誌記事や入門書などの講読へとレベルアップを図る。

履修上の留意点

授業では講義だけではなく、受講者からの発表やディスカッションも行うために、課題の予習と積極的な勉強姿勢が求められる。

成績評価の方法

少人数の場合は、授業への出席と発表内容、年数回行うレポートによって判断する。多人数の場合には筆記試験も採り入れる。授業への積極的な参加姿勢を高く評価する。

教科書

テキストはコピーを配布する。

参考書等

NHK 国際局経済プロジェクト・大和総研経済調査部『対訳 英語で話す日本経済 Q&A』（講談社インターナショナル）1,800円
森岡裕一・関西生産性本部編『ビジネス・ウィークを読む』（生産性出版）1,800円

科目名	担当者名	配当学科	単位
外書講読	はやみ のぼる 速水昇	二営3・4選	4

講義のねらい

「外書講読」は1字1句言葉を確認しながら自分の力で訳すため、スピードは遅いが内容を把握する点では最適といえる。そして、経済・経営のテクニカル・タームを把握し、この大学を卒業するころには英字新聞の経済・経営の記事が読めるようにして欲しいというのが私の希望であり、講義のねらいである。

講義の内容・授業スケジュール

最初は辞書がなくても訳せるような易しい文献を選んで「外書講読」に慣れ親しんでもらう。そして、徐々に専門的な知識が身に付くような文献を講読し、専門的な知識を深めることにする。1年間で4つのテーマ、たとえば貿易摩擦(Trade Friction)、財政赤字(Deficit Finance)などについての講読を予定しているが、「外書講読」は休むと身に付かないので出席に自信のある学生を希望する。

教科書

授業中にプリントを配布

2. 他学部履修科目

2. 他学部履修科目

商	学	総	論	〈大吹勝男〉	359				
社	会	政	策	〈休講〉					
価	格	理	論	〈荒木勝啓〉	360				
国	民	所	得	論	〈吉野紀〉	361			
銀	行		論	〈齊藤正〉	362				
中	小	企	業	論	〈和田耕治〉	363			
中	国	経	済	論	〈小杉修二〉	364			
人	口		論	〈森岡仁〉	365				
ア	メ	リ	カ	経	済	論	〈休講〉		
ヨ	ー	ロ	ッ	パ	経	済	論	〈休講〉	
貿	易		論	〈古沢紘造〉	366				
法	思	想	史	〈高橋洋城〉	367				
日	本	法	制	史	〈休講〉				
西	洋	法	制	史	〈北野かほる〉	368			
経	済		法	〈岡田外司博〉	369				
国	際	関	係	論	〈首藤素子〉	369			
地	方	自	治	法	〈富井幸雄〉	370			
倒	産	処	理	法	〈奥野善彦〉	371			
中	国	禅	宗	史	〈須山長治〉	371			
日	本	禅	宗	史	〈角田泰隆〉	372			
イ	ン	ド	仏	教	史	〈池田道浩〉	372		
日	本	仏	教	史	〈袴谷憲昭〉	373			
書			道	〈野村宙弘〉	373				
仏	教	と	文	化	〈木村誠司〉	374			

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
商 学 総 論	おお ぶき かつ おお 大 吹 勝 男	二 営	4

講義のねらい

近年、大学においてさえも、学問が軽視される風潮にあります、そして生残りをかけ、学生集めのために実用主義を売りものにする大学もあります。また、大学は社会的要請に答えねばならないという主張のもとに、その実、社会ではなく、会社・企業のために大学が存在することを主張し、かつ君たちに会社人間になることを勧めるマスコミや評論家等がいます。そして一方で、学問に背をむけ、それらに迎合する大学人がいます。しかし、大学は入学した君たちのためにあり企業のためにあるものではありません。そして、大学で学ぶことは、将来君たちが人間らしく生きるための助けになるものでなければなりません。本学もまた大学である限り、学問の場でなければなりません。いいかえれば、大学でしか学べないこと、物事の見方、考え方を学ぶことです。さらにいうならば、実用的でないもの、すぐには役に立たないもの、これらを学ぶのが大学です。実用的なことは、その場限りのものであり、また入社してから容易に身につくものなのです。何年間かキャリアを積んだビジネスマンから聞くことは、大学時代に学問をしておくべきであったということです。諸君も、使い捨てのサラリーマンになることのないように、体系的に思考する能力を身につけて下さい。そして、社会に出て現実に困難な問題に出会った時に、学問をした人間として、大学の卒業生として、きちっと解決のできる人間になってください。本講義では、科学的経済学の立場から流通論を、そして商業論を講義するものであり、その内容からして商業経済学といいかえてもよいとおもいます。したがって、授業では、現代における流通および商業に関する諸現象を科学的に認識するために必要な流通理論（物流の基礎理論を含む）および商業資本の理論を講義しますが、それらの知識を習得するとともに、それらを学ぶ過程において体系的な思考方法を習得し、思考能力を高めてください。そのためには一年間を通して授業に出席することが必要です。また本講義は、君たちが履修するであろうマーケティングや商業政策・流通政策のための基礎理論を提供するとおもいます。

講義の内容・授業スケジュール

授業内容は下記の項目の通りですが、本年度は、これらの項目について講義しながら、現代企業の経営戦略において重要性を増している物流問題を考えるうえで、その基礎となる理論について特に力を入れたいと思います。

- (1) 商品論（価値論）・電子マネー
- (2) 生産過程論（労働過程論）
- (3) 流通過程論（資本の流通過程・流通時間・流通諸費用）
- (4) 資本の回転と流通資本
- (5) 商業資本の本質論
- (6) 商業資本の自立化論・電子商取引（eコマース）
- (7) 商業利潤論
- (8) 純粋流通費用論
- (9) 商業労働論
- (10) ホワイトカラー労働論（サラリーマン論）
- (11) 商業資本の回転と価格
- (12) 大規模商業資本論
- (13) 独占的商業資本論
- (14) 卸売排除論
- (15) 流通系列化論

成績評価の方法

評価は期末試験によるが、授業の予習をかねてレポートを課すこともありうる。また各授業項目が終る毎に、小テストを実施し、君たちの理解度を確かめ、一層の理解を深める手段とします。期末試験は論述形式でおこなう。再試験は実施する。

教科書

- | | |
|------------------------------|------------------|
| 1 大吹勝男著『新版流通費用とサービス理論』（梓出版社） | 5 『経済学論集』第22巻第4号 |
| 2 『経済学論集』（駒沢大学経済学部発行）第20巻第2号 | 6 『経済学論集』第26巻第1号 |
| 3 『経済学論集』第20巻第4号 | 7 『経済学論集』第27巻第1号 |
| 4 『経済学論集』第22巻第1号 | |

以上、2から7までの『経済学論集』には、大吹勝男の執筆する商業資本、商業利潤および商業労働に関する論文が掲載されていますから、図書館にてコピーして利用して下さい。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
価 格 理 論	あら き よし ひろ 荒 木 勝 啓	二 営	4

講義のねらい

価格理論の目的は、経済の中でミクロ主体が互いに競争と最適化を行うことにより、市場および経済一般がどのような方向に向かうかを研究することである。もし競争が理想的に行われ、情報や資源移動の完全性が保証されるならば、市場はパレート最適と呼ばれるある種の理想状態に達し、価格は自然に社会的厚生を最大化する水準に定められる。しかし例えば市場参加者が2という少数者で行われるならば、たとえ同様の競争自体が行われても、結果はクールノー・ナッシュ均衡とよばれるような、完全競争とは異なった市場均衡に到達するであろう。またその競争のありようによっては同じ2という参加者の競争から、シュタッケルベルク均衡と呼ばれるさらに異なった均衡状態が作り出されることになる。その点はもはやパレート最適からはほど遠い点である。

このように、価格理論は、一般に「物価水準」と呼ばれているような現実のデータとしての価格というよりも、経済の市場の枠組みやミクロ主体の行動様式に関する様々な想定から導出される as if パフォーマンスとしての価格決定を調べる科目である。従ってその分析のためにはどこまでも「最適化」手法がつかまとう。しかも経済学の場合最適化はほとんどの場合「制約付き最適化」である。

制約のないところに経済は成立しない。近代経済学を生み出した限界革命の旗手であるカール・メンガーは次のように述べる。「村にわき出る泉があり、その水をだれでもが飲めるならば、その水をめぐる経済現象は生じないであろう。しかし、旅人が増えて村人が水を自由に飲めなくなったときから泉の水に経済現象が生じ始める。」

以上のように価格理論では内容の理解がほぼ制約付き最適化手法の理解如何にかかっているといてもよい。従って講義のかかなりの部分がそのための準備と練習に当てられると期待したい。

講義の内容・
授業スケジュール

- (1) 価格理論で学ぶこと
- (2) 多変数関数と曲面
- (3) 微分、変微分、全微分
- (4) 対数関数の微分と成長理論
- (5) 生産関数、コブ・ダグラス生産関数
- (6) ベクトルの直交と勾配ベクトル
- (7) 制約付き最適化問題のグラフィカルな理解
- (8) ラグランジュ乗数法
- (9) 加重限界効用均等の法則
- (10) 練習問題
- (11) 代替効果と所得効果の計算
- (12) 需要曲線と需要の価格弾力性
- (13) パレート最適、ボックスダイアグラム
- (14) MR 曲線
- (15) 独占均衡
- (16) 消費者余剰と生産者余剰、独占均衡の死重的損失
- (17) 費用曲線と供給曲線
- (18) 生産関数から短期費用関数の導出
- (19) 生産関数から長期費用関数の導出
- (20) クールノー・ナッシュ均衡
- (21) クールノー・ナッシュ均衡解の練習問題
- (22) 等利潤曲線
- (23) シュタッケルベルク均衡解
- (24) シュタッケルベルク均衡解の練習問題
- (25) ゼロサムゲームの解法

成績評価の方法

試験はノート・教科書・参考書持ち込み可。再試験あり。

教 科 書

浅野・荒木・浅田『エコノミックス』（成蹊堂）

科目名	担当者名	配当学科	単 位
国民所得論	よし の 吉 野 おさむ 紀	二 営	4

講義のねらい

わが国は法人企業だけで277万(平成3年)あり、就業者6,400万人のうちの約68%にあたる4,380万人がここで働いている。この生産活動からさまざまな財(商品)やサービスが産出されてくるが、その種類や数量たるや膨大なものとなる。この大きさを1年という単位期間内で集計し、金額表示にしたものが大雑把に言ってGDP(国内総生産)にあたる。生産された財・サービスは、誰かが貨幣を支払って支出・購入してくれるからこそ、また次の年の生産活動を実現可能にしてくれる。その誰かは、一つは4,400万に昇る家計世帯であり、二つには他の企業であり、その他に政府もあり、日本からの輸出を引き受けてくれる海外の購入者であったりもする。ここには、財・サービスの売渡しの見返りにあたる円や外貨で支払われる貨幣の流れがみられる。これを称して経済循環とよぶが、わが国の1年間の規模は平成7暦年のGDPによって483兆円に達すると評価されている。

一つの国民経済を眺めようとするれば、このように大きな集計量と接することが不可欠となる。このことは、数限りない取引が日々結ばれていることを考えればむしろ当然と言えよう。こうした取引関係は複雑に入り込んでおり、その1つ1つを追跡すると、国民経済全体という大きな森の中に迷い込むことにもなりかねない。そこで、森の上に舞い上がって、これらの取引を上空から眺める工夫が生まれてくる。このような視点に立つ経済の分析手法が、巨視的(マクロ)分析とよばれ、経済全体の活動の成果を集計量でとらえようと編み出された国民経済計算の整備とともに発展してきたのである。そこでは、無数の複雑に絡みあった諸取引を、いくつかの類似した性質を共有するグループ(経済主体)毎に分け、それぞれの取引額を記録し、そして経済主体のさまざまな取引相互間の依存関係を説明しようとするところに狙いがさだめられている。

講義の内容・授業スケジュール

1. 「国民経済計算の話」……………5回
GDP、GNPなどの経済指標や消費、投資、輸出入などの国民経済全体をとらえる単位を理解することと、さまざまな諸取引間の相互関係を日本経済の循環図を通してとらえることが主題である。
《参考》経済企画庁「平成6年日本経済の循環図」(配布資料)
2. 「総需要・均衡産出量・均衡所得」……………4回
いわゆる単純なケインズ派の所得決定理論が、モデル分析に則って説明され、次の第3講で活躍するIS曲線の基礎理解を得ることが目標となる。このテーマの終了後、練習問題を解くレポートが課せられる。解答は配布され、解説は授業の中で行なわれる。
《参考》中谷巖『入門マクロ経済学』(日本評論社)第3章
3. 「貨幣・利子および同時均衡」……………8回
この段階で貨幣の果たす役割が明示的に導入され、前講までの主題との接合がはかられて、IS曲線とLM曲線を主な武器とする分析が進められてゆく。モデルを用いた説明が中心となるが、日本経済の現況との関連が説明の中に登場する機会も増えてゆくであろう。また、利子率に触れるとき、預貯金の利率に加えて有価証券の利回りにも馴染んでもらうことになるであろう。その他、国家公務員、地方公務員、国税専門官などの専門科目試験の例題を示す事もある。本テーマの終了時にも、簡単な練習問題がレポートの課題として課せられる。正解と解説は授業中で示す。
《参考》伊達邦春(編)『マクロ経済学』(八千代出版)第9章
4. 「金融政策、財政政策」……………4回
前講までの内容が理解されれば、金融政策と財政政策の発動によって、望ましい所得水準を達成するプロセスは比較的容易に理解できるものと思われる。その上で、国内のおよび国際的クラウディング・アウト効果を取り扱われる。アメリカのベトナム戦争時に生じた国内的クラウディング・アウト効果に関するケース・スタディは興味をよぶのであるまいか。
《参考》ドーンブッシュ・フィッシャー『マクロ経済学(上)』(CAP出版)第4章
5. 「労働市場を組み込んだ総需要・総供給分析」……………5回
ここまで扱われてきたのは、財・サービスの市場と貨幣市場であったが、これに労働市場が明示的に組み合わされる。さらに物価の変動が重要なテーマとして加わる。

成績評価の方法

基本的には期末試験による。2回の練習問題に対するレポートは一定の評価対象となりうる。再試験は原則として実施しない。

教科書

R.J. ゴードン『現代マクロエコノミクス(上)』第6版(多賀出版)

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
銀 行 論	さいとう 藤 正	二 営	4

講義のねらい

「フリー、フェア、グローバル」な金融市場の実現を掲げ、98年4月にスタートした「日本版金融ビッグバン」の展開のなかで日本の金融制度が大きく変わろうとしている。大手銀行の統合や合併、外資系金融機関の対日参入攻勢、異業種によるネットバンキングや決済専門銀行への参入、など、グローバル化とIT革命を背景とした激しい競争が「華々しく」繰り広げられている一方、バブル崩壊後の不況が長引き、不良債権処理が遅れるなかで、「銀行不倒神話」が崩壊し、金融システム不安が高まってきた。それは、特に地域金融機関において厳しく表れ、地域経済に深刻な影響を及ぼしている。

銀行を取り巻く状況はきわめて厳しいが、銀行は依然として「貨幣の供給および決済システム」を同時に担う唯一の主体であり、社会的に不可欠の存在であることには変わりはない。それゆえ、いまこそ21世紀における「持続的成長」を保証する金融システム、銀行の健全なあり方が強く求められている。

本講義では、銀行の基礎理論に関連づけながら戦後の日本経済に果たしてきた銀行の役割を具体的に検証し、今後のあるべき銀行の姿を考えてみたい。

講義の内容・授業スケジュール

- 1) 前期は戦後の日本経済に果たした銀行の役割を時期ごとに検証する。
 - ①まず、講義へのガイダンスとして、1990年代以降、銀行が直面して諸問題を概観し、新聞紙上等でよく見聞きする基本的用語と「銀行論」との関連づけを行なう。
 - ②「専門的金融機関制度」といわれる戦後日本の金融制度の特徴とそれぞれの専門機関（普通銀行、長期金融機関、中小企業専門金融機関、証券会社、保険会社など）の役割を理解する。
 - ③時期区分は、おおまかに高度成長期（1974年まで）、低成長・自由化期（1990年まで）、バブル崩壊以降（1990年代以降）とし、欧米の動向も参考にしながらそれぞれの時期にどのような「銀行理論」が展開されていたのかを紹介する。
- 2) 後期は銀行の基礎理論を中心に講義する。
 - ①銀行経営の不振とは対照的に消費者金融会社（貸金業）は史上最高の収益を達成している。銀行制度の成立以前からすでに存在していた「金貸し業者」や「高利貸し」と「銀行」の違いはどこにあるのかを考えながら、「銀行」の基本的機能および経済社会（メーカー、流通業、消費者、さらに国家など）との関連を明らかにする。
 - ②銀行が一方で預金を受け入れ、他方で貸出を行っていることは広く知られている。しかし、銀行は受け入れた預金をそのまま貸し出すのではなく、「信用創造」という銀行のみに認められた方法で行い、その際「預金通貨」という「マネー」を供給する。このメカニズムを明らかにするとともに、インターネットバンキングや電子マネーなど、エレクトロニクス技術の発展にもとづいた「キャッシュレス社会」の意味について考える。
- 3) 現代の銀行制度が抱えている主要な問題を浮かび上がらせる契機となったのが80年代後半以降の「バブル経済」と90年代以降の「バブル崩壊」、「グローバル化」である。戦後銀行制度の抜本的改革目指すビッグバンを様々な角度から検討しながら望ましい銀行システムのあり方を考える。

成績評価の方法

成績は、前期試験（またはレポート）と後期試験による評価を基本とするが、出席状況、授業態度における積極性も十分に加味するので、講義に対する質問、疑問を大いに歓迎する。再試験を実施する。

教科書

教科書は特に指定しないが、最初の講義で紹介する。授業はレジメに沿って進める。

参考書等

大橋・小西・齊藤・田村・平沢著『日本のビッグインダストリー 金融業』（大月書店）2001年
 山田・野田編『現代日本の金融』（新日本出版社）1997年
 日本銀行『新版 わが国の金融制度』

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
中 小 企 業 論	わ だ こう じ 和 田 耕 治	二 営	4

講義のねらい

平成8年度版「事業所統計」によると、わが国の第1次産業を除く約650万の事業所の内、中小企業所は98.9%を占めており、大事業所は0.7%に過ぎない。また、雇用者数についても、総雇用者、約5,435万人の内、中小事業所で雇用されているものは、80.4%、大事業所では19.6%となっている。このようにみていくと、中小企業はわが国経済において、大きな位置にあるといえる。本講義は、わが国経済で大きな地位を占めている中小企業の実態を踏まえつつ、今日までの中小企業研究の蓄積を基づいて、理論的水準を落とすことなく進めることとする。

講義の内容・授業スケジュール

中小企業に関する実態や問題を理論的、歴史的に把握した上で、中小企業を構造的視点により考察する。また、近年、中小企業研究は非常に多面的な展開を示している現状を鑑み、最新の研究動向について、触れることとする。さらに、必要に応じて、視聴覚教材を用いることにより、受講者の問題意識を鮮明化させる。

成績評価の方法

期末試験とレポートによる評価とする。片方だけの提出は合格点にはならない。

教 科 書

三井逸友編著『現代中小企業の創業と革新（仮題）』（同友館）近刊

参 考 書 等

中小企業庁編『平成13年度版中小企業白書』（大蔵省印刷局）

科目名	担当者名	配当学科	単位
中国経済論	小杉修二	二 営	4

講義のねらい

この講義は中国の長期的動態をとらえる。
現在の中国は対外開放、経済成長と生活の向上の結合、経済改革の試み等、新たな活気がみながるようになった。また、企業自主権の拡大、株式会社、個人営業の公認、失業・倒産の制度化、「1国2制度」「6.4天安門事件」等々話題に事欠かない状況である。
本講義ではこのような目前の変化をとらえると同時に、より長い視野と射程で問題を論じることとする。即ち、本講義のキー・ワードは、超大国志向、社会主義、発展途上国である。この3点で中国の長期的動態を論ずる。

講義の内容・授業スケジュール

この講義は3つのキー・ワードで歴史的解明をはかる。
前期授業のはじめに、キーワードを3週間分けて説明する。ここでは、地域研究が本来もっている特徴である、問題のさまざまな面をとらえる、ということと、そのうち比重の大きい側面は何であるかをつかむ、といった点に留意する。特に、私独自の見方である中国の超大国志向について詳しく説明する。

これにつづいて、中国経済の解明に取組むが、それは一言でいえば歴史的方法をとる。すなわち、中華人民共和国の成立(1949年)から今日までを、3つの特徴的な時期に分けて、(1)ソ連モデル(1949~57年)、(2)毛沢東モデル(1958~78年)、(3)鄧小平モデル(1978~)として、それぞれの時期の特質とその変化の動因を説明する。

このような方法をとるのは、今現在の目先の出来事も何かの方向へ向かって動いている訳だが、その方向というものは、あまり近くで見ているとわかりにくいものだからである。つまり、現在および将来というのは、過去の何らかの延長であると考えられるからである。それが単純な延長である場合もあろうし、新しい条件に見合った微修正の延長である場合もあろうし、また全く過去の否定的総括に立った転換である場合もあろう。その場合も、過去の何が否定的に総括されたのかを知らねば、将来への延長線は引かれないうであろう。そこで歴史的方法をとるわけである。

上記の3つのモデルを超大国志向、社会主義、発展途上国の3つのキー・ワードを軸にして説明していくが、そこでの中国は著しく軍事大国志向、経済成長志向である。世界の他の国々がそのような志向性をもっている中で、また中国が途上国であることからして、やむを得ない面もあるが、世界が環境問題で行き詰まりつつある中で、このような志向性のもつ問題点を相対化し得る見方をもてるように留意したいと思う。

履修上の留意点

授業の進め方は、教科書に沿った講義とビデオ上映による説明の二本立てで行っている。
教科書は専門家向けに書かれており、自明のことや初歩的なことは書かれていない。したがって、中国経済に全くの初心者であると思われる学部学生に対しては、自明とされていることや、初歩的な知識の説明を補いながら講義を行う。

また、何分にも外国のことなのでイメージがわきにくいといった問題があるので、年に数回、中国関係のビデオを見る。例えば、新日鉄宝山製鉄所、天津の用水路、長春第1自動車工場、江南億元郷、天安門激動の40年等。

成績評価の方法

受験勉強の本質は正解当てクイズである。しかし、このような方法は実社会では通用しない場合が多いし、正解も変わっていく。諸君が物事(中国経済)を自前の頭で理解し判断できるための勉強が高等教育の場である。そのために、無数にいる専門家の意見の比較、優劣判定、取捨選択、時間による検証、といった作業が必要になる。その前提になるのが、各専門家の学説の正確な理解である(学説の受入れとは異なる)。テストは基準となる一つの学説(とりあえず、私の説)の正確な理解ができたかどうかを見るものである。
(再試験あり)

教科書

小杉修二著『増補 現代中国の国家目的と経済建設——超大国志向・低開発経済・社会主義』(龍溪書舎) 4,000円

その他

学習が正解当てクイズに終わるかどうかは諸君の学習意欲にも係わっている。教科書の脚注引用文献や同第5章「諸学説の検討」あるいは授業中にその都度指摘する文献を積極的に読むことを希望する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
人 口 論	もり おか じん 森 岡 仁	二 営	4

講義のねらい

人口に関わる学問分野は数多く存在するが、とくに経済学との関係から接近しようとするところにこの授業の特徴がある。経済と人口との関係はどちらかが一方的に他に働きかけるというのではなく、互いに作用しあう相互依存の関係にある。1970年代に成立しその後大きな発展を遂げた経済人口学は、この点に注目する人口学の一分野であるが、本講義も経済人口学の立場に立って、経済と人口の相互依存の関係を理論的、実証的に追求するものである。そこにおいては、日本を含む世界全体の人口について、過去から現在、そして可能な限り将来に及ぶ人口現象にまで論及してみたい。ことに、先進工業諸国に現在共通してみられる少子化と年齢構造の高齢化の問題は、わが国においても経済との関係から早急に解決を迫られている関心事であり、将来益々その重要度を高めていく。

一方発展途上諸国に生じている人口増加の問題は、貧困からの脱却のためには緊急に解決しなければならない困難な課題を提起している。このようにみえてくると、今や人口問題は地球規模で考え、そして解決していかなければならないことが理解されよう。しかしながら、人口を取り巻く関連分野が広範囲に及ぶことから、はたしてどこまでが人口の問題であり、どこまでが他の分野の問題であるのかを的確に見極めることが重要になってくる。真の人口問題が不明確だとすれば、それに対応する政策も不適切なものにならざるをえない。的確な事実判断の下に適切な政策を施すには、しっかりとした理論的知識を備えていなければならない。ここでは、経済人口学の成立と発展の過程を辿ることによって、人口理論の基礎的知識を養い、政策論にも言及してみたい。

何はともあれ、この授業では人口という眼鏡を通じて経済をじっくりと眺めることによって、一人でも多くの学生諸君が人口に関心を抱くようになってほしいと考えている。なぜなら近年の先進諸国においては子供を公共財的に扱う傾向があり、人口問題が国民一人一人の問題になっているからである。

講義の内容・ 授業スケジュール

- I. 経済人口学の生成と発展
- II. 日本の人口と経済発展
- III. 人口高齢化の経済的諸問題
- IV. 人口政策

履修上の留意点

履修に当たっての条件というものはとくに無いが、近年大きな関心事になっている人口の“高齢化”や“少子化”に関する知識を、どのような手段をつうじてでも良いから得ておくことが望ましい。

成績評価の方法

学年末の定期試験、出席状況
再試験を実施する。

教 科 書

大淵 寛・森岡 仁『経済人口学』（新評論）1981年

参 考 書 等

大淵・水野・森岡・吉田訳『マルサス人口の原理』（中央大学出版部）1985年
大淵寛・黒田俊夫編『現代人口問題』（大明堂）1990年

そ の 他

授業の方法：講義

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
貿 易 論	ふるさく こうぞう 古 沢 紘 造	二 営	4

講義のねらい

オゾン層破壊、熱帯林破壊、温暖化、酸性雨、放射能汚染など地球を取り巻く環境はますます深刻になっています。一方、私たち生命体は水・大気・土壌の汚染により生存を脅かされるところまできています。本講義では、こうした危機的状況を踏まえ、生命系の経済学の立場に立って、貿易問題、さらには国際分業のあり方について深く考えてみたいと思います。その中で、経済学、生態学、倫理学からなる総合的視角の重要性を認識しつつ、私たちの生活のありようを問うことにも力を注ぎたい。

生命系の経済学とは、人格をもった人間としてのニーズ、環境、資源、地球のすべての生態との共存、などを基準とした主体的な指標の確立と、それを実現し保証する政策と運動を具体的に提出する経済学です。詳しくはポール・エキンズ編著『生命系の経済学』（御茶の水書房）を読まれるとよいでしょう。

講義の内容・授業スケジュール

- I. 生産・消費と貿易
 1. 農産物と貿易
 2. 水産物と貿易
 3. 林産物と貿易
 4. 鉱物資源と貿易
 5. 工業製品と貿易
- II. 政治・経済・社会と貿易
 1. 開発援助と貿易
 2. 環境と貿易
 3. 公正と貿易
 4. グローバリゼーションと貿易
 5. 持続可能な発展と貿易

具体的な内容については、最初の講義のときに話したい。

成績評価の方法

ペーパーテスト、レポート、討論、報告発表など、できれば多面的な評価を試みたい。答案やレポートを書くとき、論点を明確にし、自分の考えをしっかりと出すように努力してもらいたい。思考の跡がうかがえないものは評価の対象とはならないでしょう。

教科書

とくにこれといった教科書は使いません。専門用語などむずかしいことは、その都度説明しますので、授業に出てもらえれば内容は充分理解できると思います。

参考書等

講義の中で特に興味をもち、もし少し掘り下げてみたいことがありましたら、遠慮なく相談に来て下さい。参考になる本など教えます（研究室第2研究館4階34号室）。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
法 思 想 史	たか 高 橋 洋 城	二 営	4

講義のねらい

西欧の様々な法思想を跡づけ再吟味する営みを通じて、近代法の環境の中で自明のものと考えられている思考のワクを相対化し、批判する視点を持つためのきっかけとしたい。こうした作業は、揺れ動く現代の法状況へ対峙してゆくのに必要であると思われる。

講義の内容・授業スケジュール

ここでは大まかなアウトラインしか述べることができないが、重点をおくトピックおよび思想家として、以下を予定している。

- (前期) ヨーロッパ法思想の核となったギリシャの法思想（プラトン、アリストテレス）、キリスト教思想（アウグスティヌス）、中世自然法論（トマス・アクィナス）
- (後期) 前近代から近代への世界像の転換、近代法の基礎理論とも言える自然権論や社会契約思想（ホブズ、ロック、ルソー）、これを批判的に受け継ぐドイツ啓蒙期の法思想（カント）、ドイツ観念論の法思想（ヘーゲル）

基本的には、時代を順に追い、代表的な思想家と思索を共にする形で述べていくことになるが、断片的な紹介ではなく、影響関係や重要な概念枠組の変遷などを重視し、明らかにできればと思う。また狭い意味での法学理論史の枠にとらわれず、各々の法思想を、その時代の人間観やコスモロジーの中に法理解を位置づけて検討し、そうした作業を通じて最終的には、近代という時代が獲得したものと忘却してしまったものについて考えてみたい。なお、時間の都合上、最大限順調に講義が進んだとしても、19世紀前半の法思想までをカバーするのが精一杯だと思う。19、20世紀以降の法思想ないし法学理論の諸潮流については、法哲学講義の一環として取り扱うつもりである。

成績評価の方法

定期の記述試験（後期終了後1回）を主たる評価基準とする。その他に任意提出課題として、講義で紹介した思想家の著作を読んでレポートを提出してもらえば、一定範囲内で評価に加える。

教科書

ここでは、三島淑臣『法思想史』[新版]（青林書院）4,854円を挙げておくが、講義の補完、通常の学習には自分にあった概説書を選んでもらってかまわない。詳細については講義のはじめに紹介する。

その他

講義の概要、参考資料を必要に応じて配布する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
西 洋 法 制 史	きたの 北 野 かほる	二 営	4

講義のねらい

イギリスと法制度の歴史を、社会の法的構造と国家統治機構のかかわりを軸に解説する。特に注目される法的現象を挙げながら、各時代毎の法制度の全般的特徴と、基本的社会・政治構造との関連について考察する。

講義の内容・
授業スケジュール

- 第1部 総論
 - 第1章 法制史学概説
 - 第1節 法制史学の方法と対象
 - 第2節 法制史学の目的と効用
 - 第3節 イングランド法制史学の対象と方法
 - 第2章 イギリス歴史学の基本的知識
 - 第1節 時間的範囲
 - 第2節 空間的範囲
- 第2部 イングランド法制史
 - 第1章 古代
 - 第1節 歴史過程
 - 第2節 社会構造
 - 第3節 法構造
 - 第2章 中世 (1066-1350)
 - 第1節 歴史過程
 - 第2節 社会構造Ⅰ 中世ヨーロッパの封建制
 - 第3節 社会構造Ⅱ イングランドの封建制
 - 第4節 統治構造 封建制の解体
 - 第3章 近世 (1350-1650)
 - 第1節 歴史過程
 - 第2節 社会構造
 - 第3節 統治構造
 - 第4節 法構造

履修上の留意点

講義中の私語・騒音は厳しく規制する。予め十分留意すること。

成績評価の方法

論文式筆記試験 (後期試験期間・年1回)

教 科 書

特に指定しない。

参 考 書 等

年度当初に指示する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
経 済 法	おか だ と し ひろ 岡 田 外 司 博	二 営	4

講義のねらい

独占禁止法は、企業の経済活動に関する世界共通のルールとしてますます重要になりつつあるのみならず、実は私達の生活にも深く関わっている。ところが、独占禁止法の条文を見ると、一般になじみのうすい抽象的な用語が並んでいて難解であり、その理解は決して容易ではない。そこで、本講義では、最初数回は理論的問題にも触れるが、その後は独禁法の規制の内容とその実際の解釈運用について、具体的事例を多くふまえてできるだけわかりやすく解説することを目標にしたいと考えている。

講義の内容・授業スケジュール

講義は2回に1枚プリントを配布し、そのプリントに書かれた設問にこちらの方で答えて行くという方法をとる。

履修上の留意点

プリントを受け取らずに講義を聴いても意味がないので、出席は取らないが、講義に出席して少くともプリントを受け取ることを勧める。

成績評価の方法

試験（後期1回のみ）によって判定する。

教 科 書

丹宗暁信・厚谷襄児編『新現代経済法入門』（法律文化社）

科目名	担当者名	配当学科	単 位
国 際 関 係 論	しゅ とう もと こ 首 藤 素 子	二 営	4

講義のねらい

現代の国際関係の理論と現状の課題について、知識と理解を深めることを目的とする。とくにアジア太平洋地域の開発と民主化、安全保障の問題について具体的な知識を深めつつ、国際関係研究の理論について講義する。

講義の内容・授業スケジュール

次の各項目をほぼ2週の割合で進める予定。

1. 国際政治理論の展開（現実主義）
2. 国際政治理論の展開（現実主義批判の多様なアプローチ）
3. 冷戦後の国際政治理論
4. 冷戦後の安全保障研究
5. 冷戦後の紛争と国際システム
6. 経済のグローバル化と国際機関の機能
7. 開発理論の変遷
8. 開発金融の国際化、民営化と開発体制の形成
9. 人権保障の国際的制度化と人権 NGO の役割
10. 地球環境問題と環境外交の進展
11. グローバル化、国家、市民社会の関係と課題

成績評価の方法

出席と定期試験により評価する。

教 科 書

毎週使用するという意味の教科書は指定しない。授業ではテーマ毎に資料を配付し、参考文献を紹介する。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
地 方 自 治 法	とみ い ゆき お 富 井 幸 雄	二 営	4

講義のねらい

日本国憲法下における地方自治の法制度を体系的に理解する。すなわち、昭和22年に制定された地方自治法が具体的にいかなる意味をもち現実化されているか、憲法の意図する地方自治の理念がそこに具体化されているかを批判的に検討する。平成12年度より、地方分権を旨とした新しい地方自治制度がスタートする。この改革がいかなる意義をもつのかをかみしめながら、新地方自治法の理念を理解する。

講義の内容・授業スケジュール

地方自治法の体系に沿って講義を行う。前期は、憲法と地方制度の関係を比較法的ならびに歴史的に考察を行った後、地方公共団体の概念、住民の地位及び権利、自治立法権について議論する。後期は、地方公共団体の事務、組織、財政、地方公務員制度について勉強する。教科書を基本に講義するが、毎週レジメを配布し、それに添って授業を行う。判例等の資料も適宜配布する。

成績評価の方法

前期試験（40％）と学年末試験（60％）で総合的に評価する。なお、出席は適宜とする予定である。単位認定のとき考慮することがある。

教科書

南博方他『行政法(3)（第3版）』（有斐閣双書）1,800円

参考書等

原田尚彦『地方自治の法としくみ』（学陽書房）、『地方自治判例百選（第2版）』（別冊ジュリスト）。なお制度の概要を大まかに理解するには、鈴木正明他『図解 地方自治法』（良書普及会）は便利。地方自治の制度的問題を勉強するには、新藤宗幸『地方分権』（岩波書店）、同他『概説日本の地方自治』（東京大学出版会）は必読。

その他

講義では頻繁に法律の条文に言及するので、六法（『地方自治小六法』（学陽書房）があるがポケット六法でよい。）は必携。その都度チェックすること。平成12年度には地方自治法の大規模な改正があるので、必ず平成12年度版を購入すること。憲法や行政法の履修者が望ましいが、少なくとも両方分野について高い関心を持つこと。わからないことは遠慮なく質問に来て欲しい。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
倒産処理法	奥野善彦	二 営	4

講義のねらい

私が管財人として任務を遂行した更正会社日本リースの事件処理などを通じ、可能な限り実践的な視点から倒産処理法を学ぶこととする。

倒産処理手続は、通常、任意整理と法的整理に区分され、さらにその目的に従い、再建型と清算型に分けられる。

任意整理は、裁判所外で債務者と債権者間で私的に進められる整理手続で、再建型にも清算型にも利用され、法的整理手続の原型となっている。これに対し、法的整理手続は、再建型の類型に入るものとしては、会社更正、会社整理、並びに民事再生手続があり、清算型の類型に入るものとしては特別清算と破産がある。

この講義では、「倒産」に直面している人又は企業に対し、如何なる手続を選択することが債権者及び債務者にとって最も好ましいか、というようなことから始め、最高学府で倒産処理法を学んだ者として、当然身につけなければならない法的知識並びに法的技法を習得することにした。

履修上の留意点

真面目で誠実で、且つガッツのある学生に履修してもらいたい。

成績評価の方法

履修態度、レポート並びに試験（論文式）

教科書

追って指定

参考書等

奥野善彦著『会社再建』（小学館）1,600円

その他

前期－講義 後期－ゼミ

科目名	担当者名	配当学科	単 位
中国禅宗史	須山長治	二 営	4

講義のねらい

『景德伝燈録』には1,700人余りの禅僧たちが登場する。その一人一人が語り出す世界は、今日の我々が見てもまことに感動的である。それは彼らが“己の現存”を言葉によって、いかに表現しようとしたかを、目の当たりにするからである。禅宗は自らを不立文字と標榜するが、実際には言語を断ち切らず、言語によって言語の届かない世界をあらわにしようとした精神運動なのである。この事実を、禅の語録を通して考察して行きたい。

講義の内容・授業スケジュール

昨年度に引き続き、本年度も『碧巖録』を解説しながら、達磨以降の禅僧たちの言行を調べていく。これにより、中国禅は時代とともにどういう問題意識を展開していったか、その軌跡をたどりながら、全体的に“中国禅”とはなにかを考えて行きたい。

履修上の留意点

出席を重視する。

成績評価の方法

試験は基本的な内容を問う。具体的には、論述。

教科書

プリントを配布する。

参考書等

『碧巖録』（岩波文庫）、『雪竇頌古』（禅の語録シリーズ）

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日本禅宗史	つのだ たいりゅう 角田 泰 隆	二 営	4

講義のねらい

禅宗という宗派はないが、坐禅および禅定を主たる実践とする教えの流れを汲む宗派を禅宗と呼び、一般的には曹洞宗・臨済宗・黄檗宗の総称として禅宗と呼んでいる。本科目は、日本の禅宗の歴史について概説する。

講義の内容・授業スケジュール

日本の禅宗の歴史についての研究をするものであるが、その基礎知識として、まず、禅とは何かについて、インドや中国における禅の仏教史における位置と思想について、概説したい。そのうち教科書（第三部禅宗の歴史-日本篇）によりながら、日本の禅宗の歴史を講義してゆく。

成績評価の方法

定期試験の筆記試験の成績によって評価する。ただし、原則として所定の授業時間数の3分の2以上授業に出席しなかった者は、筆記試験の成績の如何に関わらず単位は認定されない。

教科書

駒澤大学仏教学研究室編『宗教学Ⅱ』（更生社）2,370円

参考書等

授業において紹介する。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
インド仏教史	いけだ みちひろ 池田 道 浩	二 営	4

講義のねらい

インドにおいて既に釈尊の教説に対する異なった解釈が多数存在していた。各学派はこれこそが正しい教えであることを主張し論争を繰り返していたことが伝えられている。仏教における論争の歴史を学習することによって各学派の主張が明瞭となり、一見多様な仏教の思想が理解しやすくなると思われる。この講義はインド仏教の思想的展開の理解を目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

インド仏教のおおまかな思想史について考察する。釈尊の教え、釈尊滅後の教団、大乘仏教の発生と展開等が主な項目である。特に中観派と瑜伽行派との論争については、実際にいくつかの文献を講読していきたい。

成績評価の方法

受講者多数の場合、学年末の試験によって厳しく評価する。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書等

高崎直道『仏教入門』（東京大学出版会）
平川彰『インド仏教史』上下巻（春秋社）

科目名	担当者名	配当学科	単位
日本仏教史	はかま 袴 谷 のり あき 憲 昭	二 営	4

講義のねらい

この授業は、日本において、インド伝来で中央アジアや中国や朝鮮を經由して将来された外来思想としての仏教が、いかに展開し定着したかを、通史的に辿っていく一方で、仏教と一括されるものの中に生じた全く異質な相対立する二つの流れの相違を明確に押えていこうとするものである。

講義の内容・授業スケジュール

授業は、以上の目的を実現するために、通史的な講義と諸文献の講読を並行して進めていくことになるが、できれば、後者により大きなウエイトを置きたいと思っている。

履修上の留意点

参加人数の大小に大きく左右される面があるので、確定的なことは言えないが、できれば、演習形式の講読の割合を多くしたいと考えている。参加者はその点を念頭に意欲をもって授業に臨んでもらいたい。

成績評価の方法

上述の状況いかんによる。

教科書

講義は、末木文美上『日本仏教史－思想史としてのアプローチ－』（新潮文庫）560円をテキストとし、講読は、適宜指示する文献のコピーによる。

参考書等

袴谷憲昭『法然と明恵－日本仏教思想史序説－』（大蔵出版）1998年 4,800円＋税

その他

授業方法は、上述したごとくであるが、講読文献のコピーは再発行しないので、できるだけ継続して参加してもらいたい。

科目名	担当者名	配当学科	単位
書道	の 野 村 おき ひろ 宙 弘	二 営	4

講義のねらい

王羲之の蘭亭序をはじめ、各種古典の臨書による、実技の指導を行う。

履修上の留意点

書道実技の為、墨、硯、筆、文鎮、下敷、半紙等の文房四宝の用意が必要。
(正しい用筆法、正しい墨のすり方等、初歩的な基礎勉強の指導と、かんたんな書道史の説明を行う)

教科書

王羲之『蘭亭序』（清雅堂）360円

科目名	担当者名	配当学科	単位
仏教と文化	木村誠司	二 営	4

講義のねらい

日本文化における仏教の影響を多方面から考察する。

成績評価の方法

成績評価は、年度末の試験によって行う。

教科書・
参考書等

コピーで配布する。

3. 教職課程・資格講座科目

- I 教 職 課 程
- II 学校図書館司書教諭講座
- III 社会教育主事講座

※上記の教職課程および資格講座授業科目の講義内容が掲載されていますが、各学部において受講できる課程および講座は以下のとおりです。
(履修についての詳細は、『教職課程・資格講座履修要項』を参照すること。)

課程・講座名	資格取得学部
教 職 課 程	全 学 部
学校図書館司書教諭講座	全学部(平成12年度以降入学生)
社会教育主事講座	全学部(平成12年度以降入学生)

3. 教職課程・資格講座科目

I 教職課程

〈教職に関する科目〉(必修)

教 職 入 門	〈大浜幾久子・伊藤 茂樹・遠藤 司・北村 三子 坂本 信昭・豊田千代子・村山 輝吉〉	379
教 育 の 思 想	〈伊 藤 茂 樹〉	379
教 育 と 社 会	〈伊 藤 茂 樹〉	380
発 達 と 学 習 の 心 理 学	〈川 田 三 夫〉	380
カ リ キ ュ ラ ム と 学 習	〈川 田 三 夫〉	381
教 育 と メ デ ィ ア	〈石 橋 達 也〉	381
道 徳 教 育 の 研 究	〈山 田 忠 行〉	382
特 別 活 動	〈山 田 忠 行〉	383
生 徒 指 導 論 (進 路 指 導 を 含 む)	〈遠 藤 司〉	384
教 育 臨 床	〈遠 藤 司〉	384
総 合 演 習 (1) [障 害 児 と 教 育]	〈遠 藤 司〉	385
総 合 演 習 (2) [子 ども ・ 自 然 ・ 家 庭]	〈山 本 敏 子〉	385
教 育 実 習 I ・ II	〈伊 藤 茂 樹〉	386
社 会 科 教 育 法 II	〈谷 敷 正 光〉	387
公 民 科 教 育 法 I	〈谷 敷 正 光〉	388
商 業 科 教 育 法	〈谷 敷 正 光〉	389
職 業 科 教 育 法	〈前 田 幸 一〉	390

〈教科に関する科目〉

— 社 会 —

日 本 史 概 説	〈北 條 文 彦〉	390
世 界 史 概 説	〈松 本 弘〉	391
地 誌 学 概 説	〈川 元 豊 和〉	392
地 誌 学 概 説	〈渡 邊 盾 夫〉	393
人 文 地 理 学 概 説	〈渡 邊 盾 夫〉	393
宗 教 学 概 説	〈田 中 かの子〉	394
宗 教 学 概 説	〈須 藤 寛 人〉	395
哲 学 概 説	〈河 谷 淳〉	396
政 治 学 原 論	〈大 塚 桂〉	397

— 職 業 —

産 業 概 説	〈前 田 幸 一〉	398
商 業 実 習	〈前 田 幸 一〉	399

— 商 業 —

職 業 指 導	〈前 田 幸 一〉	399
---------	-----------	-----

II 学校図書館司書教諭講座

必修科目

学校経営と学校図書館	〈山田節子〉	(243)
読書と豊かな人間性	〈山田節子〉	(243)
学校図書館メディアの構成	〈源昌久〉	(244)
学校図書館メディアの構成	〈篠田耀子〉	(244)
情報メディアの活用	〈源昌久〉	(245)
情報メディアの活用	〈篠田耀子〉	(245)
学習指導と学校図書館	〈山田節子〉	(246)

III 社会教育主事講座

(1) 必修科目

社会教育計画	〈村山輝吉〉	(249)
生涯学習概論Ⅰ	〈豊田千代子〉	(250)
生涯学習概論Ⅱ	〈豊田千代子〉	(251)
社会教育実習	〈豊田千代子〉	(252)
社会教育実習	〈村山輝吉〉	(252)

(2) 選択必修科目

社会教育行政	〈荒井隆〉	(253)
社会教育施設	〈村山輝吉〉	(253)
成人学習論	〈荒井隆〉	(254)
ジェンダーと教育Ⅰ	〈中澤智恵〉	(254)
ジェンダーと教育Ⅱ	〈中澤智恵〉	(255)
職業教育Ⅰ	〈塩川正人〉	(255)
職業教育Ⅱ	〈塩川正人〉	(256)
社会体育Ⅰ	〈吉田潤子〉	(256)
社会体育Ⅱ	〈吉田潤子〉	(257)
教育の思想		(257)
教育と社会		(257)
発達と学習の心理学		(257)
教育とメディア		(257)
社会心理学	〈坪井健〉	(258)
視聴覚教育	〈飯森彬彦〉	(258)
教育社会学	〈熊谷一乗〉	(258)
教育史	〈山本敏子〉	(259)
教育調査	〈鈴木規夫〉	(259)
青少年文化	〈香川良成〉	(259)
現代社会の諸問題と教育Ⅰ	〈熊谷一乗〉	(260)
現代社会の諸問題と教育Ⅱ	〈熊谷一乗〉	(261)
青少年問題研究	〈讃岐真佐子〉	(261)
青少年指導演習	〈平野学〉	(262)
博物館学Ⅰ(概論)	〈太田喜美子〉	(263)
博物館学Ⅱ(資料論)	〈岸上興一郎〉	(263)
情報メディアの活用	〈源昌久〉	(263)
情報メディアの活用	〈篠田耀子〉	(263)
読書と豊かな人間性	〈山田節子〉	(263)

《教職に関する科目（必修）》

科目名	担当者名	配当学科	単位
教職入門 (後期)	大浜幾久子・伊藤茂樹・遠藤司・北村三子 坂本信昭・豊田千代子・村山輝吉	12以降入学生/教職1必 (経B・法B・二営)	2

講義のねらい

高度消費社会の出現や、情報化社会の進展の中で、今日の日本の教育界は多くの困難な問題を抱えています。将来教師になろうとする人には、そうした問題に自ら取り組んでいく覚悟とそれを越えてゆける力量が必要となるでしょう。その力量の中には、知識ばかりでなく、関心の広さ、感受性、想像力、柔軟な発想、そして体力など、きわめて多様なものが含まれます。この講義では、教職課程の専任教員7名に加え、外部からも講師をお迎えして、さまざまな角度から教育を語っていきますが、教師になるための勉強の第一歩として、教師という職業には関心を持つべき多くのことがあるということを、まずは実感してください。

講義の内容・授業スケジュール

今日の教育に関する諸問題をオムニバス形式で講じていきます（毎回テーマと講師がかわっていきます）。また11月12日(月)および11月15日(木)は、普通の講義ではなく、教職課程の履修に関するガイダンスが予定されています。詳しいスケジュールは、初回の講義で配布される予定です。

成績評価の方法

レポートによる評価。

その他

この科目は、平成11年度以前入学者は履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単位
教育の思想 (前期)	伊藤茂樹	教職2必 (経B・法B・二営)	2

※経A・商・法A・政治・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

私たちが今日知っている学校教育という営みは、近代という時代の到来とともに出現した制度であり、また近代社会を成り立たせる不可欠の制度でもある。この「公教育」のバックボーンとなった思想、歴史的経緯、その特色や社会的帰納について概観し、今日の教育やそれが直面する諸問題について考えるための手がかりを探索する。

講義の内容・授業スケジュール

とりあげるテーマ群として以下のようなことがらを予定している。
・近代社会と教育
・学校という場

履修上の留意点

自分が通ってきた学校やそこで受けてきた教育について、批判的に再考する姿勢を求める。

成績評価の方法

学期末試験により評価する。

教科書

教科書は特に指定せず、参考書はその都度指示する。

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

この科目は、平成11年度までに「教育原理」の単位を修得した者は、履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
教育と社会 (後 期)	伊藤茂樹	教職 2 必 (経B・法B・二営)	2

※経A・商・法A・政治・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

学校教育という営みは社会のあり方や他の諸領域に広く影響されると同時に、社会に影響を及ぼす関係にある。また一方で、学校という場もひとつの社会を形成している。こうした観点から、現代社会における学校教育が直面している諸問題や、これからの時代に学校教育が向かおうとしている方向性について、多面的に考えていく。

講義の内容・授業スケジュール

とりあげるテーマ群として以下のようなことがらを予定している。
 ・現代の教育問題
 ・教育改革の現在

履修上の留意点

ふだんから教育に関するニュースに気をつけ、自分なりに考えることを心がける。

成績評価の方法

学期末試験により評価する。

教科書

教科書は特に指定せず、参考書はその都度指示する。

その他

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回日の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

この科目は、平成11年度までに「教育原理」の単位を修得した者は、履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
発達と学習の心理学 (前 期)	川田三夫	教職 2 必 (経B・法B・二営)	2

※経A・商・法A・政治・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

- (1) 子供の成長・発達の概要を理解する。
- (2) 教育や学習の基本的な知識の学習をもとにして教育者としての基礎を作る。

講義の内容・授業スケジュール

①発達について、乳児期、②幼児期前期、③幼児期後期、④児童期前期、⑤児童期後期、⑥青年期前期、⑦青年期中期、⑧青年期後期、⑨人格の発達、⑩社会性の発達、⑪問題行動、⑫学習・教育心理学、⑬教育学・教育原理、⑭学校・教員をめぐる問題点、⑮試験

履修上の留意点

教科書は指定せずプリント、資料等を配布し講義を行う。

成績評価の方法

学期末に定期試験を行う以外にも不定期に小試験を行う。以上の合計得点(100点満点)で所定の基準に従い評価される。

教科書

教科書は特に指定しない。参考文献は授業中に適宜紹介する。

その他

授業の方法は講義が中心で、アンケート等を実施することがある。

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程または社会教育主事講座に登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回日の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

この科目は、平成11年度までに、「教育心理学(教育方法論を含む)」あるいは「青年心理学(教育方法論を含む)」の単位を修得した者は、履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
カリキュラムと学習 (後 期)	川 田 三 夫	12以降入学生/教職2必 (経B・法B・二営)	2

※経A・商・法A・政治・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

- (1) 教育課程を中心に学校の全般的な運営について理解する。
- (2) 教育や学習の基本的な知識の学習をもとにして教育者としての基礎を作る。

講義の内容・
授業スケジュール

- ①教育について、②学習・教育心理学、③教育学・教育原理、④発達心理学、⑤教育課程、⑥学習指導要領、⑦普通教育・職業教育、⑧障害児教育、⑨教育方法、⑩教育評価、⑪新しい動向(1)、⑫新しい動向(2)、⑬生徒・教師の諸問題、⑭教育・学校の諸問題、⑮試験

履修上の留意点

教科書は指定せずプリント、資料等を配布し講義を行う。

成績評価の方法

学期末に定期試験を行う以外にも不定期に小試験を行う。以上の合計得点(100点満点)で所定の基準に従い評価される。

教科書・
参考書等

教科書は特に指定しない。参考文献は授業中に適宜紹介する。

そ の 他

授業の方法は講義が中心で、アンケート等を実施することがある。
前期に、「発達と学習の心理学」を履修することを原則とします。この科目は、平成11年度以前入学者は、履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
教育とメディア (後 期)	石 橋 達 也	教 職 2 必 (経B・法B・二営)	2

※経A・商・法A・政治・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

本授業では、情報化社会が著しく進展していく今日の状況での教育の在り方について学んでいきます。はじめに、教育/学習あるいは授業の捉え方や教育におけるメディアの利用の仕方について、教育心理学や教育方法学の観点から眺めます。それに続いて、インターネットなどを含めたコンピュータ活用教育について焦点を当て、その実践のために必要な操作や教師としての姿勢などについて学ぶとともに、コンピュータ利用上の注意点や問題点についても検討していきます。

講義の内容・
授業スケジュール

授業のスケジュールとしては、およそ以下に示すテーマに沿って進めていく予定です。
1. 教育の情報化と教育方法、2. 授業と学習過程の理解、3. 学習者特性の理解、4. 授業モデルと授業設計、5. 教育メディアとメディアリテラシー、6. 教育へのコンピュータの導入、7. コンピュータと情報活用能力、8. インターネットの活用と協同学習、9. インターネット社会への参加態度など。

履修上の留意点

履修する学生には、この授業が教職を目指す上で必要な科目であることを自覚して、毎回まじめに出席することと授業に積極的に取り組むことを期待します。

成績評価の方法

成績の評価は、期末試験の得点を中心にして、授業への出席状況や参加態度などの平常点を加味して行ないます。

教科書

教科書は、次のものを使用する予定です。今栄国晴編著『新版 教育の情報化と認知科学——教育の方法と技術の革新——』(福村出版)1988 本体2,400円+税

参考書等

授業の中で必要に応じて、参考文献・関連資料・ビデオ映像などを紹介していく予定です。

そ の 他

授業の中で、毎回コンピュータを使用する実習時間があります。初歩的なレベルから始めていきますので、初心者でも学ぶ意欲があれば、安心して学習していけるはずです。
この科目は、平成11年度までに、「教育心理学(教育方法論を含む)」あるいは「青年心理学(教育方法論を含む)」の単位を修得した者は、履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
道徳教育の研究 (前期)	やま だ ただ ゆき 山 田 忠 行	教職2・3必 (経B・法B・二営)	2

※経A・商・法A・政治・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

「道徳教育」の充実、我が国の大きな課題であり、学校教育全体において充実した取り組みを行わなければならない。そのために、小・中学校においては教育課程に「道徳」が位置付けられ、高校においては、人間としての在り方生き方に関する教育を学校の教育活動全体を通じて行わなければならない。この「道徳教育」の教育的意義や目標及び内容、方法等について理論と実践の両面から研究を行う。道徳教育を進めるに当たっては、豊かな体験を通して生徒の内面に根ざした道徳性の育成が求められる。教師としての実践的な指導力を身につけるために、道徳教育の内容や活動内容の取り扱い方及び指導計画の作成、指導方法などについての具体的な研究を行う。

講義の内容・
授業スケジュール

①道徳教育の戦前・戦後の経緯 ②今求められる心の教育 ③道徳教育の基本的な在り方 ④道徳教育の目標と道徳の時間の役割 ⑤道徳の時間の指導内容 ⑥道徳の時間の指導の在り方 ⑦道徳の時間の学習指導案の書き方 ⑧道徳の時間の資料の開発と活用 ⑨全教育活動における道徳教育 ⑩豊かな体験と道徳性の育成 ⑪家庭や地域社会が道徳教育に果たす役割 ⑫生徒理解に基づく道徳教育の評価

履修上の留意点

文献に基づく道徳や道徳教育に関する理論的な研究とともに、道徳教育の具体的な指導計画の作成や指導内容、指導方法等について理解を深め、指導力を身につけてほしい。

成績評価の方法

試験、出席状況、学習指導案の作成やレポート等を総合的に判断し、評価する。

教科書

文部省『中学校学習指導要領解説－道徳編－』（大蔵省印刷局）260円

参考書等

七條正典・押谷慶昭編著『中学校新教育課程の解説－道徳－』（第一法規）1,300円

その他

講義、指導案の立案、毎時間講義内容に則した小レポートを提出する等

科目名	担当者名	配当学科	単 位
特別活動 (後期)	やま だ ただ ゆき 山 田 忠 行	教職2・3必 (経B・法B・二管)	2

※経A・商・法A・政治・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

「特別活動」は、望ましい集団活動を通して、好ましい人間関係を形成し、社会の一員としての自覚と責任ある態度を身につけるとともに、人間としての生き方を探求し自己を生かす能力などを養うものである。この「特別活動」の教育的意義や目標及び内容、方法等について、理論と実践の両面から研究を行う。特に、実践的な面では、特別活動の活動内容の取り扱い方及び指導計画の作成、指導方法などについての具体的な研究を行い、実践的な指導力を養う。

講義の内容・
授業スケジュール

①特別活動の基本的な性格 ②特別活動の目標とコンセプト ③特別活動の歴史の変遷 ④学級活動の特質と活動内容 ⑤生徒会活動の特質と活動内容 ⑥学校行事の特質と活動内容 ⑦特別活動の指導計画の作成 ⑧特別活動と生徒指導 ⑨ガイダンスの機能の充実 ⑩特別活動とボランティア活動 ⑪特別活動の指導を担当する教師 ⑫特別活動における評価

履修上の留意点

文献による理論的な研究を深めるとともに、特別活動の具体的な実践にかかわる指導計画の作成や指導内容、指導方法等についての研究を深め、実践的な指導力を身につけてほしい。

成績評価の方法

試験、出席状況、学習指導案の作成やレポート等を総合的に判断し、評価する。

教科書

文部省著作『中学校学習指導要領解説－特別活動編－』（ぎょうせい）70円

参考書等

森嶋昭伸・鹿嶋研之助編著『中学校新教育課程の解説－特別活動－』（第一法規）1,300円

その他

講義及び年間指導計画、指導案の立案等

科目名	担当者名	配当学科	単 位
生徒指導論(進路指導を含む) (前 期)	えん どう つかさ 遠 藤 司	教職 2・3 必 (経B・法B・二営)	2

※経A・商・法A・政治・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

教師が生徒の生活面を指導することは、現在の学校において様々な形で行われている。将来、教職に就こうとしている人間として、生徒（他者）の生活を指導することの意味を改めて問いなおし、無意識のうちにもっている自らの生徒指導観、あるいは進路指導観を自覚的にとらえなおすことが本講義の目的である。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 生徒指導、進路指導の理論、歴史とその目的の変遷
2. 「問題行動とは何か」という問いに関わる諸問題
3. 不登校、いじめ等の実際の事例を通しての実践的考察
4. 教師-生徒関係の中での生徒指導、進路指導
5. 個の尊重と組織・集団活動との相克の中での生徒指導、進路指導

履修上の留意点

考えることを厭わない学生の履修を望む。

成績評価の方法

期末試験、またはレポートを予定している。

教科書

特定の教科書は用いない。参考書等については授業中適宜紹介する。

そ の 他

この科目は、平成11年度までに「生活指導」の単位を修得した者は履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
教 育 臨 床 (後 期)	えん どう つかさ 遠 藤 司	12以降入学生/教職 2・3 必 (経B・法B・二営)	2

※経A・商・法A・政治・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

心の教育が重視されている現在の教育現場において、生徒が自らの生き方を考え、自己を確立するために、一方的な指導ではなく、相互の対話を基に生徒との関係を作ろうとする教師の姿勢が求められている。特に、カウンセリングに代表されるような、臨床心理学的視点をもつ教師の育成が求められている。この授業においては、臨床心理学的視点に学びながら、生徒が陥りやすい心の危機に対する対処法や援助法について、実践的に学ぶことを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 人が人と関係をもつことの意味
2. カウンセリングマインドとは
3. 教師としてカウンセリングマインドをもつことの意味
4. 教師-生徒関係の見直しと再生の過程
5. 人間の生涯における思春期・青年期の諸問題

履修上の留意点

考えることを厭わない学生の履修を望む。

成績評価の方法

期末試験、またはレポートを予定している。

教科書

特定の教科書は用いない。参考書等とは授業中適宜紹介する。

そ の 他

この科目は、平成11年度以前入学者は履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
総合演習1〔障害児と教育〕 (前期)	えん とう つかさ 遠 藤 司	12以降入学生/教職2・3必 (経B・法B・二営)	2

※経A・商・法A・政治・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

「総合的な学習の時間」の本質やその意義について理解するという目的の上に、本時間の運営のために必要な教師としての諸能力や態度を養う。この授業においては、あらゆる教育の根本に位置するという意味で、教育問題を考える上で非常に重要な問題であるところの障害児教育問題について、障害児教育の在り方について、実践を含めて現在の在り方まで総合的に学んでいく。最終的には、このテーマに即した授業プランを作成できるように学びを深めていく。

講義の内容・
授業スケジュール

「総合的な学習の時間」を実際に授業することを仮定した案を参加者に作成してもらい発表してもらったことをもとに授業を進めていくことを考えている。具体的には、参加者の数や問題意識等を把握した上で決定する。

履修上の留意点

考えることを厭わない学生の履修を望む。

成績評価の方法

授業への参加の仕方を総合的に判断して評価を行う。

教科書

特定の教科書は用いない。参考書等は授業中適宜紹介する。

その他

この科目は、平成11年度以前入学者は履修できません。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
総合演習2〔子ども・自然・家庭〕 (後期)	やま もと とし こ 山 本 敏 子	12以降入学生/教職2・3必 (経B・法B・二営)	2

※経A・商・法A・政治・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

家族を中心とする人間の暮らしは、人間が生命過程を維持していく上で最も大切な生存の基盤ともいえるべきものですが、自然と人間との関係が近代になって大きく変容したことにより、今日では、様々な局面で危機的状況のもとに置かれるに至っています。私たち人類はどんな難問を抱えており、それを乗り越えていくにはどうしたらよいか。人間の生命過程に直接関わってくる「食」の問題を切り口に、子どもと自然と家庭という3つの視点を入れて具体的に考えていきます。

講義の内容・
授業スケジュール

この授業そのものが総合的な学習の時間の実践となるよう、授業の内容、進め方については受講者の皆さんと共に考え、工夫していきたいと思っています。導入として、鶴見良行の『アジアの歩き方』(ちくま文庫)および『バナナと日本人』(岩波新書)を読みながら、取り上げる具体的なテーマや方法などを検討し、その後、実際に調べていきます。

授業全体を通して、フィールドにおける知のあり方や、「食」をめぐる自然-人間関係、人間-人間関係の変化の問題、子どもにとって家庭の食卓のもつ意味などについて考察していく予定です。

履修上の留意点

受講される皆さんの主体的な参加を期待いたします。

成績評価の方法

授業時間内の発表および期末レポート。

その他

ゼミ形式で進めます。時間的余裕があれば、フィールドワークや図書館での調査の時間も取り入れたいと思っています。

この科目は、平成11年度以前入学者は履修できません。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
教 育 実 習 I	い とう しげ き 伊 藤 茂 樹	教職 4 必(経B・法B・二営)	3
教 育 実 習 II		12以降入学生/教職 4 必(経B・法B・二営)	5

※経A・商・法A・政治・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

中学・高校での教育実習を実りあるものとするために、その準備と、実習の経験を生かして現代の教育と青少年、それをとりまく様々な社会的要因について考える機会を持つ。

講義の内容・授業スケジュール

実習前には、教育実習の意義や目的、内容に関する講義と受講者による模擬授業を行う。実習後は、各自の実習の経験をふまえたうえで、そこから見えてきた教育や青少年の現実について、口頭発表、討論、文献購読、レポート作成などを通じて批判的にとらえる目を養うことをめざす。

履修上の留意点

受け身ではなく主体的な参加を求める。

成績評価の方法

実習校からの評価、実習ノート、授業への参加、レポートにより総合的に行う。

教 科 書

教科書は特に指定せず、参考書はその都度指示する。

そ の 他

「教育実習Ⅱ」の履修が必要となるのは、平成13年度は、科目等履修生の内の一部です。担当教員の指示に従ってください。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
社会科教育法Ⅱ (後期)	や 谷 敷 正 光 しき ただ みつ	教 職 3 必 (経B・法B・二営)	4

講義のねらい

本講は中学校社会科で教育実習を行う学生や社会科教師を目指す学生に、「教育とは」「社会科教育とは何か」といった社会科教育の基本原則から、「授業とは何か」「授業のねらいをどう設定するか」「授業をどう組み立てるか」「授業の教材をどう発掘するか」といった授業設計のたて方、授業づくりに必要な教材開発の方法や授業の基本的指導技術まで社会科教師としての資質・力量形成を目標に行います。

講義の内容・ 授業スケジュール

1. 教育の基本概念
2. 社会科の成立と意義
3. 中学校社会科学習指導要領の変遷
4. 中学校の教育課程と社会科
5. 中学校社会科の授業設計
6. 中学校社会科の指導法
7. 中学校社会科と思考力を育てる授業
8. 中学校社会科の教材開発と資料の活用
9. 中学校社会科学習指導案の意義と作成
10. ビデオによる社会科教師の授業研究
11. 中学校社会科の目標 (平成元年度版・平成10年度版)
12. 中学校社会科の内容・取り扱い (平成元年度版・平成10年度版)
13. 社会科の評価
14. 社会科教育実習における「教師教育」
15. 社会科教師と教員採用試験
(教員採用試験の受験希望者は本講とは別に指導します。)

履修上の留意点

- ① 教科書の補充としてプリントを配布しますので、必ずその時間に受け取って下さい。
- ② 現実的理解のためビデオなどを利用しますので、視聴覚教室に変更することがあります。

成績評価の方法

- ① 授業での課題の提出、授業実践、出席、小テストなど総合的に評価します。
- ② 定期試験、追再試は行いません。小テストは授業中に実施。

教 科 書

毎時間、講義の教材として年間数十枚のプリントを配布するので、教科書は使用しない。

参 考 書 等

- 講義に関係する参考文献は適宜紹介しますので、興味のある人は読んで下さい。
- ① 大田堯『教育とは何か』(岩波新書)
 - ② 無着成基『山びこ学校』(角川文庫)
 - ③ 灰谷健次郎『兎の眼』(新潮文庫)
 - ④ 大森・谷敷『社会科教育研究』(粹出版)
 - ⑤ 槐一男『社会科教材発掘の技術』(日本書籍)
 - ⑥ 谷川彰英『社会科の自由研究ヒント集』(黎明書房)
 - ⑦ 谷川彰英『楽しく学べる授業づくりのヒント』(明治図書)
 - ⑧ 浜上薫『発問づくりの技術』(明治図書)
 - ⑨ 鈴木健二『社会科指導案づくりの上達法』(明治図書)
 - ⑩ 中学校社会科 (地理的分野、歴史的分野、公民的分野) の教科書
 - ⑪ 文部省『中学校学習指導要領』、文部省『中学校指導書』(大阪書籍)

科目名	担当者名	配当学科	単 位
公民科教育法Ⅰ	や しま ただ みつ 谷 敷 正 光	教 職 3 必 (経B・法B・二営)	2

講義のねらい

本講は高等学校公民科で教育実習を行う学生や公民科教師を目指す学生に、「教育とは」「公民科教育とは何か」といった公民科教育の基本原則から、「授業とは何か」「授業のねらいをどう設定するか」「授業をどう組み立てるか」「授業の教材をどう発掘するか」といった授業設計のたて方、授業づくりに必要な教材開発の方法や授業の基本的指導技術まで公民科教師としての資質・力量形成を行います。

講義の内容・ 授業スケジュール

1. 教育の基本概念
2. 社会科の成立と意義
3. 高等学校社会科（公民科）学習指導要領の変遷
4. 高等学校の教育課程と公民科
5. 高等学校公民科の授業設計
6. 高等学校公民科の指導法
7. 高等学校公民科と思考力育成の学習過程
8. 高等学校公民科の教材開発と資料の活用
9. 高等学校公民科学習指導案の意義と作成
10. 4年生による模範授業（授業研究）
11. 模範授業を通じての高等学校公民科の授業実践研究
12. 高等学校公民科の目標（平成元年度版・平成11年度版）
13. 高等学校公民科の内容・取り扱い（平成元年度版・平成11年度版）
14. 教育評価
15. 公民科教師論
16. 公民科教師と教員採用試験
(教員採用試験の受験希望者は本講とは別に指導する。)

履修上の留意点

- ① 教科書の補充としてプリントを配布しますので、必ずその時間に受け取って下さい。
- ② 現実的理解のためビデオなどを利用しますので、視聴覚教室に変更することがあります。

成績評価の方法

- ① 授業での課題の提出、授業実践、出席、小テストなど総合的に評価します。
- ② 定期試験、追再試は行いません。小テストは授業中に実施します。

教 科 書

毎時間、講義の教材として年間数十枚のプリントを配布するので、教科書は使用しません。

参 考 書 等

講義に関係する参考文献は適宜紹介しますので、興味のある人は読んで下さい。

- ① 大田堯『教育とは何か』（岩波新書）
- ② 槐一男『社会科教材発掘の技術』（日本書籍）
- ③ 谷川彰英『社会科の自由研究ヒント集』（黎明書房）
- ④ 谷川彰英『楽しく学べる授業づくりのヒント』（明治図書）
- ⑤ 福山憲市『資料提示の技術』（明治図書）
- ⑥ 大森・谷敷『社会科教育研究』（粹出版）
- ⑦ 高等学校社会科（現代社会、政治経済、倫理）の教科書
- ⑧ 文部省『高等学校学習指導要領』、文部省『高等学校学習指導要領解説 公民編』（実教出版）

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
商 業 科 教 育 法	谷 敷 正 光 <small>やしきただみつ</small>	教 職 3 必 (経B・二営)	4

講義のねらい

「専門教育」(職業教育)の一つである商業教育は、日本の経済をささえる重要な一環としてつねに重視され、産業構造の高度化、経営革新にともなってめまぐるしく変遷してきた。先端産業化、国際化、情報化時代をむかえ、大きく改善されている。さらに1994年度からは、「普通科」と「専門学科」の間形態ともいえる「総合学科」が誕生し、高等学校教育の改革が急速に進んでいる。従って、この講義のねらいは、「専門教育」のあり方そのものが問われている現在、しっかりと商業教育を樹立するために、この「教科教育法」を商業教育の単なる技術論に終わらせることなく、より基本的な「教育とは何か」「商業教育とは何か」といったところまでさかのぼり、本来的な意味での商業教育論を展開し、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。

講義の内容・授業スケジュール

1. 専門教育・商業教育の現状
2. 専門教育・商業教育の改革動向
3. 専門教育・商業教育の概念
4. 高等学校における商業教育の変遷
5. 高等学校の教育課程
6. 商業科の教育課程
7. 商業科の授業設計
8. 商業科の指導法
9. 商業科の教材開発と資料の活用
10. 商業科学習指導案の作成(実践)
11. ビデオによる商業科教師の授業研究
12. 4年生による模範授業(授業研究)
13. 模擬授業を通じての商業科の授業実践研究
14. 商業の各科目の個別目標・内容・取り扱い(平成元年度版・平成11年度版)
15. 商業科における評価
16. 商業科教育実習における「教師教育」
17. 商業科教師論
18. 商業科教師と教員採用試験
(教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する。)

履修上の留意点

- ① 教科書の補充として年間かなりのプリントを配布するので、必ずその時間に受け取ること。
- ② 現実的理解のためビデオなどで視聴覚教室を利用するので、常に教場には注意しておくこと。

成績評価の方法

- ① 授業での課題の提出、学習指導案の作成、模擬授業実践、出席、小テストなど総合的に評価する。小テストは授業中に実施。
- ② 定期試験、追再試は実施は行いません。

教科書

岡田修二他『新商業教育論』(多賀出版)

参考書等

講義に関係する参考文献は適宜紹介しますので、興味のある人は読んで下さい。

- ① 大田堯『教育とは何か』(岩波新書)
- ② 産経新聞社『学校ってなんだろう』(新潮社)
- ③ 灰谷健次郎『魂の眼』(新潮文庫)
- ④ 斎藤喜博『授業入門』(国土社)
- ⑤ 毎日新聞社『教育改革 現場の試み』(毎日新聞社)
- ⑥ 岩下 修『指導案づくりの技術』(明治図書)
- ⑦ 新牧賢三郎『やる気を引き出す技術』(明治図書)
- ⑧ 高等学校商業科の教科書(「流通経済」「商業経済」など)
- ⑨ 文部省『高等学校学習指導要領解説 商業編』(大日本図書)

科目名	担当者名	配当学科	単 位
職業科教育法	まえ だ ゆき かず 前 田 幸 一	教職3必 (経B)	4

講義のねらい

以下の項目で授業を進めていきます。

- ①『中学校学習指導要領』の「技術・家庭」について、昭和52年版、平成元年版、平成10年版の授業内容を比較検討していく。
- ②「技術・家庭」科の授業のあり方を、新聞の切り抜きを通して考えていく。
- ③職業教育について考えていく。

履修上の留意点

自分や周りの家庭や職業について改めて考えてきてほしい。また新聞の家庭欄や経済面にも目を通しておいして下さい。

成績評価の方法

筆記試験はせず、平常点かレポートで成績評価をします。再試験はしません。

教科書

『中学校学習指導要領』（文部省、平成10年12月）、他については授業において指示します。

参考書等

中学校の「技術・家庭」の教科書など

その他

授業を受ける人は少数なので、ゼミ形式で授業を進めていきます。

《教科に関する科目》

科目名	担当者名	配当学科	単 位
日本史概説	ほう じょう ふみ ひこ 北 條 文 彦	教職2・3教科 (経B・法B・二営)	4

※経A・商・法A・政治・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

将来、中等・高等学校教員を志す者にとって必要な基礎的教養ともいべき日本史の、上古より現代に至る各時代の政治・経済・宗教・文化等について概説する。

成績評価の方法

筆記試験を前期と後期、夫々1回あて、授業時間内に実施し、評価する。

教科書

宝月圭吾・児玉幸多編『新稿日本史概論』（吉川弘文館）1,597円

参考書等

児玉幸多編『標準日本史年表』（B5判）（吉川弘文館）600円

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
世 界 史 概 説	まつもと ひろし 松 本 弘	教職 2・3 教科 (経B・法B・二営)	4

※経A・商・法A・政治・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

本講義は、中東及びイスラームの歴史である。それは、中学・高校の世界史の授業において最低限必要と思われる中東・イスラームについての知識を提供し、かつその知識に対する正確な理解を求めるものである。1973年石油ショック以降、日本における中東研究は飛躍的に拡大し、誤解や偏見は減少しつつあるとは言え、未だ中東やイスラームは我々にとって最も遠い存在のひとつであろう。世界史の教科書に占める中東・イスラームの記述は、この20年間で量的には数倍に増加したが、一般に教員の理解がこの傾向に追随しているとは言い難い。それゆえ本講義は学生諸氏に、おそらく世界史の教員が最も不得手としている中東やイスラームに関わる基礎的・一般的な知識と理解を提供することを目的とする。中東に関わる一般的な関心は、マスコミによる様々な事件の報道にあると判断されるので、本講義は報道の対象となる事件・事象の解説に始まり、その理解としての歴史的背景から、中東やイスラームの歴史を講義する方式をとる。

講義の内容・
授業スケジュール

講義は、まず現代中東における国家・宗教・民族の分布から、アイデンティティ複合や中東一神教世界（ユダヤ教・キリスト教・イスラーム）と呼ばれるその社会状況の特質を解説する。次いで、現在最も高い関心を集める中東和平及びイスラーム復興主義（いわゆるイスラム原理主義）を歴史的に考察し、その背景としてイスラームの成立や中世・近代における政治史（預言者ムハンマド、正統カリフ、ウマイヤ朝、アッバース朝、オスマン帝国、アラブ民族主義等）や思想史（イスラーム神学・法学、イスラーム神秘主義）、「中東の近代」に関わる内容と特質などをとりあげ、その各々について思想と社会・時代状況との関連に注目して講義を行う。

成績評価の方法

評価は、前期末及び年度末の2回の試験により行う。

教 科 書

教科書・参考書は特に指定せず、適宜参考文献目録及びプリントを配布する。

科目名	担当者名	配当学科	単位
地誌学概説	かわもととよかず 川元豊和	教職2・3教科 (経B・法B・二営)	4

※経A・商・法A・政治・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

主にアジアを対象として、「地域の変貌」について講義する。

講義の内容・授業スケジュール

前半では、まず、地誌学の基本的な考え方について説明し、次に、さまざまな人文地理学的事象から世界のなかにおけるアジアの特殊性や他地域とアジアの共通性などについて考えてゆきたい。後半では、南アジアのインド及びバングラデシュ、東南アジアのマレーシアを事例として、社会経済構造の変化や村落と都市の変貌などについて最近の地域研究の成果を紹介しながら、地域の特性を明らかにしたい。

履修上の留意点

高校時代に使用したものでよいから、地図帳を持参して講義に臨んでもらいたい。

成績評価の方法

出席及び前期末のレポート提出を前提とし、学年末の筆記試験と併せて総合的に評価する。

教科書

特に定めず、プリントを配布する。

参考書等

矢野暢編『講座現代の地域研究1 地域研究の手法』(弘文堂) 1993 4,800円
 藤岡謙二郎ほか『世界地誌第二改定増補版』(大明堂) 1989 2,060円
 B. L. C. ジョンソン著、山中一郎ほか訳『南アジアの国土と経済第2巻バングラデシュ』(二宮書店) 1986 3,605円
 白田雅之ほか編『もっと知りたいバングラデシュ』(弘文堂) 1993 2,800円
 水島司編『アジア読本マレーシア』(河出書房新社) 1993 2,000円

その他

講義中心の授業であるが、年に2～3回はスライドの使用を予定している。

科目名	担当者名	配当学科	単位
地誌学概説	わた なべ たて お 渡 邊 盾 夫	教職2・3教科 (経B・法B・二営)	4

※経A・商・法A・政治・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

この講義では、学生諸君が教職につく時の基本事項、または就職試験の時の一般教養（人文科学系）問題が解けることを目標として、進めます。

次に地理学の一つの見方である地誌を、「ある場所」を具体的にとり上げ、その場所にはさまざまな自然環境（気候、地形など）や社会環境（サービス業、農業など）があり、この中にさまざまな人間活動が営まれている。これらを総合的に分析をし、その現象を明らかにしていく方法を考えたい。

講義の内容・授業スケジュール

ここでは、前期にある場所の自然環境を理解するために気候、地形そして地形図の基礎的なことを学習する。後期には、各国を地誌的な見方で説明する。

履修上の留意点

基本的には、学生諸君が日本や世界各国の様子を「何んでそこにその様な現象があるのか」という疑問で接してほしい。地誌学または地理は暗記の科目ではない。

また講義を聞く時には、高校時代に使った地図帳を必ず持参して下さい。その方が理解が早くなります。

成績評価の方法

年度末に定期試験があり、これに出席の様子を加えています。答えは自分が他の人に説明をし、理解してもらえる様を書いて下さい。その方が勉強になります。

教科書

教科書等については、特に指定しません。講義の進行に合わせて、プリントを配布します。このプリントの中に各自で必要事項を加えて下さい（試験の時に参考になります）。

参考書等

講義の時、それぞれの分野での参考図書を紹介します。

科目名	担当者名	配当学科	単位
人文地理学概説	わた なべ たて お 渡 邊 盾 夫	教職2・3教科 (経B・法B・二営)	4

※経A・商・法A・政治・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

ある場所の自然環境の上には、さまざまな人間活動が行われています。この人間活動を産業の点から講義を進めます。

講義の内容・授業スケジュール

前期に人文地理学の研究方法を説明し、後期には、具体的な人間活動（産業）についてプリントを配布しながら説明します。

履修上の留意点

高校時代に使用した地図帳を持参して下さい。

成績評価の方法

学年末の筆記試験と出席とを総合して評価します。

教科書

教科書については、特に指定しません。講義の進行に合わせてプリントを配布します。プリントの中に各自で必要事項を加えて下さい（試験の時に参考になります）。

参考書等

講義の時、それぞれの分野での参考図書を紹介します。

科目名	担当者名	配当学科	単位
宗 教 学 概 説	田 中 かのこ	教職 2・3 教科 (経B・法B・二営)	4

※経A・商・法A・政治・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

人は、それぞれの生活環境や文化的背景に根ざしたものの見方・考え方を。教育 (education) とは、その人にそなわる個性と才能を「引き出す」(educate) ことであり、教育者 (educator) は、その「引き出されたもの」(the educated) から多くを教えられる。

以上の教育的効果から連想すれば、宗教学もまた、諸宗教から多様な人の生き方・文化形態・理想の世界像などを引き出して見せ、人間共有の知的財産とするためのいとなみであるといえよう。「自己」の宗教について学ぶ「他者」と出会ったり、「他者」の宗教を知ろうとする「自己」に気づくことは、「人間」探究の第一歩ともなるからである。

本講では、個々の宗教から引き出された (abstracted) 「宗教」現象 (religious phenomena) の分類と分析をテーマにしなが、聖典・宗教文学・哲学書等を出典とする具体的な話題へと「学ぶ視点」を移行させてゆく。それによって、教職を志す受講生の一人一人がみずからの関心をもって「宗教学」にたずさわる機会をつくることをねらいとする。

講義の内容・授業スケジュール

教科書の章区分には沿いながら、本講のねらいに適ったプログラムを展開する。

- I. 宗教学とは何か
 - 1) 「宗教」(religion) という用語の起源と作業仮設としての「～教」。
 - 2) 「宗教学」成立のいきさつ。
 - 3) 「宗教学」の領域と基本的立場。
- II. 「宗教」の起源
 - 1) 「いのち」に気づき、ヒトは人間になった (生命尊重のめばえ・洞窟壁画の思想)。
 - 2) 生死観四態。死を見つめる心。
 - 3) アニミズム説。プレアニミズム説、原始一神教説、「起因者」説の提起と問題点。
- III. 科学・呪術・宗教・哲学
 - 1) 呪術の原理と諸類型。
 - 2) 科学・呪術・宗教の相関。
 - 3) 宗教・哲学と社会科学・自然科学。
 - 4) 「祭司」「王」「シャーマン」の関係。
- IV. 宗教の類型論
 - 1) ひとつの宗教の諸相・さまざまな宗教の比較。宗教学における「比較」とは何か。
 - 2) 人格的「神」の非人格の本質、非人格的「法」の人格的はたらき。
 - 3) 宗教の権威主義的側面と人間主義的側面。
 - 4) 神秘主義的宗教と預言者的宗教。
 - 5) 諸宗教における汎神的側面。
 - 6) 「救い型」「悟り型」「つながり型」。
 - 7) 民族宗教と世界宗教の歴史的連関。
 - 8) 多神教から一神教への転換は本当に成されたのか(民間伝承; folklore から学ぶこと)。
- V. 聖と俗
 - 1) 社会生活とタブー。
 - 2) 職人の手仕事と「聖なるもの」。
- VI. 宗教の構成要素
 - 1) 人の肉声に宿る言葉 (聖典の起源)。
 - 2) 「聖なるもの」の諸相。
 - 3) 人類の起源・二元的構造、霊魂としての自己。
 - 4) 権威と模範 (菩薩の四弘誓願・福音の「愛」)。
 - 5) 仏教とキリスト教における回心論。
 - 6) 宇宙論 (創造型・進化型、他界・来世・時空)。
 - 7) 原始仏典にみられる修行の効能。
 - 8) 弓道と禅
 - 9) 「おまつり」とは何か。
 - 10) 人生の「歩み」から生まれる「救い」。

履修上の留意点

毎回、1) 板書を写す、2) 教科書や配布資料を参照する、3) 講義内容を書き取りながらキーワードを探すなどの作業をとおして、自分自身の見方・考え方をしっかりと持てるように心がけていこう。

成績評価の方法

1) 学年末試験。各自の創意工夫と知識の応用力を問う論述式の問題を用意する。いわゆる「暗

記もの」ではない反面、設問の意図を読み取るための集中力を要する。後期の最終講義において試験問題を予告し、ガイダンスをおこなう。

- 2) 夏休み前にレポートの課題（自由選択式）を出す予定。
- 3) 出席状況。

教科書

脇本平也著『宗教学入門』（講談社学術文庫）。教科書とは別の観点から作成した資料（プリント）も配布するので、併せて活用すること。

参考書等

水野弘元・柴田道賢（監修）『宗教学ハンドブック』（世界書院）、佐々木宏幹著『宗教学人類学』（講談社学術文庫）。

科目名	担当者名	配当学科	単位
宗 教 学 概 説	須 藤 寛 人	教職2・3教科 (経B・法B・二営)	4

※経A・商・法A・政治・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

宗教学的視座を養うことが本講義の目的です。多くの日本人にとって、宗教は、必ずしも明確な形を持ったものではありません。しかし、人間や文化を理解することの、すべてではないにしても、その一部は宗教を理解することによって可能となるものであると考えられます。日本人の宗教とは何かを理解することは、日本人とは何かという問題に深く関わっていますし、ひいては自分とは何かを考えるための足がかりになると思われます。また、日頃、目にする出来事でも、そこに何かしらの宗教的意味が見いだされることがあります。視座を少し変えるだけで、それが可能になる場合もあります。本講義がそのための助けになればと思っています。

講義の内容・授業スケジュール

- a. 宗教とは何か？ 宗教学とは何か？ 宗教と呪術。聖と俗。
 - b. 儀礼。呪術。シャーマニズム。噂・怪談・都市伝説。
 - c. 日本人の他界観。諸宗教の歴史。日本の宗教。現代の宗教状況。
- 以上の三点を本講義の基軸とし、主要な概念や理論について解説をしていきたいと思っています。また具体的な事例やタイムリーな話題を交えて講義をおこなっていききたいと思います。

履修上の留意点

できるだけ遅刻はしないで下さい。私語は慎んでください。携帯電話・PHS等は授業中は着信音がならないようにするか電源を切ってください。

成績評価の方法

夏期レポートと学期末の定期試験を中心に、出欠状況と合わせて総合的に評価します。

教科書

教科書は用いません。要点をまとめたプリントを配布します。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
哲 学 概 説	かわ 谷 ^{あつし}	教職 2・3 教科 (経B・法B・二営)	4

※経A・商・法A・政治・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

本講義では哲学史上のいくつかのパラドックス（逆説・逆理）を題材として取り上げながら、哲学の諸問題（認識論・存在論・行為論）について考えてみることにしたい。「パラドックス (paradox)」とは日常的な思いなし（ドクサ）から逸脱した（パラ）主張のことであって、「哲学すること」がいわば「世界についての見方を学び直す」営みであるとするならば、パラドックスを導きの糸として思考をめぐらすことは哲学することそのものだとも言えよう。

講義の内容・
授業スケジュール

具体的には次のようなパラドックスを題材にしたい。
ゼノンのパラドックス、ソクラテスのパラドックス、探求のパラドックス、囚人のジレンマ、嘘つきのパラドックス etc。

成績評価の方法

中間・期末試験、夏休みレポート、出欠による総合評価。

参 考 書 等

中村秀吉『パラドックス』（中公新書）
R.M.セインズブリー『パラドックスの哲学』（勁草書房）

科目名	担当者名	配当学科	単位
政治学原論	おおつか 大塚 かつら 桂	教職2・3教科 (経B・二営)	4

※経A・商・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

- 自己紹介
私は、いままでイギリスの政治的多元主義と新自由主義、ならびにフランスの社会連帯主義を研究してきました。現在は、日本における多元的国家論の受容過程に関して勉強をしています。このような私の研究経歴からして、講義内容は少しばかり哲学的、観念的なものになるかもしれませんが。政治学のみならず、ひろく隣接領域にもふれながら一年間の授業をしてみたいと思います。

私の研究室は、第二研究館八階(2835)にあります。研究上支障が生じたときや質問があるときには訪問してください。なお、研究室の電話番号は、3418-9377(直)です。

- 講義の目的
政治学原論はカリキュラム上、基礎的部門に属しています。政治学原論は政治学の総論であるとともに、基礎理論としての意味合いをもつものです。講義の目的の第一は、現代政治学の体系的な理解を深めることにあります。目的の第二は、実際の政治の理論的説明と説明ができるように基礎的的原理的知識を習得することです。目的の第三は、近い将来履修するであろう他の専門学科目の研究上必要な基本的な知識を提供することです。

講義の内容・ 授業スケジュール

- 講義のすすめかた
現代政治学のおおよそのアウト・ラインを理解してもらうために、一回一テーマ主義でかなり広範囲な問題にふれていきます。それだけに、授業のペースは少しばかりはやくなります。講義はテキストに準拠しつつすすめます。学生諸君は授業に出席することはもちろんのこと、予習・復習・自主研究などの研鑽をつんでください。教員と学生、それぞれの努力によって学習効果をあげていきたいと考えています。

- 講義内容
おおよそ、以下の諸問題を取り上げる予定です。
A 政治学の課題と対象、および方法
B 政治の原理的究明
① 政治的なるもの
～政治的空間、政治権力、正当性、権威、政治倫理、抵抗と不服従
② 共同体的なるもの
～国家、社会、主権、法
③ イデオロギー的なるもの
～イデオロギー、正義、自由、平等、人権(レティズンシップ)
C 国家の実体論的究明
① 制度論的究明
～権力分立、議会、選挙、地方自治、官僚制
② 機能論的究明
～政党、圧力団体

成績評価の方法

- 本年度もまた、受講者との相談のうえA・B両方式のうちのいずれかに決定します。
- A方式(レポートによる単位認定)
複数回(前期・後期)のレポートを提出してもらい成績を評価します。課題報告(レポート)の作成をとおして、文献の読解力と書く能力を涵養します。
- B方式(試験による単位認定)
中間・学年末試験により、成績を評価します。評価基準は、中間試験50%、学年末試験50%です。
- ※A方式の場合には、追・再試験は実施しません。B方式は、実施します。

教科書

大塚桂『現代国家へのアプローチ』(成文堂)3,000円
大塚桂『政治哲学入門』(法律文化社)2,900円

参考書等

上記教科書の巻末にかかげた参考文献を参照のこと。

科 目 名	担 当 者 名	配 当 学 科	単 位
産 業 概 説	まえ だ ゆき かず 前 田 幸 一	教職2・3教科 (経 B)	4

※経A・商の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

授業は'85(昭和60)年以降の日本の産業界の動向を業種別に流れをつかんでいく。

講義の内容・
授業スケジュール

(総論) バブル経済と平成不況
(各論) 非鉄金属、建設、食品、紙・パルプ、化学、繊維、石油、エネルギー、鉄鋼、産業機械、造船、重電、家電、コンピューター、半導体、自動車、商社、流通、銀行、生損保、証券、住宅、不動産、運輸、サービス、レジャー、外食産業、通信、ノンバンク、なお、受講者の要望を聞きながらですが、今年度は工場見学などを授業に組んで、実施したいと考えています。
(その他) 企業見学などを実施(去年は三菱自動車工業の工場見学を実施)

履修上の留意点

日経新聞などの経済・産業欄に目を通して授業に望んで欲しい。

成績評価の方法

当授業は多分に受講者が少ないと思いますので、ペーパーテスト等はしません。平常点で決めます。再試験はしません。

教 科 書

高村寿一・小山博之編『日本産業史4』(日本経済新聞社)1,500円

参 考 書 等

授業の際に提示します。

そ の 他

授業での受講者は恐らく少人数であろう。そこで授業の初段階では私が講義をしていきますが、その後はゼミ形式で、皆で議論しながら授業をすすめていきます。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
商業実習	まえ だ ゆき かず 前 田 幸 一	教職2・3教科 (経B)	4

※経A・商の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

貿易における商品取引の基礎的な実務を習得することを目標に授業を進めていく。

講義の内容・
授業スケジュール

- 以下の項目で授業を進めます。
1. 輸出実務の概要
 2. 取引関係の創設
 3. 取引条件の取決め
 4. 売買条件の取決めと契約成立
 5. 輸出信用状の照合
 6. 約定品の調達
 7. 輸出保険
 8. 輸出承認と認証の取付け
 9. 運送契約の締結
 10. 為替の予約
 11. 海上保険契約
 12. 輸出検査と包装
 13. 輸出通関
 14. 船積み
 15. 船積書類
 16. 輸出決済
 17. 貿易クレーム

成績評価の方法

筆記試験はしない。評価は平常点かレポート提出等によって行います。再試験はしません。

教科書

開講時に指示します。

参考書等

開講時に指示します。

科目名	担当者名	配当学科	単 位
職業指導	まえ だ ゆき かず 前 田 幸 一	教職2・3教科 (経B・二営)	4

※経A・商・経営の12年度以降入学生も履修できます。

講義のねらい

日本及び諸外国の職業教育の特徴を把握しながら、今後の職業指導を考えていく。

講義の内容・
授業スケジュール

前期では日本の職業教育制度の歴史を、また、後期ではアメリカ、ドイツ、イギリス、フランスなどの職業教育について授業をしていく予定。

成績評価の方法

筆記試験はせず、平常点及びレポート提出等で評価をしていく。

教科書

開講時に指示

参考書等

宮地誠哉・倉内史郎編『職業教育』（開隆堂）
有本章・近藤大生編『現代の職業と教育』（福本出版）
寺田晃・佐藤怜監修『進路指導』（中央法規出版）
仙崎武・野々村新・渡辺三枝子編『進路指導論』（福村出版）

発行者：駒澤大学